

「高齢世代等（主に中高年世代）の生活状況と生きがいに関する意識調査」
報告書

2023（令和5）年3月

公益財団法人 いきいき岩手支援財団

【目 次】

I	調査概要	1
1.	テーマ	1
2.	目 的	1
3.	調査実施時期・方法	1
4.	調査対象・調査項目の概要	1
5.	調査実施の方法	1
6.	アンケートの配布数と回収数	2
7.	結果の公表	2
II	単純集計結果	3
1.	アンケートの回答者の属性（問 1）	3
2.	親族の存在（問 2）	7
3.	現在の生活状況について（問 3～問 6）	9
4.	現在の健康状態について（問 7～問 9）	11
5.	現在の日々の活動状況について（問 10～問 12）	13
6.	現在の教養・娯楽活動（習い事や趣味など）について（問 13～問 15）	14
7.	現在の対人関係について（問 16～問 18）	16
8.	生きがいについて（問 19～21）	17
9.	現在の生活上の意識について（問 22）	25
10.	結婚事情に関するお考えについて（問 23～問 24）	28
11.	今後の生活に対する期待や不安（問 25～問 26）	30
12.	コロナ対策・その他（問 27～問 28）	31
III	以下の分析の前提となるデータの処理	43
1.	分析に当たっての仮説の構造	43
2.	分析に先立ってのデータの統合化等	47
IV	「QOL」・「生きがい」・「幸福度」に関する分析結果	52
1.	「QOL」について	52
2.	「生きがい」について	59
3.	「幸福度（ウェルビーイング）」について	64

4. 「ＱＯＬ」・「生きがい」・「幸福度」に関するまとめ	66
V 「健康意識」について	68
1. 基本属性と「健康意識」とのクロス集計結果	68
2. 「ＱＯＬ」得点群と「健康意識」とのクロス集計結果	69
3. 「生きがい」得点群と「健康意識」とのクロス集計結果	71
4. 「幸福度（ウェルビーイング）」得点群と「健康意識」とのクロス集計結果	72
5. 「健康意識」に関するまとめ	73
VI 「社会意識」（パートナーの存在、マッチング支援）について	74
1. 「パートナーの必要性」に関する分析	74
2. 「（パートナーとの）マッチング支援の必要性」に関する分析	78
3. 「パートナーの存在の必要性」と「マッチング支援の必要性」に関するまとめ	82
VII 「老後不安」について	85
1. 基本属性と「老後不安」に関する分析	85
2. 「ＱＯＬ」得点群と「老後不安」とのクロス集計結果	87
3. 「生きがい」得点群と「老後不安」とのクロス集計結果	89
4. 「老後不安」の具体的な内容に関する分析	91
5. 「老後不安」に関するまとめ	96
VIII 「コロナ対策」について	97
1. 基本属性と「コロナ対策」とのクロス集計	97
2. 「コロナ対策」に関する前回調査との比較	99
3. 「コロナ対策」に関するまとめ	100
IX まとめ（総合的考察）	101
1. これまでの分析結果を踏まえた小括	101
2. 「パートナーの存在の必要性」および「マッチング支援の必要性」に関する追加分析	104
3. 総合的考察	113
4. むすび	115
X 資料（調査票）	116

I 調査概要

1. テーマ

高齢世代等（主に中高年世代）の生活状況と生きがいに関する意識調査

2. 目的

人生 100 年時代と言われる昨今、日本人の平均寿命は全般的に延びる状況である一方、中高年世代の生活状況に目を向けると、おおよそ 50 歳以上の男性の 4 人に 1 人、女性の 6 人に 1 人は独身と言われ、今後、一人暮らしの高齢者の増加が懸念される。一方、中高年世代の方々が、生きがいや QOL の向上を実感できる場として、仕事、趣味、地域活動等の社会的な活動などが挙げられると考えられるが、中高年世代の方々の中には、社会的な活動のほかに、家族や友人などの私的な関係を大切にしている方もいるものと思われる。

時代の変化とともに中高年世代が生きがいとして求めるものも変化していると思料されることから、本調査は、中高年世代等の生活状況と生きがいの関連性について調査を実施し、中高年世代等に対する生活支援の方策の一助とすることを目的に実施するものである。

3. 調査実施時期・方法

- (1) 実施時期 令和 4 年 10 月～令和 5 年 3 月（調査票配布・回収時期：令和 4 年 12 月～令和 5 年 1 月）
- (2) 実施方法 郵送によるアンケート調査とする。

4. 調査対象・調査項目の概要

(1) 調査対象	○県内各地域の計 1,800 人（盛岡市 640 人、一関市 400 人・久慈市 370 人・宮古市 390 人） 岩手県内の 4 つの地域（県央、県南、県北、沿岸）の中で、総務省「国勢調査」を参考に、人口構成などがその地域をもっとも代表すると考えられる市町村を選定し、同市の選挙管理委員会に申請して提供していただいた 50～69 歳の住民（選挙人）を調査対象とした。
(2) 調査項目 の概要	○現在の生活状況や健康状態について ○現在の教養・娯楽活動、対人関係、生きがい、生活意識について ○結婚等のあり方、生活に対する期待や不安などについて ○その他必要と認められる事項

5. 調査実施の方法

- ・調査は、岩手県立大学社会福祉学部 宮寺良光研究室と連携して行うこととし、調査票については当財団が作成することとする。
- ・調査対象（協力依頼先）へは財団からの郵送とする。
- ・集計は専門機関へ依頼することとし、分析・報告書取りまとめは岩手県立大学社会福祉学部 宮寺良光准教授に依頼する。

6. アンケートの配布数と回収数

配布数	回収数（有効回収数）	回収率（有効回収率）
1,800	531 (530)	29.5% (99.8%)

注：対象地域ごとのサンプルサイズの偏りや抽出方法の不統一性などがあったため、
本調査結果は、参考値として扱うことが妥当である。

7. 結果の公表

調査結果は、報告書を作成のうえ財団ホームページで公表するとともに、ご協力頂いた関係者へ提供することとし、今後の高齢者等施策に反映させるものとする。

Ⅱ 単純集計結果

1. アンケートの回答者の属性（問1）

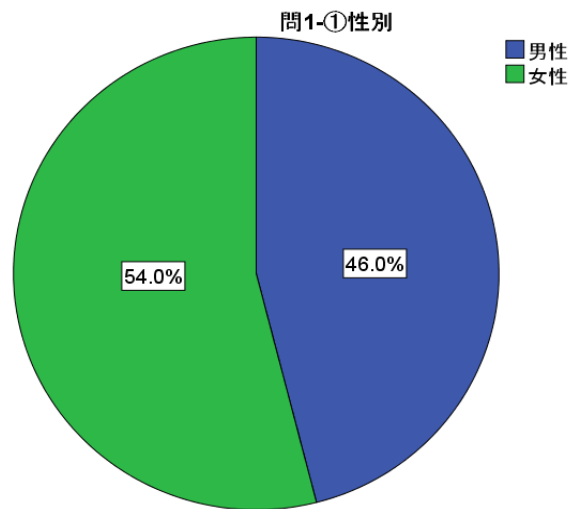
（1）性別

回答者の男女比（「無回答」を除く）をみると、「男性」が46.0%（242人）、「女性」が54.0%（284人）で、女性の比率がやや高いが、概ね男女半々の回答を得られた。

参考までに、岩手県の「50～69歳」の性別人口割合は、「令和2年国勢調査」（2020年10月時点）によると、「男性」が49.6%、「女性」が50.4%となっているため、今回の回答者の傾向は、岩手県内の性別人口構成とほとんど差異が無いといえる。

問1-①性別

	度数	%	有効%
男性	242	45.7	46.0
女性	284	53.6	54.0
合計	526	99.2	100.0
無回答	4	0.8	—
合計	530	100.0	—



（2）年齢階級別

回答者の年齢階級をみると、年齢階級が高くなるほど回答者数が多くなっており、「54歳未満（ほぼ50～54歳）」で19.8%（105人）、「55～59歳」で23.4%（124人）、「60～64歳」で27.5%（146人）、「65歳以上（ほぼ65～69歳）」で29.2%（155人）となっており、「65歳以上」がもっとも多くなっている。

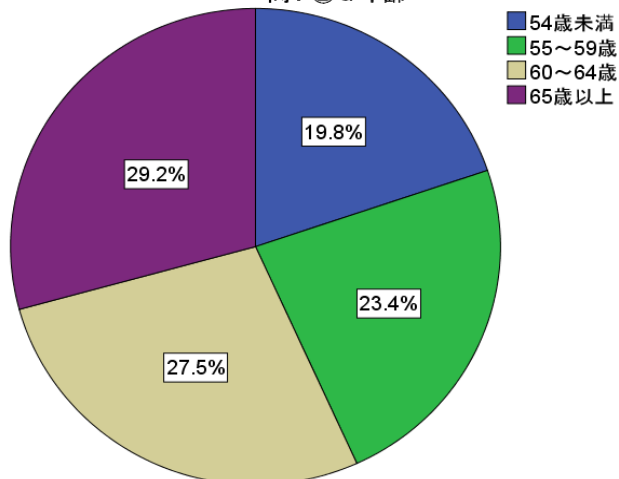
参考までに、令和2年の「国勢調査」（2020年10月時点）では、岩手県全体の人口構成（50～69歳人口を母数）が「50～54歳」で22.6%、「55～59歳」で23.6%、「60～64歳」で25.3%、「65～69歳」で28.5%となっていたため、今回の回答者の傾向は、岩手県内の年齢階級別人口構成とほとんど差異が無いといえる。

また、岩手県の性別・年齢階級別の人口構成（参考表1-1：「令和2年国勢調査」（2020年10月時点））と比較してみると、今回の回答者のうち、「男性」の「54歳未満」がやや低く、「65歳以上」がやや高くなっていて、「女性」の「60～64歳」が僅かに低く、「65歳以上」が僅かに高くなっているものの、ほとんど差異が無いといえる。

問 1-②a 年齢

	度数	%	有効%
54 歳未満	105	19.8	19.8
55～59 歳	124	23.4	23.4
60～64 歳	146	27.5	27.5
65 歳以上	155	29.2	29.2
合計	530	100.0	100.0

問 1-② a 年齢



問 1-①性別 と 問 1-②a 年齢 のクロス表

		問 1-②年齢				合計
		54 歳未満	55～59 歳	60～64 歳	65 歳以上	
問 1-① 性別	男性	42 17.4%	58 24.0%	63 26.0%	79 32.6%	242 100.0%
	女性	63 22.2%	66 23.2%	81 28.5%	74 26.1%	284 100.0%
合計		105 20.0%	124 23.6%	144 27.4%	153 29.1%	526 100.0%

参考表 1-1 岩手県の 50～69 歳人口における性別人口割合

男女	50～69 歳計	50～54 歳	55～59 歳	60～64 歳	65～69 歳
総数	100.0	22.6	23.6	25.3	28.5
男	100.0	22.9	23.8	25.2	28.1
女	100.0	22.4	23.4	25.3	28.9

(3) 地域（市）別

本調査では、岩手県内の 4 地域から回答を得るために、各地域の中からもっとも代表性があると考えられる市町村を選定し、その市町村の住民（選挙人）を抽出している。「県央地域」は「盛岡市」、「県南地域」は「一関市」、「県北地域」は「久慈市」、「沿岸地域」は「宮古市」とした。

回答者の居住地域（「無回答」を除く）をみると、「盛岡市」が 32.4%（170 人）、「一関市」が 21.6%（113 人）、「宮古市」が 21.6%（113 人）、「久慈市」が 23.5%（123 人）、「その他」が 1.0%（5 人）となった。なお、「その他」については、他市町村へ転居された方に郵便局のサービスで調査票が転送されたことが関係していると考えられる。

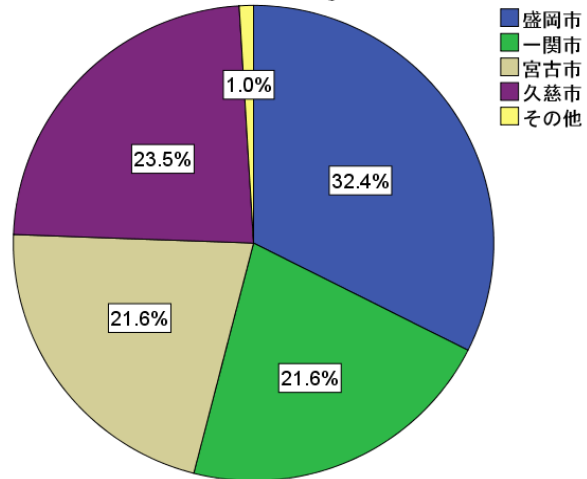
この結果は、岩手県の地域別人口構成（参考表 1-2：「令和 2 年国勢調査」（2020 年 10 月時点））とは大きな誤差が生じている。本来であれば、各地域の人口比率に応じてサンプリングをするべきところであったが、選挙管理委員会での名簿閲覧時間に制約があったことや閲覧作業従事者を十分に確保できなかったため、サンプリングの時点で既に偏りが生じてしまった点は今後の課題である。よって、分析の結果には一定の地域的なバイアスが加わっていることに留意する必要がある。



問 1-③地域

	度数	%	有効%
盛岡市	170	32.1	32.4
一関市	113	21.3	21.6
宮古市	113	21.3	21.6
久慈市	123	23.2	23.5
その他	5	0.9	1.0
合計	524	98.9	100.0
無回答	6	1.1	-
合計	530	100.0	-

問1-③地域



参考表 1-2 岩手県の 50～69 歳人口における地域別人口割合

	計	県央	県南	県北	沿岸
50～69 歳人口	337,425	124,798	128,204	32,273	52,150
	100.0	37.0	38.0	9.6	15.5

(4) 就労状況別

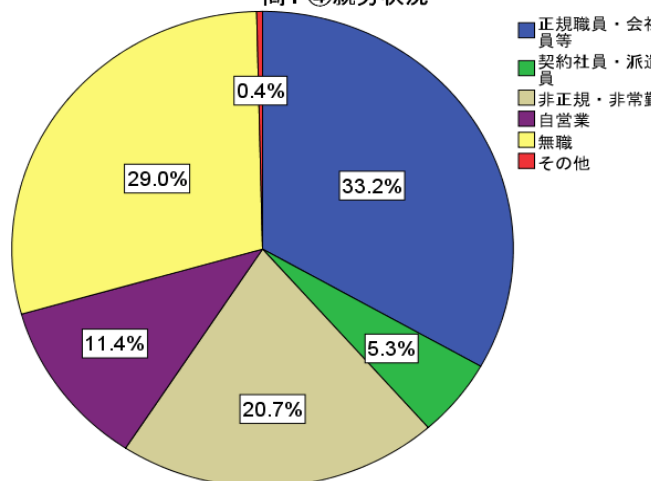
回答者の就労状況（「無回答」を除く）をみると、「正規職員・会社役員等」が33.2%（175人）でもっとも多く、次いで「無職」が29.0%（153人）、「非正規・非常勤」が20.7%（109人）、「自営業」が11.4%（60人）、「契約社員・派遣社員」が5.3%（28人）、「その他」が0.4%（2人）となった。70.6%の人が何らかの形で就業していて、「男性」が77.7%、「女性」が64.2%となっている。

参考までに、参考表1-3の「令和2年国勢調査」（2020年10月時点）では、岩手県全体の50～69歳人口に「就業者」の割合が71.0%で、「無職」の割合が24.2%となっているため、やや「無職」の割合が高いものの、今回の回答者の傾向は、性別も含めて岩手県内の就労状況とほとんど差異が無いといえる。

問1-④就労状況

	度数	%	有効%
正規職員・会社役員等	175	33.0	33.2
契約社員・派遣社員	28	5.3	5.3
非正規・非常勤	109	20.6	20.7
自営業	60	11.3	11.4
無職	153	28.9	29.0
その他	2	0.4	0.4
合計	527	99.4	100.0
無回答	3	0.6	-
合計	530	100.0	-

問1-④就労状況



問1-①性別 と 問1-④就労状況 のクロス表

		問 1-④就労状況						合計
		正規職 員・会社 役員等	契約社 員・派遣 社員	非正規・ 非常勤	自営業	無職	その他	
問 1-① 性別	男性	105	14	31	38	53	1	242
		43.4%	5.8%	12.8%	15.7%	21.9%	0.4%	100.0%
	女性	69	14	77	21	100	1	282
		24.5%	5.0%	27.3%	7.4%	35.5%	0.4%	100.0%
合計		174	28	108	59	153	2	524
		33.2%	5.3%	20.6%	11.3%	29.2%	0.4%	100.0%

参考表1-3 岩手県の50～69歳人口における就業状況割合

	総数	労働力人口	就業者	完全失業者	非労働力人口（無職）
総数	100.0%	73.6%	71.0%	2.6%	24.2%
男	100.0%	82.3%	78.5%	3.7%	15.2%
女	100.0%	65.1%	63.5%	1.6%	33.0%

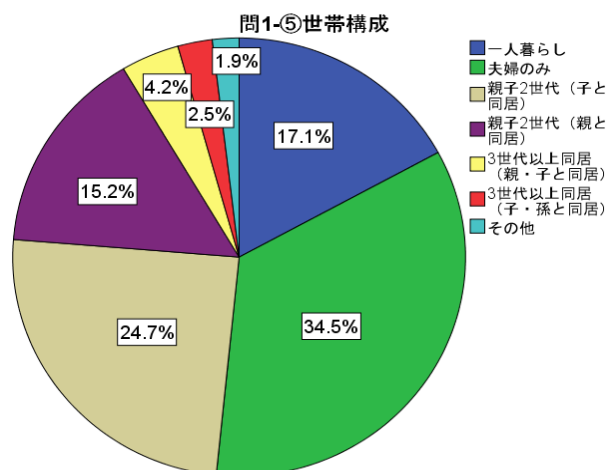
(5) 世帯構成別

回答者の世帯構成（「無回答」を除く）をみると、「夫婦のみ」が34.5%（182人）でもっとも多く、次いで「親子2世代（子と同居）」が24.7%（130人）、「一人暮らし」が17.1%（90人）、「親子2世代（親と同居）」が15.2%（80人）、「3世代以上同居（親・子と同居）」が4.2%（22人）、「3世代以上同居（子・孫と同居）」が2.5%（13人）、「その他」が1.9%（10人）となった。

参考までに、参考表 1-4 の「令和 2 年国勢調査」（2020 年 10 月時点）では、岩手県全体の「50～69 歳」の人が属する世帯類型は、「親子 2 世代（子と同居）」の割合が 32.9%でもっとも多く、「夫婦のみ」の割合が 24.5%となっているため、今回調査と国勢調査の結果が逆転している。同様に、「親子 2 世代（親と同居）」の割合と「3 世代以上同居（親・子と同居）」の割合も今回調査と国勢調査の結果が逆転している。この点が、サンプリングにおける地域の偏りが影響しているものと考えられるため、分析の結果には一定の家族観的なバイアスが加わっていることに留意する必要がある。

問 1-⑤世帯構成

	度数	%	有効%
一人暮らし	90	17.0	17.1
夫婦のみ	182	34.3	34.5
親子 2 世代(子と同居)	130	24.5	24.7
親子 2 世代(親と同居)	80	15.1	15.2
3 世代以上同居(親・子と同居)	22	4.2	4.2
3 世代以上同居(子・孫と同居)	13	2.5	2.5
その他	10	1.9	1.9
合計	527	99.4	100.0
無回答	3	0.6	-
合計	530	100.0	-



参考表 1-4 岩手県の 50～69 歳人口における属する世帯類型の割合

	今回調査		国勢調査	
	度数	有効%	度数	有効%
一人暮らし	90	17.1	47,675	14.3
夫婦のみ	182	34.5	81,601	24.5
親子 2 世代(子と同居)	130	24.7	109,750	32.9
親子 2 世代(親と同居)	80	15.2	25,771	7.7
3 世代以上同居(親・子と同居)	22	4.2	36,238	10.9
3 世代以上同居(子・孫と同居)	13	2.5	6,398	1.9
その他	10	1.9	25,784	7.7
合計	527	100	333,217	100.0

2. 親族の存在（問 2）

問 2 は、「あなたの親族関係について、それぞれの項目ごとに当てはまるものすべてに○をつけてください。」という設問である。

（1）近隣に居住する親族（片道 30 分以内に行き来できる親族）

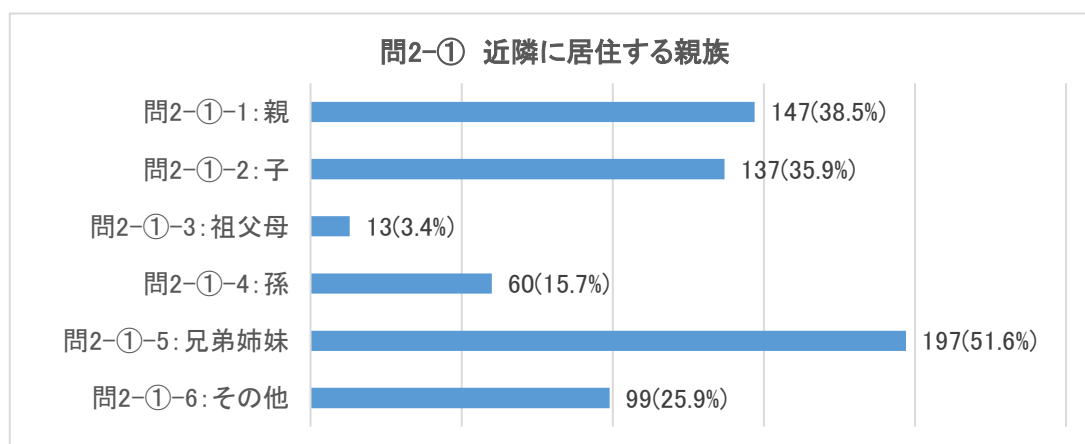
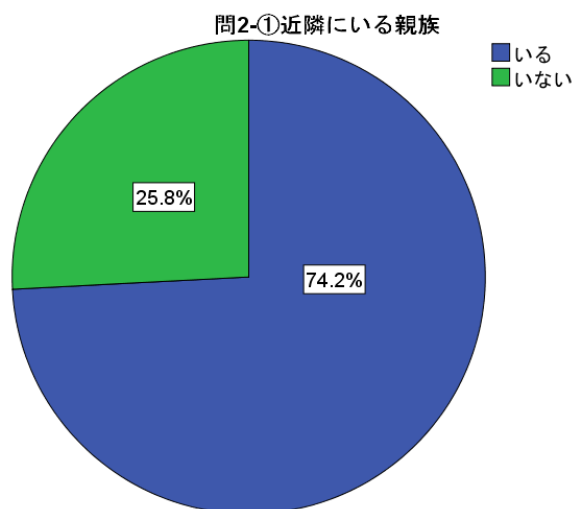
問 2-①は、「①近隣（片道 30 分以内に行き来できる）に居住する親族の有無」を問う設問になっている。

「近隣に居住する親族」の有無（「無回答」を除く）については、「いる」が 72.1%（382 人）で、「いない」が 25.8%（133 人）となっており、「いる」が多い結果となった。また、「いる」と回答した 382 人の内訳（複数回答）をみると、「親」が 38.5%（147 人）、「子」が 35.9%（137 人）、「祖父母」が 3.4%（13 人）、「孫」が 15.7%（60 人）、「兄弟姉妹」が 51.6%（197 人）、「その他」が 25.9%（99 人）となってい

る。「近隣に居住する親族」については、「兄弟姉妹」がもっとも多く、次いで「親」や「子」となっており、近親者（血縁関係の近い親族）が多いことがわかる。

問 2-①近隣に居住する親族

	度数	%	有効%
いる	382	72.1	74.2
いない	133	25.1	25.8
合計	515	97.2	100.0
無回答	15	2.8	-
合計	530	100.0	-



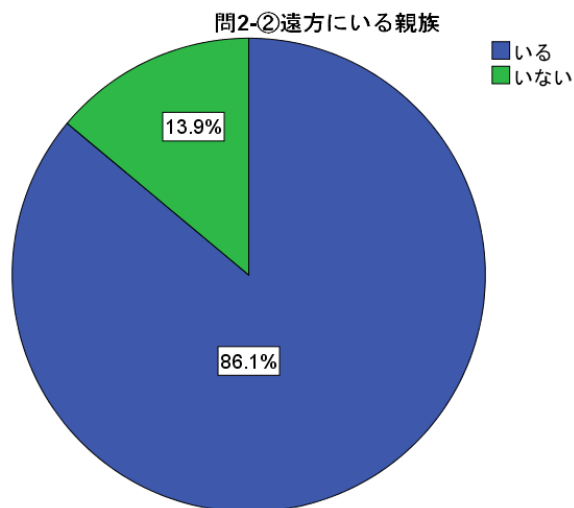
(2) 近隣以外に居住する親族（片道 30 分以内に行き来できない親族）

問 2-②は、「①近隣以外に居住する親族の有無」を問う設問である。

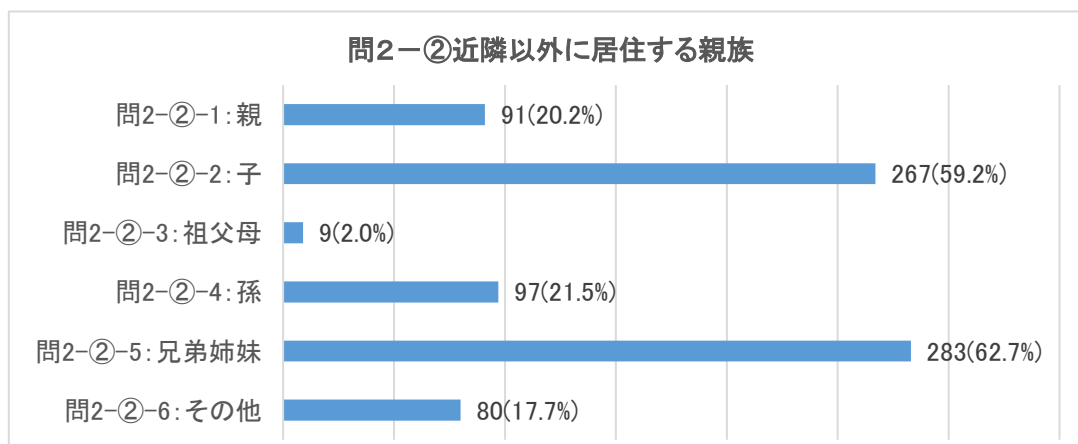
「近隣以外に居住する親族」の有無（「無回答」を除く）については、「いる」が 86.1%（451 人）で、「いない」が 13.9%（73 人）となっており、「いる」が多い結果となった。また、「いる」と回答した 451 人の内訳（複数回答）をみると、「親」が 20.2%（91 人）、「子」が 59.2%（267 人）、「祖父母」が 2.0%（9 人）、「孫」が 21.5%（97 人）、「兄弟姉妹」が 62.7%（283 人）、「その他」が 17.7%（80 人）となっている。「近隣以外に居住する親族」については、「兄弟姉妹」がもっとも多く、次いで「親」や「子」となっており、近親者（血縁関係の近い親族）が多いことがわかる。

問2-②近隣以外(遠方)に居住する親族

	度数	%	有効%
いる	451	85.1	86.1
いない	73	13.8	13.9
合計	524	98.9	100.0
無回答	6	1.1	-
合計	530	100.0	-



問2-②近隣以外に居住する親族



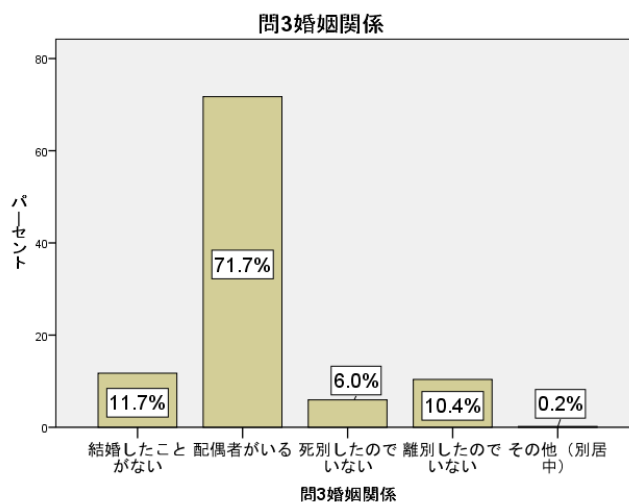
3. 現在の生活状況について（問3～問6）

（1）婚姻関係（問3：あなたは、現在、結婚していますか。）

婚姻関係については、「配偶者がいる」が71.7%（373人）でもっとも多く、次いで「結婚したことがない」が11.7%（61人）、「離婚したのでいない」が10.4%（54人）、「死別したのでいない」が5.8%（31人）、「その他（別居中）」が0.2%（1人）となった。

問3 婚姻関係

	度数	%	有効%
結婚したことがない	61	11.5	11.7
配偶者がいる	373	70.4	71.7
死別したのでいない	31	5.8	6.0
離別したのでいない	54	10.2	10.4
その他(別居中)	1	0.2	0.2
合計	520	98.1	100.0
無回答	10	1.9	-
合計	530	100.0	-

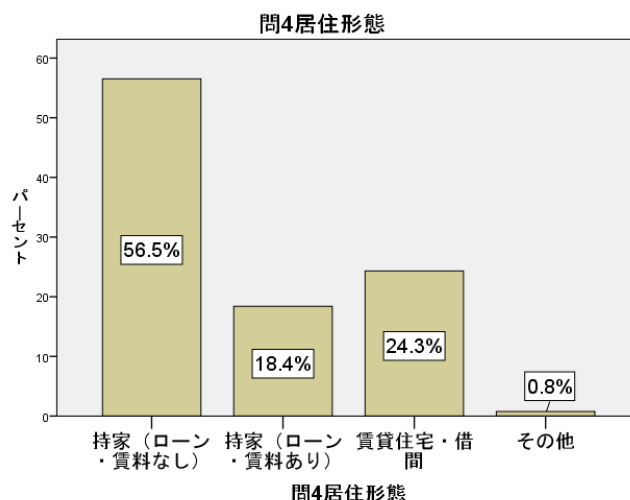


(2) 居住形態（問4：あなたのお住まいは、次のどれに当たりますか。）

居住形態については、「持家（ローン・賃料なし）」が56.5%（295人）でもっとも多く、次いで「賃貸住宅・借間」が24.3%（127人）、「持家（ローン・賃料あり）」が18.4%（96人）、「その他」が0.8%（4人）となった。「持家（ローン・賃料なし）」と「持家（ローン・賃料あり）」を合わせると74.9%となっており、「持家」比率が高いことがわかる。

問4 居住形態

	度数	%	有効%
持家(ローン・賃料なし)	295	55.7	56.5
持家(ローン・賃料あり)	96	18.1	18.4
賃貸住宅・借間	127	24.0	24.3
その他	4	0.8	0.8
合計	522	98.5	100.0
無回答	8	1.5	—
合計	530	100.0	—

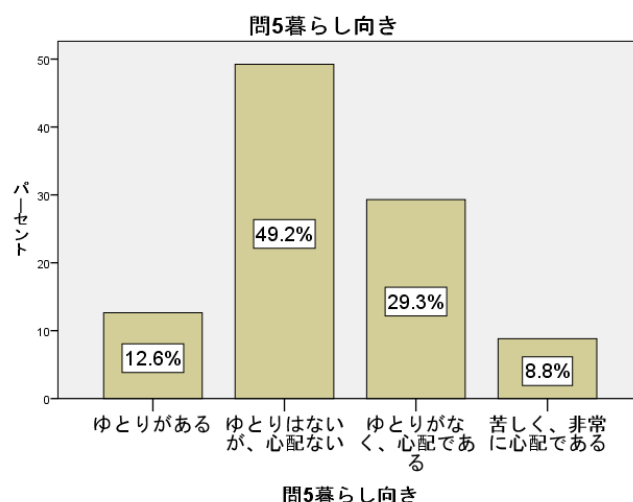


(3) 暮らし向き（問5：あなたは、ご自分の現在の経済的な暮らし向きについてどのようにお考えですか。）

暮らし向きについては、「ゆとりはないが、心配ない」が49.2%（257人）でもっとも多く、次いで「ゆとりがなく、心配である」が29.3%（153人）、「ゆとりがある」が12.6%（66人）、「苦しく、非常に心配である」が8.8%（46人）となった。「ゆとりがなく、心配である」と「苦しく、非常に心配である」を合わせると38.1%となっており、4割弱の人が厳しい生活を送っていることがわかる。

問5 暮らし向き

	度数	%	有効%
ゆとりがある	66	12.5	12.6
ゆとりはないが、心配ない	257	48.5	49.2
ゆとりがなく、心配である	153	28.9	29.3
苦しく、非常に心配である	46	8.7	8.8
合計	522	98.5	100.0
無回答	8	1.5	—
合計	530	100.0	—



(4) 貯蓄額（問6：現在の貯蓄の額は、あなたがこれから生活をしていく備えとして十分だとお考えですか。）

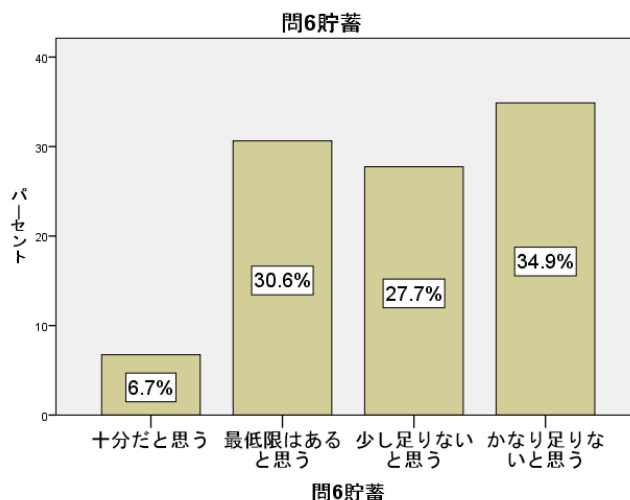
貯蓄額については、「かなり足りないと思う」が34.9%（181人）でもっとも多く、次いで「最低限はあると思う」が30.6%（159人）、「少し足りないと思う」が27.7%（144人）、「十分だと思う」が6.7%（35人）となった。「少し足りないと思う」と「かなり足りないと思う」を合わせると62.6%となっており、6

割強の人が貯蓄の少なさを感じていることがわかる。

問5で暮らし向きに6割強(61.8%)の人が「心配ない」と回答しているが、本問では「足りている」「十分だと思う」と「最低限はあると思う」が4割弱(37.3%)と逆転していることから、目先の生活に不安の少ない人がやや多いものの、長期的な生活に不安を感じている人が多いものと推察される。

問6 貯蓄

	度数	%	有効%
十分だと思う	35	6.6	6.7
最低限はあると思う	159	30.0	30.6
少し足りないと思う	144	27.2	27.7
かなり足りないと思う	181	34.2	34.9
合計	519	97.9	100.0
無回答	11	2.1	—
合計	530	100.0	—



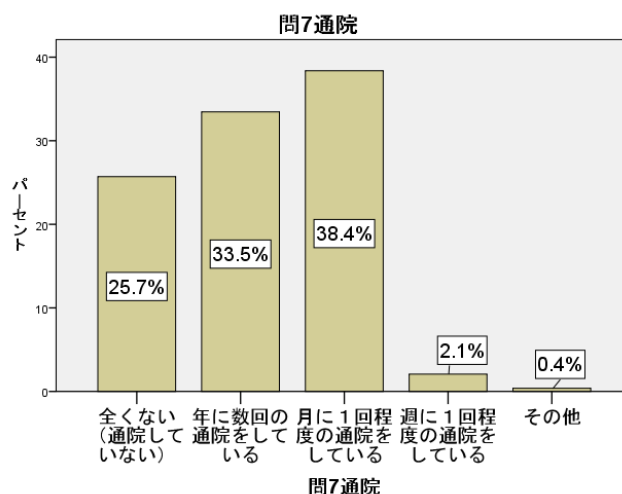
4. 現在の健康状態について（問7～問9）

（1）通院を要する持病（問7：現在、通院を要する持病をお持ちですか。）

持病については、「月に1回程度の通院をしている」が38.4%（203人）でもっとも多く、次いで「年に数回の通院をしている」が33.5%（177人）、「全くない（通院していない）」が25.7%（136人）、「週に1回程度の通院をしている」が2.1%（11人）、「その他」が0.4%（2人）となった。回答者の概ね4分の3が何らかの持病を抱えており、通院していることがわかる。他方で、回答者の概ね4分の1が持病による通院をしておらず、健康な状態にあることがわかる。

問7 通院

	度数	%	有効%
全くない(通院していない)	136	25.7	25.7
年に数回の通院をしている	177	33.4	33.5
月に1回程度の通院をしている	203	38.3	38.4
週に1回程度の通院をしている	11	2.1	2.1
その他	2	0.4	0.4
合計	529	99.8	100.0
無回答	1	0.2	—
合計	530	100.0	—



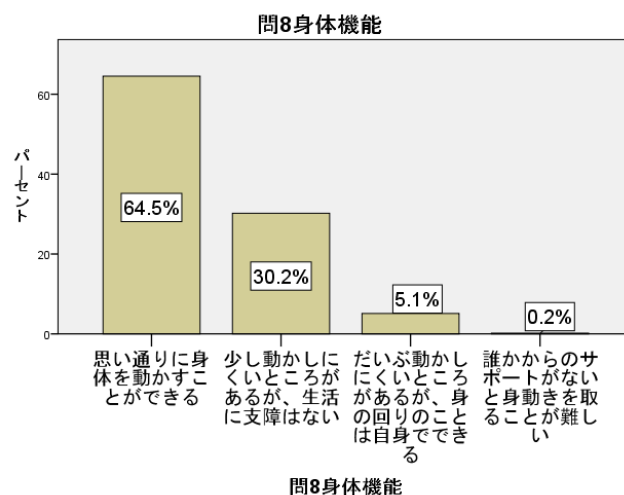
（2）身体の状態（問8：現在の身体の状態はどうですか。）

身体の状態については、「思い通りに身体を動かすことができる」が64.5%（342人）でもっとも多く、

次いで「少し動かしにくいところがあるが、生活に支障はない」が 30.2%（177 人）、「だいたい動かしにくいところがあるが、身の回りのことは自身でできる」が 5.1%（27 人）、「誰かからのサポートがないと身動きを取ることが難しい」が 0.2%（1 人）となった。回答者の概ね 95%は身体的な健康状態が保たれており、身の回りのことなどが自身でできる人まで入れると、ほとんどの人が身体的な自立度が高くなっていることがわかる。

問 8 身体機能

	度数	%	有効%
思い通りに身体を動かすことができる	342	64.5	64.5
少し動かしにくいところがあるが、生活に支障はない	160	30.2	30.2
だいたい動かしにくいところがあるが、身の回りのことは自身でできる	27	5.1	5.1
誰かからのサポートがないと身動きを取ることが難しい	1	0.2	0.2
合計	530	100.0	100.0

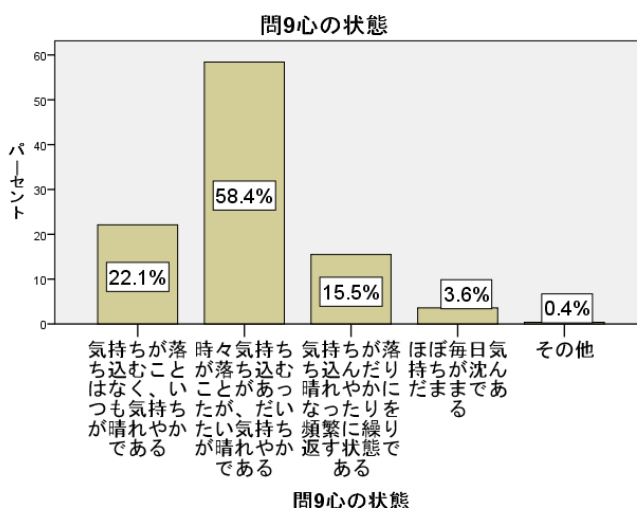


（3）心の状態（問 9：最近 1 ヶ月くらいの心の状態はどうか。）

心の状態については、「時々気持ちが落ち込むことがあったが、だいたい気持ちが晴れやかである」が 58.4%（309 人）でもっとも多く、次いで「気持ちが落ち込むことはなく、いつも気持ちが晴れやかである」が 22.1%（117 人）、「気持ちが落ち込んだり晴れやかになったりを頻繁に繰り返す状態である」が 15.5%（82 人）、「ほぼ毎日気持ちが沈んだままである」が 3.6%（19 人）、「その他」が 0.4%（2 人）となった。

問 9 心の状態

	度数	%	有効%
気持ちが落ち込むことはなく、いつも気持ちが晴れやかである	117	22.1	22.1
時々気持ちが落ち込むことがあったが、だいたい気持ちが晴れやかである	309	58.3	58.4
気持ちが落ち込んだり晴れやかになったりを頻繁に繰り返す状態である	82	15.5	15.5
ほぼ毎日気持ちが沈んだままである	19	3.6	3.6
その他	2	0.4	0.4
合計	529	99.8	100.0
無回答	1	0.2	—
合計	530	100.0	—



回答者の約8割が心の健康状態を保てていることがわかる反面、心の健康状態が不安定な人が約2割いることがわかる。

5. 現在の日々の活動状況について（問10～問12）

（1）就業日数（問10：現在、収入のあるお仕事をどれくらいされていますか。）

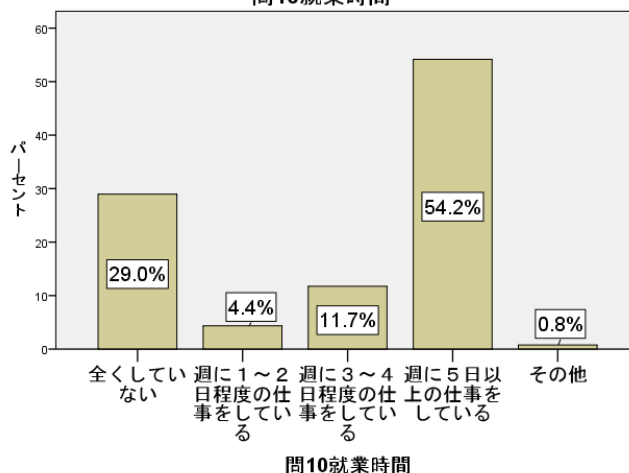
就業日数については、「週に5日以上の仕事をしている」が54.2%（286人）でもっとも多く、次いで「全くしていない」が29.0%（153人）、「週に3～4日程度の仕事をしている」が11.7%（62人）、「週に1～2日程度の仕事をしている」が4.4%（23人）、「その他」が0.8%（4人）となった。

「問1－④就労状況」では、「正規職員・会社役員等」が33.2%であったことから、本問で「週に5日以上の仕事をしている」と回答した54.2%のうち、約30%相当の人がフルタイムで、約20%相当の人がパートタイムで「週に5日以上仕事をしている」と考えられる。

問10 就業日数

	度数	%	有効%
全くしていない	153	28.9	29.0
週に1～2日程度の仕事をしている	23	4.3	4.4
週に3～4日程度の仕事をしている	62	11.7	11.7
週に5日以上の仕事をしている	286	54.0	54.2
その他	4	0.8	0.8
合計	528	99.6	100.0
無回答	2	0.4	—
合計	530	100.0	—

問10就業時間

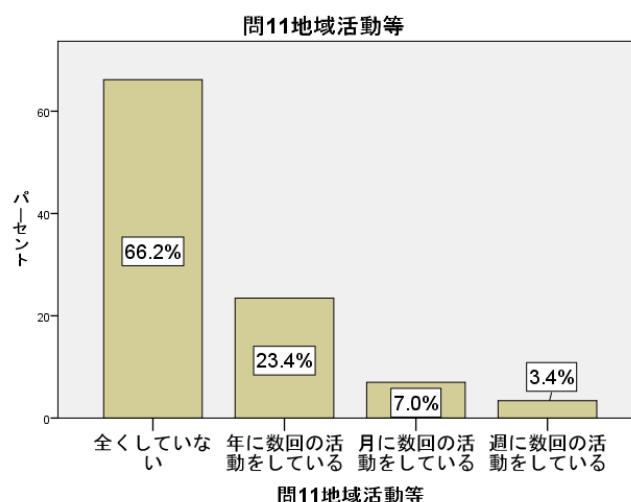


（2）社会貢献活動（問11：現在、地域活動やボランティア活動など、社会に貢献するような活動をどれくらいされていますか。）

社会貢献活動については、「全くしていない」が66.2%（350人）でもっとも多く、次いで「年に数回の活動をしている」が23.4%（124人）、「月に数回の活動をしている」が7.0%（37人）、「週に数回の活動をしている」が3.4%（18人）となった。「全くしていない」と「年に数回の活動をしている」を合わせると約9割（89.6%）の人が日常的に社会貢献活動に従事していないことがわかる。

問 11 社会貢献活動(地域活動等)

	度数	%	有効%
全くしていない	350	66.0	66.2
年に数回の活動をしている	124	23.4	23.4
月に数回の活動をしている	37	7.0	7.0
週に数回の活動をしている	18	3.4	3.4
合計	529	99.8	100.0
無回答	1	0.2	—
合計	530	100.0	—

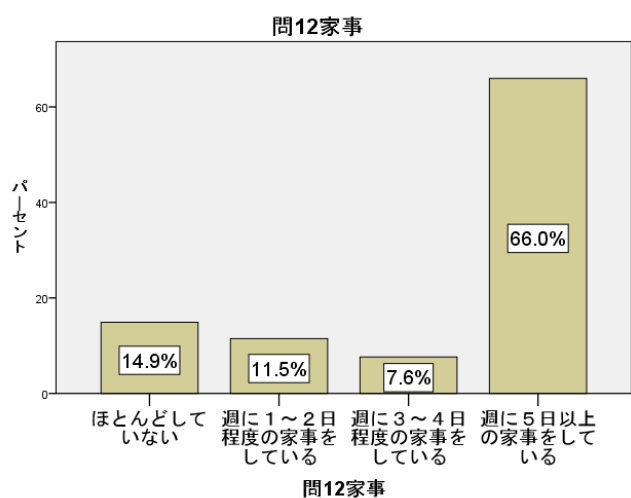


(3) 家事時間 (問 12 : 現在、自宅で家事をどれくらいされていますか。)

家事時間については、「週に5日以上家事をしている」が66.0% (345人) でもっとも多く、次いで「ほとんどしていない」が14.9% (78人)、「週に1～2日程度の家事をしている」が11.5% (60人)、「週に3～4日程度の家事をしている」が7.6% (40人) となった。「ほとんどしていない」が14.9%と少ないことから、日数に差異はあるものの、回答者のほとんどが何らかの形で家事に従事していないことがわかる。

問 12 家事

	度数	%	有効%
ほとんどしていない	78	14.7	14.9
週に1～2日程度の家事をしている	60	11.3	11.5
週に3～4日程度の家事をしている	40	7.5	7.6
週に5日以上家事をしている	345	65.1	66.0
合計	523	98.7	100.0
無回答	7	1.3	—
合計	530	100.0	—



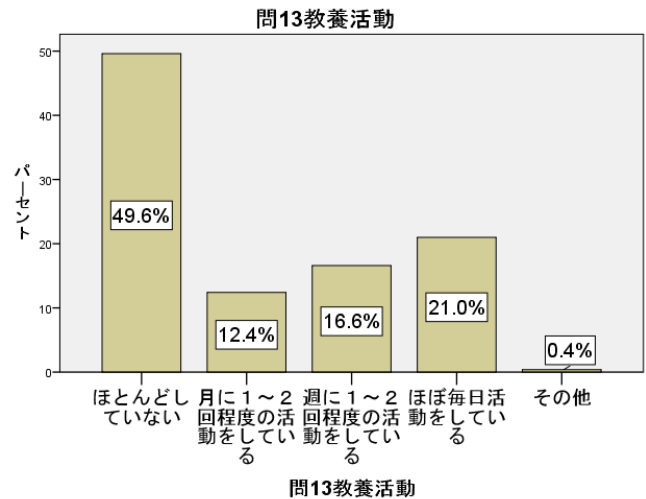
6. 現在の教養・娯楽活動(習い事や趣味など)について (問 13～問 15)

(1) 教養活動 (問 13 : 現在、ご自身の「教養を高めるための活動」をどれくらいされていますか。)

教養活動については、「ほとんどしていない」が49.6% (260人) でもっとも多く、次いで「ほぼ毎日活動をしている」が21.0% (110人)、「週に1～2回程度の活動をしている」が16.6% (87人)、「月に1～2回程度の活動をしている」が12.4% (65人) となった。「していない」人と「している」と人が二極化していることがわかる。

問 13 教養活動

	度数	%	有効%
ほとんどしていない	260	49.1	49.6
月に1～2回程度の活動をしている	65	12.3	12.4
週に1～2回程度の活動をしている	87	16.4	16.6
ほぼ毎日活動をしている	110	20.8	21.0
その他	2	0.4	0.4
合計	524	98.9	100.0
無回答	6	1.1	－
合計	530	100.0	－

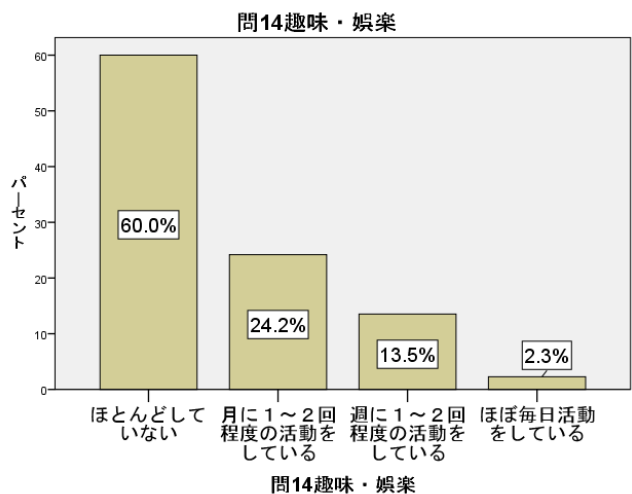


(2) 他者との趣味・娯楽活動（問 14：現在、ご自身が「他の人と一緒に楽しむための趣味や娯楽活動」をどれくらいされていますか。）

他者との趣味・娯楽活動については、「ほとんどしていない」が 60.0%（315 人）でもっとも多く、次いで「月に1～2回程度の活動をしている」が 24.2%（127 人）、「週に1～2回程度の活動をしている」が 13.5%（71 人）、「ほぼ毎日活動をしている」が 2.3%（12 人）となった。「ほとんどしていない」人が6割おり、趣味や娯楽活動を通じて交流している人が少ないことがわかる。

問 14 趣味・娯楽

	度数	%	有効%
ほとんどしていない	315	59.4	60.0
月に1～2回程度の活動をしている	127	24.0	24.2
週に1～2回程度の活動をしている	71	13.4	13.5
ほぼ毎日活動をしている	12	2.3	2.3
合計	525	99.1	100.0
無回答	5	0.9	－
合計	530	100.0	－

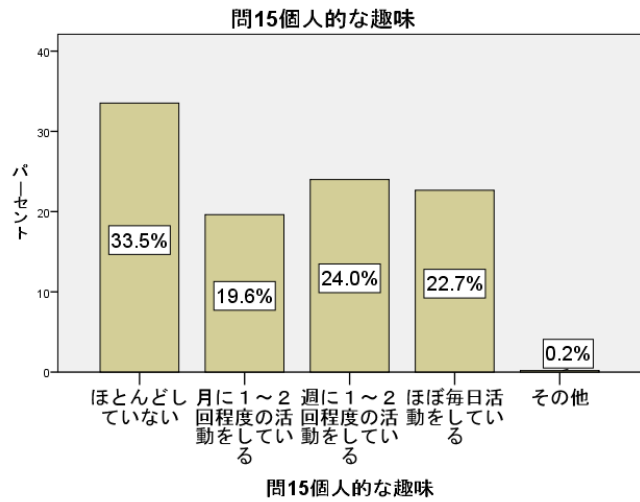


(3) 個人的な趣味・娯楽活動（問 15：現在、ご自身が「個人的に楽しむための趣味や娯楽活動」をどれくらいされていますか。）

個人的な趣味・娯楽活動については、「ほとんどしていない」が 33.5%（176 人）でもっとも多く、次いで「週に1～2回程度の活動をしている」が 24.0%（126 人）、「ほぼ毎日活動をしている」が 22.7%（119 人）、「月に1～2回程度の活動をしている」が 19.6%（103 人）、「その他」が 0.2%（1 人）となった。「ほとんどしていない」人が全体の3分の1ほどいるものの、3分の2の人は何らかの個人的な趣味や娯楽活動を行っていることがわかる。

問 15 個人的な趣味

	度数	%	有効%
ほとんどしていない	176	33.2	33.5
月に1～2回程度の活動をしている	103	19.4	19.6
週に1～2回程度の活動をしている	126	23.8	24.0
ほぼ毎日活動をしている	119	22.5	22.7
その他	1	0.2	0.2
合計	525	99.1	100.0
無回答	5	0.9	—
合計	530	100.0	—



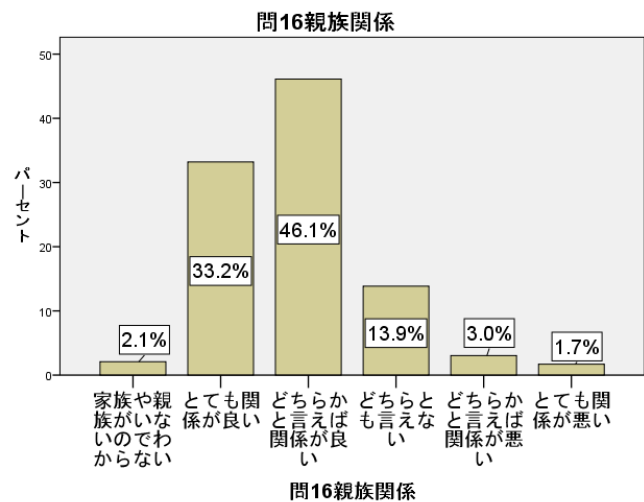
7. 現在の対人関係について（問 16～問 18）

（1）家族や親族との関係（問 16：現在、家族や親族などとの関係は全体的にどうですか。）

家族や親族との関係については、「どちらかと言えば関係が良い」が 46.1%（243 人）でもっとも多く、次いで「とても関係が良い」が 33.2%（175 人）、「どちらとも言えない」が 13.9%（73 人）、「どちらかと言えば関係が悪い」が 3.3%（16 人）、「とても関係が悪い」が 1.7%（9 人）となった。「家族や親族がいないのでわからない」が 2.1%（11 人）いるものの、約 8 割の人は「関係が良い」ことがわかる。

問 16 親族関係

	度数	%	有効%
家族や親族がいないのでわからない	11	2.1	2.1
とても関係が良い	175	33.0	33.2
どちらかと言えば関係が良い	243	45.8	46.1
どちらとも言えない	73	13.8	13.9
どちらかと言えば関係が悪い	16	3.0	3.0
とても関係が悪い	9	1.7	1.7
合計	527	99.4	100.0
無回答	3	0.6	—
合計	530	100.0	—

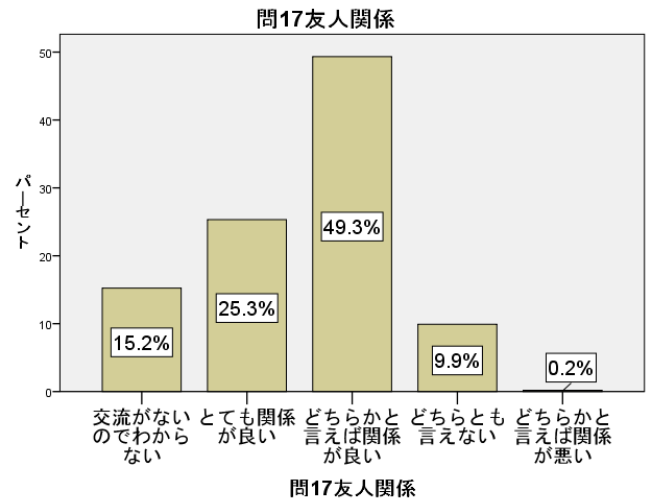


（2）友人や知人との関係（問 17：現在、交流のある友人や知人との関係は全体的にどうですか。）

友人や知人との関係については、「どちらかと言えば関係が良い」が 49.3%（259 人）でもっとも多く、次いで「とても関係が良い」が 25.3%（133 人）、「どちらとも言えない」が 9.9%（52 人）、「どちらかと言えば関係が悪い」が 0.2%（1 人）となった。「交流がないのでわからない」が 15.2%（80 人）いることに留意する必要があるものの、約 7 割の人は「関係が良い」ことがわかる。

問 17 友人関係

	度数	%	有効%
交流がないのでわからない	80	15.1	15.2
とても関係が良い	133	25.1	25.3
どちらかと言えば関係が良い	259	48.9	49.3
どちらとも言えない	52	9.8	9.9
どちらかと言えば関係が悪い	1	0.2	0.2
合計	525	99.1	100.0
無回答	5	0.9	—
合計	530	100.0	—

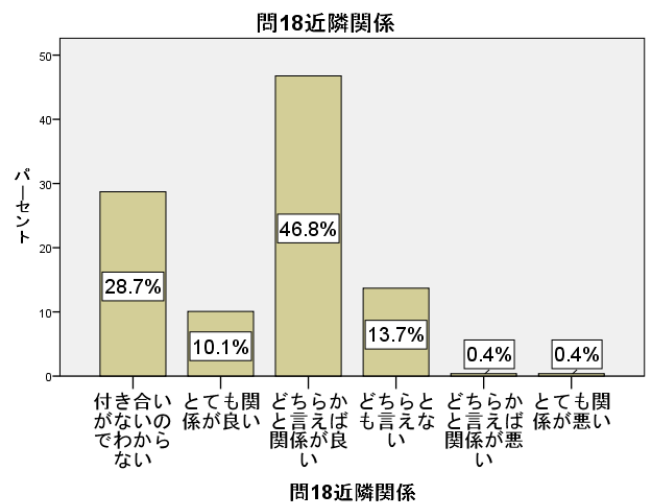


(3) ご近所との関係（問 18：現在、付き合いのあるご近所の人との関係は全体的にどうですか。）

ご近所との関係については、「どちらかと言えば関係が良い」が 46.8%（246 人）でもっとも多く、次いで「どちらとも言えない」が 13.7%（72 人）、「とても関係が良い」が 10.1%（53 人）、「どちらかと言えば関係が悪い」と「とても関係が悪い」がそれぞれ 0.4%（2 人）となった。「交流がないのでわからない」が 28.7%（151 人）おり、3 割弱の人に「ご近所づきあい」ことがわかるものの、6 割弱の人は「関係が良い」ことがわかる。

問 18 近隣関係

	度数	%	有効%
付き合いがないのでわからない	151	28.5	28.7
とても関係が良い	53	10.0	10.1
どちらかと言えば関係が良い	246	46.4	46.8
どちらとも言えない	72	13.6	13.7
どちらかと言えば関係が悪い	2	0.4	0.4
とても関係が悪い	2	0.4	0.4
合計	526	99.2	100.0
無回答	4	0.8	—
合計	530	100.0	—



8. 生きがいについて（問 19～21）

（1）「対人」の場面での生きがい（問 19）

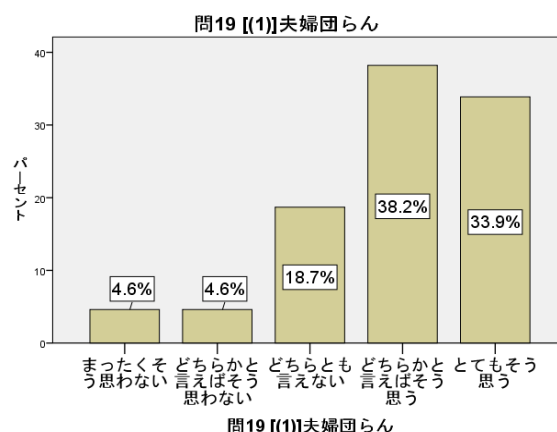
①「夫婦団らんの時」に心が満たされる

「夫婦団らんの時」については、「非該当」の 146 人と「無回答」の 15 人を除く 369 人中では、「どちら

かと言えそう思う」が 38.2% (141 人) でもっとも多く、次いで「とてもそう思う」が 33.9% (125 人)、「どちらとも言えない」が 18.7% (69 人)、「まったくそう思わない」と「どちらかと言えそう思わない」がそれぞれ 4.6% (17 人) となった。「とてもそう思う」と「どちらかと言えそう思う」を合わせた約 7 割の人にとっては、夫婦団らんが充足感を得られる時間になっていることがわかる。

問 19 [(1)]夫婦団らん

	度数	%	有効%
まったくそう思わない	17	3.2	4.6
どちらかと言えそう思わない	17	3.2	4.6
どちらとも言えない	69	13.0	18.7
どちらかと言えそう思う	141	26.6	38.2
とてもそう思う	125	23.6	33.9
合計	369	69.6	100.0
非該当	146	27.5	—
無回答	15	2.8	—
合計	161	30.4	—
合計	530	100.0	—

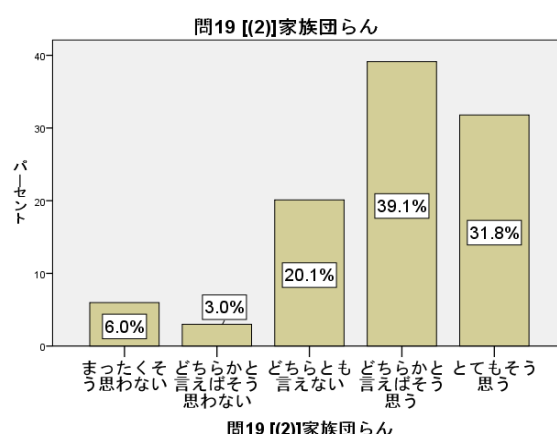


⑥「同居する家族などとの団らんの時」に心が満たされる

「同居する家族などとの団らんの時」については、「非該当」の 141 人と「無回答」の 21 人を除く 368 人中では、「どちらかと言えそう思う」が 39.1% (144 人) でもっとも多く、次いで「とてもそう思う」が 31.8% (117 人)、「どちらとも言えない」が 20.1% (74 人)、「まったくそう思わない」が 6.0% (22 人)、「どちらかと言えそう思わない」が 3.0% (11 人) となった。「とてもそう思う」と「どちらかと言えそう思う」を合わせた約 7 割の人にとっては、家族団らんが充足感を得られる時間になっていることがわかる。

問 19 [(2)]家族団らん

	度数	%	有効%
まったくそう思わない	22	4.2	6.0
どちらかと言えそう思わない	11	2.1	3.0
どちらとも言えない	74	14.0	20.1
どちらかと言えそう思う	144	27.2	39.1
とてもそう思う	117	22.1	31.8
合計	368	69.4	100.0
非該当	141	26.6	—
無回答	21	4.0	—
合計	162	30.6	—
合計	530	100.0	—



⑦「同居していない親族との団らんの時」に心が満たされる

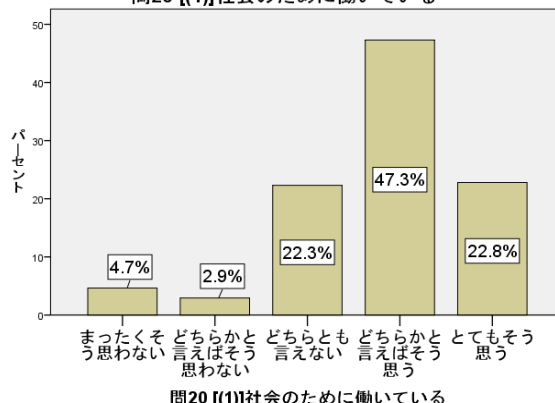
「同居していない親族との団らんの時」については、「非該当」の 61 人と「無回答」の 17 人を除く 452 人中では、「どちらかと言えそう思う」が 41.6% (188 人) でもっとも多く、次いで「とてもそう思う」が 28.1% (127 人)、「どちらとも言えない」が 24.3% (110 人)、「どちらかと言えそう思わない」が 3.1% (14 人)、「まったくそう思わない」が 2.9% (13 人) となった。「とてもそう思う」と「どちらかと言え

そう思う」を合わせた約7割の人にとっては、同居していない親族との団らんが充足感を得られる時間になっていることがわかる。

問 19 [(3)]非同居親族との団らん

	度数	%	有効%
まったくそう思わない	13	2.5	2.9
どちらかと言えばそう思わない	14	2.6	3.1
どちらとも言えない	110	20.8	24.3
どちらかと言えばそう思う	188	35.5	41.6
とてもそう思う	127	24.0	28.1
合計	452	85.3	100.0
非該当	61	11.5	—
無回答	17	3.2	—
合計	78	14.7	—
合計	530	100.0	—

問20 [(1)]社会のために働いている



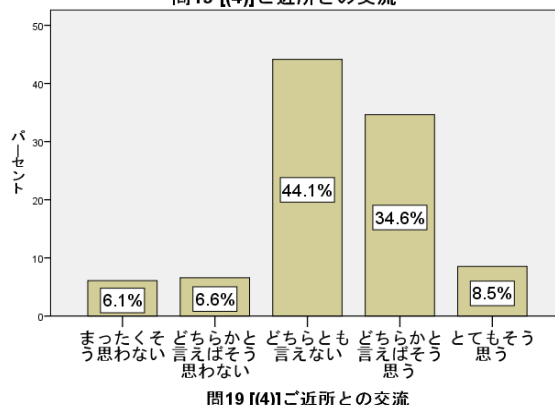
㊦「近所の人と何気なく交流している時」に心が満たされる

「近所の人と何気なく交流している時」については、「非該当」の105人と「無回答」の15人を除く410人中では、「どちらとも言えない」が44.1%（181人）でもっとも多く、次いで「どちらかと言えばそう思う」が34.6%（142人）、「とてもそう思う」が8.5%（35人）、「どちらかと言えばそう思わない」が6.6%（27人）、「まったくそう思わない」が6.1%（25人）となった。「とてもそう思う」と「どちらかと言えばそう思う」を合わせた約4割の人にとっては、ご近所との交流が充足感を得られる時間になっていることがわかるが、4割強の人が「どちらとも言えない」と回答しており、ご近所との交流が必ずしも望ましい関係にあるとはいえない。また、ご近所との交流のない人（「非該当」）が回答者全体の2割おり、地域とのつながりのない人が少なからずいることも見過ごせない結果となった。

問 19 [(4)]ご近所との交流

	度数	%	有効%
まったくそう思わない	25	4.7	6.1
どちらかと言えばそう思わない	27	5.1	6.6
どちらとも言えない	181	34.2	44.1
どちらかと言えばそう思う	142	26.8	34.6
とてもそう思う	35	6.6	8.5
合計	410	77.4	100.0
非該当	105	19.8	—
無回答	15	2.8	—
合計	120	22.6	—
合計	530	100.0	—

問19 [(4)]ご近所との交流



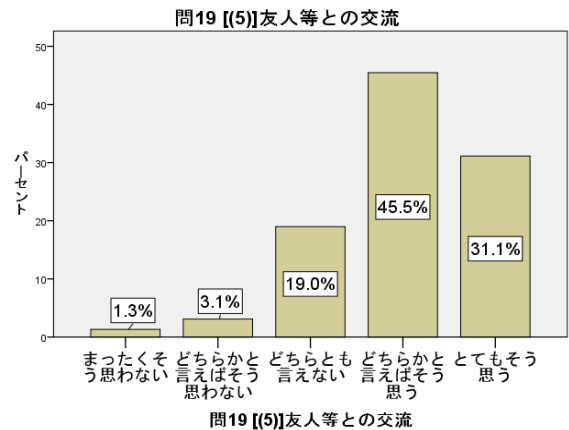
㊦「友人や知人と食事、雑談している時」に心が満たされる

「友人や知人と食事、雑談している時」については、「非該当」の64人と「無回答」の13人を除く453人中では、「どちらかと言えばそう思う」が45.5%（206人）でもっとも多く、次いで「とてもそう思う」が31.1%（141人）、「どちらとも言えない」が19.0%（86人）、「どちらかと言えばそう思わない」が2.6%

(14人)、「まったくそう思わない」が1.3% (6人) となった。「とてもそう思う」と「どちらかと言えばそう思う」を合わせた8割弱の人にとっては、友人等との交流が充足感を得られる時間になっていることがわかる。もっとも、友人や知人との交流は、本人の意思で選択できるため、ネガティブな回答が少なくなるのは必然的であるといえよう。しかし、友人等との交流のない人(「非該当」)が回答者全体の1割強おり、私的な交流の機会を持っていない人が一定数いることも見過ごせない結果となった。

問19 [(5)]友人等との交流

	度数	%	有効%
まったくそう思わない	6	1.1	1.3
どちらかと言えばそう思わない	14	2.6	3.1
どちらとも言えない	86	16.2	19.0
どちらかと言えばそう思う	206	38.9	45.5
とてもそう思う	141	26.6	31.1
合計	453	85.5	100.0
非該当	64	12.1	—
無回答	13	2.5	—
合計	77	14.5	—
合計	530	100.0	—



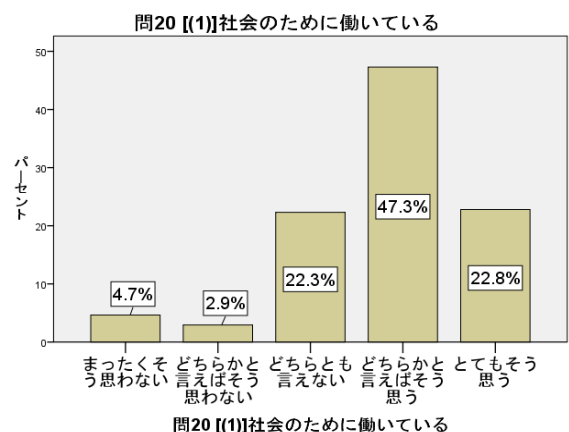
(2)「役割」の場面での生きがい (問20)

③「社会のために働いていると感じた時」に心が満たされる

「社会のために働いていると感じた時」については、「非該当」の108人と「無回答」の14人を除く408人中では、「どちらかと言えばそう思う」が47.3% (193人) でもっとも多く、次いで「とてもそう思う」が22.8% (93人)、「どちらとも言えない」が22.3% (91人)、「まったくそう思わない」が4.7% (19人)、「どちらかと言えばそう思わない」が2.9% (12人) となった。「とてもそう思う」と「どちらかと言えばそう思う」を合わせた約7割の人にとっては、「社会のために働いている」ことを実感した際に充足感が得られていることがわかる。しかし、そもそも「社会のために働いている」という実感が得られない場合もあり得ることであり、社会のために働いていたことへの見返りがなければ、決して充実感につながるものとはいえない。そのようなことを「どちらとも言えない」や「そう思わない」の回答が反映しているものと考えられ、合わせると3割ほどいることも見過ごせない結果となった。

問20 [(1)]社会のために働いている

	度数	%	有効%
まったくそう思わない	19	3.6	4.7
どちらかと言えばそう思わない	12	2.3	2.9
どちらとも言えない	91	17.2	22.3
どちらかと言えばそう思う	193	36.4	47.3
とてもそう思う	93	17.5	22.8
合計	408	77.0	100.0
非該当	108	20.4	—
無回答	14	2.6	—
合計	122	23.0	—
合計	530	100.0	—

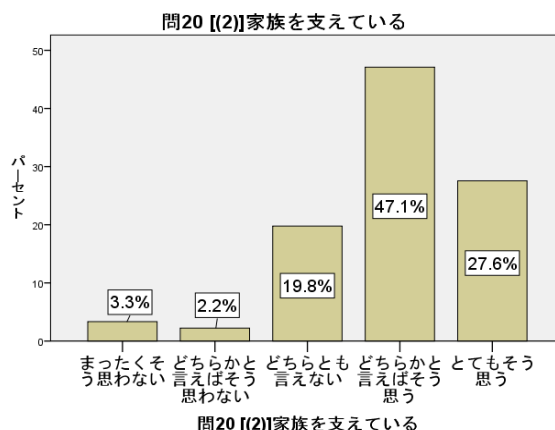


⑥「家族を支えていると感じた時」に心が満たされる

「家族を支えていると感じた時」については、「非該当」の63人と「無回答」の17人を除く450人中では、「どちらかと言えばそう思う」が47.1%（212人）でもっとも多く、次いで「とてもそう思う」が27.6%（124人）、「どちらとも言えない」が19.8%（89人）、「まったくそう思わない」が3.3%（15人）、「どちらかと言えばそう思わない」が2.2%（10人）となった。「とてもそう思う」と「どちらかと言えばそう思う」を合わせた7割強の人にとっては、「家族を支えている」ことを実感した際に充足感が得られていることがわかる。しかし、「家族を支えている」という感覚よりも「家族に支えられている」という感覚が強い人もいる可能性があり、そのような認識が「どちらとも言えない」や「そう思わない」の回答が反映していると仮定すると、合わせて2割強ほどの人があることも見過ごせない結果となった。

問20 [(2)]家族を支えている

	度数	%	有効%
まったくそう思わない	15	2.8	3.3
どちらかと言えばそう思わない	10	1.9	2.2
どちらとも言えない	89	16.8	19.8
どちらかと言えばそう思う	212	40.0	47.1
とてもそう思う	124	23.4	27.6
合計	450	84.9	100.0
非該当	63	11.9	—
無回答	17	3.2	—
合計	80	15.1	—
合計	530	100.0	—

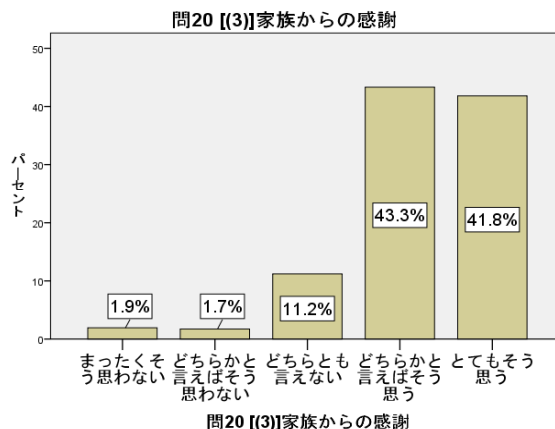


⑦「家族から感謝された時」に心が満たされる

「家族から感謝された時」については、「非該当」の46人と「無回答」の20人を除く464人中では、「どちらかと言えばそう思う」が43.3%（201人）でもっとも多く、次いで「とてもそう思う」が41.8%（194人）、「どちらとも言えない」が11.2%（52人）、「まったくそう思わない」が1.9%（9人）、「どちらかと言えばそう思わない」が1.7%（8人）となった。「とてもそう思う」と「どちらかと言えばそう思う」を合わせた8割強の人にとっては、「家族から感謝された」ことを実感した際に充足感が得られていることがわかる。しかし、「家族から感謝された」ことがあっても、それが充足感につながらない人も一定数いることは見過ごせない結果となった。

問20 [(3)]家族からの感謝

	度数	%	有効%
まったくそう思わない	9	1.7	1.9
どちらかと言えばそう思わない	8	1.5	1.7
どちらとも言えない	52	9.8	11.2
どちらかと言えばそう思う	201	37.9	43.3
とてもそう思う	194	36.6	41.8
合計	464	87.5	100.0
非該当	46	8.7	—
無回答	20	3.8	—
合計	66	12.5	—
合計	530	100.0	—

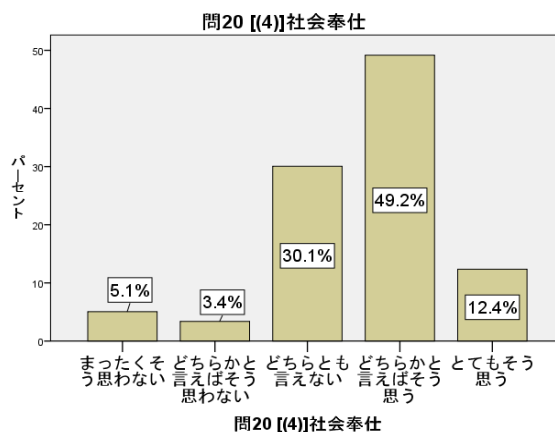


㊦「社会奉仕や地域活動をしている時」に心が満たされる

「社会奉仕や地域活動をしている時」については、「非該当」の155人と「無回答」の19人を除く356人中では、「どちらかと言えばそう思う」が49.2%（175人）でもっとも多く、次いで「どちらとも言えない」が30.1%（107人）、「とてもそう思う」が12.4%（44人）、「まったくそう思わない」が5.1%（18人）、「どちらかと言えばそう思わない」が3.4%（12人）となった。「とてもそう思う」と「どちらかと言えばそう思う」を合わせた約6割の人にとっては、「社会奉仕や地域活動をしている時」に充足感が得られていることがわかる。しかし、「どちらとも言えない」と「そう思わない」を合わせると約4割になることから、社会奉仕や地域活動が自身の気持ちを充足させることが目的でないと考えている人が一定数いる可能性があると考えられる。

問 20 [(4)]社会奉仕

	度数	%	有効%
まったくそう思わない	18	3.4	5.1
どちらかと言えばそう思わない	12	2.3	3.4
どちらとも言えない	107	20.2	30.1
どちらかと言えばそう思う	175	33.0	49.2
とてもそう思う	44	8.3	12.4
合計	356	67.2	100.0
非該当	155	29.2	—
無回答	19	3.6	—
合計	174	32.8	—
合計	530	100.0	—

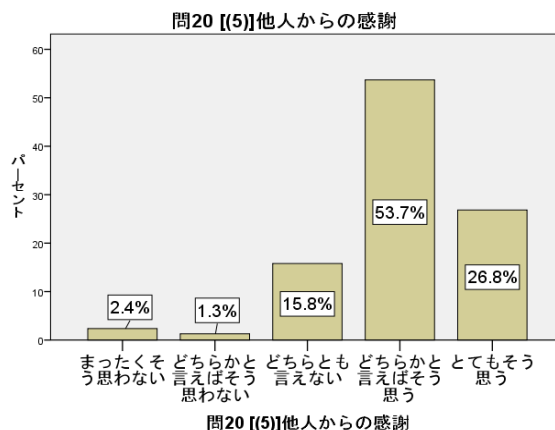


㊦「他人（家族以外）から感謝された時」に心が満たされる

「他人（家族以外）から感謝された時」については、「非該当」の51人と「無回答」の17人を除く462人中では、「どちらかと言えばそう思う」が53.7%（248人）でもっとも多く、次いで「とてもそう思う」が26.8%（124人）、「どちらとも言えない」が15.8%（73人）、「まったくそう思わない」が2.4%（11人）、「どちらかと言えばそう思わない」が1.3%（6人）となった。「とてもそう思う」と「どちらかと言えばそう思う」を合わせた8割強の人にとっては、「他人（家族以外）から感謝された」ことを実感した際に充足感が得られていることがわかる。しかし、「他人（家族以外）から感謝された」ことがあっても、それが充足感につながらない人も一定数いることは見過ごせない結果となった。

問 20 [(5)]他人からの感謝

	度数	%	有効%
まったくそう思わない	11	2.1	2.4
どちらかと言えばそう思わない	6	1.1	1.3
どちらとも言えない	73	13.8	15.8
どちらかと言えばそう思う	248	46.8	53.7
とてもそう思う	124	23.4	26.8
合計	462	87.2	100.0
非該当	51	9.6	—
無回答	17	3.2	—
合計	68	12.8	—
合計	530	100.0	—



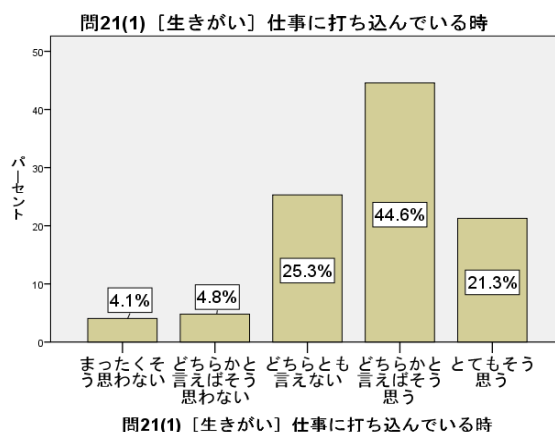
(3)「活動」の場面での生きがい(問21)

①「仕事に打ち込んでいる時」に心が満たされる

「仕事に打ち込んでいる時」については、「非該当」の118人と「無回答」の17人を除く395人中では、「どちらかと言えばそう思う」が44.6%(176人)でもっとも多く、次いで「どちらとも言えない」が25.3%(100人)、「とてもそう思う」が21.3%(84人)、「どちらかと言えばそう思わない」が4.8%(19人)、「まったくそう思わない」が4.1%(16人)となった。「とてもそう思う」と「どちらかと言えばそう思う」を合わせた6割強の人にとっては、「仕事に打ち込んでいる時」に充足感が得られていることがわかる。しかし、「どちらとも言えない」や「そう思わない」が3割以上いることは見過ごせない結果となった。

問21(1)[生きがい]仕事に打ち込んでいる時

	度数	%	有効%
まったくそう思わない	16	3.0	4.1
どちらかと言えばそう思わない	19	3.6	4.8
どちらとも言えない	100	18.9	25.3
どちらかと言えばそう思う	176	33.2	44.6
とてもそう思う	84	15.8	21.3
合計	395	74.5	100.0
非該当	118	22.3	-
無回答	17	3.2	-
合計	135	25.5	-
合計	530	100.0	-

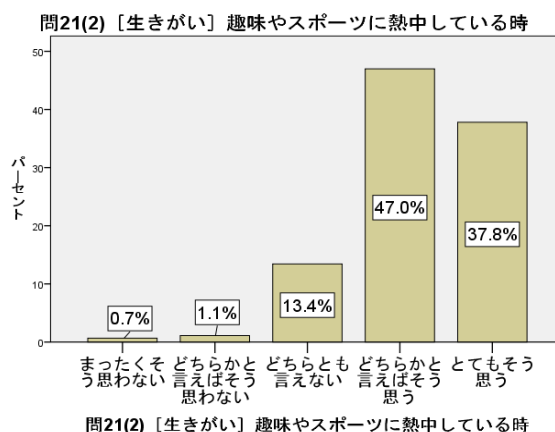


②「趣味やスポーツに熱中している時」に心が満たされる

「趣味やスポーツに熱中している時」については、「非該当」の68人と「無回答」の15人を除く447人中では、「どちらかと言えばそう思う」が47.0%(210人)でもっとも多く、次いで「とてもそう思う」が37.8%(169人)、「どちらとも言えない」が13.4%(60人)、「どちらかと言えばそう思わない」が1.1%(5人)、「まったくそう思わない」が0.7%(3人)となった。「とてもそう思う」と「どちらかと言えばそう思う」を合わせた8割強の人にとっては、「趣味やスポーツに熱中している時」に充足感が得られていることがわかる。しかし、「どちらとも言えない」や「そう思わない」が1割強おり、何か必要に迫られて取り組んでいる可能性がある人も少数ながらいることは見過ごせない結果となった。

問21(2)[生きがい]趣味やスポーツに熱中している時

	度数	%	有効%
まったくそう思わない	3	0.6	0.7
どちらかと言えばそう思わない	5	0.9	1.1
どちらとも言えない	60	11.3	13.4
どちらかと言えばそう思う	210	39.6	47.0
とてもそう思う	169	31.9	37.8
合計	447	84.3	100.0
非該当	68	12.8	-
無回答	15	2.8	-
合計	83	15.7	-
合計	530	100.0	-

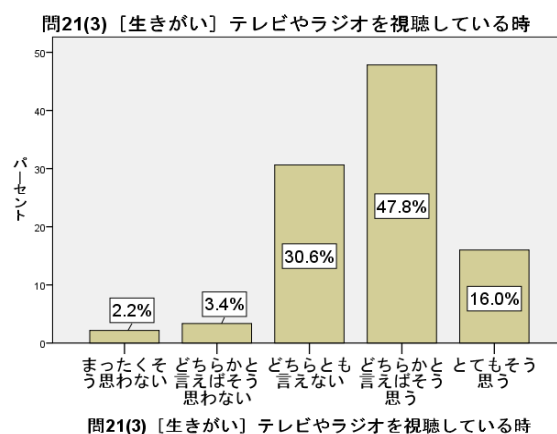


㉔「テレビやラジオを視聴している時」に心が満たされる

「テレビやラジオを視聴している時」については、「非該当」の11人と「無回答」の13人を除く506人中では、「どちらかと言えばそう思う」が47.8%（242人）でもっとも多く、次いで「どちらとも言えない」が30.6%（155人）、「とてもそう思う」が16.0%（81人）、「どちらかと言えばそう思わない」が3.4%（17人）、「まったくそう思わない」が2.2%（11人）となった。「とてもそう思う」と「どちらかと言えばそう思う」を合わせた6割強の人にとっては、「テレビやラジオを視聴している時」に充足感が得られていることがわかる。しかし、「どちらとも言えない」や「そう思わない」が4割近くおり、「他にすることがない」場合などに視聴しているなど、必ずしも積極的に視聴しているとは限らない可能性がうかがえる結果となった。

問21(3)【生きがい】テレビやラジオを視聴している時

	度数	%	有効%
まったくそう思わない	11	2.1	2.2
どちらかと言えばそう思わない	17	3.2	3.4
どちらとも言えない	155	29.2	30.6
どちらかと言えばそう思う	242	45.7	47.8
とてもそう思う	81	15.3	16.0
合計	506	95.5	100.0
非該当	11	2.1	—
無回答	13	2.5	—
合計	24	4.5	—
合計	530	100.0	—

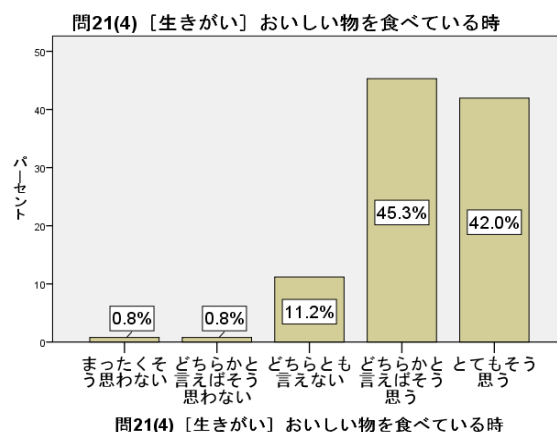


㉕「おいしい物を食べている時」に心が満たされる

「おいしい物を食べている時」については、「非該当」の5人と「無回答」の15人を除く510人中では、「どちらかと言えばそう思う」が45.3%（231人）でもっとも多く、次いで「とてもそう思う」が42.0%（214人）、「どちらとも言えない」が11.2%（57人）、「どちらかと言えばそう思わない」と「まったくそう思わない」がそれぞれ0.8%（4人）となった。「とてもそう思う」と「どちらかと言えばそう思う」を合わせた9割近い人にとっては、「おいしい物を食べている時」に充足感が得られていることがわかる。しかし、「どちらとも言えない」や「そう思わない」が1割強おり、「おいしい物を食べる」ことに、例えば「健康のことが心配」といった理由で、ネガティブに受け止めている人がいる可能性も否定できない結果となった。

問21(4)【生きがい】おいしい物を食べている時

	度数	%	有効%
まったくそう思わない	4	0.8	0.8
どちらかと言えばそう思わない	4	0.8	0.8
どちらとも言えない	57	10.8	11.2
どちらかと言えばそう思う	231	43.6	45.3
とてもそう思う	214	40.4	42.0
合計	510	96.2	100.0
非該当	5	0.9	—
無回答	15	2.8	—
合計	20	3.8	—
合計	530	100.0	—



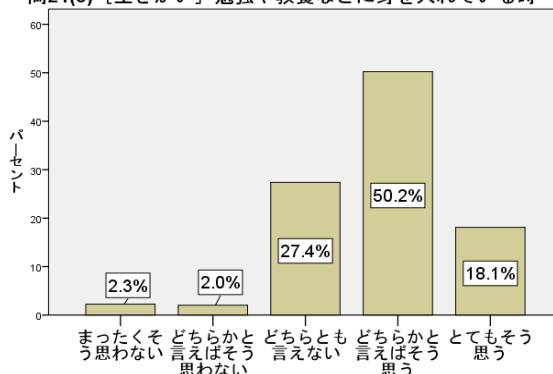
㊦「勉強や教養などに身を入れている時」に心が満たされる

「勉強や教養などに身を入れている時」については、「非該当」の72人と「無回答」の16人を除く442人中では、「どちらかと言えばそう思う」が50.2%（222人）でもっとも多く、次いで「どちらとも言えない」が27.4%（121人）、「とてもそう思う」が18.1%（80人）、「まったくそう思わない」が2.3%（10人）、「どちらかと言えばそう思わない」が2.0%（9人）となった。「とてもそう思う」と「どちらかと言えばそう思う」を合わせた約7割の人にとっては、「勉強や教養などに身を入れている時」に充足感が得られていることがわかる。しかし、「どちらとも言えない」や「そう思わない」が約3割おり、何か必要に迫られて取り組んでいる可能性がある人も一定数いることは見過ごせない結果となった。

問21(5)[生きがい]勉強や教養などに身を入れている時

	度数	%	有効%
まったくそう思わない	10	1.9	2.3
どちらかと言えばそう思わない	9	1.7	2.0
どちらとも言えない	121	22.8	27.4
どちらかと言えばそう思う	222	41.9	50.2
とてもそう思う	80	15.1	18.1
合計	442	83.4	100.0
非該当	72	13.6	—
無回答	16	3.0	—
合計	88	16.6	—
合計	530	100.0	—

問21(5) [生きがい] 勉強や教養などに身を入れている時



問21(5) [生きがい] 勉強や教養などに身を入れている時

9. 現在の生活上の意識について（問22）

（1）「健康維持活動」への意識（問22）

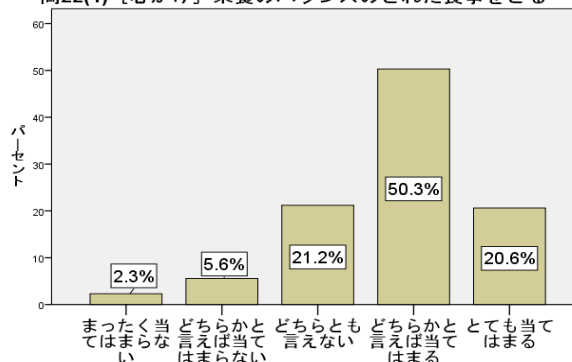
㊦「栄養のバランスのとれた食事をする」ように心がけている

「栄養のバランスのとれた食事をする」については、「どちらかと言えば当てはまる」が50.3%（261人）でもっとも多く、次いで「どちらとも言えない」が21.2%（110人）、「とても当てはまる」が20.6%（107人）、「どちらかと言えば当てはまらない」が5.6%（29人）、「まったく当てはまらない」が2.3%（12人）となった。「とても当てはまる」と「どちらかと言えば当てはまる」を合わせると、約7割の人が「栄養のバランスのとれた食事をする」によって、自身の健康状態に意識が向けられていることがわかる。

問22(1)[心がけ]栄養のバランスのとれた食事をする

	度数	%	有効%
まったく当てはまらない	12	2.3	2.3
どちらかと言えば当てはまらない	29	5.5	5.6
どちらとも言えない	110	20.8	21.2
どちらかと言えば当てはまる	261	49.2	50.3
とても当てはまる	107	20.2	20.6
合計	519	97.9	100.0
無回答	11	2.1	—
合計	530	100.0	—

問22(1) [心がけ] 栄養のバランスのとれた食事をする



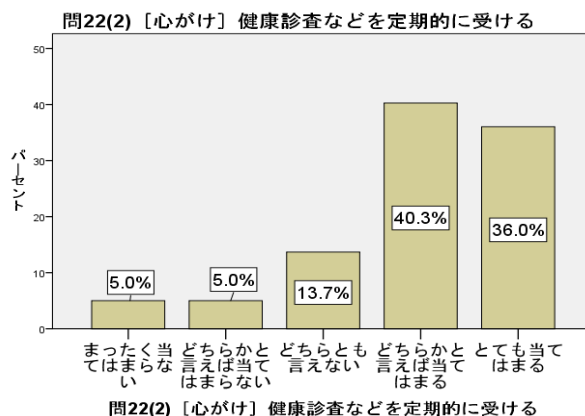
問22(1) [心がけ] 栄養のバランスのとれた食事をする

⑥「健康診査などを定期的に受ける」ように心がけている

「健康診査などを定期的に受ける」については、「どちらかと言えば当てはまる」が 40.3% (209 人) でもっとも多く、次いで「とても当てはまる」が 36.0% (187 人)、「どちらとも言えない」が 13.7% (71 人)、「どちらかと言えば当てはまらない」と「まったく当てはまらない」がそれぞれ 5.0% (26 人) となった。「とても当てはまる」と「どちらかと言えば当てはまる」を合わせると、8 割弱の人が「健康診査などを定期的に受ける」ことによって、自身の健康状態に意識が向けられていることがわかる。

問 22(2)[心がけ]健康診査などを定期的に受ける

	度数	%	有効%
まったく当てはまらない	26	4.9	5.0
どちらかと言えば当てはまらない	26	4.9	5.0
どちらとも言えない	71	13.4	13.7
どちらかと言えば当てはまる	209	39.4	40.3
とても当てはまる	187	35.3	36.0
合計	519	97.9	100.0
無回答	11	2.1	-
合計	530	100.0	-

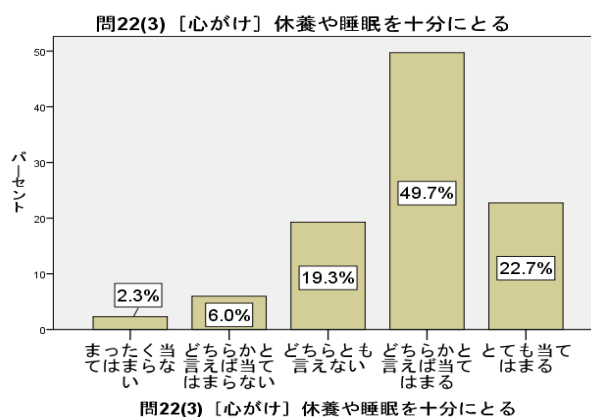


⑦「休養や睡眠を十分にとる」ように心がけている

「休養や睡眠を十分にとる」については、「どちらかと言えば当てはまる」が 49.7% (258 人) でもっとも多く、次いで「とても当てはまる」が 22.7% (118 人)、「どちらとも言えない」が 19.3% (100 人)、「どちらかと言えば当てはまらない」が 6.0% (31 人)、「まったく当てはまらない」が 2.3% (12 人) となった。「とても当てはまる」と「どちらかと言えば当てはまる」を合わせると、約 7 割の人が「休養や睡眠を十分にとる」ことによって、自身の健康状態に意識が向けられていることがわかる。

問 22(3)[心がけ]休養や睡眠を十分にとる

	度数	%	有効%
まったく当てはまらない	12	2.3	2.3
どちらかと言えば当てはまらない	31	5.8	6.0
どちらとも言えない	100	18.9	19.3
どちらかと言えば当てはまる	258	48.7	49.7
とても当てはまる	118	22.3	22.7
合計	519	97.9	100.0
無回答	11	2.1	-
合計	530	100.0	-



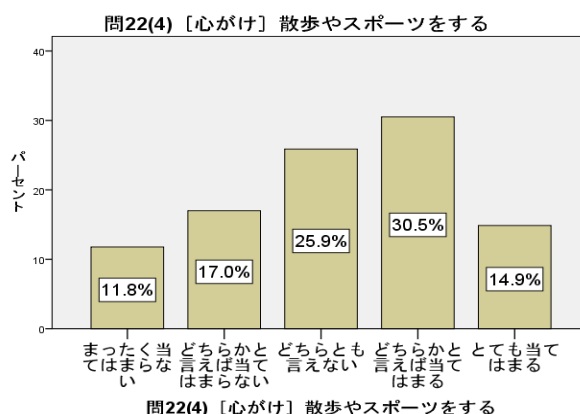
⑧「散歩やスポーツをする」ように心がけている

「散歩やスポーツをする」については、「どちらかと言えば当てはまる」が 30.5% (158 人) でもっとも多く、次いで「どちらとも言えない」が 25.9% (134 人)、「どちらかと言えば当てはまらない」が 17.0% (88 人)、「とても当てはまる」が 14.9% (77 人)、「まったく当てはまらない」が 11.8% (61 人) となった。「とても当てはまる」と「どちらかと言えば当てはまる」を合わせると、5 割弱の人が「散歩やスポーツをする」ことによって、自身の健康状態に意識が向けられているものの、「どちらとも言えない」や「当

てはまらない」を合わせると 5 割強の人が意識を十分に向けていないことがわかる。

問 22(4)[心がけ]散歩やスポーツをする

	度数	%	有効%
まったく当てはまらない	61	11.5	11.8
どちらかと言えば当てはまらない	88	16.6	17.0
どちらとも言えない	134	25.3	25.9
どちらかと言えば当てはまる	158	29.8	30.5
とても当てはまる	77	14.5	14.9
合計	518	97.7	100.0
無回答	12	2.3	—
合計	530	100.0	—

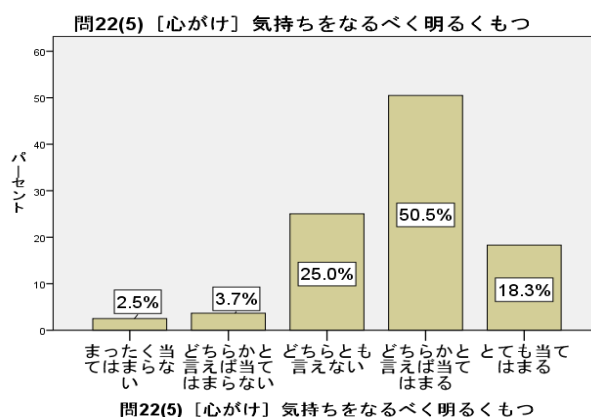


㊦「気持ちをなるべく明るくもつ」ように心がけている

「気持ちをなるべく明るくもつ」については、「どちらかと言えば当てはまる」が 50.5% (262 人) でもっとも多く、次いで「どちらとも言えない」が 25.0% (130 人)、「とても当てはまる」が 18.3% (95 人)、「どちらかと言えば当てはまらない」が 3.7% (19 人)、「まったく当てはまらない」が 2.5% (13 人) となった。「とても当てはまる」と「どちらかと言えば当てはまる」を合わせると、約 7 割の人が「気持ちをなるべく明るくもつ」ことに意識が向けられているものの、「どちらとも言えない」や「当てはまらない」を合わせると約 3 割の人が意識を十分に持てていないことがわかる。

問 22(5)[心がけ]気持ちをなるべく明るくもつ

	度数	%	有効%
まったく当てはまらない	13	2.5	2.5
どちらかと言えば当てはまらない	19	3.6	3.7
どちらとも言えない	130	24.5	25.0
どちらかと言えば当てはまる	262	49.4	50.5
とても当てはまる	95	17.9	18.3
合計	519	97.9	100.0
無回答	11	2.1	—
合計	530	100.0	—



(2)「健康維持活動」への意識(問 22)の総合評価

問 22 は、以下の 5 つの小問で構成されており、それぞれの選択肢 1 ～ 5 は、順に意識が高まることを意味している。この並び順を用いて、それぞれの回答を得点とみなし、5 つの項目の合計点から「健康意識得点」を算出することにした。回答者個々の得点の結果を集計したものが、下記の表「問 22 健康意識得点群」である。

なお、この得点を構成する選択肢の数字は、「順序」を示す尺度であって、それぞれの数字間の「間隔」を示す尺度ではない。つまり、実際の心がけが、ある回答者にとっては 5 点であっても、別の回答者にとっては 4 点となっている可能性が否定できないため、この得点はあくまでも分析を進める上での「便宜上」のものであることに留意する必要がある。

「健康意識得点群」については、「低得点群」は 15 点以下、「低中得点群」は 16 ～ 19 点、「高中得点群」

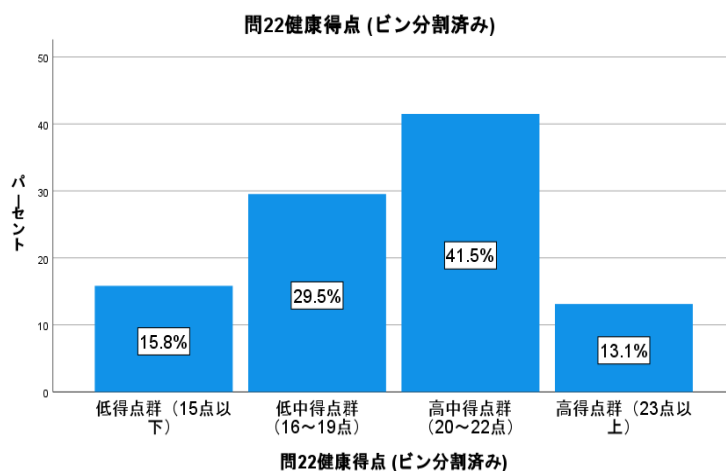
は 20～22 点、「高得点群」は 23 点以上としている。このグループ分けは、得点分布を標準偏差±1 の範囲で分割したものである。参考までに、平均値が 18.61 点、中央値が 19 点、最頻値 20 点となっている。

なお、1 つでも無回答の項目があると得点化ができなくなるため、無回答のある回答者については集計の対象から除外し、以下は、除外された 12 人を除く 518 人を母数としている。

「問 22 健康意識得点群」については、低い方から順に、「低得点群」が 15.8% (82 人)、「低中得点群」が 29.5% (153 人)、「高中得点群」が 41.5% (215 人)、「高得点群」が 13.1% (68 人) となった。得点群の分割方法の影響はあるものの、最頻値が 20 点であったこともあり、20 点の回答者が多く含まれる「高中得点群」がもっとも多くなっており、「高得点群」と合わせると 5 割強の人が健康に対する高い意識をもっていることがわかる。

問 22 健康意識得点群 (ビン分割済み)

	度数	%	有効%
低得点群 (15 点以下)	82	15.5	15.8
低中得点群 (16～19 点)	153	28.9	29.5
高中得点群 (20～22 点)	215	40.6	41.5
高得点群 (23 点以上)	68	12.8	13.1
合計	518	97.7	100.0
無回答	12	2.3	—
合計	530	100.0	—



10. 結婚事情に関するお考えについて (問 23～問 24)

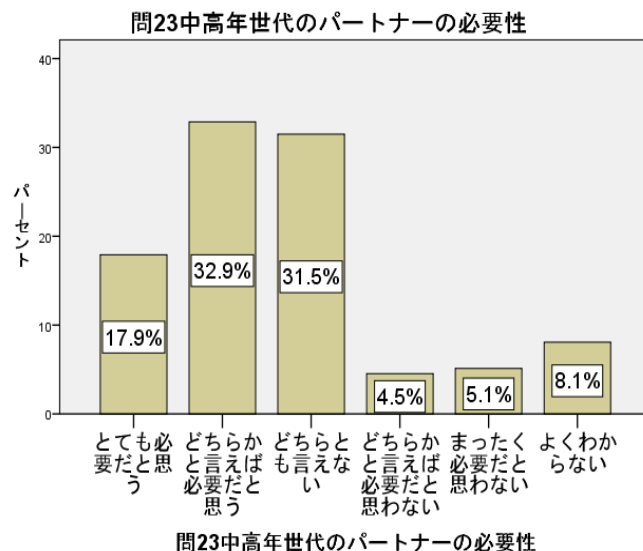
(1) パートナーの存在 (問 23: 中高年世代の人でパートナーがいない方にとって、生活を充実させるためには、共に暮らしていく新たなパートナーの存在が必要だと思いますか。)

「パートナーの存在」の必要性については、「どちらかと言えば必要だと思う」が 32.9% (167 人) でもっとも多く、次いで「どちらとも言えない」が 31.5% (160 人)、「とても必要だと思う」が 17.9% (91 人)、「よくわからない」が 8.1% (41 人)、「まったく必要だと思わない」が 5.1% (26 人)、「どちらかと言えば必要だと思わない」が 4.5% (23 人) となった。「とても必要だと思う」と「どちらかと言えば必要だと思う」を合わせると約 5 割の人が「必要だと思う」と回答しているものの、「必要だと思わない」が約 1 割となり、「どちらとも言えない」や「わからない」を合わせると約 4 割の慎重な人がいる結果となった。

設問の性格上の問題から、本設問では、「自分のこととして」回答した人も「自分以外の人のこととして客観的に」回答した人もいるものと考えられる。そのため、以下の分析においては、その関係性が明示できるようにすることが課題となる。

問 23 中高年世代のパートナーの必要性

	度数	%	有効%
とても必要だと思う	91	17.2	17.9
どちらかと言えば必要だと思う	167	31.5	32.9
どちらとも言えない	160	30.2	31.5
どちらかと言えば必要だと思わない	23	4.3	4.5
まったく必要だと思わない	26	4.9	5.1
よくわからない	41	7.7	8.1
合計	508	95.8	100.0
無回答	22	4.2	-
合計	530	100.0	-



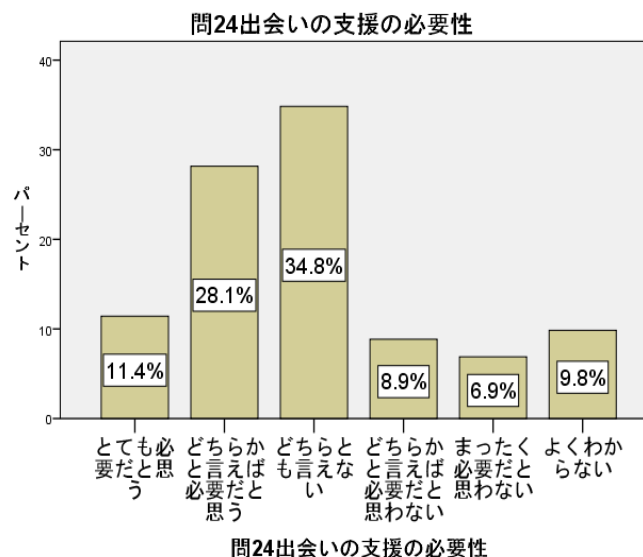
(2) マッチング支援 (問 24：中高年世代の人でパートナーがいない方に対して、行政や専門機関などが出会いの場を増やすために支援することが必要だと思いますか。)

「マッチング支援」の必要性については、「どちらとも言えない」が 34.8% (177 人) でもっとも多く、次いで「どちらかと言えば必要だと思う」が 28.1% (143 人)、「とても必要だと思う」が 11.4% (58 人)、「よくわからない」が 9.8% (50 人)、「どちらかと言えば必要だと思わない」が 8.9% (45 人)、「まったく必要だと思わない」が 6.9% (35 人) となった。「とても必要だと思う」と「どちらかと言えば必要だと思う」を合わせると約 4 割の人が「必要だと思う」と回答しているものの、「必要だと思わない」が 1 割強となり、「どちらとも言えない」や「わからない」を合わせると 5 割強の慎重な人がいる結果となった。

問 23 と同様に、設問の性格上の問題から、本設問では、「自分のこととして」回答した人も「自分以外の人のこととして客観的に」回答した人もいるものと考えられる。そのため、以下の分析においては、その関係性が明示できるようにすることが課題となる。

問 24 出会いの支援の必要性

	度数	%	有効%
とても必要だと思う	58	10.9	11.4
どちらかと言えば必要だと思う	143	27.0	28.1
どちらとも言えない	177	33.4	34.8
どちらかと言えば必要だと思わない	45	8.5	8.9
まったく必要だと思わない	35	6.6	6.9
よくわからない	50	9.4	9.8
合計	508	95.8	100.0
無回答	22	4.2	-
合計	530	100.0	-



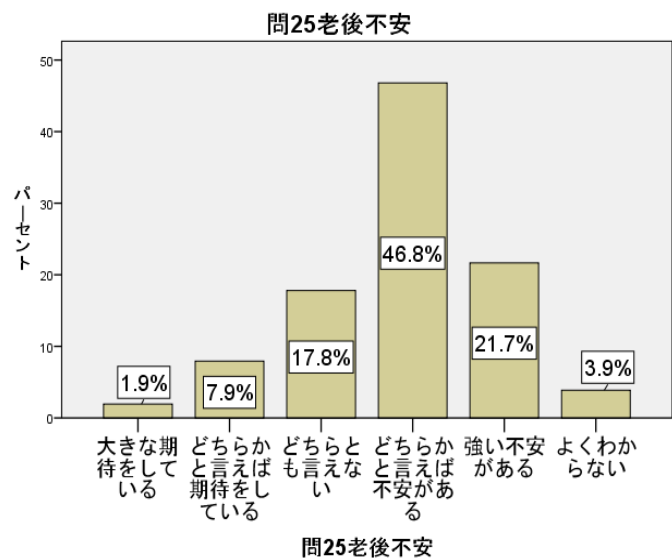
11. 今後の生活に対する期待や不安（問 25～問 26）

（１）70 歳以降の期待と不安（問 25：70 歳以降の生活を想像した時に、期待と不安のどちらを感じますか。）

「70 歳以降の期待と不安」については、「どちらかと言えば不安がある」が 46.8%（242 人）でもっとも多く、次いで「強い不安がある」が 21.7%（112 人）、「どちらとも言えない」が 17.8%（92 人）、「どちらかと言えば期待をしている」が 7.9%（41 人）、「よくわからない」が 3.9%（20 人）、「大きな期待をしている」が 1.9%（10 人）となった。「強い不安がある」と「どちらかと言えば不安がある」を合わせると、約 7 割の人が不安を抱えていることがわかり、「どちらとも言えない」や「よくわからない」の約 2 割の人を合わせると、老後への不安や見通しが立っていない人が約 9 割に達することがわかる。

問 25 老後不安

	度数	%	有効%
大きな期待をしている	10	1.9	1.9
どちらかと言えば期待をしている	41	7.7	7.9
どちらとも言えない	92	17.4	17.8
どちらかと言えば不安がある	242	45.7	46.8
強い不安がある	112	21.1	21.7
よくわからない	20	3.8	3.9
合計	517	97.5	100.0
無回答	13	2.5	—
合計	530	100.0	—



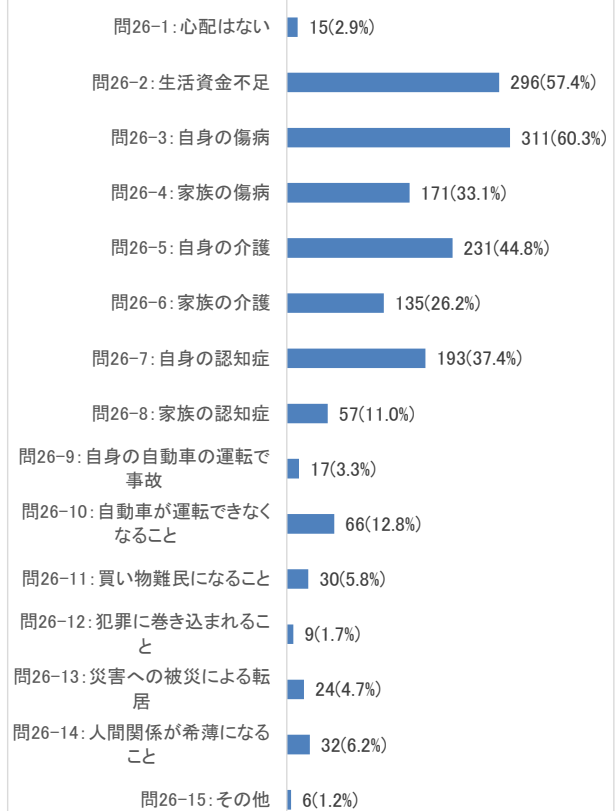
（２）70 歳以後の心配ごと（問 26：70 歳以後の生活を想定した時に、どのようなことに心配がありますか。）

「70 歳以後の心配ごと」（複数回答）の上位 5 つについては、「自身の傷病」が 60.3%（311 人）でもっとも多く、次いで「生活資金不足」が 57.4%（296 人）、「自身の介護」が 44.8%（231 人）、「自身の認知症」が 37.4%（193 人）、「家族の傷病」が 33.1%（171 人）となった。回答者の多くが、自身の健康や生活費についての不安を感じており、その後に家族の健康についての不安を感じていることがわかる。

問 26 70 歳以後の心配ごと

	度数	%
問 26-1: 心配はない	15	2.9%
問 26-2: 生活資金不足	296	57.4%
問 26-3: 自身の傷病	311	60.3%
問 26-4: 家族の傷病	171	33.1%
問 26-5: 自身の介護	231	44.8%
問 26-6: 家族の介護	135	26.2%
問 26-7: 自身の認知症	193	37.4%
問 26-8: 家族の認知症	57	11.0%
問 26-9: 自身の自動車の運転で事故	17	3.3%
問 26-10: 自動車が運転できなくなる	66	12.8%
問 26-11: 買い物難民になること	30	5.8%
問 26-12: 犯罪に巻き込まれること	9	1.7%
問 26-13: 災害への被災による転居	24	4.7%
問 26-14: 人間関係が希薄になること	32	6.2%
問 26-15: その他	6	1.2%

問26 70歳以後の心配ごと



12. コロナ対策・その他（問 27～問 28）

（１）行政機関等に望む対策など（問 27：今後も新型コロナウイルス感染症の影響が続いた場合に、支援策として行政機関等において実施してほしいと考える施策）

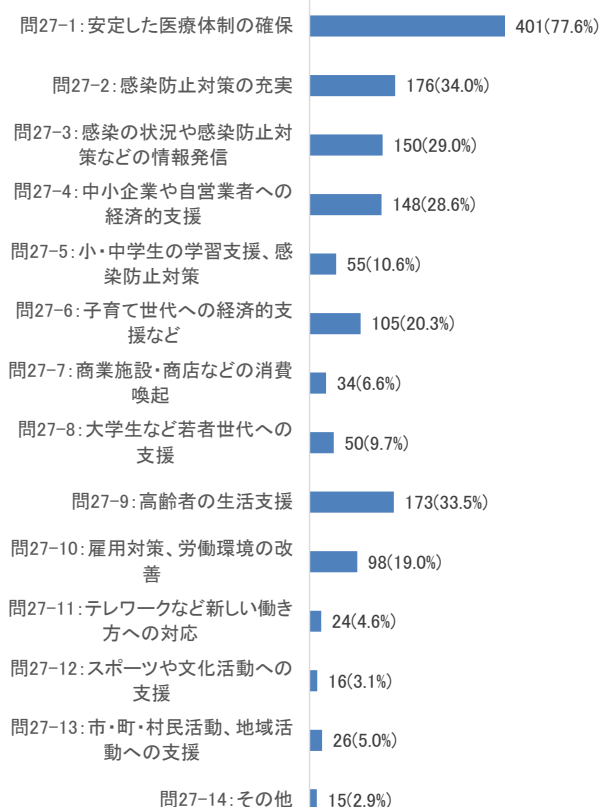
「行政機関等に望む対策など」（複数回答）の上位 5 つについては、「安定した医療体制の確保」が 77.6%（401 人）でもっとも多く、次いで「感染防止対策の充実」が 34.0%（176 人）、「高齢者の生活支援」が 33.5%（173 人）、「感染の状況や感染防止対策などの情報発信」が 29.0%（150 人）、「中小企業や自営業者への経済的支援」が 28.6%（148 人）となった。

調査を実施した 2022 年 11 月から 2023 年 1 月頃までは、新型コロナの新規感染者数が高止まりしていた時期であったことに鑑みると、コロナ対策の充実を望む回答が多くなったことは必然的であるといえよう。しかし、「高齢者の生活支援」や「中小企業や自営業者への経済的支援」が上位に入ったことは見過ごせない結果となった。「高齢者の生活支援」については、年々公的年金の支給額が削減されていくなかで、社会保険料や利用者負担のほか、不健全な物価上昇が起これ、生活を圧迫していることを反映している可能性がある。また、「中小企業や自営業者への経済的支援」については、経済活動が戻りつつあるものの、物価上昇による原材料費や仕入れ価格の高騰のほか、コロナ禍で政府が実施してきたいわゆる「ゼロゼロ融資」の返済開始が近づくなかで、「中小企業や自営業者への経済的支援」を望む回答が多くなった可能性がある。

問 27 行政機関等に望むコロナ対策など

	度数	%
問 27-1: 安定した医療体制の確保	401	77.6%
問 27-2: 感染防止対策の充実	176	34.0%
問 27-3: 感染の状況や感染防止対策などの情報発信	150	29.0%
問 27-4: 中小企業や自営業者への経済的支援	148	28.6%
問 27-5: 小・中学生の学習支援、感染防止対策	55	10.6%
問 27-6: 子育て世代への経済的支援など	105	20.3%
問 27-7: 商業施設・商店などの消費喚起	34	6.6%
問 27-8: 大学生など若者世代への支援	50	9.7%
問 27-9: 高齢者の生活支援	173	33.5%
問 27-10: 雇用対策、労働環境の改善	98	19.0%
問 27-11: テレワークなど新しい働き方への対応	24	4.6%
問 27-12: スポーツや文化活動への支援	16	3.1%
問 27-13: 市・町・村民活動、地域活動への支援	26	5.0%
問 27-14: その他	15	2.9%

問27 行政機関等に望むコロナ対策



(2) 自由記述 (問 28: そのほか、本調査の内容に関連することなどについてご意見など)

a) 概要

「自由記述」については、回答内容をカテゴリー別に分類した上で、その回答数を集計した結果が以下の表である。なお、回答内容が複数含まれる場合には、「複数回答」と同様の扱いをしており、「割合 (%)」については、有効な回答のあった 74 人を分母に用いている。

「自由記述」の上位 5 つについては、「行政サービス・生活支援など」が 20.3% (15 人) でもっとも多く、次いで「生活・健康・老後の不安など」が 14.9% (11 人)、「仕事・働くこと」が 10.8% (8 人)、「年金」が 10.8% (8 人)、「孤立問題・交流機会の少なさなど」が 9.5% (7 人) となった。

問 28 自由記述回答のカテゴリー別回答数

回答内容のカテゴリー	回答数	%
「行政サービス・生活支援など」に関すること	14	18.9%
「生活・健康・老後の不安など」に関すること	10	13.5%
「年金」に関すること	8	10.8%
「仕事・働くこと」に関すること	7	9.5%
「孤立問題・交流機会の少なさなど」に関すること	7	9.5%
「買い物、物価、利便性などの消費活動」に関すること	6	8.1%
「コロナ対策」に関すること	6	8.1%
「子育て・ひとり親・教育支援」に関すること	5	6.8%
「介護」に関すること	4	5.4%
「困窮者支援」に関すること	4	5.4%
「少子高齢化(人手不足、過疎化など)」に関すること	4	5.4%
「格差・不平等」に関すること	4	5.4%
「障害」に関すること	3	4.1%
「税」に関すること	3	4.1%
「地域課題(経済、空き家、近隣関係)」に関すること	3	4.1%
「医療体制」に関すること	2	2.7%
「ハラスメント」に関すること	2	2.7%
その他	28	37.8%
問 28 の回答者数	74	100.0%

b) 内訳

以下、「自由記述」の内訳を示す。各カテゴリーに関連する回答箇所には下線（ ）を付している。また、複数の内容を回答している場合には、同じ回答内容が複数回記載されている場合がある。

なお、「本調査の内容に関連すること」の意図がうまく伝わらず、調査の内容や実施方法などについて記載されていたものについては「その他」に分類しているが、記載内容からは除外した。また、回答内容に誤植（誤字や脱字など）がある場合でも、修正を加えずに原文のまま記載している。

①「行政サービス・生活支援など」に関すること

高齢になるにつれ、行政からの支援があると思っていますが、何事も人材不足になっているように感じる。雇用の方法や支援に対してもっと深く考えてほしい。支援者がいての今後の生き方があります。と思っています。

60 以上でパートで働いている方々への支援を考えて欲しい。

年々の年金下げはやめて欲しい。

現在会社員ですが、10 年もすると年金生活へ入ります。年金生活については資金面で大きな不安を感じます。政府、行政がもっと支援してくれる社会となればと思います。この調査もその一助となれば幸いです。

個人それぞれが趣味や生活のニーズに即した情報やサークル活動を手軽に検索できるように、行政サイトで把握している情報や活動をワンストップで閲覧出来るプラットフォームを構築して欲しい。

少子高齢化が進む中、高齢者支援の為に方策を行政で考えていくことは、若い世代への負担を減らすためにも、とても大切なことだと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

田舎には田舎の支援が必要。1 人では何も出来ないが、人が集まれば仕事も出来る環境を生み出せる。地域の特色を活かした仕事を生み出さなければ、ますます過疎化していくばかり。生活のうるおいを目指

さなければならない。 アンケートは単なる数字でしかみえない。現場を見て声をきかなければ明るい未来は見えてこないと感じる。
税金を上げて収入が少なくなった場合に厚く手当して欲しい。
現在 67 ですが、自分の親が 1 人で暮らしています。私の収入でどうにか暮らしていますが、これからがとても不安になります。もっと何か支援があればとても気が楽になります。宜しくお願いいたします。
感染症に心配する事がなく、いつでも自由に集えるサロンが常設されていると、外出し人と交流でき楽しみになると思います。 最近、車の運転を止めたので公共の移動手段が充実してくれると外出が楽しみになります。
もういい加減高齢者への対策等で公金を支出するのを止めてもらいたい。子育てを拡充すべき。
1 人暮らし、高齢者のみの世帯に対して健康確認システム（最低 1 日 1 回は確認）又は SOS コールシステムがあれば安心出来るのだが、行政で設置できないものか要望です。
市内の老人、高齢者はほとんど毎日娯楽施設へと出かけるだけの健康と資金があるようです。支援もさほどいらないのでは？毎日遊び暮らしておいて生活苦と話すのはおかしいと日々思っています。
コロナの終息が見通せない中、感染に注意を払ってと銘打って自治会行事を再開しているが？治療法も薬もまだまだの中・・・。 行事を実施、実績を残さないと来年の補助金が、等々理由付けしているが行政の方もこの非常事態にその辺も柔軟に対応することも時限的に必要と思う。 医療現場の悲痛な悲惨な現状報道を見るにつけ今しばらく自粛すべきと強く思う。 岩手としてもっと強いメッセージを流すべきでは。何しろ現在過去最高値を更新中なのでから自治会ではなかなか個人の意見は出しづらいことも上からの縛りがあれば、とにかくコロナを甘く見ては駄目。インフルエンザとは違うということ。
国の政策などが末端（生活が困っている人）の人たちに対するものとは思えず、ただただ値上がりする物価に耐え忍ぶ毎日です。生きるとは生きるだけでお金がかかってしまいます。税金でご飯を食べている人たちは民間の苦しみ（中小企業・自営）の苦しみがわからないのでしょうか。何も期待していません。

⑥「生活・健康・老後の不安など」に関すること

知的障害の子です。 親も高齢になり、親亡き後が心配です。 自宅で一人でも生活できない。施設に入所するにも、今は障害年金でもたりないようです。
本調査は必要なのでしょうか？ そして調査した後、まとめた結果、一歩進めるのでしょうか？ 調査しました、それで一歩も前へ進めないならしないのと同じだと思います。 必ず、繁栄されることを願います。 老後不安なので・・・よろしくお願い致します。
生活、お金、消費（買物）、書面やらみんなデジタル化されて私達中高年、高齢者にはとても生活しにくい世の中になっていると感じます。
現在 67 ですが、自分の親が 1 人で暮らしています。私の収入でどうにか暮らしていますが、これからがとても不安になります。もっと何か支援があればとても気が楽になります。宜しくお願いいたします。

1人暮らし、高齢者のみの世帯に対して健康確認システム（最低1日1回は確認）又はSOSコールシステムがあれば安心出来るのだが、行政で設置できないものか要望です。
アンケートを記入していて、改めて自分もそんな年齢になってしまったんだなと実感しました。独身なので病気の不安とかもありますが、前向きに生きていく事が大切な・・・と思っています。
宮古市は盛岡などと比べても文化面など格差があり過ぎる。人口の差と言ってしまうと仕方ないのかもしれませんが、コンサートは溢れるくらい開催されているし、美術館なども充実し、ちょっと移動するだけで心満たされるものが多い。宮古は海以外は皆無です。もう少し県内の中で格差を無くして欲しいです。 習い事もカルチャーセンターなどたくさんあるが、宮古は限られています。 津波もくるくると言われても避難する所もなかなか無い。沿岸というだけでの生活に豊かさ、ゆとりを感じる事が出来ません。何かあった時に避難する高い所もありますが、地下もありません。これは恵まれた所に住んでいる方には分からない事だと思います。
趣味とか生きがいのある生活をする為にもお金が必要となる。生活ぎりぎりの収入しかない時には家に引きこもるしかなくなるのか？凄く心配。
乳・小・中学生への支援はあるが、これからの日本を担う高校生、特に大学生などの世代への支援が全くない。 沿岸に住んでいて津波にあい、生活が苦しくなった家庭や、コロナで急激に収入が減った家庭にしか支援がない。 大学によって10万支給される大学と全く支給のない大学もあり、差がありすぎる！平等にして欲しい！
身体障害者の子を持つ親として、自分に何かあった時にどのようにしたら良いか不安である。 自分が体調不良で入院した時に相談できる相手がいないので不安

◎「年金」に関すること

近い未来に年金だけでは暮らしが成り立たない現実が見られてきており、生活に対しての不安が大きいです。とりあえず仕事を探して働き収入のある生活が目標ではありますが…障害(足関節)があるため資格をいかすことも難しい現状です…
知的障害の子です。 親も高齢になり、親亡き後が心配です。 自宅で一人でも生活できない。施設に入所するにも、今は障害年金でもたりないようです。
60以上でパートで働いている方々への支援を考えて欲しい。 年々の年金下げはやめて欲しい。
現在会社員ですが、10年もすると年金生活へ入ります。年金生活については資金面で大きな不安を感じます。政府、行政がもっと支援してくれる社会となればと思います。この調査もその一助となれば幸いです。
契約社員の手当と多少の年金の手当で生活していますが、介護保険の額が多少高いようにみられる。 正直言うと介護保険と消費税8～10%がなければ、年金だけの生活は贅沢をしなければ生活出来る。やはり消費税が大きい！年収にもかかわらず平等に取られる事が納得できない！特に食べる物やエネルギー（電気・ガス）に消費税は大きく感じる。このことは私だけでしょうか？昭和の時代に戻してもらいたい！物品税だけ！

中小企業、自営の方々が年金生活になった時、安定した生活が出来るような社会、日本になって欲しい。

収入が年金だけの生活者に対して特別徴収額が変更されたって支給額が減額されるし、介護保険料が3倍になってくるとそれまでの生活が苦しくなります。

収入があつての生活なので変動がないようにして頂きたい。

私の企業も独身者が数多くいます。これが少子高齢社会に繋がっていると思います。企業間での交流の場を作ってあげる事も大事かなと思います。又、中央と地方の賃金格差も中々縮まらない状態にあります。

ゆとりある社会に向けて速やかに是正して頂ければと思っています。

年金生活もどうなっていくのか不安です。増税も国民泣かせですよ。物価上昇、光熱費全て上がり、これからの人生の行方が心配です。何とかして頂きたいと思っています。

④「仕事・働くこと」に関すること

ちゃんと働いている人がむくわれたい。

近い未来に年金だけでは暮しが成り立たない現実が見られてきており、生活に対しての不安が大きいです。とりあえず仕事を探して働き収入のある生活が目標ではありますが…障害(足関節)があるため資格をいかすことも難しい現状です…

田舎には田舎の支援が必要。1人では何も出来ないが、人が集まれば仕事も出来る環境を生み出せる。地域の特色を活かした仕事を生み出さなければ、ますます過疎化していくばかり。生活のうらおいを目指さなければならない。

アンケートは単なる数字でしかみえない。現場を見て声をきかなければ明るい未来は見えてこないと感じる。

契約社員の手当と多少の年金の手当で生活していますが、介護保険の額が多少高いようにみられる。正直言うと介護保険と消費税8~10%がなければ、年金だけの生活は贅沢をしなければ生活出来る。やはり消費税が大きい！年収にもかかわらず平等に取られる事が納得できない！特に食べる物やエネルギー(電気・ガス)に消費税は大きく感じる。このことは私だけでしょうか？昭和の時代に戻してもらいたい！物品税だけ！

医療や介護は現場主義で、対、人と人という中でコロナウイルス感染者へのリスクは計り知れず、最初の感染から10日間と思いきや、次から次と感染者が増え、状況も少しずつ変わり、交代職員や応援職員もなく「やるしかない！」の精神で自分の身を守る為に精一杯の日々でした。

新型コロナに関してはどこもこの様な現場なのではないでしょうか。

本アンケートを基に行政に生かしてほしい。

とにかくどこも人手不足、スキルの伝承がなく、いわゆる名職人がいなくなりその不安が多い。責任感のない若者の増加が不安です。

体力的なことや親の世話などを考えると企業の思うようには働けないという状況となって来ました。働きたいと思っている理由ではないが、パートだからか、企業側の希望通りではないと感じる(働き具合)のか、もう40年以上税金を払ってきた人間に対しての扱いではない扱いをされます。「思いやり」なんて無いのです。

⑤「孤立問題・交流機会の少なさなど」に関すること

どのようにすればみなさんが孤立しなくてよいのでしょうか？

コロナになってから、生活のリズムがみだれて、やりたいこともあるが行きたい場所や自由な時間、場所に制限されているような時代で、気持ちが少ししずつでいく事が多くなって来た。 社会貢献もいろんな分野でやっているの、情報は沢山持っているが、それでもやっぱりコロナのおかげで自由を奪われていることを日々思います。 みんなが自由に考え、行きたい、やりたい事をもっと出来る社会に戻ってくれば良いと日々思います。
感染症に心配する事がなく、いつでも自由に集えるサロンが常設されていると、外出し人と交流でき楽しみになると思います。 最近、車の運転を止めたので公共の移動手段が充実してくれると外出が楽しみになります。
趣味とか生きがいのある生活をする為にもお金が必要となる。生活ぎりぎりの収入しかない時には家に引きこもるしかなくなるのか？凄く心配。
コロナ禍で3年目に入り、人間関係が希薄になっている事をアンケートに記入しながら、改めて実感しました。 何かのお役に立てたら幸いです。
独身者にも優しい世の中になってほしい
中高年の生きがいと考えることは、近所での活動や趣味に取り組むことが、いろいろな人と接する機会が増えて健康にも良く、充実した生活を送ることができると思う。その意味でも、交流の場の提供が重要だと思う。

⑦「買い物、物価、利便性などの消費活動」に関すること

生活、お金、消費（買物）、書面やらみんなデジタル化されて私達中高年、高齢者にはとても生活しにくい世の中になっていると感じます。
契約社員の手当と多少の年金の手当で生活していますが、介護保険の額が多少高いようにみられる。 正直言うと介護保険と消費税8～10%がなければ、年金だけの生活は贅沢をしなければ生活出来る。やはり消費税が大きい！年収にもかかわらず平等に取られる事が納得できない！特に食べる物やエネルギー（電気・ガス）に消費税は大きく感じる。このことは私だけでしょうか？昭和の時代に戻してもらいたい！物品税だけ！
宮古市は家賃が高いと思います。収入に比べて。 ペットを飼っていますが、ペット可の市県営住宅が増えてほしいと思います。単身の人は尚更なさそう... 50代以降も安心して気軽に利用できる婚活サポートの場があれば良いと思います。
私の企業も独身者が数多くいます。これが少子高齢社会に繋がっていると思います。企業間での交流の場を作ってあげる事も大事なかなと思います。又、中央と地方の賃金格差も中々縮まらない状態にあります。 ゆとりある社会に向けて速やかに是正して頂ければと思っています。 年金生活もどうなっていくのか不安です。増税も国民泣かせですよ。物価上昇、光熱費全て上がり、これからの人生の行方が心配です。何とかして頂きたいと思っています。
郊外へ大型店舗が進出し、個人経営の商店が段々に閉店に追い込まれるのが、心苦しいです。駐車場の問題、交通網の問題、色々あると思いますが、気軽に立ち寄れるお店の出店など、考えていただければなあと思います。

国の政策などが末端（生活が困っている人）の人たちに対するものとは思えず、ただただ値上がりする物価に耐え忍ぶ毎日です。生きるとは生きるだけでお金がかかってしまいます。税金でご飯を食べている人たちは民間の苦しみ（中小企業・自営）の苦しみがわからないのでしょうか。何も期待していません。

㊦「コロナ対策」に関すること

あらたなウイルスが発生した時の予想しての対策と予防。生活によゆうがない人への支援。

コロナに関して今回の死者は〇人でしたと報道があり、全体として誰かが亡くなることになってしまったような気がします。全国では2021年15000人、2022年はもう3万人以上で倍以上亡くなっているの、安心できない感染症だと思うが、対応が以前より緩くなっていると思うので考えるべき。

感染して、パルスオキシメーターを希望しても結果届かなかったり、90歳の老人が39度の熱が続いて食事も取れず、入院を希望しても様子見になってしまうというような話もあるので、このままの対応で良いのか考える必要がある。

医療や介護は現場主義で、対、人と人という中でコロナウイルス感染者へのリスクは計り知れず、最初の感染から10日間と思いきや、次から次と感染者が増え、状況も少しずつ変わり、交代職員や応援職員もなく「やるしかない！」の精神で自分の身を守る為に精一杯の日々でした。

新型コロナに関してはどこもこの様な現場なのではないでしょうか。

コロナの終息が見通せない中、感染に注意を払ってと銘打って自治会行事を再開しているが？治療法も薬もまだまだの中・・・。

行事を実施、実績を残さないと来年の補助金が、等々理由付けしているが行政の方もこの非常事態にその辺も柔軟に対応することも時限的に必要と思う。

医療現場の悲痛な悲惨な現状報道を見るにつけ今しばらく自粛すべきと強く思う。

岩手としてもっと強いメッセージを流すべきでは。何しろ現在過去最高値を更新中なのでですから自治会ではなかなか個人の意見は出しづらいことも上からの縛りがあれば、とにかくコロナを甘く見ては駄目。インフルエンザとは違うということ。

園児や小学生にもマスクをさせた方が良いと思う

コロナワクチン接種、近くの医院、病院で申込みしてから、1ヶ月以上の時間がかかっています。もう少しスピードをもってお願いしたいです。

㊦「子育て・ひとり親・教育支援」に関すること

高齢者の車の運転、買い物のマナーがひどい。高齢者をまもる必要はない。子供や若者がくらしやすい環境を作してほしい。

社会を今後支える若者、子育て世代への対策や取り組みを望みます。

もういい加減高齢者への対策等で公金を支出するのを止めてもらいたい。子育てを拡充すべき。

乳・小・中学生への支援はあるが、これからの日本を担う高校生、特に大学生などの世代への支援が全くない。

沿岸に住んでいて津波にあい、生活が苦しくなった家庭や、コロナで急激に収入が減った家庭にしか支援がない。

大学によって10万支給される大学と全く支給のない大学もあり、差がありすぎる！平等にして欲しい！

子育て世代への経済的支援よりも一人親への支援を。

㊦「介護」に関すること

すごくバカな内容ですね。公務員が考えそうなバカなアンケートです。

空き家問題、施設に入りたくてもお金がない。ケアマネがバカばかりでこまる。

いい歳してパートな？介護しろってか！！

契約社員の手当と多少の年金の手当で生活していますが、介護保険の額が多少高いようにみられる。

正直言うと介護保険と消費税 8～10%がなければ、年金だけの生活は贅沢をしなければ生活出来る。やはり消費税が大きい！年収にもかかわらず平等に取られる事が納得できない！特に食べる物やエネルギー（電気・ガス）に消費税は大きく感じる。このことは私だけでしょうか？昭和の時代に戻してもらいたい！物品税だけ！

収入が年金だけの生活者に対して特別徴収額が変更されたって支給額が減額されるし、介護保険料が3倍になってくるとそれまでの生活が苦しくなります。

収入があつての生活なので変動がないようにして頂きたい。

母親の介護をしており、多少それが生きがいになっているかもです。

①「困窮者支援」に関すること

あらたなウイルスが発生した時の予想しての対策と予防。生活によゆうがない人への支援。

ロシアの戦争、コロナと経済と生活が困難になっているので支援は皆さんが願っている事だと思います。いつまで続くのか・・・

趣味とか生きがいのある生活をする為にもお金が必要となる。生活ぎりぎりの収入しかない時には家に引きこもるしかなくなるのか？凄く心配。

乳・小・中学生への支援はあるが、これからの日本を担う高校生、特に大学生などの世代への支援が全くない。

沿岸に住んでいて津波にあい、生活が苦しくなった家庭や、コロナで急激に収入が減った家庭にしか支援がない。

大学によって 10 万支給される大学と全く支給のない大学もあり、差がありすぎる！平等にして欲しい！

②「少子高齢化（人手不足、過疎化など）」に関すること

高齢になるにつれ、行政からの支援があると思っていますが、何事も人材不足になっているように感じる。顧用の方法や支援に対してもっと深く考えてほしい。支援者がいての今後の生き方があります。と思っています。

田舎には田舎の支援が必要。1 人では何も出来ないが、人が集まれば仕事も出来る環境を生み出せる。地域の特色を活かした仕事を生み出さなければ、ますます過疎化していくばかり。生活のうるおいを目指さなければならない。

アンケートは単なる数字でしかみえない。現場を見て声をきかなければ明るい未来は見えてこないと感じる。

本アンケートを基に行政に生かしてほしい。

とにかくどこも人手不足、スキルの伝承がなく、いわゆる名職人がいなくなりその不安が多い。責任感のない若者の増加が不安です。

私の企業も独身者が数多くいます。これが少子高齢社会に繋がっていると思います。企業間での交流の場を作ってあげる事も大事なかなと思います。又、中央と地方の賃金格差も中々縮まらない状態にあります。

ゆとりある社会に向けて速やかに是正して頂ければと思っています。

年金生活もどうなっていくのか不安です。増税も国民泣かせですよ。物価上昇、光熱費全て上がり、これからの人生の行方が心配です。何とかして頂きたいと思っています。

①「格差・不平等」に関すること

盛岡などの中心地では色々なイベントが活発ですが地方ではあまり活動場所がせまく交通の不便もあって、とにかく大きな会館の近くにすんでいる人達がうらやましいです。病院も心配する事ないし、地方はたよれる病院が少なく不安ばかりです。

宮古市は盛岡などと比べても文化面など格差があり過ぎる。人口の差と言ってしまうと仕方ないのかもしれませんが、コンサートは溢れるくらい開催されているし、美術館なども充実し、ちょっと移動するだけで心満たされるものが多い。宮古は海以外は皆無です。もう少し県内の中で格差を無くして欲しいです。

習い事もカルチャーセンターなどたくさんあるが、宮古は限られています。

津波もくるくると言われても避難する所もなかなか無い。沿岸というだけでの生活に豊かさ、ゆとりを感じる事が出来ません。何かあった時に避難する高い所もありますが、地下もありません。これは恵まれた所に住んでいる方には分からない事だと思います。

乳・小・中学生への支援はあるが、これからの日本を担う高校生、特に大学生などの世代への支援が全くない。

沿岸に住んでいて津波にあい、生活が苦しくなった家庭や、コロナで急激に収入が減った家庭にしか支援がない。

大学によって10万支給される大学と全く支給のない大学もあり、差がありすぎる！平等にして欲しい！

私の企業も独身者が数多くいます。これが少子高齢社会に繋がっていると思います。企業間での交流の場を作ってあげる事も大事なと思います。又、中央と地方の賃金格差も中々縮まらない状態にあります。

ゆとりある社会に向けて速やかに是正して頂ければと思っています。

年金生活もどうなっていくのか不安です。増税も国民泣かせですよ。物価上昇、光熱費全て上がり、これからの人生の行方が心配です。何とかして頂きたいと思っています。

②「障害」に関すること

近い未来に年金だけでは暮しが成り立たない現実が見られてきており、生活に対しての不安が大きいです。とりあえず仕事を探して働き収入のある生活が目標ではありますが…障害(足関節)があるため資格をいかすことも難しい現状です…

知的障害の子です。

親も高齢になり、親亡き後が心配です。

自宅で一人でも生活できない。施設に入所するにも、今は障害年金でもたりないようです。

身体障害者の子を持つ親として、自分に何かあった時にどのようにしたら良いか不安である。

自分が体調不良で入院した時に相談できる相手がいないので不安

③「税」に関すること

契約社員の手当と多少の年金の手当で生活していますが、介護保険の額が多少高いようにみられる。

正直言うと介護保険と消費税8~10%がなければ、年金だけの生活は贅沢をしなければ生活出来る。やはり消費税が大きい！年収にもかかわらず平等に取られる事が納得できない！特に食べる物やエネルギー

ー（電気・ガス）に消費税は大きく感じる。このことは私だけでしょうか？昭和の時代に戻してもらいたい！物品税だけ！

変な財団の役員が高額報酬を貰っている者がいるのではないのか・・・税金の無駄遣い。

私の企業も独身者が数多くいます。これが少子高齢社会に繋がっていると思います。企業間での交流の場を作ってあげる事も大事かなと思います。又、中央と地方の賃金格差も中々縮まらない状態にあります。

ゆとりある社会に向けて速やかに是正して頂ければと思っています。

年金生活もどうなっていくのか不安です。増税も国民泣かせですよ。物価上昇、光熱費全て上がり、これからの人生の行方が心配です。何とかして頂きたいと思っています。

㊦「地域課題（経済、空き家、近隣関係）」に関すること

すごくバカな内容ですね。公務員が考えそうなバカなアンケートです。

空き家問題、施設に入りたくてもお金がない。ケアマネがバカばかりでこまる。

いい歳してパートな？介護しろってか！！

新宅に引っ越してまだ1年足らずですので、近所付き合いがありません。なかなか新しい気持ちでやるのは難しいと思います。

以前は役員でけっこう大変でしたので、このままあまり関わりたくないようにと思ってしまう。

郊外へ大型店舗が進出し、個人経営の商店が段々に閉店に追い込まれるのが、心苦しいです。駐車場の問題、交通網の問題、色々とあると思いますが、気軽に立ち寄れるお店の出店など、考えていただければなあと思います。

㊧「医療体制」に関すること

◎コロナ対策などで、医療(病院、医院)者の対応がとてもしびしく(言葉や態度)。

すごく具合が悪くて、来院しているにもかかわらず、門前払いするなどのことが、度々あったりで、高れいの家族が最近とても気分の悪い思いをしてばかりいます。

どうにか改善されるといいなと思います。

盛岡などの中心地では色々なイベントが活発ですが地方ではあまり活動場所がせまく交通の不便もあって、とにかく大きな会館の近くにすんでいる人達がうらやましいです。病院も心配する事ないし、地方はたよれる病院が少なく不安ばかりです。

㊨「ハラスメント」に関すること

6Pの生きがい、役割の場面について。

現在は夫婦2人生活、子供達も大人になり巣立ち、それぞれ家族を持っています。女性は毎日家事に追われ（少し楽になり）、子育ても終わり、ようやく自分の趣味や好きなことに打ち込めると思っていたら、主人のモラハラ。（束縛、自己中心、頑固、キレるなど…。）毎日顔色を伺いながらいつキレるか言葉を選びながらの生活。趣味での外出、友人との食事、全て管理され報告。

男性も高齢で色々活動している人もいますが、何にもしてない人もいます。

後々認知症になったり・・・何か機会や、与えること、行事があればいいと思います。本人次第もありますが・・・。

私のような女性はたくさんいます。生活の為どうすることも出来ませんが・・・。

体力的なことや親の世話などを考えると企業の思うようには働けないという状況となって来ました。楽をしたいと思っている理由ではないが、パートだからか、企業側の希望通りではないと感じる（働き具

合が) のか、もう 40 年以上税金を払ってきた人間に対しての扱いではない扱いをされます。「思いやり」なんて無いのです。

① その他

高齢者の車の運転、買い物のマナーがひどい。高齢者をまもる必要はない。子供や若者がくらしやすい環境を作してほしい。

政策を検討することは私でもできます。どういう政策を実施するのか明確にしてほしい。

意見ではありませんが、週 1 回百才体操はしております。趣味にも娯楽活動にもあたらないかなと思ひまして 14 は 1 ほとんどしていないに〇をつけました。

現在行っている取り組みの継続をして欲しい。

R3 年 12 月に子供が生まれ、生活に笑顔が増えました。子供に対する心情に関する項目や質問があれば良いのではと思いました。

このアンケートを機に妻子に「幸せ」か聞いたところ、2~3 の理由を挙げて「幸せだ」と答えてくれました。

さて、希望あつての「生きがい」です。バブル以前のように夫が働き、妻は家を守り、高齢者は近所の守り神でいられる社会がなぜ失われたのか。本当の原因が明らかになれば日本人は戦後の復興同様、また一致団結して生きがいのある社会を取り戻す事が出来ると思います。

なお、協力依頼文書中の「QOL」の意味が分かりませんでした。

これからの日本に期待できることは、あるのでしょうか？

少子化、高齢化、不景気、温暖化、コロナ感染爆発等、たくさん問題がありますが、どれも私たち人間が思っている様にその道を辿っているのではないかと感じます。結果が分かっているのにジリジリと歩んでいるような。昔から言われるように、結果が出てから慌てて対策するのではなく、元を正して私たちの理想の結果を現わしてほしいのです。基本が大事。根っこが大事。土台が大事。どこにお金を使うのか、何年もかけて、豊かな社会を作ってください。良い手本は側にあるかも知れません。対策ではなく根っこ作りにお金を使ってください。治療代にお金をかけるのではなく健康維持のためにお金を使う。薬代ではなく食費にお金を使う。皆がそういう意識になれば良いと思っています。

結婚をしなかった理由にはそれぞれ事情があり、「宜しくない事」として一概に論じるべきことではないと思う。

QOL の向上を実感できる場。

QOL とは何か？

中高年世代のパートナーさがしは、マッチングアプリがあるので、行政の支援は不要と思います。

死ぬのを待ってただ生きるのではなく、生きている間は人生を楽しみたいし、ささやかな行いでも社会貢献できたら幸せだなあ！と思います。

社会貢献という大げさな行為でなくても、誰か一人でも幸せな気持ち出来るような行動が出来ることを目標に、自分自身が健康で自立した生活が送れる様心がけたいものです。

Ⅲ 以下の分析の前提となるデータの処理

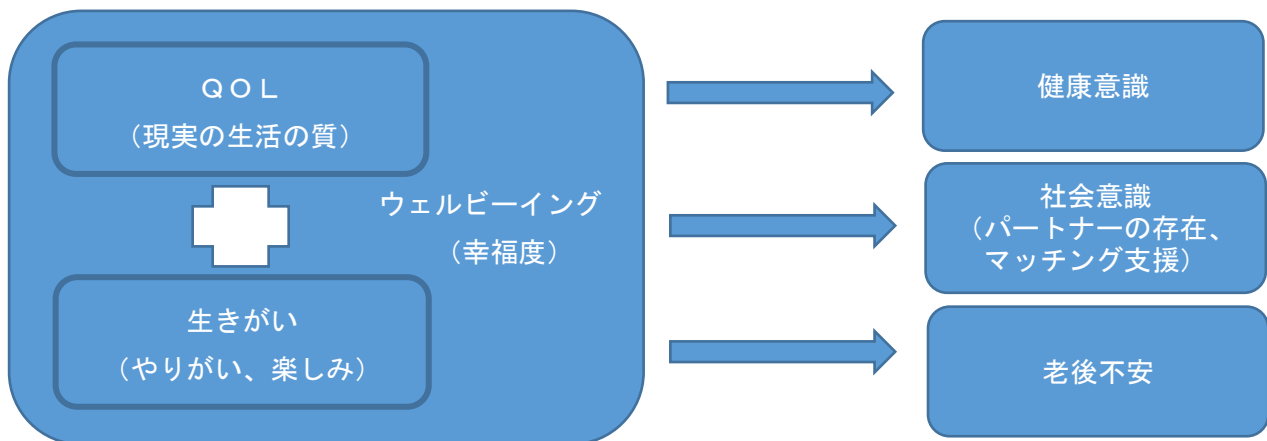
1. 分析に当たっての仮説の構造

(1) 仮説の構造

本調査で得られた回答データを分析するにあたり、以下のような「仮説の構造図」を作成した。いわゆる「QOL」(Quality of Life: 生活の質)が高く、「生きがい」を強く持っている人ほど、健康や意識、将来の生活など、様々な物事に対して前向きに取り組んだり思考したりできるのではないかと考えたからである。

こうした前提のもとに、「QOL」や「生きがい」を高めることが、徐々に高齢期へと移行する現在の中高年世代の今後の生活を豊か(幸福)にすることにつながるのではないかと考え、仮説を設定した。仮に、十分な分析結果が得られたとしても、その結果がすぐに実際の生活に反映できるとはいえないが、少なくとも、幸福な生活を阻害している要因が何なのかを明確にすることで、改善課題を見出すことができるのではないかと考える。

図 3-1-1 仮説の構造図



(2) 用語の定義

「QOL」については様々な指標があるが、本調査では調査対象者の主観的な評価をできるだけ排除し、客観的な事実(物理的な現実)に基づいて「QOL」の高低を導き出すことを目的に設問を設定している。これに対して、「生きがい」については、「生きがいの有無」という直接的な問いかけをせず、複数のある場面(内閣府調査の例を参照)における「心の充足感」の程度を5段階に設定し、多様な生活場面での出来事を総合的な「生きがい」の指標として用いることとする。さらに、QOLと生きがいの高低が「ウェルビーイング(幸福度)」となることを操作的に定義する。

表 3-1-1 調査項目と用語の定義との関係

QOL（生活の質）	生きがい	意識・不安
(1) 経済状況 (①配偶者の有無) ②住居 ③家計 ④貯蓄 (2) 健康状態 ①持病 ②身体機能 ③メンタルヘルス (3) 社会貢献活動 ①仕事 ②社会貢献活動 ③家事など (4) 教養・娯楽活動 ①教養 ②娯楽 ③趣味 (5) 社会関係（交流程度） ①家族・親族 ②友人・知人 ③ご近所づきあい	(1) 対人関係の喜び ①夫婦 ②同居家族 ③別居親族 ④ご近所 ⑤友人や知人 (2) 役割観 ①仕事で社会貢献 ②家族への貢献 ③家族からの感謝 ④社会奉仕 ⑤他人からの感謝 (3) 活動観 ①仕事に熱中 ②趣味に熱中 ③テレビ・ラジオ視聴 ④おいしい食事 ⑤教養活動	(1) 健康維持活動 ①食事 ②健診 ③睡眠 ④運動 ⑤心持ち (2) 社会意識 ①パートナーの必要性 ②マッチング支援の必要性 (3) 老後不安 ①不安の程度 ②不安の種類
ウェルビーイング（幸福度）		

（３）仮説

a) 「健康意識」（従属変数）に及ぼす影響

①基本属性の差異が「健康意識」に影響を及ぼす

性別や年齢、居住地域、就労状況、世帯構成など、回答者の基本属性が「健康意識」に影響を及ぼしているかを分析する。

②「QOL」の高低が「健康意識」に影響を及ぼす

「QOL」の高低が「健康意識」に影響を及ぼしているかを分析する。

③「生きがい」の有無が「健康意識」に影響を及ぼす

「生きがい」の有無が「健康意識」に影響を及ぼしているかを分析する。

④「ウェルビーイング」の差異が「健康意識」に影響を及ぼす

「ウェルビーイング」の差異が「健康意識」に影響を及ぼしているかを分析する。

b) 「社会意識（パートナーの存在、マッチング支援）」（従属変数）に及ぼす影響

①何が「社会意識（パートナーの存在）」に影響を及ぼすか？

「パートナーの存在」に対する「意識」については、回答者の置かれている立場（基本属性）だけでなく、「QOL」や「生きがい」など、様々な要因が影響を及ぼしているのではないかと考える。この設問については、特定の仮説を設定せず、基本属性や生活状況、生活意識などのうち、投入できる設問（「QOL」と「生きがい」に属する設問）を独立変数として投入し、「社会意識（パートナーの存在）」を従属変数に設定

し、重回帰分析により、何が「社会意識（パートナーの存在）」に影響を及ぼしているかを分析する。

⑥何が「社会意識（マッチング支援）」に影響を及ぼすか？

パートナーがいない人に対して、パートナーとの出会いの機会を支援する「マッチング支援」に対する「意識」についても、前項と同様に、回答者の置かれている立場（基本属性）だけでなく、「QOL」や「生きがい」など、様々な要因が影響を及ぼしているのではないかと考える。この設問についても、特定の仮説を設定せず、基本属性や生活状況、生活意識などのうち、投入できる設問（「QOL」と「生きがい」に属する設問）を独立変数として投入し、「社会意識（パートナーの存在）」を従属変数に設定し、重回帰分析により、何が「社会意識（マッチング支援）」に影響を及ぼしているかを分析する。

c)「老後不安」（従属変数）に及ぼす影響

①基本属性の差異が「老後不安」に影響を及ぼす

性別や年齢、居住地域、就労状況、世帯構成など、回答者の基本属性が「老後不安」に影響を及ぼしているかを分析する。

②「QOL」の高低が「老後不安」に影響を及ぼす

「QOL」の高低が「老後不安」に影響を及ぼしているかを分析する。

③「生きがい」の有無が「老後不安」に影響を及ぼす

「生きがい」の有無が「老後不安」に影響を及ぼしているかを分析する。

④「ウェルビーイング」の差異が「老後不安」に影響を及ぼす

「ウェルビーイング」の差異が「老後不安」に影響を及ぼしているかを分析する。

（４）分析結果の解釈

a) 単数回答の項目のクロス集計

単数回答の設問については、それぞれの選択肢の回答数（度数）を分子にし、回答者数を分母として割合（％）を算出すると、その割合を合計すると概ね 100％になる。クロス集計をした場合には、表側の独立変数が表頭の従属変数にどのような影響を与えているかを分析するため、横方向に合計して 100％になるように計算し、縦方向の割合（％）に違いがあるかを見ることになる。

本調査では、単数回答の設問で用いている選択肢が、「順序尺度」や「名義尺度」である。「順序尺度」は、並び順に意味がある尺度であるため、以下の表を例にすると、従属変数の a から d の順序が程度の違いを意味しているため、「a は大きく、d は小さい」といった順序があることで、その違いを分析する。また、「名義尺度」は、それぞれの選択肢に固有の意味があるため、並び順というよりも、個々の選択肢の間の違いを分析する。

なお、各表の下に示している「※有意差」については、「 χ^2 （カイ二乗）検定」のという検定結果を示したもので、独立変数が従属変数に与えた影響に有意な差が生じたかどうか（＝独立性）を確認するものである。また、「P」は有意確率を示したもので、数値が低くなるほど独立性が高いことを意味する。ただし、この結果は、本調査の回答者に限った結果であり、一般化できるものとはいえないことに留意が必要である。

表 3-1-2 単数回答の場合のクロス集計結果（サンプル）

			表頭(従属変数)				
			a	b	c	d	合計
表側(独立変数)	A	度数	80	60	40	20	200
		%	40%	30%	20%	10%	100.0%
	B	度数	50	50	50	50	200
		%	25%	25%	25%	25%	100.0%
	C	度数	20	40	60	80	200
		%	10%	20%	30%	40%	100.0%
	合計	度数	150	150	150	150	600
		%	25%	25%	25%	25%	100.0%

b) 複数回答の項目のクロス集計

複数回答の項目については、単数回答とは異なり、各選択肢の回答数が複数になる可能性があるため、それぞれの回答数（度数）の割合（%）をどのようにして計算するかは、分析方法によって異なる。本調査では、回答者総数を分母として、各選択肢の回答数（度数）を分子として割合（%）を計算することとする。クロス集計をした場合には、表側の独立変数が表頭の従属変数にどのような影響を与えているかを分析するが、横方向に合計して 100%にはならないため、縦方向の割合（%）に違いがあるかを見ることになる。その際、目安になるのが、表中の独立変数AからCの間の割合（%）の違いだけでなく、AからCの間の割合（%）が「合計」の割合（%）とどれくらい乖離しているかを見ることも大切になる。

本調査では、複数回答の設定で用いている選択肢が、「名義尺度」となっている。以下の表を例にすると、従属変数の a から d のそれぞれの選択肢に固有の意味があるため、並び順というよりも、個々の選択肢の間の違いを分析する。上記のとおり、独立変数（A～C）の違いには着目せず、「合計」との乖離が 10.0 ポイント以上ある場合にマーク（網掛け）をすることとする。

表 3-1-3 複数回答の場合のクロス集計結果（サンプル）

			表頭(従属変数)				
			a	b	c	d	合計
表側(独立変数)	A	度数	150	100	50	20	200
		%	75%	50%	25%	10%	—
	B	度数	100	50	150	40	200
		%	50%	25%	75%	20%	—
	C	度数	50	30	100	60	200
		%	25%	15%	50%	30%	—
	合計	度数	300	180	300	120	600
		%	50%	30%	50%	20%	—

c) その他の多変量解析

①主成分分析

主成分分析とは、多数のデータから少数の主成分として表す方法であり、データ(原因)から主成分(結果)が抽出される分析方法であり、観測されたいくつかの量的変数を合成して、データの持つ情報をよく説明できる新たな次元を探り出す手法である。ただ単純に複数の変数を足し合わせるのではなく、適切な重みをつけた上で足し合わせる点が特徴といえる。本調査の場合には、生活状況についての設問（問 3～問 18）に対して、回答者がそれぞれ異なるものと思って回答していても、結果的に同質のものとなっている場合に「主

成分」として抽出される（表 3-2-1 の網掛け箇所が主成分を構成している設問項目となる）。

主成分分析を用いる場面は、主に、総合評価をするための得点を求めたいときである。そのため、本調査においては、「QOL」の得点化に用いることとする。

⑥因子分析

因子分析は、複数の量的変数の裏に潜む共通する要因（直接測定できない要因）を、因子（潜在変数）として取り出す方法である。これにより、尺度の重み付けを行ったり、変数の中にどのような潜在構造が存在したりするかを探索的に調べるために用いる。そのため、本調査においては、「生きがい」の回答の中に潜在的に含まれている共通の因子（要因）を見つけ出し、その後の分析に用いることとする。

⑦コレスポネンズ分析

コレスポネンズ分析は、1つの属性が有する複数の要素のバランス（対応関係）を属性どうしで相対化して比較するものであり、その要素と属性を二次元の平面上に描画するという特徴がある。そのため、本調査においては、「社会意識（パートナーの存在の必要性、マッチング支援の必要性）」の分析にこの分析方法を用いることとし、「社会意識」への回答傾向が可視化されるよう試みる。

d)「その他」や「無回答」などの扱いについて

「その他」については、再分類が可能な回答については再分類を行い、再分類が不可能な回答については「その他」として集計したものの、分析の対象から除外することとする。また、「無回答」については、「欠損値」として扱い、分析の対象から除外することとする。

2. 分析に先立ってのデータの統合化等

（1）主成分分析による「QOL」の主成分の抽出と得点化

問 3 から問 18 までの回答結果を元に主成分分析¹⁾を行ったところ、表 3-2-1 のとおり、5 つの主成分が抽出された。網掛けした箇所の共通性を検討した結果、第 1 主成分には「生活安定度（経済的安定性と対人関係の安定性＝お金に余裕のある人が対人関係と心の健康を維持している）」、第 2 主成分には「自己研鑽度（自身のスキルや知識に磨きをかけることに時間を費やしている程度）」、第 3 主成分には「地域帰属度（地域との関わりの程度＝持家の人ほど地域との関わりが深い）」、第 4 主成分には「身体健康度（身体の状態の善し悪し）」、第 5 成分には「W&L バランス（ワーク・ライフ・バランス）度（仕事時間と生活時間のバランスの善し悪し）」とネーミングをした。

また、上記の 5 つの主成分について、それぞれ得点化²⁾を行った。さらに、その得点化した結果の標準偏差を元に、正規分布（平均値・最頻値・中央値が一致し、それを軸として左右対称となっている確率分布）となるように得点分布を分割した結果（得点群）が表 3-2-2 である。以下、クロス集計をする際にはこの結果を用いる。

¹⁾ 本調査の場合には、生活状況についての設問（問 3～問 18）に対して、回答者がそれぞれ異なるものと思って回答していても、結果的に同質のものとなっている場合に「主成分」として抽出される（表 3-2-1 の網掛け箇所が主成分を構成している設問項目となる）。つまり、この 5 つの主成分が、回答者の「QOL（生活の質）」の善し悪しを示していることになる。

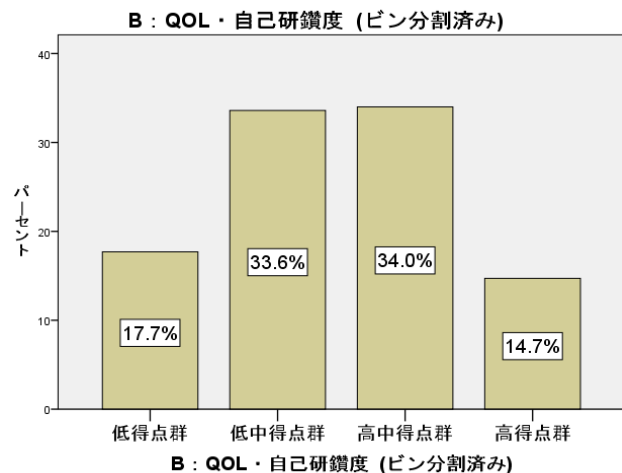
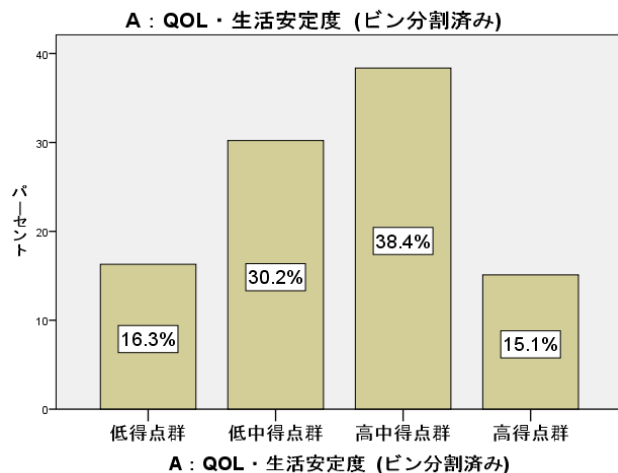
²⁾ 主成分分析には、その主成分が高いか低いかを示す得点を付与する機能があるため、「無回答」の項目がある場合には除外されるが、すべての項目に回答があった場合には、回答者一人ひとりに得点が付与される。ここでの「得点化」は、各回答者に付与された得点の高低を明確にするために、4 段階の「得点群」をつくり、分析に用いることにした。

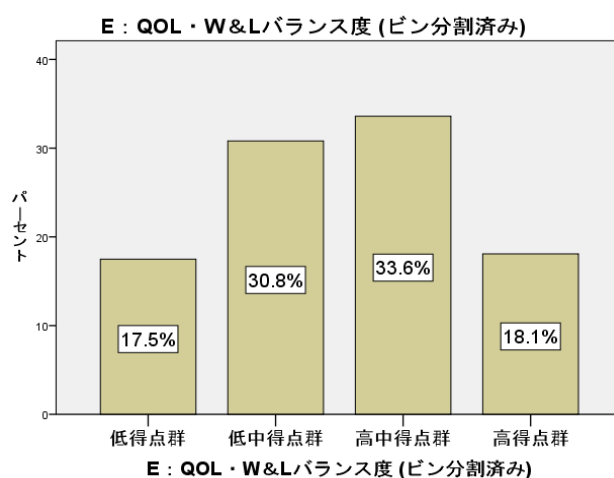
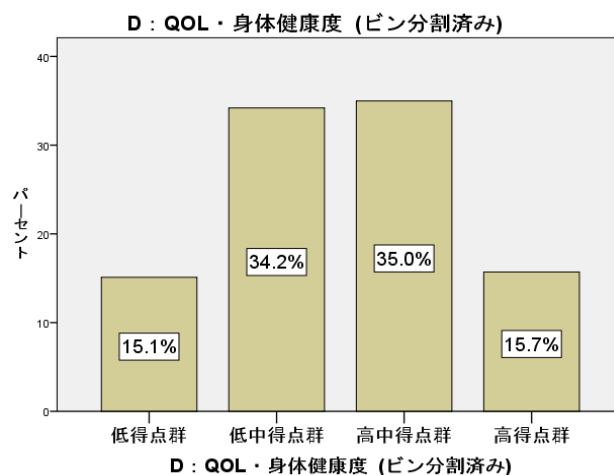
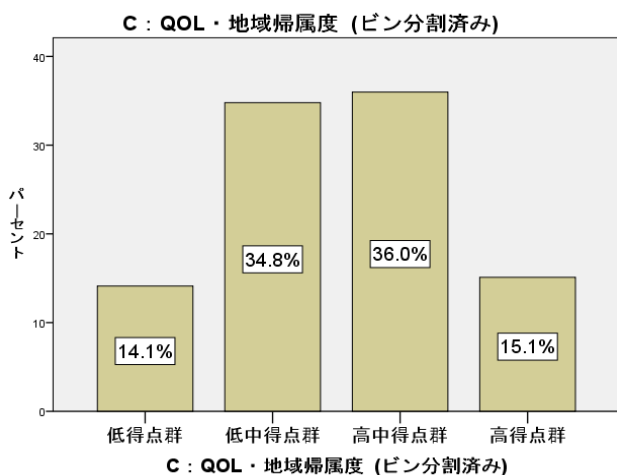
表 3-2-1 「QOL」に関する主成分分析結果

変数	第1主成分	第2主成分	第3主成分	第4主成分	第5主成分
	A: QOL・生活安定度	B: QOL・自己研鑽度	C: QOL・地域帰属度	D: QOL・身体健康度	E: QOL・W&L バランス度
問 5 暮らし向き	0.686	-0.192	-0.359	-0.346	
問 6 貯蓄	0.606	-0.139	-0.336	-0.500	0.169
問 17 友人関係	0.568		0.295	0.383	-0.117
問 9 心の状態	0.567	-0.187	-0.131	0.113	0.104
問 16 親族関係	0.550	-0.172	0.157	0.155	-0.114
問 3 婚姻関係	0.328	-0.320	0.174	-0.194	
問 15 個人的な趣味	0.332	0.601	-0.387		-0.181
問 13 教養活動	0.415	0.569	-0.269		-0.225
問 14 趣味・娯楽	0.431	0.536		0.217	
問 18 近隣関係	0.503		0.583		
問 11 地域活動等	0.362	0.197	0.441		
問 4 居住形態	0.398		0.437	-0.410	0.223
問 8 身体機能	0.410	-0.291	-0.265	0.425	0.230
問 7 通院	0.209	-0.327	-0.222	0.379	0.293
問 12 家事		0.333		0.348	0.690
問 10 就業時間	0.165	-0.440		0.326	-0.560
固有値	3.142	1.736	1.477	1.370	1.150
寄与率	19.639	10.849	9.230	8.562	7.189
累積寄与率	19.639	30.488	39.718	48.280	55.469

表 3-2-2 「QOL」に関する主成分得点群の単純集計結果

		低得点群	低中得点群	高中得点群	高得点群	合計	無回答	合計
A: QOL・生活安定度	度数	82	152	193	76	503	27	530
	%	15.5	28.7	36.4	14.3	94.9	5.1	100.0
	有効%	16.3	30.2	38.4	15.1	100.0	-	-
B: QOL・自己研鑽度	度数	89	169	171	74	503	27	530
	%	16.8	31.9	32.3	14.0	94.9	5.1	100.0
	有効%	17.7	33.6	34.0	14.7	100.0	-	-
C: QOL・地域帰属度	度数	71	175	181	76	503	27	530
	%	13.4	33.0	34.2	14.3	94.9	5.1	100.0
	有効%	14.1	34.8	36.0	15.1	100.0	-	-
D: QOL・身体健康度	度数	76	172	176	79	503	27	530
	%	14.3	32.5	33.2	14.9	94.9	5.1	100.0
	有効%	15.1	34.2	35.0	15.7	100.0	-	-
E: QOL・W&L バランス度	度数	88	155	169	91	503	27	530
	%	16.6	29.2	31.9	17.2	94.9	5.1	100.0
	有効%	17.5	30.8	33.6	18.1	100.0	-	-





(2) 因子分析による「生きがい」の分類

問 19 (1) ～ (5)、問 20 (1) ～ (5)、問 21 (1) ～ (5) の回答結果を元に因子分析³⁾を行ったところ、表 3-2-3 のとおり、3 つの因子が抽出された。網掛けした箇所の共通性を検討した結果、第 1 因子には「他者からの評価」、第 2 因子には「家族との関係」、第 3 因子には「自己満足 (ささやかな楽しみ)」とネーミングをした。

また、上記の 3 つの因子について、それぞれ得点化を行った。さらに、その得点化⁴⁾した結果の標準偏差を元に、正規分布 (平均値・最頻値・中央値が一致し、それを軸として左右対称となっている確率分布) となるように得点分布を分割した結果が表 3-2-4 である。以下、クロス集計をする際にはこの結果を用いる。

³⁾ 本調査の場合には、「生きがい」についての設問 (問 19～問 21) に対して、回答者がそれぞれ異なるものと思って回答していても、結果的に同質のものとなっている場合に共通の「因子」として抽出される (表 3-2-3 の網掛け箇所が因子を構成している設問項目となる)。つまり、この 3 つの因子が、回答者の「生きがい」の要素になっており、その高低が「生きる励みになっているかどうか」を示していることになる。

⁴⁾ 因子分析には、その因子が高いか低いかを示す得点を付与する機能があるため、「無回答」の項目がある場合には除外されるが、すべての項目に回答があった場合には、回答者一人ひとりに得点が付与される。ここでの「得点化」は、各回答者に付与された得点の高低を明確にするために、4 段階の「得点群」をつくり、分析に用いることにした。

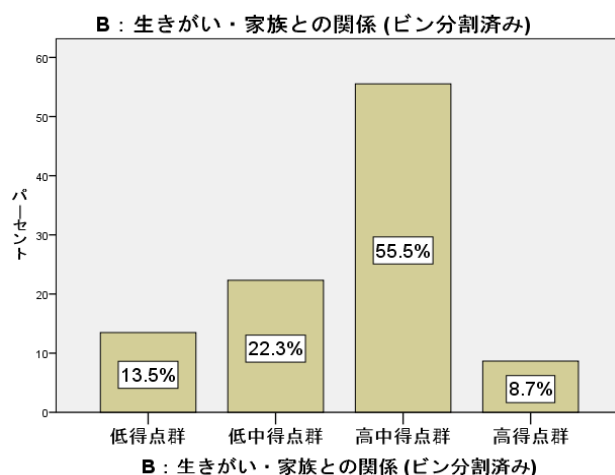
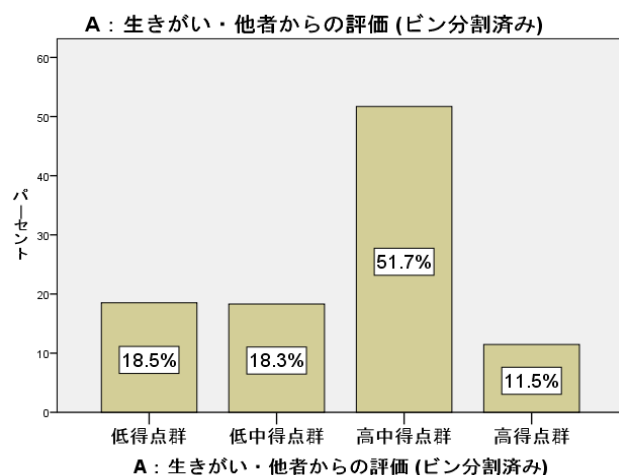
表 3-2-3 「生きがい」に関する因子分析結果

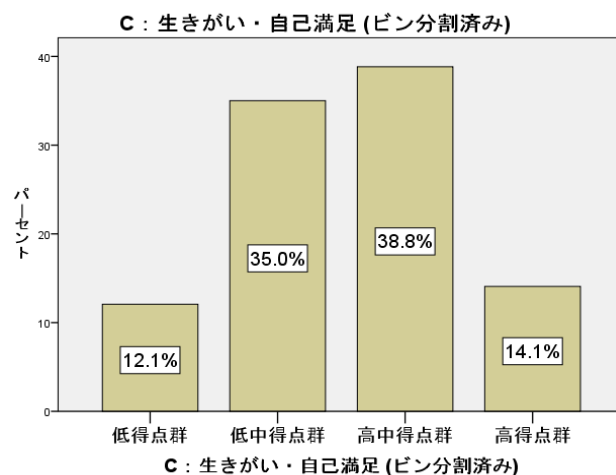
	第1因子 他者からの 評価	第2因子 家族との 関係	第3因子 自己満足	共通性
問 20 [(1)]社会のために働いている	0.794	0.233		0.687
問 20 [(4)]社会奉仕	0.666	0.235		0.509
問 20 [(5)]他人からの感謝	0.636	0.262	0.301	0.565
問 19 [(5)]友人等との交流	0.562		0.351	0.441
問 21(1)[生きがい]仕事に打ち込んでいる時	0.536	0.190	0.119	0.338
問 21(5)[生きがい]勉強や教養などに身を入れている時	0.460	0.161	0.317	0.338
問 21(2)[生きがい]趣味やスポーツに熱中している時	0.411	0.154	0.386	0.341
問 19 [(4)]ご近所との交流	0.404	0.177	0.316	0.295
問 20 [(2)]家族を支えている	0.285	0.810	0.169	0.766
問 20 [(3)]家族からの感謝	0.204	0.796	0.283	0.755
問 19 [(1)]夫婦団らん	0.139	0.619		0.403
問 19 [(2)]家族団らん	0.155	0.555	0.135	0.350
問 19 [(3)]非同居親族との団らん	0.292	0.360	0.311	0.312
問 21(3)[生きがい]テレビやラジオを視聴している時	0.119	0.111	0.675	0.482
問 21(4)[生きがい]おいしい物を食べている時	0.216	0.170	0.658	0.508
因子寄与	2.939	2.449	1.701	7.089
寄与率(%)	19.592	35.922	47.259	47.259

注：因子抽出法：主因子法、バリマックス回転法による。

表 3-2-4 「生きがい」に関する因子得点群の単純集計結果

		低得点群	低中得点群	高中得点群	高得点群	合計	無回答	合計
A: 生きがい・ 他者からの評価	度数	92	91	257	57	497	33	530
	%	17.4	17.2	48.5	10.8	93.8	6.2	100.0
	有効%	18.5	18.3	51.7	11.5	100.0	—	—
B: 生きがい・ 家族との関係	度数	67	111	276	43	497	33	530
	%	12.6	20.9	52.1	8.1	93.8	6.2	100.0
	有効%	13.5	22.3	55.5	8.7	100.0	—	—
C: 生きがい・ 自己満足	度数	60	174	193	70	497	33	530
	%	11.3	32.8	36.4	13.2	93.8	6.2	100.0
	有効%	12.1	35.0	38.8	14.1	100.0	—	—



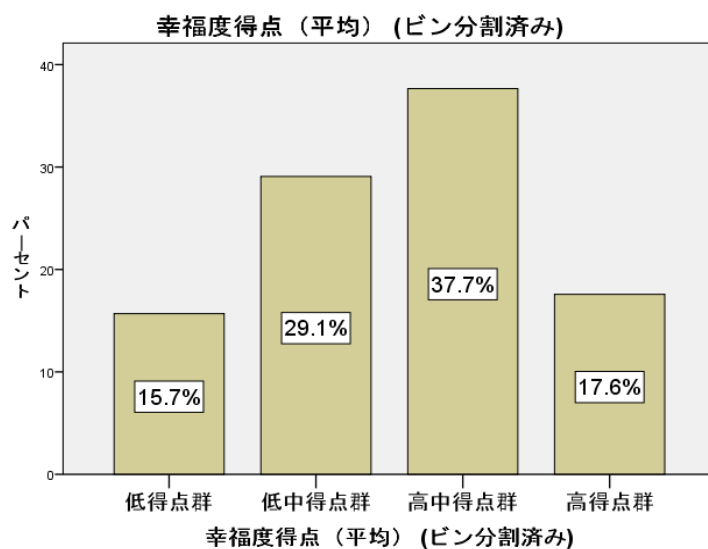


(3) 「QOL」得点と「生きがい」得点の統合による「幸福度得点群」の作成

「QOL」に関する主成分得点と「生きがい」に関する因子得点とをすべて含めた平均値を集計し、これを「幸福度得点」とした。また、「幸福度得点」の標準偏差を元に、正規分布（平均値・最頻値・中央値が一致し、それを軸として左右対称となっている確率分布）となるように得点分布を分割した結果が表 3-2-5 である。以下、クロス集計をする際にはこの結果を用いる。

表 3-2-5 「幸福度」に関する得点群の単純集計結果

	度数	%	有効%
低得点群	75	14.2	15.7
低中得点群	139	26.2	29.1
高中得点群	180	34.0	37.7
高得点群	84	15.8	17.6
合計	478	90.2	100.0
無回答	52	9.8	—
合計	530	100.0	—



Ⅳ 「QOL」・「生きがい」・「幸福度」に関する分析結果

1. 「QOL」について

(1) 性別によるクロス集計結果

表 4-1-1 をみると、性別と「QOL」得点群との間で有意な差がみられたのは、「D：QOL・身体健康度」と「E：QOL・W&L（ワーク&ライフ）バランス度」である。

①性別と「D：QOL・身体健康度」との関係では、「男性」よりも「女性」の方が、健康度が相対的に高くなっている（男性よりも女性の方が、健康状態が良い）ことがわかる。

②性別と「E：QOL・W&L バランス度」との関係では、「男性」よりも「女性」の方が、ワーク&ライフ・バランス（仕事と生活時間のバランス）度が相対的に高くなっている（男性よりも女性の方が仕事と生活の時間のバランスが良い）ことがわかる。

表 4-1-1 性別と「QOL」得点群とのクロス集計結果

		A:QOL・生活安定度（ビン分割済み）				合計
		低得点群	低中得点群	高中得点群	高得点群	
問 1-①性別	男性	39 16.8%	65 28.0%	86 37.1%	42 18.1%	232 100.0%
	女性	43 16.0%	85 31.6%	107 39.8%	34 12.6%	269 100.0%
合計		82 16.4%	150 29.9%	193 38.5%	76 15.2%	501 100.0%

※有意差(因果関係)なし

		B:QOL・自己研鑽度（ビン分割済み）				合計
		低得点群	低中得点群	高中得点群	高得点群	
問 1-①性別	男性	43 18.5%	89 38.4%	70 30.2%	30 12.9%	232 100.0%
	女性	46 17.1%	79 29.4%	100 37.2%	44 16.4%	269 100.0%
合計		89 17.8%	168 33.5%	170 33.9%	74 14.8%	501 100.0%

※有意差(因果関係)なし

		C:QOL・地域帰属度（ビン分割済み）				合計
		低得点群	低中得点群	高中得点群	高得点群	
問 1-①性別	男性	37 15.9%	80 34.5%	85 36.6%	30 12.9%	232 100.0%
	女性	33 12.3%	95 35.3%	95 35.3%	46 17.1%	269 100.0%
合計		70 14.0%	175 34.9%	180 35.9%	76 15.2%	501 100.0%

※有意差(因果関係)なし

		D:QOL・身体健康度（ビン分割済み）				合計
		低得点群	低中得点群	高中得点群	高得点群	
問 1-①性別	男性	51 22.0%	79 34.1%	80 34.5%	22 9.5%	232 100.0%
	女性	25 9.3%	92 34.2%	96 35.7%	56 20.8%	269 100.0%
合計		76 15.2%	171 34.1%	176 35.1%	78 15.6%	501 100.0%

※有意差(因果関係)あり(P<0.01)

		E:QOL・W&L バランス度（ビン分割済み）				合計
		低得点群	低中得点群	高中得点群	高得点群	
問 1-①性別	男性	72 31.0%	88 37.9%	50 21.6%	22 9.5%	232 100.0%
	女性	15 5.6%	67 24.9%	119 44.2%	68 25.3%	269 100.0%
合計		87 17.4%	155 30.9%	169 33.7%	90 18.0%	501 100.0%

※有意差(因果関係)あり(P<0.01)

(2) 年齢階級によるクロス集計結果

表 4-1-2 をみると、年齢階級と「QOL」得点群との間で有意な差がみられたのは、「C：QOL・地域帰属度」と「D：QOL・身体健康度」、「E：QOL・W&L（ワーク&ライフ）バランス度」である。

- ①年齢階級と「C：QOL・地域帰属度」との関係では、年齢階級が高くなるほど「C：QOL・地域帰属度」が高くなり、逆に、年齢階級が低くなるほど「C：QOL・地域帰属度」が低くなる傾向にある（年齢階級が低い人よりも年齢階級が高い人の方が地域との関係性が密接である）ことがわかる。
- ②年齢階級と「D：QOL・身体健康度」との関係では、年齢階級が高くなるほど「D：QOL・身体健康度」が低くなり、逆に、年齢階級が低くなるほど「D：QOL・身体健康度」が高くなる傾向にある（年齢階級が高い人よりも年齢階級が低い人の方が、健康状態が良い）ことがわかる。
- ③年齢階級と「E：QOL・W&L バランス度」との関係では、年齢階級が高くなるほど「E：QOL・W&L バランス度」が高くなり、逆に、年齢階級が低くなるほど「E：QOL・ワーク&ライフ・バランス度」が低くなる傾向にある（年齢階級が低い人よりも年齢階級が高い人の方が、仕事と生活の時間のバランスが良い）ことがわかる。

表 4-1-2 年齢階級と「QOL」得点群とのクロス集計結果

		A: QOL・生活安定度（ビン分割済み）				合計
		低得点群	低中得点群	高中得点群	高得点群	
問 1-②a 年齢	54 歳未満	19	31	43	9	102
		18.6%	30.4%	42.2%	8.8%	100.0%
	55～59 歳	19	37	47	17	120
		15.8%	30.8%	39.2%	14.2%	100.0%
	60～64 歳	28	43	40	27	138
		20.3%	31.2%	29.0%	19.6%	100.0%
	65 歳以上	16	41	63	23	143
		11.2%	28.7%	44.1%	16.1%	100.0%
合計		82	152	193	76	503
		16.3%	30.2%	38.4%	15.1%	100.0%

※有意差(因果関係)なし

		B: QOL・自己研鑽度 (ビン分割済み)				合計
		低得点群	低中得点群	高中得点群	高得点群	
問 1-②a 年齢	54 歳未満	25	32	31	14	102
		24.5%	31.4%	30.4%	13.7%	100.0%
	55～59 歳	22	47	38	13	120
		18.3%	39.2%	31.7%	10.8%	100.0%
	60～64 歳	26	43	50	19	138
		18.8%	31.2%	36.2%	13.8%	100.0%
	65 歳以上	16	47	52	28	143
		11.2%	32.9%	36.4%	19.6%	100.0%
合計		89	169	171	74	503
		17.7%	33.6%	34.0%	14.7%	100.0%

※有意差(因果関係)なし

		C:QOL・地域帰属度 (ピン分割済み)				合計
		低得点群	低中得点群	高中得点群	高得点群	
問 1-②a 年齢	54 歳未満	21	36	34	11	102
		20.6%	35.3%	33.3%	10.8%	100.0%
	55～59 歳	22	43	38	17	120
		18.3%	35.8%	31.7%	14.2%	100.0%
	60～64 歳	18	57	45	18	138
		13.0%	41.3%	32.6%	13.0%	100.0%
	65 歳以上	10	39	64	30	143
		7.0%	27.3%	44.8%	21.0%	100.0%
合計		71	175	181	76	503
		14.1%	34.8%	36.0%	15.1%	100.0%

※有意差(因果関係)あり(P<0.01)

		D:QOL・身体健康度 (ビン分割済み)				合計
		低得点群	低中得点群	高中得点群	高得点群	
問 1-②a 年齢	54 歳未満	9	27	45	21	102
		8.8%	26.5%	44.1%	20.6%	100.0%
	55～59 歳	13	37	45	25	120
		10.8%	30.8%	37.5%	20.8%	100.0%
	60～64 歳	18	42	53	25	138
		13.0%	30.4%	38.4%	18.1%	100.0%
	65 歳以上	36	66	33	8	143
		25.2%	46.2%	23.1%	5.6%	100.0%
合計		76	172	176	79	503
		15.1%	34.2%	35.0%	15.7%	100.0%

※有意差(因果関係)あり(P<0.01)

		E:QOL・W&L バランス度 (ビン分割済み)				合計
		低得点群	低中得点群	高中得点群	高得点群	
問 1-②a 年齢	54 歳未満	27	39	25	11	102
		26.5%	38.2%	24.5%	10.8%	100.0%
	55～59 歳	20	45	46	9	120
		16.7%	37.5%	38.3%	7.5%	100.0%
	60～64 歳	21	36	50	31	138
		15.2%	26.1%	36.2%	22.5%	100.0%
	65 歳以上	20	35	48	40	143
		14.0%	24.5%	33.6%	28.0%	100.0%
合計		88	155	169	91	503
		17.5%	30.8%	33.6%	18.1%	100.0%

※有意差(因果関係)あり(P<0.01)

(3) 居住地域によるクロス集計結果

表 4-1-3 をみると、居住地域と「QOL」得点群との間で有意な差がみられたのは、「C:QOL・地域帰属度」のみである。

- ①居住地域と「C:QOL・地域帰属度」との関係では、「一関市」と「久慈市」の「C:QOL・地域帰属度」が相対的に高くなり、逆に、「盛岡市」と「宮古市」の「C:QOL・地域帰属度」が相対的に低くなる傾向にあること（「盛岡市」と「宮古市」に比べると、「一関市」と「久慈市」の方が地域との関係性が密接である）がわかる。

表 4-1-3 居住地域と「QOL」得点群とのクロス集計結果

		A:QOL・生活安定度 (ビン分割済み)				合計
		低得点群	低中得点群	高中得点群	高得点群	
問 1-③地域	盛岡市	25	39	73	25	162
		15.4%	24.1%	45.1%	15.4%	100.0%
	一関市	18	31	42	13	104
		17.3%	29.8%	40.4%	12.5%	100.0%
	宮古市	14	40	37	17	108
		13.0%	37.0%	34.3%	15.7%	100.0%
	久慈市	25	41	34	19	119
		21.0%	34.5%	28.6%	16.0%	100.0%
	その他	0	1	2	2	5
		0.0%	20.0%	40.0%	40.0%	100.0%
合計		82	152	188	76	498
		16.5%	30.5%	37.8%	15.3%	100.0%

※有意差(因果関係)なし

		B:QOL・自己研鑽度 (ビン分割済み)				合計
		低得点群	低中得点群	高中得点群	高得点群	
問 1-③地域	盛岡市	34	45	53	30	162
		21.0%	27.8%	32.7%	18.5%	100.0%
	一関市	20	41	30	13	104
		19.2%	39.4%	28.8%	12.5%	100.0%
	宮古市	17	37	36	18	108
		15.7%	34.3%	33.3%	16.7%	100.0%
	久慈市	15	42	49	13	119
		12.6%	35.3%	41.2%	10.9%	100.0%
	その他	1	2	2	0	5
		20.0%	40.0%	40.0%	0.0%	100.0%
合計		87	167	170	74	498
		17.5%	33.5%	34.1%	14.9%	100.0%

※有意差(因果関係)なし

		C:QOL・地域帰属度 (ビン分割済み)				合計
		低得点群	低中得点群	高中得点群	高得点群	
問 1-③地域	盛岡市	30 18.5%	65 40.1%	56 34.6%	11 6.8%	162 100.0%
	一関市	5 4.8%	29 27.9%	47 45.2%	23 22.1%	104 100.0%
	宮古市	14 13.0%	38 35.2%	30 27.8%	26 24.1%	108 100.0%
	久慈市	19 16.0%	40 33.6%	45 37.8%	15 12.6%	119 100.0%
	その他	3 60.0%	1 20.0%	1 20.0%	0 0.0%	5 100.0%
	合計	71 14.3%	173 34.7%	179 35.9%	75 15.1%	498 100.0%

※有意差(因果関係)あり(P<0.01)

		D:QOL・身体健康度 (ビン分割済み)				合計
		低得点群	低中得点群	高中得点群	高得点群	
問 1-③地域	盛岡市	29 17.9%	57 35.2%	58 35.8%	18 11.1%	162 100.0%
	一関市	18 17.3%	38 36.5%	31 29.8%	17 16.3%	104 100.0%
	宮古市	11 10.2%	41 38.0%	38 35.2%	18 16.7%	108 100.0%
	久慈市	17 14.3%	33 27.7%	46 38.7%	23 19.3%	119 100.0%
	その他	1 20.0%	1 20.0%	2 40.0%	1 20.0%	5 100.0%
	合計	76 15.3%	170 34.1%	175 35.1%	77 15.5%	498 100.0%

※有意差(因果関係)なし

		E:QOL・W&L バランス度 (ビン分割済み)				合計
		低得点群	低中得点群	高中得点群	高得点群	
問 1-③地域	盛岡市	27 16.7%	49 30.2%	49 30.2%	37 22.8%	162 100.0%
	一関市	19 18.3%	28 26.9%	42 40.4%	15 14.4%	104 100.0%
	宮古市	17 15.7%	32 29.6%	40 37.0%	19 17.6%	108 100.0%
	久慈市	24 20.2%	43 36.1%	33 27.7%	19 16.0%	119 100.0%
	その他	0 0.0%	3 60.0%	1 20.0%	1 20.0%	5 100.0%
	合計	87 17.5%	155 31.1%	165 33.1%	91 18.3%	498 100.0%

※有意差(因果関係)なし

(4) 就労状況によるクロス集計結果

表 4-1-4 をみると、就労状況と「QOL」得点群との間では、すべて有意な差がみられた。

①就労状況と「A:QOL・生活安定度」の関係では、「正規職員・会社役員等」と「非正規・非常勤」と「自営業」の「A:QOL・生活安定度」が相対的に高く、逆に、「契約社員・派遣社員」と「無職」の「A:QOL・生活安定度」が相対的に低くなる傾向にある(不安定な仕事に就いている人や無職の人よりも、安定した仕事に就いている人(非正規・非常勤は家計補助的か?)の方が、生活が安定している)ことがわかる。

②就労状況と「B:QOL・自己研鑽度」の関係では、「有職」よりも「無職」の方が、相対的に「B:QOL・自己研鑽度」が高くなる傾向にあることがわかる。また、「有職」の場合でも、就業時間の長さが関係していると考えられるが、「正規職員・会社役員等」や「自営業」の場合には「B:QOL・自己研鑽度」が相対的に低く、「契約社員・派遣社員」や「非正規・非常勤」の場合には「B:QOL・自己研鑽度」が相対的に高くなる傾向にあることがわかる。(就業時間の長い人に比べると、就業時間の短い人(無職も含む)の方が趣味や教養・娯楽に充てる時間が長いことがわかる。)

③就労状況と「C:QOL・地域帰属度」の関係では、就業時間の長さが関係していると考えられるが、「正規職員・会社役員等」や「自営業」の場合には「C:QOL・地域帰属度」が相対的に低く、「契約社員・派遣社員」や「非正規・非常勤」、「無職」の場合には「C:QOL・地域帰属度」が相対的に高くなる傾向

にある（就業時間が長い人に比べると、就業時間が短い人の方が、地域との関係性が密接である）ことがわかる。

④就労状況と「D：QOL・身体健康度」との関係では、「正規職員・会社役員等」や「契約社員・派遣社員」、「非正規・非常勤」など被用者の場合には「D：QOL・身体健康度」が相対的に高く、「自営業」や「無職」の場合には「D：QOL・身体健康度」が低くなる傾向にある（自営業や無職の人に比べると、雇用されて働いている人の方が、健康状態が良い（年齢が関係か？））ことがわかる。

⑤就労状況と「E：QOL・W&L（ワーク&ライフ）バランス度」との関係では、「有職」よりも「無職」の方が、相対的に「E：QOL・W&L バランス度」が高くなる傾向にあることがわかる。また、「有職」の場合でも、「契約社員・派遣社員」の「E：QOL・W&L バランス度」が極端に低くなる傾向があり、就業時間が長いであろう「正規職員・会社役員等」や「自営業」の「E：QOL・W&L バランス度」も相対的に低くなる傾向がみられ、「非正規・非常勤」の「E：QOL・W&L バランス度」が相対的に高くなる傾向にあることがわかる。（働いている人よりも働いていない人の方が仕事と生活の時間のバランスが良く、働いている人の中でも、「契約社員・派遣社員」のように生計維持を担っていると考えられる非正規雇用で働いている人の仕事と生活の時間のバランスが悪い。）

表 4-1-4 就労状況と「QOL」得点群とのクロス集計結果

		A:QOL・生活安定度（ビン分割済み）				合計
		低得点群	低中得点群	高中得点群	高得点群	
問 1-④ 就労状況	正規職員・会社役員等	17 9.8%	58 33.5%	70 40.5%	28 16.2%	173 100.0%
	契約社員・派遣社員	4 15.4%	9 34.6%	7 26.9%	6 23.1%	26 100.0%
	非正規・非常勤	17 16.5%	31 30.1%	46 44.7%	9 8.7%	103 100.0%
	自営業	7 13.0%	12 22.2%	21 38.9%	14 25.9%	54 100.0%
	無職	35 24.5%	42 29.4%	48 33.6%	18 12.6%	143 100.0%
	その他	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 50.0%	2 100.0%
合計		81 16.2%	152 30.3%	192 38.3%	76 15.2%	501 100.0%

※やや有意差(因果関係)あり(P<0.05)

		B:QOL・自己研鑽度（ビン分割済み）				合計
		低得点群	低中得点群	高中得点群	高得点群	
問 1-④ 就労状況	正規職員・会社役員等	43 24.9%	68 39.3%	52 30.1%	10 5.8%	173 100.0%
	契約社員・派遣社員	3 11.5%	13 50.0%	9 34.6%	1 3.8%	26 100.0%
	非正規・非常勤	22 21.4%	39 37.9%	30 29.1%	12 11.7%	103 100.0%
	自営業	14 25.9%	18 33.3%	16 29.6%	6 11.1%	54 100.0%
	無職	7 4.9%	30 21.0%	61 42.7%	45 31.5%	143 100.0%
	その他	0 0.0%	0 0.0%	2 100.0%	0 0.0%	2 100.0%
合計		89 17.8%	168 33.5%	170 33.9%	74 14.8%	501 100.0%

※有意差(因果関係)あり(P<0.01)

		C: QOL・地域帰属度 (ビン分割済み)				合計
		低得点群	低中得点群	高中得点群	高得点群	
問 1-④就労状況	正規職員・会社役員等	34 19.7%	67 38.7%	59 34.1%	13 7.5%	173 100.0%
	契約社員・派遣社員	3 11.5%	8 30.8%	13 50.0%	2 7.7%	26 100.0%
	非正規・非常勤	6 5.8%	33 32.0%	40 38.8%	24 23.3%	103 100.0%
	自営業	5 9.3%	21 38.9%	18 33.3%	10 18.5%	54 100.0%
	無職	23 16.1%	44 30.8%	49 34.3%	27 18.9%	143 100.0%
	その他	0 0.0%	2 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 100.0%
	合計	71 14.2%	175 34.9%	179 35.7%	76 15.2%	501 100.0%

※有意差(因果関係)あり(P<0.01)

		D: QOL・身体健康度 (ビン分割済み)				合計
		低得点群	低中得点群	高中得点群	高得点群	
問 1-④就労状況	正規職員・会社役員等	23 13.3%	55 31.8%	62 35.8%	33 19.1%	173 100.0%
	契約社員・派遣社員	1 3.8%	8 30.8%	10 38.5%	7 26.9%	26 100.0%
	非正規・非常勤	5 4.9%	26 25.2%	46 44.7%	26 25.2%	103 100.0%
	自営業	8 14.8%	24 44.4%	18 33.3%	4 7.4%	54 100.0%
	無職	39 27.3%	58 40.6%	38 26.6%	8 5.6%	143 100.0%
	その他	0 0.0%	1 50.0%	1 50.0%	0 0.0%	2 100.0%
	合計	76 15.2%	172 34.3%	175 34.9%	78 15.6%	501 100.0%

※有意差(因果関係)あり(P<0.01)

		E: QOL・W&L バランス度 (ビン分割済み)				合計
		低得点群	低中得点群	高中得点群	高得点群	
問 1-④就労状況	正規職員・会社役員等	47 27.2%	70 40.5%	53 30.6%	3 1.7%	173 100.0%
	契約社員・派遣社員	9 34.6%	9 34.6%	7 26.9%	1 3.8%	26 100.0%
	非正規・非常勤	14 13.6%	33 32.0%	41 39.8%	15 14.6%	103 100.0%
	自営業	13 24.1%	21 38.9%	16 29.6%	4 7.4%	54 100.0%
	無職	5 3.5%	20 14.0%	51 35.7%	67 46.9%	143 100.0%
	その他	0 0.0%	1 50.0%	0 0.0%	1 50.0%	2 100.0%
	合計	88 17.6%	154 30.7%	168 33.5%	91 18.2%	501 100.0%

※有意差(因果関係)あり(P<0.01)

(5) 世帯類型によるクロス集計結果

表 4-1-5 をみると、世帯類型と「QOL」得点群との間では、「E: QOL・W&L (ワーク&ライフ) バランス度」以外の項目で有意な差がみられた。

①世帯類型と「A: QOL・生活安定度」の関係では、世帯規模の大小が関係していると考えられるが、「一人暮らし」の「A: QOL・生活安定度」が相対的に低く、「親子2世代」や「3世代以上同居」の「A: QOL・生活安定度」が相対的に高くなる傾向にあることがわかる。ただし、「子」や「孫」が含まれ、若年者が含まれると考えられる世帯類型で「A: QOL・生活安定度」がやや低くなる傾向がみられる。(人数の少ない世帯に比べると、人数の多い世帯の方が、生活が安定しているが、世帯の中に若年者が含まれている場合には、やや生活の安定度が低下する。)

②世帯類型と「B: QOL・自己研鑽度」の関係では、世帯規模の大小が関係していると考えられるが、「一人暮らし」の「B: QOL・自己研鑽度」が相対的に高く、「親子2世代」や「3世代以上同居」の「B: QOL・自己研鑽度」が相対的に低くなる傾向にあることがわかる。ただし、「親」などが含まれ、高齢者が含

まれると考えられる世帯類型で「B：QOL・自己研鑽度」がやや低くなる傾向がみられる。（人数の多い世帯に比べると、人数の少ない世帯の方が、趣味や教養・娯楽に充てる時間が長くなっているが、高齢の親が同居している世帯では、趣味や教養・娯楽に充てる時間がやや短くなっている。）

③世帯類型と「C：QOL・地域帰属度」の関係では、世帯規模の大小が関係していると考えられるが、「一人暮らし」の「C：QOL・地域帰属度」が相対的に低く、「親子2世代」や「3世代以上同居」の「C：QOL・地域帰属度」が相対的に高くなる傾向にあることがわかる。ただし、「3世代以上同居（子・孫と同居）」では、「C：QOL・地域帰属度」がやや低くなる傾向がみられる。（人数の少ない世帯に比べると、人数の多い世帯の方が、地域との関係性が密接であるが、世帯の中に若年者が含まれている場合には、地域との関係性がやや希薄になる。）

④世帯類型と「D：QOL・身体健康度」との関係では、回答者の世帯内における立ち位置が関係していると考えられるが、「一人暮らし」はもちろん、「親子2世代（子と同居）」や「親子2世代（親と同居）」、「3世代以上同居（親・子と同居）」の場合は、世帯内において担い手の中心になっている可能性が高いため、「D：QOL・身体健康度」が相対的に高くなっている可能性がある。逆に、「夫婦のみ」や「3世代以上同居（子・孫と同居）」の場合は、リタイヤした存在になっている可能性が高いため、「D：QOL・身体健康度」が相対的に低くなる傾向にある可能性がある。（世帯類型というよりも、回答者の世帯内における立ち位置が関係しており、リタイヤした人よりも現役で世帯の担い手になっている人の方が、健康状態が良い。）

表 4-1-5 世帯類型と「QOL」得点群とのクロス集計結果

		A:QOL・生活安定度（ビン分割済み）				合計
		低得点群	低中得点群	高中得点群	高得点群	
問 1-⑤ 世帯構成	一人暮らし	30 36.6%	22 26.8%	25 30.5%	5 6.1%	82 100.0%
	夫婦のみ	19 10.7%	47 26.6%	78 44.1%	33 18.6%	177 100.0%
	親子2世代 （子と同居）	18 14.5%	45 36.3%	45 36.3%	16 12.9%	124 100.0%
	親子2世代 （親と同居）	12 16.2%	23 31.1%	25 33.8%	14 18.9%	74 100.0%
	3世代以上同居 （親・子と同居）	1 4.8%	5 23.8%	11 52.4%	4 19.0%	21 100.0%
	3世代以上同居 （子・孫と同居）	2 15.4%	6 46.2%	4 30.8%	1 7.7%	13 100.0%
	その他	0 0.0%	4 44.4%	3 33.3%	2 22.2%	9 100.0%
合計		82 16.4%	152 30.4%	191 38.2%	75 15.0%	500 100.0%

※有意差（因果関係）あり(P<0.01)

		B:QOL・自己研鑽度（ビン分割済み）				合計
		低得点群	低中得点群	高中得点群	高得点群	
問 1-⑤ 世帯構成	一人暮らし	3 3.7%	23 28.0%	36 43.9%	20 24.4%	82 100.0%
	夫婦のみ	48 27.1%	59 33.3%	52 29.4%	18 10.2%	177 100.0%
	親子2世代 （子と同居）	20 16.1%	38 30.6%	48 38.7%	18 14.5%	124 100.0%
	親子2世代 （親と同居）	10 13.5%	29 39.2%	23 31.1%	12 16.2%	74 100.0%
	3世代以上同居 （親・子と同居）	5 23.8%	9 42.9%	5 23.8%	2 9.5%	21 100.0%
	3世代以上同居 （子・孫と同居）	2 15.4%	5 38.5%	5 38.5%	1 7.7%	13 100.0%
	その他	0 0.0%	5 55.6%	1 11.1%	3 33.3%	9 100.0%
合計		88 17.6%	168 33.6%	170 34.0%	74 14.8%	500 100.0%

※有意差（因果関係）あり(P<0.01)

		C: QOL・地域帰属度 (ビン分割済み)				合計
		低得点群	低中得点群	高中得点群	高得点群	
問 1-⑤世帯構成	一人暮らし	21 25.6%	30 36.6%	22 26.8%	9 11.0%	82 100.0%
	夫婦のみ	21 11.9%	66 37.3%	72 40.7%	18 10.2%	177 100.0%
	親子 2 世代 (子と同居)	19 15.3%	47 37.9%	36 29.0%	22 17.7%	124 100.0%
	親子 2 世代 (親と同居)	4 5.4%	21 28.4%	29 39.2%	20 27.0%	74 100.0%
	3 世代以上同居 (親・子と同居)	1 4.8%	5 23.8%	10 47.6%	5 23.8%	21 100.0%
	3 世代以上同居 (子・孫と同居)	3 23.1%	3 23.1%	6 46.2%	1 7.7%	13 100.0%
	その他	2 22.2%	1 11.1%	5 55.6%	1 11.1%	9 100.0%
合計		71 14.2%	173 34.6%	180 36.0%	76 15.2%	500 100.0%

※有意差(因果関係)あり(P<0.01)

		D: QOL・身体健康度 (ビン分割済み)				合計
		低得点群	低中得点群	高中得点群	高得点群	
問 1-⑤世帯構成	一人暮らし	10 12.2%	20 24.4%	27 32.9%	25 30.5%	82 100.0%
	夫婦のみ	37 20.9%	68 38.4%	52 29.4%	20 11.3%	177 100.0%
	親子 2 世代 (子と同居)	15 12.1%	42 33.9%	50 40.3%	17 13.7%	124 100.0%
	親子 2 世代 (親と同居)	7 9.5%	27 36.5%	30 40.5%	10 13.5%	74 100.0%
	3 世代以上同居 (親・子と同居)	3 14.3%	6 28.6%	9 42.9%	3 14.3%	21 100.0%
	3 世代以上同居 (子・孫と同居)	3 23.1%	5 38.5%	3 23.1%	2 15.4%	13 100.0%
	その他	1 11.1%	3 33.3%	4 44.4%	1 11.1%	9 100.0%
合計		76 15.2%	171 34.2%	175 35.0%	78 15.6%	500 100.0%

※やや有意差(因果関係)あり(P<0.05)

		E: QOL・W&L バランス度 (ビン分割済み)				合計
		低得点群	低中得点群	高中得点群	高得点群	
問 1-⑤世帯構成	一人暮らし	8 9.8%	27 32.9%	31 37.8%	16 19.5%	82 100.0%
	夫婦のみ	31 17.5%	50 28.2%	54 30.5%	42 23.7%	177 100.0%
	親子 2 世代 (子と同居)	21 16.9%	42 33.9%	39 31.5%	22 17.7%	124 100.0%
	親子 2 世代 (親と同居)	17 23.0%	24 32.4%	27 36.5%	6 8.1%	74 100.0%
	3 世代以上同居 (親・子と同居)	3 14.3%	6 28.6%	8 38.1%	4 19.0%	21 100.0%
	3 世代以上同居 (子・孫と同居)	4 30.8%	3 23.1%	5 38.5%	1 7.7%	13 100.0%
	その他	3 33.3%	2 22.2%	4 44.4%	0 0.0%	9 100.0%
合計		87 17.4%	154 30.8%	168 33.6%	91 18.2%	500 100.0%

※有意差(因果関係)なし

2. 「生きがい」について

(1) 性別によるクロス集計結果

表 4-2-1 をみると、性別と「生きがい」得点群との間で有意な差がみられたのは、「C: 生きがい・自己満足」のみである。

①性別と「C: 生きがい・自己満足」との関係では、「男性」よりも「女性」の方が「C: 生きがい・自己満足」

満足」が高くなっている（男性に比べると、女性の方がささやかな楽しみを生きがいに行っている）ことがわかる。つまり、「男性」よりも「女性」の方が「自身の空間や時間」または「自身の経験や体験」に生きがいを見出している傾向が強い可能性がうかがえる。

表 4-2-1 性別と「生きがい」得点群とのクロス集計結果

		A: 生きがい・他者からの評価 (ビン分割済み)				合計
		低得点群	低中得点群	高中得点群	高得点群	
問 1-①性別	男性	35	43	124	29	231
		15.2%	18.6%	53.7%	12.6%	100.0%
	女性	56	48	132	28	264
		21.2%	18.2%	50.0%	10.6%	100.0%
合計		91	91	256	57	495
		18.4%	18.4%	51.7%	11.5%	100.0%

※有意差(因果関係)なし

		B: 生きがい・家族との関係 (ビン分割済み)				合計
		低得点群	低中得点群	高中得点群	高得点群	
問 1-①性別	男性	30	45	132	24	231
		13.0%	19.5%	57.1%	10.4%	100.0%
	女性	36	66	143	19	264
		13.6%	25.0%	54.2%	7.2%	100.0%
合計		66	111	275	43	495
		13.3%	22.4%	55.6%	8.7%	100.0%

※有意差(因果関係)なし

		C: 生きがい・自己満足 (ビン分割済み)				合計
		低得点群	低中得点群	高中得点群	高得点群	
問 1-①性別	男性	36	97	77	21	231
		15.6%	42.0%	33.3%	9.1%	100.0%
	女性	24	77	114	49	264
		9.1%	29.2%	43.2%	18.6%	100.0%
合計		60	174	191	70	495
		12.1%	35.2%	38.6%	14.1%	100.0%

※有意差(因果関係)あり(P<0.01)

(2) 年齢階級によるクロス集計結果

表 4-2-2 をみると、年齢階級と「生きがい」得点群との間で有意な差がみられたものはなかった。

表 4-2-2 年齢階級と「生きがい」得点群とのクロス集計結果

		A: 生きがい・他者からの評価 (ビン分割済み)				合計
		低得点群	低中得点群	高中得点群	高得点群	
問 1-② 年齢	54 歳未満	10	18	60	16	104
		9.6%	17.3%	57.7%	15.4%	100.0%
	55～59 歳	26	24	55	15	120
		21.7%	20.0%	45.8%	12.5%	100.0%
	60～64 歳	21	27	70	13	131
		16.0%	20.6%	53.4%	9.9%	100.0%
	65 歳以上	35	22	72	13	142
		24.6%	15.5%	50.7%	9.2%	100.0%
合計		92	91	257	57	497
		18.5%	18.3%	51.7%	11.5%	100.0%

※有意差(因果関係)なし

		B: 生きがい・家族との関係（ビン分割済み）				合計
		低得点群	低中得点群	高中得点群	高得点群	
問 1-② 年齢	54 歳未満	12	21	60	11	104
		11.5%	20.2%	57.7%	10.6%	100.0%
	55～59 歳	15	26	66	13	120
		12.5%	21.7%	55.0%	10.8%	100.0%
	60～64 歳	23	29	73	6	131
		17.6%	22.1%	55.7%	4.6%	100.0%
	65 歳以上	17	35	77	13	142
		12.0%	24.6%	54.2%	9.2%	100.0%
合計		67	111	276	43	497
		13.5%	22.3%	55.5%	8.7%	100.0%

※有意差(因果関係)なし

		C: 生きがい・自己満足（ビン分割済み）				合計
		低得点群	低中得点群	高中得点群	高得点群	
問 1-② 年齢	54 歳未満	13	33	40	18	104
		12.5%	31.7%	38.5%	17.3%	100.0%
	55～59 歳	15	43	46	16	120
		12.5%	35.8%	38.3%	13.3%	100.0%
	60～64 歳	14	46	51	20	131
		10.7%	35.1%	38.9%	15.3%	100.0%
	65 歳以上	18	52	56	16	142
		12.7%	36.6%	39.4%	11.3%	100.0%
合計		60	174	193	70	497
		12.1%	35.0%	38.8%	14.1%	100.0%

※有意差(因果関係)なし

(3) 居住地域によるクロス集計結果

表 4-2-3 をみると、居住地域と「生きがい」得点群との間で有意な差がみられたのは、「B: 生きがい・家族との関係」のみである。

①居住地域と「B: 生きがい・家族との関係」との関係では、「盛岡市」の「B: 生きがい・家族との関係」が相対的に高く、「一関市」と「久慈市」の「B: 生きがい・家族との関係」が中間に位置し、「宮古市」の「B: 生きがい・家族との関係」が相対的に低くなる傾向にある（家族との関係が生きがいになっているのは、盛岡市がもっとも高く、一関市と久慈市が中間で、宮古市が低くなっている）ことがわかる。

表 4-2-3 居住地域と「生きがい」得点群とのクロス集計結果

		A: 生きがい・他者からの評価 (ビン分割済み)				合計
		低得点群	低中得点群	高中得点群	高得点群	
問 1-③地域	盛岡市	32	24	81	21	158
		20.3%	15.2%	51.3%	13.3%	100.0%
	一関市	15	19	60	13	107
		14.0%	17.8%	56.1%	12.1%	100.0%
	宮古市	17	27	50	13	107
		15.9%	25.2%	46.7%	12.1%	100.0%
	久慈市	27	19	61	8	115
		23.5%	16.5%	53.0%	7.0%	100.0%
その他	1	1	2	1	5	
	20.0%	20.0%	40.0%	20.0%	100.0%	
合計		92	90	254	56	492
		18.7%	18.3%	51.6%	11.4%	100.0%

※有意差(因果関係)なし

		B: 生きがい・家族との関係 (ビン分割済み)				合計
		低得点群	低中得点群	高中得点群	高得点群	
問 1-③地域	盛岡市	21	22	93	22	158
		13.3%	13.9%	58.9%	13.9%	100.0%
	一関市	13	28	62	4	107
		12.1%	26.2%	57.9%	3.7%	100.0%
	宮古市	22	25	54	6	107
		20.6%	23.4%	50.5%	5.6%	100.0%
	久慈市	11	35	60	9	115
		9.6%	30.4%	52.2%	7.8%	100.0%
その他	0	1	4	0	5	
	0.0%	20.0%	80.0%	0.0%	100.0%	
合計		67	111	273	41	492
		13.6%	22.6%	55.5%	8.3%	100.0%

※有意差(因果関係)あり(P<0.01)

		C: 生きがい・自己満足 (ビン分割済み)				合計
		低得点群	低中得点群	高中得点群	高得点群	
問 1-③地域	盛岡市	16 10.1%	59 37.3%	60 38.0%	23 14.6%	158 100.0%
	一関市	9 8.4%	39 36.4%	48 44.9%	11 10.3%	107 100.0%
	宮古市	15 14.0%	41 38.3%	40 37.4%	11 10.3%	107 100.0%
	久慈市	19 16.5%	32 27.8%	39 33.9%	25 21.7%	115 100.0%
	その他	1 20.0%	1 20.0%	3 60.0%	0 0.0%	5 100.0%
	合計	60 12.2%	172 35.0%	190 38.6%	70 14.2%	492 100.0%

※有意差(因果関係)なし

(4) 就労状況によるクロス集計結果

表 4-2-4 をみると、就労状況と「生きがい」得点群との間で有意な差がみられたのは、「A: 生きがい・他者からの評価」と「C: 生きがい・自己満足」である。

①就労状況と「A: 生きがい・他者からの評価」との関係では、「無職」よりも「有職」の方が「A: 生きがい・他者からの評価」が相対的に高くなる傾向にある（仕事をしていない人に比べると、仕事をしている人の方が、他者からの評価を生きがいにしている）ことがわかる。

②就労状況と「C: 生きがい・自己満足」との関係では、「有職」よりも「無職」の方が「C: 生きがい・自己満足」が相対的にやや高くなる傾向にある（仕事をしている人に比べると、仕事をしていない人の方が、ささやかな楽しみを生きがいにしている）ことがわかる。

表 4-2-4 就労状況と「生きがい」得点群とのクロス集計結果

		A: 生きがい・他者からの評価 (ビン分割済み)				合計
		低得点群	低中得点群	高中得点群	高得点群	
問 1-④就労状況	正規職員・会社役員等	10 5.8%	39 22.8%	97 56.7%	25 14.6%	171 100.0%
	契約社員・派遣社員	3 11.1%	5 18.5%	15 55.6%	4 14.8%	27 100.0%
	非正規・非常勤	9 9.0%	19 19.0%	65 65.0%	7 7.0%	100 100.0%
	自営業	10 17.9%	6 10.7%	29 51.8%	11 19.6%	56 100.0%
	無職	59 42.1%	22 15.7%	49 35.0%	10 7.1%	140 100.0%
	その他	1 50.0%	0 0.0%	1 50.0%	0 0.0%	2 100.0%
	合計	92 18.5%	91 18.3%	256 51.6%	57 11.5%	496 100.0%

※有意差(因果関係)あり(P<0.01)

		B: 生きがい・家族との関係 (ビン分割済み)				合計
		低得点群	低中得点群	高中得点群	高得点群	
問 1-④就労状況	正規職員・会社役員等	14 8.2%	35 20.5%	108 63.2%	14 8.2%	171 100.0%
	契約社員・派遣社員	5 18.5%	8 29.6%	14 51.9%	0 0.0%	27 100.0%
	非正規・非常勤	12 12.0%	31 31.0%	49 49.0%	8 8.0%	100 100.0%
	自営業	8 14.3%	12 21.4%	31 55.4%	5 8.9%	56 100.0%
	無職	28 20.0%	25 17.9%	71 50.7%	16 11.4%	140 100.0%
	その他	0 0.0%	0 0.0%	2 100.0%	0 0.0%	2 100.0%
	合計	67 13.5%	111 22.4%	275 55.4%	43 8.7%	496 100.0%

※有意差(因果関係)なし

		C: 生きがい・自己満足 (ビン分割済み)				合計
		低得点群	低中得点群	高中得点群	高得点群	
問 1-④就労状況	正規職員・会社役員等	18 10.5%	73 42.7%	59 34.5%	21 12.3%	171 100.0%
	契約社員・派遣社員	1 3.7%	10 37.0%	12 44.4%	4 14.8%	27 100.0%
	非正規・非常勤	10 10.0%	40 40.0%	40 40.0%	10 10.0%	100 100.0%
	自営業	7 12.5%	15 26.8%	29 51.8%	5 8.9%	56 100.0%
	無職	23 16.4%	35 25.0%	52 37.1%	30 21.4%	140 100.0%
	その他	1 50.0%	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 100.0%
	合計	60 12.1%	174 35.1%	192 38.7%	70 14.1%	496 100.0%

※やや有意差(因果関係)あり(P<0.05)

(5) 世帯類型によるクロス集計結果

表 4-2-5 をみると、世帯類型と「生きがい」得点群との間で有意な差がみられたのは、「B: 生きがい・家族との関係」のみである。

- ①世帯類型と「B: 生きがい・家族との関係」との関係では、世帯規模の大小が関係していると考えられるが、「一人暮らし」の「B: 生きがい・家族との関係」が相対的に低く、「親子2世代」や「3世代以上同居」の「B: 生きがい・家族との関係」が相対的に高くなる傾向にある（人数の少ない世帯に比べると、人数の多い世帯の方が、家族との関係を生きがいにしている）ことがわかる。

表 4-2-5 世帯類型と「生きがい」得点群とのクロス集計結果

		A: 生きがい・他者からの評価 (ビン分割済み)				合計
		低得点群	低中得点群	高中得点群	高得点群	
問 1-⑤世帯構成	一人暮らし	19 24.4%	15 19.2%	31 39.7%	13 16.7%	78 100.0%
	夫婦のみ	35 20.5%	34 19.9%	87 50.9%	15 8.8%	171 100.0%
	親子2世代 (子と同居)	18 14.3%	23 18.3%	70 55.6%	15 11.9%	126 100.0%
	親子2世代 (親と同居)	13 17.3%	11 14.7%	44 58.7%	7 9.3%	75 100.0%
	3世代以上同居 (親・子と同居)	1 4.5%	3 13.6%	13 59.1%	5 22.7%	22 100.0%
	3世代以上同居 (子・孫と同居)	2 15.4%	4 30.8%	6 46.2%	1 7.7%	13 100.0%
	その他	4 40.0%	1 10.0%	4 40.0%	1 10.0%	10 100.0%
	合計	92 18.6%	91 18.4%	255 51.5%	57 11.5%	495 100.0%

※有意差(因果関係)なし

		B: 生きがい・家族との関係 (ビン分割済み)				合計
		低得点群	低中得点群	高中得点群	高得点群	
問 1-⑤世帯構成	一人暮らし	43 55.1%	28 35.9%	7 9.0%	0 0.0%	78 100.0%
	夫婦のみ	4 2.3%	31 18.1%	113 66.1%	23 13.5%	171 100.0%
	親子 2 世代 (子と同居)	11 8.7%	21 16.7%	82 65.1%	12 9.5%	126 100.0%
	親子 2 世代 (親と同居)	7 9.3%	22 29.3%	43 57.3%	3 4.0%	75 100.0%
	3 世代以上同居 (親・子と同居)	0 0.0%	3 13.6%	17 77.3%	2 9.1%	22 100.0%
	3 世代以上同居 (子・孫と同居)	0 0.0%	3 23.1%	8 61.5%	2 15.4%	13 100.0%
	その他	2 20.0%	3 30.0%	5 50.0%	0 0.0%	10 100.0%
合計		67 13.5%	111 22.4%	275 55.6%	42 8.5%	495 100.0%

※有意差(因果関係)あり(P<0.01)

		C: 生きがい・自己満足 (ビン分割済み)				合計
		低得点群	低中得点群	高中得点群	高得点群	
問 1-⑤世帯構成	一人暮らし	13 16.7%	16 20.5%	35 44.9%	14 17.9%	78 100.0%
	夫婦のみ	20 11.7%	67 39.2%	64 37.4%	20 11.7%	171 100.0%
	親子 2 世代 (子と同居)	12 9.5%	47 37.3%	46 36.5%	21 16.7%	126 100.0%
	親子 2 世代 (親と同居)	13 17.3%	29 38.7%	24 32.0%	9 12.0%	75 100.0%
	3 世代以上同居 (親・子と同居)	1 4.5%	5 22.7%	12 54.5%	4 18.2%	22 100.0%
	3 世代以上同居 (子・孫と同居)	0 0.0%	3 23.1%	10 76.9%	0 0.0%	13 100.0%
	その他	1 10.0%	5 50.0%	2 20.0%	2 20.0%	10 100.0%
合計		60 12.1%	172 34.7%	193 39.0%	70 14.1%	495 100.0%

※有意差(因果関係)なし

3. 「幸福度 (ウェルビーイング)」について

(1) 性別によるクロス集計結果

表 4-3-1 をみると、性別と「幸福度 (ウェルビーイング)」得点群との間では、有意な差がみられた。つまり、「男性」よりも「女性」の方が「幸福度 (ウェルビーイング)」が相対的に高く、逆に、「女性」よりも「男性」の方が「幸福度 (ウェルビーイング)」が相対的に低くなっている (男性に比べると、女性の方が、幸福度が高い) ことがわかる。

表 4-3-1 性別と「幸福度 (ウェルビーイング)」得点群とのクロス集計結果

		幸福度得点(平均) (ビン分割済み)				合計
		低得点群	低中得点群	高中得点群	高得点群	
問 1-①性別	男性	44 19.6%	85 37.8%	75 33.3%	21 9.3%	225 100.0%
	女性	31 12.3%	54 21.4%	104 41.3%	63 25.0%	252 100.0%
合計		75 15.7%	139 29.1%	179 37.5%	84 17.6%	477 100.0%

※有意差(因果関係)あり(P<0.01)

(2) 年齢階級によるクロス集計結果

表 4-3-2 をみると、年齢階級と「幸福度 (ウェルビーイング)」得点群との間では、有意な差がみられなかった。

表 4-3-2 年齢階級と「幸福度（ウェルビーイング）」得点群とのクロス集計結果

		幸福度得点(平均) (ビン分割済み)				合計
		低得点群	低中得点群	高中得点群	高得点群	
問 1-②a 年齢	54 歳未満	13	38	37	13	101
		12.9%	37.6%	36.6%	12.9%	100.0%
	55～59 歳	22	29	47	20	118
		18.6%	24.6%	39.8%	16.9%	100.0%
	60～64 歳	19	35	46	26	126
		15.1%	27.8%	36.5%	20.6%	100.0%
	65 歳以上	21	37	50	25	133
		15.8%	27.8%	37.6%	18.8%	100.0%
合計		75	139	180	84	478
		15.7%	29.1%	37.7%	17.6%	100.0%

※有意差(因果関係)なし

(3) 居住地域によるクロス集計結果

表 4-3-3 をみると、居住地域と「幸福度（ウェルビーイング）」得点群との間では、有意な差がみられなかった。

表 4-3-3 居住地域と「幸福度（ウェルビーイング）」得点群とのクロス集計結果

		幸福度得点(平均) (ビン分割済み)				合計
		低得点群	低中得点群	高中得点群	高得点群	
問 1-③ 地域	盛岡市	29	46	42	34	151
		19.2%	30.5%	27.8%	22.5%	100.0%
	一関市	12	29	42	18	101
		11.9%	28.7%	41.6%	17.8%	100.0%
	宮古市	14	32	43	15	104
		13.5%	30.8%	41.3%	14.4%	100.0%
	久慈市	20	30	45	17	112
		17.9%	26.8%	40.2%	15.2%	100.0%
	その他	0	2	3	0	5
		0.0%	40.0%	60.0%	0.0%	100.0%
合計		75	139	175	84	473
		15.9%	29.4%	37.0%	17.8%	100.0%

※有意差(因果関係)なし

(4) 就労状況によるクロス集計結果

表 4-3-4 をみると、就労状況と「幸福度（ウェルビーイング）」得点群との間では、やや有意な差がみられた。「正規職員・会社役員等」や「契約社員・派遣社員」では「幸福度（ウェルビーイング）」が相対的にやや低く、「非正規・非常勤」や「自営業」、「無職」では「幸福度（ウェルビーイング）」が相対的にやや高くなる傾向がみられる（働き方の自由度が低い人（正社員や派遣社員など）に比べると、働き方の自由度が高い人（非正規、自営業、無職など）の方が、幸福度が高い）。

表 4-3-4 就労状況と「幸福度（ウェルビーイング）」得点群とのクロス集計結果

		幸福度得点(平均) (ビン分割済み)				合計
		低得点群	低中得点群	高中得点群	高得点群	
問 1-④ 就労状況	正規職員・会社役員等	31	53	68	18	170
		18.2%	31.2%	40.0%	10.6%	100.0%
	契約社員・派遣社員	2	10	8	5	25
		8.0%	40.0%	32.0%	20.0%	100.0%
	非正規・非常勤	7	31	39	18	95
		7.4%	32.6%	41.1%	18.9%	100.0%
	自営業	8	16	20	8	52
		15.4%	30.8%	38.5%	15.4%	100.0%
	無職	26	29	43	35	133
		19.5%	21.8%	32.3%	26.3%	100.0%
その他	1	0	1	0	2	
	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%	100.0%	
合計		75	139	179	84	477
		15.7%	29.1%	37.5%	17.6%	100.0%

※やや有意差(因果関係)あり(P<0.05)

(5) 世帯類型によるクロス集計結果

表 4-3-5 をみると、世帯類型と「幸福度（ウェルビーイング）」得点群との間では、有意な差がみられなかった。

表 4-3-5 世帯類型と「幸福度（ウェルビーイング）」得点群とのクロス集計結果

		幸福度得点(平均) (ビン分割済み)				合計
		低得点群	低中得点群	高中得点群	高得点群	
問 1-⑤ 世帯構成	一人暮らし	17	25	23	9	74
		23.0%	33.8%	31.1%	12.2%	100.0%
	夫婦のみ	25	56	56	29	166
		15.1%	33.7%	33.7%	17.5%	100.0%
	親子 2 世代(子と同居)	18	30	47	26	121
		14.9%	24.8%	38.8%	21.5%	100.0%
	親子 2 世代(親と同居)	9	20	33	10	72
		12.5%	27.8%	45.8%	13.9%	100.0%
	3 世代以上同居(親・子と同居)	2	1	11	7	21
		9.5%	4.8%	52.4%	33.3%	100.0%
3 世代以上同居(子・孫と同居)	2	4	6	1	13	
	15.4%	30.8%	46.2%	7.7%	100.0%	
その他	2	2	3	2	9	
	22.2%	22.2%	33.3%	22.2%	100.0%	
合計		75	138	179	84	476
		15.8%	29.0%	37.6%	17.6%	100.0%

※有意差(因果関係)なし

4. 「QOL」・「生きがい」・「幸福度」に関するまとめ

(1) 「QOL」について

表 4-4-1 をみると、25 枠のうち、○が 13 箇所、△が 2 箇所、×が 10 箇所となっており、基本属性と「QOL」との因果関係が 6 割ある結果となった。よって、「QOL」を規定する要因としては、その人がどのようなタイプに属するかによって異なってくることが示唆された。

(2) 「生きがい」について

表 4-4-1 をみると、15 枠のうち、○が 4 箇所、△が 1 箇所、×が 10 箇所となっており、基本属性と「生きがい」との因果関係が約 3 割ある結果となった。よって、「生きがい」を規定する要因としては、その人がどのようなタイプに属するかによる影響は限定的であることが示唆された。

(3) 「幸福度」について

表 4-4-1 をみると、5 枠のうち、○が 1 箇所、△が 1 箇所、×が 3 箇所となっており、基本属性と「幸福度」との因果関係が 4 割ある結果となった。よって、「幸福度」を規定する要因としては、その人がどのようなタイプに属するかによる影響は限定的であることが示唆された。

表 4-4-1 基本属性と「QOL」・「生きがい」・「幸福度」とのクロス集計結果

		「QOL」					「生きがい」			「幸福度」
		①生活安定度	②自己研鑽度	③地域帰属度	④身体健康度	⑤W&Lバランス度	①他者からの評価	②家族との関係	③自己満足	
基本属性	①性別	×	×	×	○	○	×	×	○	○
	②年齢階級	×	×	○	○	○	×	×	×	×
	③居住地域	×	×	○	×	×	×	○	×	×
	④就労状況	△	○	○	○	○	○	×	△	△
	⑤世帯類型	○	○	○	△	×	×	○	×	×

V 「健康意識」について

1. 基本属性と「健康意識」とのクロス集計結果

(1) 性別

表 5-1-1 をみると、性別と「健康意識」得点群との間では、有意な差がみられなかった。

表 5-1-1 性別と「健康意識」得点群とのクロス集計結果

		問 22 健康得点 (ビン分割済み)				合計
		低得点群 (15 点以下)	低中得点群 (16～19 点)	高中得点群 (20～22 点)	高得点群 (23 点以上)	
問 1-①性別	男性	38	72	99	29	238
		16.0%	30.3%	41.6%	12.2%	100.0%
	女性	43	81	115	38	277
		15.5%	29.2%	41.5%	13.7%	100.0%
合計		81	153	214	67	515
		15.7%	29.7%	41.6%	13.0%	100.0%

※有意差(因果関係)なし

(2) 年齢階級別

表 5-1-2 をみると、年齢階級と「健康意識」得点群との間では、有意な差がみられなかった。

表 5-1-2 年齢階級と「健康意識」得点群とのクロス集計結果

		問 22 健康得点 (ビン分割済み)				合計
		低得点群 (15 点以下)	低中得点群 (16～19 点)	高中得点群 (20～22 点)	高得点群 (23 点以上)	
問 1-②a年 齢	54 歳未満	19	34	39	13	105
		18.1%	32.4%	37.1%	12.4%	100.0%
	55～59 歳	24	38	42	17	121
		19.8%	31.4%	34.7%	14.0%	100.0%
	60～64 歳	22	36	58	23	139
		15.8%	25.9%	41.7%	16.5%	100.0%
	65 歳以上	17	45	76	15	153
		11.1%	29.4%	49.7%	9.8%	100.0%
合計		82	153	215	68	518
		15.8%	29.5%	41.5%	13.1%	100.0%

※有意差(因果関係)なし

(3) 居住地域別

表 5-1-3 をみると、居住地域と「健康意識」得点群との間では、有意な差がみられなかった。

表 5-1-3 居住地域と「健康意識」得点群とのクロス集計結果

		問 22 健康得点 (ビン分割済み)				合計
		低得点群 (15 点以下)	低中得点群 (16～19 点)	高中得点群 (20～22 点)	高得点群 (23 点以上)	
問 1-③地域	盛岡市	18	44	82	22	166
		10.8%	26.5%	49.4%	13.3%	100.0%
	一関市	20	36	39	15	110
		18.2%	32.7%	35.5%	13.6%	100.0%
	宮古市	25	35	39	12	111
		22.5%	31.5%	35.1%	10.8%	100.0%
	久慈市	19	35	49	18	121
		15.7%	28.9%	40.5%	14.9%	100.0%
	その他	0	1	3	1	5
		0.0%	20.0%	60.0%	20.0%	100.0%
合計		82	151	212	68	513
		16.0%	29.4%	41.3%	13.3%	100.0%

※有意差(因果関係)なし

(4) 就労状況別

表 5-1-4 をみると、就労状況と「健康意識」得点群との間では、有意な差がみられなかった。

表 5-1-4 就労状況と「健康意識」得点群とのクロス集計結果

		問 22 健康得点 (ビン分割済み)				合計
		低得点群 (15 点以下)	低中得点群 (16～19 点)	高中得点群 (20～22 点)	高得点群 (23 点以上)	
問 1-④就労 状況	正規職員・会社役 員等	26 14.9%	49 28.2%	71 40.8%	28 16.1%	174 100.0%
	契約社員・派遣社 員	3 11.1%	7 25.9%	13 48.1%	4 14.8%	27 100.0%
	非正規・非常勤	14 13.2%	32 30.2%	49 46.2%	11 10.4%	106 100.0%
	自営業	15 25.4%	19 32.2%	18 30.5%	7 11.9%	59 100.0%
	無職	24 16.2%	44 29.7%	62 41.9%	18 12.2%	148 100.0%
	その他	0 0.0%	1 50.0%	1 50.0%	0 0.0%	2 100.0%
	合計	82 15.9%	152 29.5%	214 41.5%	68 13.2%	516 100.0%

※有意差(因果関係)なし

(5) 世帯類型別

表 5-1-5 をみると、世帯類型と「健康意識」得点群との間では、有意な差がみられなかった。

表 5-1-5 世帯類型と「健康意識」得点群とのクロス集計結果

		問 22 健康得点 (ビン分割済み)				合計
		低得点群 (15 点以下)	低中得点群 (16～19 点)	高中得点群 (20～22 点)	高得点群 (23 点以上)	
問 1-⑤世帯 構成	一人暮らし	20 23.0%	32 36.8%	24 27.6%	11 12.6%	87 100.0%
	夫婦のみ	17 9.5%	53 29.6%	83 46.4%	26 14.5%	179 100.0%
	親子 2 世代(子と 同居)	21 16.5%	30 23.6%	59 46.5%	17 13.4%	127 100.0%
	親子 2 世代(親と 同居)	19 24.4%	26 33.3%	25 32.1%	8 10.3%	78 100.0%
	3 世代以上同居 (親・子と同居)	1 4.5%	5 22.7%	13 59.1%	3 13.6%	22 100.0%
	3 世代以上同居 (子・孫と同居)	2 15.4%	4 30.8%	5 38.5%	2 15.4%	13 100.0%
	その他	2 20.0%	3 30.0%	4 40.0%	1 10.0%	10 100.0%
	合計	82 15.9%	153 29.7%	213 41.3%	68 13.2%	516 100.0%

※有意差(因果関係)なし

2. 「QOL」得点群と「健康意識」とのクロス集計結果

(1) 「QOL・生活安定度」と「健康意識」

表 5-2-1 をみると、「A:QOL・生活安定度」と「健康意識」得点群との間では、有意な差がみられた。「A:QOL・生活安定度」が高くなるほど「健康意識」得点群が高くなっており、「生活安定度」と「健康意識」には強い因果関係がある(生活の安定度(経済・対人関係の安定度)が低い人に比べると、生活の安定度が高い人の方が、自身の健康維持・改善に対する意識が高い) ことがわかる。

表 5-2-1 「QOL・生活安定度」と「健康意識」得点群とのクロス集計結果

		問 22 健康得点 (ビン分割済み)				合計
		低得点群 (15 点以下)	低中得点群 (16～19 点)	高中得点群 (20～22 点)	高得点群 (23 点以上)	
A:QOL・ 生活安定度 (ビン 分割済み)	低得点群	37	25	15	3	80
		46.3%	31.3%	18.8%	3.8%	100.0%
	低中得点群	21	62	60	9	152
		13.8%	40.8%	39.5%	5.9%	100.0%
	高中得点群	13	54	90	33	190
		6.8%	28.4%	47.4%	17.4%	100.0%
	高得点群	3	9	41	20	73
		4.1%	12.3%	56.2%	27.4%	100.0%
合計		74	150	206	65	495
		14.9%	30.3%	41.6%	13.1%	100.0%

※有意差(因果関係)あり(P<0.01)

(2) 「QOL・自己研鑽度」と「健康意識」

表 5-2-2 をみると、「B:QOL・自己研鑽度」と「健康意識」得点群との間では、有意な差がみられなかった。

表 5-2-2 「QOL・自己研鑽度」と「健康意識」得点群とのクロス集計結果

		問 22 健康得点 (ビン分割済み)				合計
		低得点群 (15 点以下)	低中得点群 (16～19 点)	高中得点群 (20～22 点)	高得点群 (23 点以上)	
B:QOL・ 自己研鑽度 (ビン 分割済み)	低得点群	10	32	38	8	88
		11.4%	36.4%	43.2%	9.1%	100.0%
	低中得点群	29	54	66	18	167
		17.4%	32.3%	39.5%	10.8%	100.0%
	高中得点群	26	44	70	27	167
		15.6%	26.3%	41.9%	16.2%	100.0%
	高得点群	9	20	32	12	73
		12.3%	27.4%	43.8%	16.4%	100.0%
合計		74	150	206	65	495
		14.9%	30.3%	41.6%	13.1%	100.0%

※有意差(因果関係)なし

(3) 「QOL・地域帰属度」と「健康意識」

表 5-2-3 をみると、「C:QOL・地域帰属度」と「健康意識」得点群との間では、有意な差がみられなかった。

表 5-2-3 「QOL・地域帰属度」と「健康意識」得点群とのクロス集計結果

		問 22 健康得点 (ビン分割済み)				合計
		低得点群 (15 点以下)	低中得点群 (16～19 点)	高中得点群 (20～22 点)	高得点群 (23 点以上)	
C:QOL・ 地域帰属度 (ビン 分割済み)	低得点群	14	16	30	10	70
		20.0%	22.9%	42.9%	14.3%	100.0%
	低中得点群	27	48	77	18	170
		15.9%	28.2%	45.3%	10.6%	100.0%
	高中得点群	17	65	70	27	179
		9.5%	36.3%	39.1%	15.1%	100.0%
	高得点群	16	21	29	10	76
		21.1%	27.6%	38.2%	13.2%	100.0%
合計		74	150	206	65	495
		14.9%	30.3%	41.6%	13.1%	100.0%

※有意差(因果関係)なし

(4) 「QOL・身体健康度」と「健康意識」

表 5-2-4 をみると、「D:QOL・身体健康度」と「健康意識」得点群との間では、有意な差がみられなかった。

表 5-2-4 「QOL・身体健康度」と「健康意識」得点群とのクロス集計結果

		問 22 健康得点 (ビン分割済み)				合計
		低得点群 (15 点以下)	低中得点群 (16～19 点)	高中得点群 (20～22 点)	高得点群 (23 点以上)	
D:QOL・ 身体健康 度 (ビン 分割済 み)	低得点群	12	20	37	7	76
		15.8%	26.3%	48.7%	9.2%	100.0%
	低中得点群	28	53	66	21	168
		16.7%	31.5%	39.3%	12.5%	100.0%
	高中得点群	23	57	73	19	172
		13.4%	33.1%	42.4%	11.0%	100.0%
	高得点群	11	20	30	18	79
		13.9%	25.3%	38.0%	22.8%	100.0%
合計	74	150	206	65	495	
	14.9%	30.3%	41.6%	13.1%	100.0%	

※有意差(因果関係)なし

(5) 「QOL・W&L (ワーク & ライフ) バランス度」と「健康意識」

表 5-2-5 をみると、「E: QOL・W&L バランス度」と「健康意識」得点群との間では、有意な差がみられなかった。

表 5-2-5 「QOL・W&L バランス度」と「健康意識」得点群とのクロス集計結果

		問 22 健康得点 (ビン分割済み)				合計
		低得点群 (15 点以下)	低中得点群 (16～19 点)	高中得点群 (20～22 点)	高得点群 (23 点以上)	
E:QOL・ W&L バ ランス度 (ビン分割 済み)	低得点群	18	22	38	10	88
		20.5%	25.0%	43.2%	11.4%	100.0%
	低中得点群	23	49	60	22	154
		14.9%	31.8%	39.0%	14.3%	100.0%
	高中得点群	23	52	68	23	166
		13.9%	31.3%	41.0%	13.9%	100.0%
	高得点群	10	27	40	10	87
		11.5%	31.0%	46.0%	11.5%	100.0%
合計	74	150	206	65	495	
	14.9%	30.3%	41.6%	13.1%	100.0%	

※有意差(因果関係)なし

3. 「生きがい」得点群と「健康意識」とのクロス集計結果

(1) 「生きがい・他者からの評価」と「健康意識」

表 5-3-1 をみると、「A: 生きがい・他者からの評価」と「健康意識」得点群との間では、有意な差がみられた。「A: 生きがい・他者からの評価」が高くなるほど「健康意識」得点群が高くなっており、「他者からの評価」を生きがいとしているかどうかと「健康意識」には強い因果関係がある(他者からの評価を生きがいにしていない人に比べると、他者からの評価を生きがいとしている人の方が、自身の健康維持・改善に対する意識が高い) ことがわかる。

表 5-3-1 「生きがい・他者からの評価」と「健康意識」得点群とのクロス集計結果

		問 22 健康得点 (ビン分割済み)				合計
		低得点群 (15 点以下)	低中得点群 (16～19 点)	高中得点群 (20～22 点)	高得点群 (23 点以上)	
A: 生きがい・他者からの評価 (ビン分割済み)	低得点群	31	27	31	3	92
		33.7%	29.3%	33.7%	3.3%	100.0%
	低中得点群	23	29	29	10	91
		25.3%	31.9%	31.9%	11.0%	100.0%
	高中得点群	18	84	121	34	257
		7.0%	32.7%	47.1%	13.2%	100.0%
	高得点群	7	4	26	20	57
		12.3%	7.0%	45.6%	35.1%	100.0%
合計		79	144	207	67	497
		15.9%	29.0%	41.6%	13.5%	100.0%

※有意差(因果関係)あり(P<0.01)

(2)「生きがい・家族との関係」と「健康意識」

表 5-3-2 をみると、「B：生きがい・家族との関係」と「健康意識」得点群との間では、有意な差がみられた。「B：生きがい・家族との関係」が高くなるほど「健康意識」得点群が高くなっており、「家族との関係」を生きがいとしているかどうかと「健康意識」には強い因果関係がある（家族との関係を生きがいにしていない人に比べると、家族との関係を生きがいに行っている人の方が、自身の健康維持・改善に対する意識が高い）ことがわかる。

表 5-3-2 「生きがい・家族との関係」と「健康意識」得点群とのクロス集計結果

		問 22 健康得点 (ビン分割済み)				合計
		低得点群 (15 点以下)	低中得点群 (16～19 点)	高中得点群 (20～22 点)	高得点群 (23 点以上)	
B: 生きがい・家族との関係 (ビン分割済み)	低得点群	23 34.3%	23 34.3%	16 23.9%	5 7.5%	67 100.0%
	低中得点群	23 20.7%	38 34.2%	38 34.2%	12 10.8%	111 100.0%
	高中得点群	26 9.4%	70 25.4%	136 49.3%	44 15.9%	276 100.0%
	高得点群	7 16.3%	13 30.2%	17 39.5%	6 14.0%	43 100.0%
合計		79 15.9%	144 29.0%	207 41.6%	67 13.5%	497 100.0%

※有意差(因果関係)あり(P<0.01)

(3)「生きがい・自己満足」と「健康意識」

表 5-3-3 をみると、「C：生きがい・自己満足」と「健康意識」得点群との間では、有意な差がみられた。「C：生きがい・自己満足」が高くなるほど「健康意識」得点群が高くなっており、「自己満足」を生きがいとしているかどうかと「健康意識」には強い因果関係がある（ささやかな楽しみを生きがいにしていない人に比べると、ささやかな楽しみを生きがいに行っている人の方が、自身の健康維持・改善に対する意識が高い）ことがわかる。

表 5-3-3 「生きがい・自己満足」と「健康意識」得点群とのクロス集計結果

		問 22 健康得点 (ビン分割済み)				合計
		低得点群 (15 点以下)	低中得点群 (16～19 点)	高中得点群 (20～22 点)	高得点群 (23 点以上)	
C: 生きがい・自己満足 (ビン分割済み)	低得点群	21 35.0%	22 36.7%	16 26.7%	1 1.7%	60 100.0%
	低中得点群	24 13.8%	61 35.1%	80 46.0%	9 5.2%	174 100.0%
	高中得点群	27 14.0%	50 25.9%	80 41.5%	36 18.7%	193 100.0%
	高得点群	7 10.0%	11 15.7%	31 44.3%	21 30.0%	70 100.0%
合計		79 15.9%	144 29.0%	207 41.6%	67 13.5%	497 100.0%

※有意差(因果関係)あり(P<0.01)

4.「幸福度（ウェルビーイング）」得点群と「健康意識」とのクロス集計結果

表 5-4-1 をみると、「幸福度（ウェルビーイング）」と「健康意識」得点群との間では、有意な差がみられた。「幸福度（ウェルビーイング）」が高くなるほど「健康意識」得点群が高くなっており、「QOL」が高く、強い「生きがい」を持っていて「幸福度（ウェルビーイング）」が高い人ほど「健康意識」が高くなる傾向がある（幸福度が低い人に比べると、幸福度が高い人の方が、自身の健康維持・改善に対する意識が高い）ことがわかる。

表 5-4-1 「幸福度（ウェルビーイング）」と「健康意識」得点群とのクロス集計結果

		問 22 健康得点（ビン分割済み）				合計
		低得点群 （15 点以下）	低中得点群 （16～19 点）	高中得点群 （20～22 点）	高得点群 （23 点以上）	
幸福度得点 （平均）（ビン分割済み）	低得点群	24	21	28	2	75
		32.0%	28.0%	37.3%	2.7%	100.0%
	低中得点群	30	57	44	8	139
		21.6%	41.0%	31.7%	5.8%	100.0%
	高中得点群	16	54	85	25	180
		8.9%	30.0%	47.2%	13.9%	100.0%
	高得点群	3	10	42	29	84
		3.6%	11.9%	50.0%	34.5%	100.0%
合計		73	142	199	64	478
		15.3%	29.7%	41.6%	13.4%	100.0%

※有意差(因果関係)あり(P<0.01)

5. 「健康意識」に関するまとめ

表 5-5-1 をみると、「基本属性」では 5 枠すべて×となり、「QOL」でも 5 枠のうち 1 つのみが○という結果となった。これに対して、「生きがい」では 3 枠すべてが○となり、「幸福度」も○となった。このことから、「健康意識」を左右させる要因としては、「生きがい」があるかどうかとの因果関係が強いものの、「幸福度」を構成する「QOL」とも無関係でないことから、「QOL」と「生きがい」のバランス（「幸福度」）が健康に対する意識に影響を及ぼす可能性があることが示唆された。

表 5-5-1 基本属性・「QOL」・「生きがい」・「幸福度」と「健康意識」とのクロス集計結果

	基本属性					「QOL」					「生きがい」			「幸福度」
	① 性別	② 年齢階級	③ 居住地域	④ 就労状況	⑤ 世帯類型	① 生活安定度	② 自己研鑽度	③ 地域帰属度	④ 身体健康度	⑤ W&L バランス度	① 他者からの評価	② 家族との関係	③ 自己満足	
健康意識	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	○	○	○	○

VI 「社会意識」（パートナーの存在、マッチング支援）について

1. 「パートナーの必要性」に関する分析

（1）基本属性と「パートナーの存在の必要性」とのクロス集計

表 6-1-1 をみると、基本属性と「パートナーの存在の必要性」との間では、「性別」と「就労状況」、「世帯類型」において有意な差がみられた。なお、本分析においては、「パートナーの存在の必要性」への意識が明確に示されていない「よくわからない」の回答を除外して分析している。

- ①「性別」と「パートナーの存在の必要性」との関係では、「女性」よりも「男性」の方が「パートナーの存在の必要性」を感じている傾向が相対的に高い（女性に比べると、男性の方が、パートナーの存在を必要だと感じている）ことがわかる。
- ②「世帯類型」と「パートナーの存在の必要性」との関係では、「単独世帯（一人暮らし）」よりも「複数人世帯」の方が「パートナーの存在の必要性」を感じている傾向が相対的にやや高い（一人暮らしの人に比べると、複数人の世帯で暮らしている人の方が、パートナーの存在を必要だと感じている）ことがわかる。

表 6-1-1 基本属性と「パートナーの存在の必要性」とのクロス集計結果

		問 23 中高年世代のパートナーの必要性					合計
		とても必要だ と思う	どちらかと言えば 必要だと思う	どちらとも 言えない	どちらかと言えば 必要だと思わない	まったく必要だ と思わない	
問 1-① 性別	男性	59 26.8%	92 41.8%	58 26.4%	7 3.2%	4 1.8%	220 100.0%
	女性	31 12.7%	74 30.2%	102 41.6%	16 6.5%	22 9.0%	245 100.0%
合計		90 19.4%	166 35.7%	160 34.4%	23 4.9%	26 5.6%	465 100.0%

※有意差(因果関係)あり(P<0.01)

		問 23 中高年世代のパートナーの必要性					合計
		とても必要だ と思う	どちらかと言えば 必要だと思う	どちらとも 言えない	どちらかと言えば 必要だと思わない	まったく必要だ と思わない	
問 1-②a 年齢	54 歳未満	18 18.2%	38 38.4%	30 30.3%	5 5.1%	8 8.1%	99 100.0%
	55～59 歳	22 19.8%	39 35.1%	44 39.6%	2 1.8%	4 3.6%	111 100.0%
	60～64 歳	29 22.8%	40 31.5%	43 33.9%	10 7.9%	5 3.9%	127 100.0%
	65 歳以上	22 16.9%	50 38.5%	43 33.1%	6 4.6%	9 6.9%	130 100.0%
	合計	91 19.5%	167 35.8%	160 34.3%	23 4.9%	26 5.6%	467 100.0%

※有意差(因果関係)なし

		問 23 中高年世代のパートナーの必要性					合計
		とても必要だ と思う	どちらかと言えば 必要だと思う	どちらとも 言えない	どちらかと言えば 必要だと思わない	まったく必要だ と思わない	
問 1-③ 地域	盛岡市	34 22.7%	47 31.3%	55 36.7%	6 4.0%	8 5.3%	150 100.0%
	一関市	15 15.8%	41 43.2%	27 28.4%	8 8.4%	4 4.2%	95 100.0%
	宮古市	18 18.6%	38 39.2%	31 32.0%	3 3.1%	7 7.2%	97 100.0%
	久慈市	21 18.3%	38 33.0%	44 38.3%	6 5.2%	6 5.2%	115 100.0%
	その他	1 20.0%	1 20.0%	2 40.0%	0 0.0%	1 20.0%	5 100.0%
	合計	89 19.3%	165 35.7%	159 34.4%	23 5.0%	26 5.6%	462 100.0%

※有意差(因果関係)なし

		問 23 中高年世代のパートナーの必要性					合計
		とても必要だ と思う	どちらかと言えば 必要だと思う	どちらとも 言えない	どちらかと言えば 必要と思わない	まったく必要だ と思わない	
問 1-④ 就労状況	正規職員・ 会社役員等	34 20.4%	67 40.1%	56 33.5%	5 3.0%	5 3.0%	167 100.0%
	契約社員・ 派遣社員	8 29.6%	9 33.3%	9 33.3%	1 3.7%	0 0.0%	27 100.0%
	非正規・非常勤	15 15.8%	36 37.9%	35 36.8%	5 5.3%	4 4.2%	95 100.0%
	自営業	11 21.6%	21 41.2%	15 29.4%	3 5.9%	1 2.0%	51 100.0%
	無職	23 18.5%	33 26.6%	44 35.5%	9 7.3%	15 12.1%	124 100.0%
	その他	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%
	合計	91 19.6%	166 35.7%	160 34.4%	23 4.9%	25 5.4%	465 100.0%

※有意差(因果関係)なし

		問 23 中高年世代のパートナーの必要性					合計
		とても必要だ と思う	どちらかと言えば 必要だと思う	どちらとも 言えない	どちらかと言えば 必要と思わない	まったく必要だ と思わない	
問 1-⑤ 世帯構成	一人暮らし	17 21.8%	21 26.9%	24 30.8%	7 9.0%	9 11.5%	78 100.0%
	夫婦のみ	36 22.2%	63 38.9%	58 35.8%	4 2.5%	1 0.6%	162 100.0%
	親子 2 世代 (子と同居)	16 13.6%	41 34.7%	47 39.8%	6 5.1%	8 6.8%	118 100.0%
	親子 2 世代 (親と同居)	15 22.4%	29 43.3%	16 23.9%	4 6.0%	3 4.5%	67 100.0%
	3 世代以上同居 (親・子と同居)	2 10.0%	7 35.0%	9 45.0%	0 0.0%	2 10.0%	20 100.0%
	3 世代以上同居 (子・孫と同居)	2 18.2%	4 36.4%	3 27.3%	1 9.1%	1 9.1%	11 100.0%
	その他	2 22.2%	1 11.1%	3 33.3%	1 11.1%	2 22.2%	9 100.0%
	合計	90 19.4%	166 35.7%	160 34.4%	23 4.9%	26 5.6%	465 100.0%

※やや有意差(因果関係)あり(P<0.05)

(2)「QOL」得点群と「パートナーの存在の必要性」とのクロス集計

表 6-1-2 をみると、「QOL」得点群と「パートナーの存在の必要性」との間では、「A: QOL・生活安定度」と「B: QOL・自己研鑽度」において有意な差がみられた。

- ①「QOL・生活安定度」と「パートナーの存在の必要性」との関係では、「生活安定度」が低い人よりも高い人の方が「パートナーの存在の必要性」を感じている傾向が相対的に高い（生活の安定度（経済・対人関係の安定度）が低い人に比べると、生活の安定度が高い人の方が、パートナーの存在を必要だと感じている）ことがわかる。
- ②「QOL・自己研鑽度」と「パートナーの存在の必要性」との関係では、「自己研鑽度」が高い人よりも低い人の方が「パートナーの存在の必要性」を感じている傾向が相対的に高い（趣味や教養・娯楽に充てる時間が長い人に比べると、趣味や教養・娯楽に充てる時間が短い人の方が、パートナーの存在を必要だと感じている）ことがわかる。

表 6-1-2 「QOL」得点群と「パートナーの存在の必要性」とのクロス集計結果

		問 23 中高年世代のパートナーの必要性					合計
		とても必要だ と思う	どちらかと言えば 必要だと思う	どちらとも 言えない	どちらかと言えば 必要と思わない	まったく必要だ と思わない	
A: QOL・ 生活安定 度 (ビン 分割済 み)	低得点群	12 16.4%	23 31.5%	22 30.1%	4 5.5%	12 16.4%	73 100.0%
	低中得点群	20 15.3%	53 40.5%	48 36.6%	6 4.6%	4 3.1%	131 100.0%
	高中得点群	42 23.6%	67 37.6%	57 32.0%	8 4.5%	4 2.2%	178 100.0%
	高得点群	13 19.1%	19 27.9%	27 39.7%	4 5.9%	5 7.4%	68 100.0%
合計		87 19.3%	162 36.0%	154 34.2%	22 4.9%	25 5.6%	450 100.0%

※有意差(因果関係)あり(P<0.01)

		問 23 中高年世代のパートナーの必要性					合計
		とても必要だ と思う	どちらかと言えば 必要だと思う	どちらとも 言えない	どちらかと言えば 必要と思わない	まったく必要だ と思わない	
B: QOL・ 自己研鑽 度 (ビン 分割済 み)	低得点群	15 18.1%	26 31.3%	36 43.4%	4 4.8%	2 2.4%	83 100.0%
	低中得点群	29 19.1%	60 39.5%	50 32.9%	7 4.6%	6 3.9%	152 100.0%
	高中得点群	25 16.3%	66 43.1%	49 32.0%	5 3.3%	8 5.2%	153 100.0%
	高得点群	18 29.0%	10 16.1%	19 30.6%	6 9.7%	9 14.5%	62 100.0%
合計		87 19.3%	162 36.0%	154 34.2%	22 4.9%	25 5.6%	450 100.0%

※有意差(因果関係)あり(P<0.01)

		問 23 中高年世代のパートナーの必要性					合計
		とても必要だ と思う	どちらかと言えば 必要だと思う	どちらとも 言えない	どちらかと言えば 必要と思わない	まったく必要だ と思わない	
C: QOL・ 地域帰属 度 (ビン 分割済 み)	低得点群	15 23.1%	19 29.2%	23 35.4%	4 6.2%	4 6.2%	65 100.0%
	低中得点群	34 21.1%	49 30.4%	57 35.4%	10 6.2%	11 6.8%	161 100.0%
	高中得点群	28 17.8%	63 40.1%	54 34.4%	4 2.5%	8 5.1%	157 100.0%
	高得点群	10 14.9%	31 46.3%	20 29.9%	4 6.0%	2 3.0%	67 100.0%
合計		87 19.3%	162 36.0%	154 34.2%	22 4.9%	25 5.6%	450 100.0%

※有意差(因果関係)なし

		問 23 中高年世代のパートナーの必要性					合計
		とても必要だ と思う	どちらかと言えば 必要だと思う	どちらとも 言えない	どちらかと言えば 必要と思わない	まったく必要だ と思わない	
D: QOL・ 身体健康 度 (ビン 分割済 み)	低得点群	11 15.9%	30 43.5%	20 29.0%	2 2.9%	6 8.7%	69 100.0%
	低中得点群	24 16.2%	50 33.8%	58 39.2%	7 4.7%	9 6.1%	148 100.0%
	高中得点群	37 23.6%	53 33.8%	51 32.5%	10 6.4%	6 3.8%	157 100.0%
	高得点群	15 19.7%	29 38.2%	25 32.9%	3 3.9%	4 5.3%	76 100.0%
合計		87 19.3%	162 36.0%	154 34.2%	22 4.9%	25 5.6%	450 100.0%

※有意差(因果関係)なし

		問 23 中高年世代のパートナーの必要性					合計
		とても必要だ と思う	どちらかと言えば 必要だと思う	どちらとも 言えない	どちらかと言えば 必要と思わない	まったく必要だ と思わない	
E: QOL・ W&L バ ランス度 (ビン分割 済み)	低得点群	24 28.9%	31 37.3%	23 27.7%	3 3.6%	2 2.4%	83 100.0%
	低中得点群	27 18.6%	59 40.7%	40 27.6%	8 5.5%	11 7.6%	145 100.0%
	高中得点群	23 16.0%	48 33.3%	61 42.4%	7 4.9%	5 3.5%	144 100.0%
	高得点群	13 16.7%	24 30.8%	30 38.5%	4 5.1%	7 9.0%	78 100.0%
合計		87 19.3%	162 36.0%	154 34.2%	22 4.9%	25 5.6%	450 100.0%

※有意差(因果関係)なし

(3)「生きがい」得点群と「パートナーの存在の必要性」とのクロス集計

表 6-1-3 をみると、「生きがい」得点群と「パートナーの存在の必要性」との間では、「A：生きがい・他者からの評価」と「B：生きがい・家族との関係」、「C：生きがい・自己満足」のすべてにおいて有意な差がみられた。

- ①「生きがい・他者からの評価」と「パートナーの存在の必要性」との関係では、「他者からの評価」に対する生きがいの度合いが低い人よりも高い人の方が「パートナーの存在の必要性」を感じている傾向が相対的に高い（他者からの評価を生きがいにしていない人に比べると、他者からの評価を生きがいに行している人の方が、パートナーの存在を必要だと感じている）ことがわかる。
- ②「生きがい・家族との関係」と「パートナーの存在の必要性」との関係では、「家族との関係」に対する生きがいの度合いが低い人よりも高い人の方が「パートナーの存在の必要性」を感じている傾向が相対的に高い（家族との関係を生きがいにしていない人に比べると、家族との関係を生きがいに行している人の方が、パートナーの存在を必要だと感じている）ことがわかる。
- ③「生きがい・自己満足」と「パートナーの存在の必要性」との関係では、「自己満足」に対する生きがいの度合いが低い人よりも高い人の方が「パートナーの存在の必要性」を感じている傾向が相対的に高い（ささやかな楽しみを生きがいにしていない人に比べると、ささやかな楽しみを生きがいに行している人の方が、パートナーの存在を必要だと感じている）ことがわかる。

表 6-1-3 「生きがい」得点群と「パートナーの存在の必要性」とのクロス集計結果

		問 23 中高年世代のパートナーの必要性					合計
		とても必要だ と思う	どちらかと言えば 必要だと思う	どちらとも 言えない	どちらかと言えば 必要と思わない	まったく必要だ と思わない	
A: 生きがい・他者からの評価 (ビン分割済み)	低得点群	18 22.2%	18 22.2%	32 39.5%	4 4.9%	9 11.1%	81 100.0%
	低中得点群	12 15.8%	32 42.1%	24 31.6%	3 3.9%	5 6.6%	76 100.0%
	高中得点群	40 17.0%	95 40.4%	79 33.6%	12 5.1%	9 3.8%	235 100.0%
	高得点群	18 33.3%	13 24.1%	21 38.9%	1 1.9%	1 1.9%	54 100.0%
	合計	88 19.7%	158 35.4%	156 35.0%	20 4.5%	24 5.4%	446 100.0%

※やや有意差(因果関係)あり(P<0.05)

		問 23 中高年世代のパートナーの必要性					合計
		とても必要だ と思う	どちらかと言えば 必要だと思う	どちらとも 言えない	どちらかと言えば 必要と思わない	まったく必要だ と思わない	
B: 生きがい・家族との関係 (ビン分割済み)	低得点群	12 21.4%	16 28.6%	17 30.4%	3 5.4%	8 14.3%	56 100.0%
	低中得点群	13 13.1%	34 34.3%	35 35.4%	9 9.1%	8 8.1%	99 100.0%
	高中得点群	55 21.8%	96 38.1%	87 34.5%	8 3.2%	6 2.4%	252 100.0%
	高得点群	8 20.5%	12 30.8%	17 43.6%	0 0.0%	2 5.1%	39 100.0%
	合計	88 19.7%	158 35.4%	156 35.0%	20 4.5%	24 5.4%	446 100.0%

※有意差(因果関係)あり(P<0.01)

		問 23 中高年世代のパートナーの必要性					合計
		とても必要だ と思う	どちらかと言えば 必要だと思う	どちらとも 言えない	どちらかと言えば 必要と思わない	まったく必要だ と思わない	
C: 生きがい・自己満足 (ビン分割済み)	低得点群	4 8.2%	17 34.7%	20 40.8%	2 4.1%	6 12.2%	49 100.0%
	低中得点群	22 13.7%	69 42.9%	58 36.0%	7 4.3%	5 3.1%	161 100.0%
	高中得点群	41 23.6%	55 31.6%	57 32.8%	10 5.7%	11 6.3%	174 100.0%
	高得点群	21 33.9%	17 27.4%	21 33.9%	1 1.6%	2 3.2%	62 100.0%
	合計	88 19.7%	158 35.4%	156 35.0%	20 4.5%	24 5.4%	446 100.0%

※有意差(因果関係)あり(P<0.01)

(4)「幸福度（ウェルビーイング）」得点群と「パートナーの存在の必要性」とのクロス集計

表 6-1-3 をみると、「幸福度（ウェルビーイング）」得点群と「パートナーの存在の必要性」との間では、有意な差がみられ、「幸福度（ウェルビーイング）」が低い人よりも高い人の方が「パートナーの存在の必要性」を感じている傾向が相対的に高い（幸福度が低い人に比べると、幸福度が高い人の方が、パートナーの存在を必要だと感じている） ことがわかる。

表 6-1-4 「幸福度（ウェルビーイング）」得点群と「パートナーの存在の必要性」とのクロス集計結果

		問 23 中高年世代のパートナーの必要性					合計
		とても必要だ と思う	どちらかと言えば 必要だと思う	どちらとも 言えない	どちらかと言えば 必要と思わない	まったく必要だ と思わない	
幸福度得点(平均) (ビン分割済み)	低得点群	9 13.2%	19 27.9%	26 38.2%	4 5.9%	10 14.7%	68 100.0%
	低中得点群	22 17.6%	53 42.4%	43 34.4%	4 3.2%	3 2.4%	125 100.0%
	高中得点群	33 20.0%	63 38.2%	52 31.5%	10 6.1%	7 4.2%	165 100.0%
	高得点群	21 28.4%	19 25.7%	30 40.5%	1 1.4%	3 4.1%	74 100.0%
	合計	85 19.7%	154 35.6%	151 35.0%	19 4.4%	23 5.3%	432 100.0%

※有意差(因果関係)あり(P<0.01)

2. 「(パートナーとの) マッチング支援の必要性」に関する分析

(1) 基本属性と「マッチング支援の必要性」とのクロス集計

表 6-2-1 をみると、基本属性と「マッチング支援の必要性」との間では、「性別」と「世帯類型」において有意な差がみられた。なお、本分析においては、「マッチング支援の必要性」への意識が明確に示されていない「よくわからない」の回答を除外して分析している。

- ①「性別」と「マッチング支援の必要性」との関係では、「女性」よりも「男性」の方が「マッチング支援の必要性」を感じている傾向が相対的にやや高い（女性に比べると、男性の方が、パートナーとの出会いの場を提供する支援を必要だと感じている） ことがわかる。

表 6-2-1 基本属性と「マッチング支援の必要性」とのクロス集計結果

		問 24 出会いの支援の必要性					合計
		とても必要だ と思う	どちらかと言えば 必要だと思う	どちらとも 言えない	どちらかと言えば 必要と思わない	まったく必要だ と思わない	
問 1-① 性別	男性	37 16.9%	83 37.9%	66 30.1%	21 9.6%	12 5.5%	219 100.0%
	女性	21 8.9%	58 24.6%	110 46.6%	24 10.2%	23 9.7%	236 100.0%
合計		58 12.7%	141 31.0%	176 38.7%	45 9.9%	35 7.7%	455 100.0%

※有意差(因果関係)あり(P<0.01)

		問 24 出会いの支援の必要性					合計
		とても必要だ と思う	どちらかと言えば 必要だと思う	どちらとも 言えない	どちらかと言えば 必要と思わない	まったく必要だ と思わない	
問 1-②a 年齢	54 歳未満	8 8.3%	31 32.3%	36 37.5%	12 12.5%	9 9.4%	96 100.0%
	55～59 歳	14 13.0%	42 38.9%	35 32.4%	8 7.4%	9 8.3%	108 100.0%
	60～64 歳	20 15.6%	31 24.2%	53 41.4%	14 10.9%	10 7.8%	128 100.0%
	65 歳以上	16 12.7%	39 31.0%	53 42.1%	11 8.7%	7 5.6%	126 100.0%
	合計	58 12.7%	143 31.2%	177 38.6%	45 9.8%	35 7.6%	458 100.0%

※有意差(因果関係)なし

		問 24 出会いの支援の必要性					合計
		とても必要だ と思う	どちらかと言えば 必要だと思う	どちらとも 言えない	どちらかと言えば 必要と思わない	まったく必要だ と思わない	
問 1-③ 地域	盛岡市	22	43	59	12	11	147
		15.0%	29.3%	40.1%	8.2%	7.5%	100.0%
	一関市	14	32	33	11	8	98
		14.3%	32.7%	33.7%	11.2%	8.2%	100.0%
	宮古市	8	27	37	14	8	94
		8.5%	28.7%	39.4%	14.9%	8.5%	100.0%
	久慈市	13	36	46	7	8	110
		11.8%	32.7%	41.8%	6.4%	7.3%	100.0%
	その他	0	2	1	1	0	4
		0.0%	50.0%	25.0%	25.0%	0.0%	100.0%
合計		57	140	176	45	35	453
		12.6%	30.9%	38.9%	9.9%	7.7%	100.0%

※有意差(因果関係)なし

		問 24 出会いの支援の必要性					合計
		とても必要だ と思う	どちらかと言えば 必要だと思う	どちらとも 言えない	どちらかと言えば 必要と思わない	まったく必要だ と思わない	
問 1-④ 就労状況	正規職員・会社役員等	21	55	66	11	8	161
		13.0%	34.2%	41.0%	6.8%	5.0%	100.0%
	契約社員・派遣社員	6	4	10	4	1	25
		24.0%	16.0%	40.0%	16.0%	4.0%	100.0%
	非正規・非常勤	9	27	38	13	10	97
		9.3%	27.8%	39.2%	13.4%	10.3%	100.0%
	自営業	5	20	15	6	4	50
		10.0%	40.0%	30.0%	12.0%	8.0%	100.0%
	無職	17	35	48	11	11	122
		13.9%	28.7%	39.3%	9.0%	9.0%	100.0%
	その他	0	1	0	0	0	1
		0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
合計		58	142	177	45	34	456
		12.7%	31.1%	38.8%	9.9%	7.5%	100.0%

※有意差(因果関係)なし

		問 24 出会いの支援の必要性					合計
		とても必要だ と思う	どちらかと言えば 必要だと思う	どちらとも 言えない	どちらかと言えば 必要と思わない	まったく必要だ と思わない	
問 1-⑤ 世帯構成	一人暮らし	6	19	30	11	14	80
		7.5%	23.8%	37.5%	13.8%	17.5%	100.0%
	夫婦のみ	27	55	56	9	5	152
		17.8%	36.2%	36.8%	5.9%	3.3%	100.0%
	親子 2 世代(子と同居)	10	37	48	14	7	116
		8.6%	31.9%	41.4%	12.1%	6.0%	100.0%
	親子 2 世代(親と同居)	9	19	28	8	7	71
		12.7%	26.8%	39.4%	11.3%	9.9%	100.0%
	3 世代以上同居(親・子と同居)	2	5	9	2	1	19
		10.5%	26.3%	47.4%	10.5%	5.3%	100.0%
	3 世代以上同居(子・孫と同居)	2	4	2	1	0	9
		22.2%	44.4%	22.2%	11.1%	0.0%	100.0%
	その他	2	3	3	0	1	9
		22.2%	33.3%	33.3%	0.0%	11.1%	100.0%
合計		58	142	176	45	35	456
		12.7%	31.1%	38.6%	9.9%	7.7%	100.0%

※有意差(因果関係)なし

(2)「QOL」得点群と「マッチング支援の必要性」とのクロス集計

表 6-2-2 をみると、「QOL」得点群と「マッチング支援の必要性」との間では、有意な差がみられなかった。

表 6-2-2 「QOL」得点群と「マッチング支援の必要性」とのクロス集計結果

		問 24 出会いの支援の必要性					合計
		とても必要だ と思う	どちらかと言え ば必要だと思う	どちらとも 言えない	どちらかと言え ば必要と思わない	まったく必要だ と思わない	
A: QOL・ 生活安定 度（ビン 分割済 み）	低得点群	5	21	26	8	9	69
		7.2%	30.4%	37.7%	11.6%	13.0%	100.0%
	低中得点群	17	49	49	8	5	128
		13.3%	38.3%	38.3%	6.3%	3.9%	100.0%
	高中得点群	27	48	68	20	12	175
		15.4%	27.4%	38.9%	11.4%	6.9%	100.0%
	高得点群	7	22	25	7	5	66
		10.6%	33.3%	37.9%	10.6%	7.6%	100.0%
合計		56	140	168	43	31	438
		12.8%	32.0%	38.4%	9.8%	7.1%	100.0%

※有意差(因果関係)なし

		問 24 出会いの支援の必要性					合計
		とても必要だ と思う	どちらかと言え ば必要だと思う	どちらとも 言えない	どちらかと言え ば必要だと思わ ない	まったく必要だ と思わない	
B:QOL・ 自己研鑽 度（ビン 分割済 み）	低得点群	12	23	33	7	3	78
		15.4%	29.5%	42.3%	9.0%	3.8%	100.0%
	低中得点群	23	50	51	12	13	149
		15.4%	33.6%	34.2%	8.1%	8.7%	100.0%
	高中得点群	12	53	64	14	7	150
		8.0%	35.3%	42.7%	9.3%	4.7%	100.0%
	高得点群	9	14	20	10	8	61
		14.8%	23.0%	32.8%	16.4%	13.1%	100.0%
合計		56	140	168	43	31	438
		12.8%	32.0%	38.4%	9.8%	7.1%	100.0%

※有意差(因果関係)なし

		問 24 出会いの支援の必要性					合計
		とても必要だ と思う	どちらかと言え ば必要だと思う	どちらとも 言えない	どちらかと言え ば必要と思わない	まったく必要だ と思わない	
C: QOL・ 地域帰属 度（ビン 分割済 み）	低得点群	9	17	27	6	4	63
		14.3%	27.0%	42.9%	9.5%	6.3%	100.0%
	低中得点群	23	50	52	17	14	156
		14.7%	32.1%	33.3%	10.9%	9.0%	100.0%
	高中得点群	17	53	63	13	9	155
		11.0%	34.2%	40.6%	8.4%	5.8%	100.0%
	高得点群	7	20	26	7	4	64
		10.9%	31.3%	40.6%	10.9%	6.3%	100.0%
合計		56	140	168	43	31	438
		12.8%	32.0%	38.4%	9.8%	7.1%	100.0%

※有意差(因果関係)なし

		問 24 出会いの支援の必要性					合計
		とても必要だ と思う	どちらかと言え ば必要だと思う	どちらとも 言えない	どちらかと言え ば必要だと思わ ない	まったく必要だ と思わない	
D: QOL・ 身体健康 度（ビン 分割済 み）	低得点群	10	22	26	3	3	64
		15.6%	34.4%	40.6%	4.7%	4.7%	100.0%
	低中得点群	16	47	51	17	11	142
		11.3%	33.1%	35.9%	12.0%	7.7%	100.0%
	高中得点群	20	53	63	13	8	157
		12.7%	33.8%	40.1%	8.3%	5.1%	100.0%
	高得点群	10	18	28	10	9	75
		13.3%	24.0%	37.3%	13.3%	12.0%	100.0%
合計		56	140	168	43	31	438
		12.8%	32.0%	38.4%	9.8%	7.1%	100.0%

※有意差(因果関係)なし

		問 24 出会いの支援の必要性					合計
		とても必要だ と思う	どちらかと言え ば必要だと思う	どちらとも 言えない	どちらかと言え ば必要と思わない	まったく必要だ と思わない	
E: QOL・ W&L バ ランス度 (ビン分割 済み)	低得点群	15	33	23	7	5	83
		18.1%	39.8%	27.7%	8.4%	6.0%	100.0%
	低中得点群	13	50	51	11	15	140
		9.3%	35.7%	36.4%	7.9%	10.7%	100.0%
	高中得点群	19	35	60	17	7	138
		13.8%	25.4%	43.5%	12.3%	5.1%	100.0%
	高得点群	9	22	34	8	4	77
		11.7%	28.6%	44.2%	10.4%	5.2%	100.0%
合計		56	140	168	43	31	438
		12.8%	32.0%	38.4%	9.8%	7.1%	100.0%

※有意差(因果関係)なし

(3) 「生きがい」得点群と「マッチング支援の必要性」とのクロス集計

表 6-2-3 をみると、「生きがい」得点群と「マッチング支援の必要性」との間では、「B：生きがい・家族との関係」において有意な差がみられた。

- ① 「生きがい・家族との関係」と「マッチング支援の必要性」との関係では、「家族との関係」に対する生きがいの度合いが低い人よりも高い人の方が「パートナーの存在の必要性」を感じている傾向が相対的に高い（家族との関係を生きがいにしていない人に比べると、家族との関係を生きがいにしている人の方が、パートナーとの出会いの場を提供する支援を必要だと感じている）ことがわかる。

表 6-2-3 「生きがい」得点群と「マッチング支援の必要性」とのクロス集計結果

		問 24 出会いの支援の必要性					合計
		とても必要だ と思う	どちらかと言え ば必要だと思う	どちらとも 言えない	どちらかと言え ば必要だと思わ ない	まったく必要だ と思わない	
A: 生きが い・他者 からの評 価（ビン 分割済 み）	低得点群	12	20	30	7	8	77
		15.6%	26.0%	39.0%	9.1%	10.4%	100.0%
	低中得点群	8	22	30	4	7	71
		11.3%	31.0%	42.3%	5.6%	9.9%	100.0%
	高中得点群	24	76	91	30	13	234
		10.3%	32.5%	38.9%	12.8%	5.6%	100.0%
	高得点群	12	18	15	3	5	53
		22.6%	34.0%	28.3%	5.7%	9.4%	100.0%
合計		56	136	166	44	33	435
		12.9%	31.3%	38.2%	10.1%	7.6%	100.0%

※有意差(因果関係)なし

		問 24 出会いの支援の必要性					合計
		とても必要だ と思う	どちらかと言えば 必要だと思う	どちらとも 言えない	どちらかと言えば 必要だと思わない	まったく必要だ と思わない	
B: 生きがい・家族との関係 (ビン分割済み)	低得点群	5	12	20	11	9	57
		8.8%	21.1%	35.1%	19.3%	15.8%	100.0%
	低中得点群	6	29	40	13	10	98
		6.1%	29.6%	40.8%	13.3%	10.2%	100.0%
	高中得点群	37	78	96	18	14	243
		15.2%	32.1%	39.5%	7.4%	5.8%	100.0%
	高得点群	8	17	10	2	0	37
		21.6%	45.9%	27.0%	5.4%	0.0%	100.0%
合計		56	136	166	44	33	435
		12.9%	31.3%	38.2%	10.1%	7.6%	100.0%

※有意差(因果関係)あり(P<0.01)

		問 24 出会いの支援の必要性					合計
		とても必要だ と思う	どちらかと言えば 必要だと思う	どちらとも 言えない	どちらかと言えば 必要だと思わない	まったく必要だ と思わない	
C: 生きがい・自己満足 (ビン分割済み)	低得点群	5	13	20	5	4	47
		10.6%	27.7%	42.6%	10.6%	8.5%	100.0%
	低中得点群	16	50	62	17	8	153
		10.5%	32.7%	40.5%	11.1%	5.2%	100.0%
	高中得点群	18	57	64	19	14	172
		10.5%	33.1%	37.2%	11.0%	8.1%	100.0%
	高得点群	17	16	20	3	7	63
		27.0%	25.4%	31.7%	4.8%	11.1%	100.0%
合計		56	136	166	44	33	435
		12.9%	31.3%	38.2%	10.1%	7.6%	100.0%

※有意差(因果関係)なし

(4) 「幸福度 (ウェルビーイング)」得点群と「マッチング支援の必要性」とのクロス集計

表 6-2-4 をみると、「幸福度 (ウェルビーイング)」得点群と「マッチング支援の必要性」との間では、有意な差がみられ、「幸福度 (ウェルビーイング)」が低い人よりも高い人の方が「パートナーの存在の必要性」を感じている傾向が相対的にやや高い（幸福度が低い人に比べると、幸福度が高い人の方が、パートナーとの出会いの場を提供する支援を必要だと感じている）ことがわかる。

表 6-2-4 「幸福度（ウェルビーイング）」得点群と「マッチング支援の必要性」とのクロス集計結果

		問 24 出会いの支援の必要性					合計
		とても必要だ と思う	どちらかと言えば 必要だと思う	どちらとも 言えない	どちらかと言えば 必要と思わない	まったく必要だ と思わない	
幸福度得点(平均) (ピン分割済み)	低得点群	8	18	26	4	6	62
		12.9%	29.0%	41.9%	6.5%	9.7%	100.0%
	低中得点群	10	51	42	10	8	121
		8.3%	42.1%	34.7%	8.3%	6.6%	100.0%
	高中得点群	24	40	60	25	12	161
		14.9%	24.8%	37.3%	15.5%	7.5%	100.0%
	高得点群	13	25	31	3	3	75
		17.3%	33.3%	41.3%	4.0%	4.0%	100.0%
合計		55	134	159	42	29	419
		13.1%	32.0%	37.9%	10.0%	6.9%	100.0%

※やや有意差(因果関係)あり(P<0.05)

3. 「パートナーの存在の必要性」と「マッチング支援の必要性」に関するまとめ

(1) 「パートナーの存在の必要性」について

表 6-3-1 をみると、「基本属性」と「パートナーの存在の必要性」との間では、5 枠のうち、○が 1 つ、△が 1 つ、×が 3 つとなったため、その人が属するタイプが「パートナーの存在の必要性」という意識への「影響がまったくない」とはいえない。むしろ、属するタイプによってもたらされる「QOL」や「生きがい」といった「生活の質」的な環境や「生きる活力」的な意識が「パートナーの存在の必要性」への意識を左右させているものと推察される。実際に、「QOL」においては、5 枠のうち 2 つが○で、3 つが×という結果となったが、パートナーの存在によって「生活安定度」や「自己研鑽度」が得られているのであれば、「パートナーの存在の必要性」が高まるのは必然的なことである。また、「生きがい」では 3 枠すべてが○となり、「幸福度」も○となった。このことから、「パートナーの存在の必要性」という意識を左右させる要因としては、回答者が今現在、その置かれている状況が影響を及ぼしているものと考えられ、総じて「幸福度」の高低が「パートナーの存在の必要性」に対する意識を左右することが示唆された。

以上の考察から、性別と幸福度（QOL と生きがいの組合せ）が「パートナーの存在の必要性」に強く影響を及ぼしている可能性が示唆されたため、この 3 つの変数を用いてクロス集計（「どちらとも言えない」を除く）をすることにした。その結果が表 6-3-2（表 6-1-4 に「性別」を加えた）ある。表をみると、「男性」においては「幸福度（ウェルビーイング）」の高低に「パートナーの存在の必要性」が関係していないことがわかるが、逆に、「女性」においては「幸福度（ウェルビーイング）」の高低に「パートナーの存在の必要性」が関係していることがわかる。このことから、「男性」は「無条件にパートナーの存在の必要性を高く認識している」のに対して、「女性」は「幸福度の高い人ほどパートナーの存在の必要性を高く認識している」ことがわかる。

表 6-3-1 基本属性・「QOL」・「生きがい」・「幸福度」と「パートナーの存在の必要性」とのクロス集計結果

	基本属性					「QOL」					「生きがい」			「幸福度」
	①性別	②年齢階級	③居住地域	④就労状況	⑤世帯類型	①生活安定度	②自己研鑽度	③地域帰属度	④身体健康度	⑤W & L バランス	①他者からの評価	②家族との関係	③自己満足	
パートナーの存在の必要性	○	×	×	×	△	○	○	×	×	×	○	○	○	○

表 6-3-2 性別・「幸福度（ウェルビーイング）」と「パートナーの存在の必要性」とのクロス集計結果

問 1-①性別			問 23 中高年世代のパートナーの必要性				合計
			とても必要だ と思う	どちらかと言 えば必要だと思 う	どちらかと言 えば必要だと思 わない	まったく必要 だと思わない	
男性	幸福度 得点（平均）（ビ ン 分 割 済み）	低得点群	8 29.6%	16 59.3%	2 7.4%	1 3.7%	27 100.0%
		低中得点群	18 33.3%	33 61.1%	2 3.7%	1 1.9%	54 100.0%
		高中得点群	22 37.9%	33 56.9%	2 3.4%	1 1.7%	58 100.0%
		高得点群	8 57.1%	5 35.7%	0 0.0%	1 7.1%	14 100.0%
	合計		56 36.6%	87 56.9%	6 3.9%	4 2.6%	153 100.0%
女性	幸福度 得点（平均）（ビ ン 分 割 済み）	低得点群	1 6.7%	3 20.0%	2 13.3%	9 60.0%	15 100.0%
		低中得点群	4 14.3%	20 71.4%	2 7.1%	2 7.1%	28 100.0%
		高中得点群	11 20.4%	29 53.7%	8 14.8%	6 11.1%	54 100.0%
		高得点群	13 43.3%	14 46.7%	1 3.3%	2 6.7%	30 100.0%
	合計		29 22.8%	66 52.0%	13 10.2%	19 15.0%	127 100.0%
合計	幸福度 得点（平均）（ビ ン 分 割 済み）	低得点群	9 21.4%	19 45.2%	4 9.5%	10 23.8%	42 100.0%
		低中得点群	22 26.8%	53 64.6%	4 4.9%	3 3.7%	82 100.0%
		高中得点群	33 29.5%	62 55.4%	10 8.9%	7 6.3%	112 100.0%
		高得点群	21 47.7%	19 43.2%	1 2.3%	3 6.8%	44 100.0%
	合計		85 30.4%	153 54.6%	19 6.8%	23 8.2%	280 100.0%

※男性：有意差（因果関係）なし（ $P=0.70$ ）※女性：有意差（因果関係）あり（ $P<0.01$ ）※合計：有意差（因果関係）あり（ $P<0.01$ ）

（２）「マッチング支援の必要性」について

表 6-3-3 をみると、「基本属性」と「マッチング支援の必要性」との間では、5 枠のうち、○が 1 つで、×が 4 つとなったため、その人が属するタイプが「パートナーの存在の必要性」という意識への「影響がまったくない」とはいえない。また、「QOL」と「マッチング支援の必要性」との間では、5 枠のうち、すべてが×となり、「生きがい」と「マッチング支援の必要性」との間では、3 枠のうち、○が 1 つで、×が 2 つとなった。しかし、「幸福度（ウェルビーイング）」と「マッチング支援の必要性」との間では△となったことから、「マッチング支援の必要性」という意識を左右させる要因としては、回答者が今現在、その置かれている状況が影響を及ぼしているものと考えられ、総じて「幸福度」の高低が「パートナーの存在の必要性」に対する意識を少なからず左右することが示唆された。

以上の考察から、性別と幸福度（QOL と生きがい）が「マッチング支援の必要性」に強く影響を及ぼしている可能性が示唆されたため、この 3 つの変数を用いてクロス集計（「どちらとも言えない」を除く）をすることにした。その結果が表 6-3-4（表 6-2-4 に「性別」を加えた）ある。表をみると、「男性」においては「幸福度（ウェルビーイング）」の高低に「マッチング支援の必要性」が関係していないことがわかるが、逆に、「女性」においては「幸福度（ウェルビーイング）」の高低に「マッチング支援の必要性」が関係していることがわかる。このことから、「男性」には「幸福度（ウェルビーイング）」が高い人にも低い人にも「マ

マッチング支援の必要性を高く認識している」人がいるのに対して、「女性」は「幸福度の高い人ほどマッチング支援の必要性を高く認識している」ことがわかる。

表 6-3-3 基本属性・「QOL」・「生きがい」・「幸福度」と「マッチング支援の必要性」とのクロス集計結果

	基本属性					「QOL」					「生きがい」			「幸福度」
	①性別	②年齢階級	③居住地域	④就労状況	⑤世帯類型	①生活安定度	②自己研鑽度	③地域帰属度	④身体健康度	⑤W&Lバランス度	①他者からの評価	②家族との関係	③自己満足	
マッチング支援の必要性	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	△

表 6-3-4 性別・「幸福度（ウェルビーイング）」と「マッチング支援の必要性」とのクロス集計結果

問 1-①性別			問 24 出会いの支援の必要性				合計
			とても必要だ と思う	どちらかと言 えば必要だと思 う	どちらかと言 えば必要だと思 わない	まったく必要 だと思わない	
男性	幸福度得点(平均) (ビン分割済み)	低得点群	7 30.4%	15 65.2%	0 0.0%	1 4.3%	23 100.0%
		低中得点群	7 13.5%	35 67.3%	6 11.5%	4 7.7%	52 100.0%
		高中得点群	16 30.2%	21 39.6%	13 24.5%	3 5.7%	53 100.0%
		高得点群	4 26.7%	7 46.7%	2 13.3%	2 13.3%	15 100.0%
		合計	34 23.8%	78 54.5%	21 14.7%	10 7.0%	143 100.0%
女性	幸福度得点(平均) (ビン分割済み)	低得点群	1 7.7%	3 23.1%	4 30.8%	5 38.5%	13 100.0%
		低中得点群	3 11.1%	16 59.3%	4 14.8%	4 14.8%	27 100.0%
		高中得点群	8 17.0%	18 38.3%	12 25.5%	9 19.1%	47 100.0%
		高得点群	9 31.0%	18 62.1%	1 3.4%	1 3.4%	29 100.0%
		合計	21 18.1%	55 47.4%	21 18.1%	19 16.4%	116 100.0%
合計	幸福度得点(平均) (ビン分割済み)	低得点群	8 22.2%	18 50.0%	4 11.1%	6 16.7%	36 100.0%
		低中得点群	10 12.7%	51 64.6%	10 12.7%	8 10.1%	79 100.0%
		高中得点群	24 24.0%	39 39.0%	25 25.0%	12 12.0%	100 100.0%
		高得点群	13 29.5%	25 56.8%	3 6.8%	3 6.8%	44 100.0%
		合計	55 21.2%	133 51.4%	42 16.2%	29 11.2%	259 100.0%

※男性：有意差（因果関係）なし（P=0.06）

※女性：有意差（因果関係）あり（P<0.01）

※合計：やや有意差（因果関係）あり（P<0.05）

VII 「老後不安」について

1. 基本属性と「老後不安」に関する分析

(1) 性別

表 7-1-1 をみると、性別と「老後不安」との間では、やや有意な差がみられた。「男性」よりも「女性」の方が老後に対する不安がやや高い傾向がみられる（全般的に老後生活に対する不安は強いが、男性に比べると、女性の方が、老後生活への不安を感じている）。

後の「老後不安」の具体的な内容（表 7-4-1）では、「生活資金不足」において約 6 割の人が回答しているが、その内訳をみると、「男性」よりも「女性」の方が 7 ポイントほど高くなったことから、「女性」の「老後不安」を助長しているものの 1 つに「生活資金不足」があることが推察される。

表 7-1-1 性別と「老後不安」とのクロス集計結果

		問 25 老後不安					合計
		大きな期待 をしている	どちらかと言えば 期待している	どちらとも 言えない	どちらかと言えば 不安がある	強い不安が ある	
問 1-① 性別	男性	4 1.7%	27 11.6%	49 21.1%	109 47.0%	43 18.5%	232 100.0%
	女性	6 2.3%	14 5.3%	43 16.3%	132 50.2%	68 25.9%	263 100.0%
合計		10 2.0%	41 8.3%	92 18.6%	241 48.7%	111 22.4%	495 100.0%

※やや有意差(因果関係)あり(P<0.05)

(2) 年齢階級別

表 7-1-2 をみると、年齢階級と「老後不安」との間では、やや有意な差がみられた。「不安がある」の 2 つの列をみると、「強い不安がある」では年齢階級が高くなるほど割合が低下しているのに対して、「どちらかと言えば不安がある」では年齢階級が高くなるほど割合が上昇している（全般的に老後生活に対する不安は強いが、年齢が高い人に比べると、年齢が低い人の方が、老後生活への不安を「強く」感じている）。

後の「老後不安」の具体的な内容（表 7-4-1）では、「生活資金不足」において約 6 割の人が回答しているが、その内訳をみると、「54 歳未満」が「合計」よりも 10 ポイント以上高くなっており、年齢階級が上がるごとに割合が下がっていることから、年齢階級が低くなるほど「生活資金不足」が「老後不安」を助長しているものと推察される。

表 7-1-2 年齢階級と「老後不安」とのクロス集計結果

		問 25 老後不安					合計
		大きな期待 をしている	どちらかと言えば 期待している	どちらとも 言えない	どちらかと言えば 不安がある	強い不安が ある	
問 1-②a 年齢	54 歳未満	3 3.0%	9 9.0%	22 22.0%	39 39.0%	27 27.0%	100 100.0%
	55～59 歳	0 0.0%	12 10.4%	16 13.9%	57 49.6%	30 26.1%	115 100.0%
	60～64 歳	6 4.3%	12 8.7%	21 15.2%	67 48.6%	32 23.2%	138 100.0%
	65 歳以上	1 0.7%	8 5.6%	33 22.9%	79 54.9%	23 16.0%	144 100.0%
	合計	10 2.0%	41 8.2%	92 18.5%	242 48.7%	112 22.5%	497 100.0%

※やや有意差(因果関係)あり(P<0.05)

(3) 居住地域別

表 7-1-3 をみると、居住地域と「老後不安」との間では、有意な差がみられなかった。

表 7-1-3 居住地域と「老後不安」とのクロス集計結果

		問 25 老後不安					合計
		大きな期待 をしている	どちらかと言え ば期待している	どちらとも 言えない	どちらかと言え ば不安がある	強い不安が ある	
問 1-③ 地域	盛岡市	5	16	31	73	37	162
		3.1%	9.9%	19.1%	45.1%	22.8%	100.0%
	一関市	0	7	20	57	22	106
		0.0%	6.6%	18.9%	53.8%	20.8%	100.0%
	宮古市	4	8	15	50	27	104
		3.8%	7.7%	14.4%	48.1%	26.0%	100.0%
	久慈市	1	9	23	57	25	115
		0.9%	7.8%	20.0%	49.6%	21.7%	100.0%
	その他	0	0	3	2	0	5
		0.0%	0.0%	60.0%	40.0%	0.0%	100.0%
合計		10	40	92	239	111	492
		2.0%	8.1%	18.7%	48.6%	22.6%	100.0%

※有意差(因果関係)なし

(4) 就労状況別

表 7-1-4 をみると、就労状況と「老後不安」との間では、有意な差がみられなかった。

表 7-1-4 就労状況と「老後不安」とのクロス集計結果

		問 25 老後不安					合計
		大きな期待 をしている	どちらかと言え ば期待している	どちらとも 言えない	どちらかと言え ば不安がある	強い不安が ある	
問 1-④ 就労状況	正規職員・会社役員 等	2 1.2%	20 11.8%	37 21.9%	75 44.4%	35 20.7%	169 100.0%
	契約社員・派遣社員	2 7.1%	1 3.6%	3 10.7%	15 53.6%	7 25.0%	28 100.0%
	非正規・非常勤	3 3.0%	5 5.0%	13 12.9%	49 48.5%	31 30.7%	101 100.0%
	自営業	1 1.8%	7 12.7%	12 21.8%	29 52.7%	6 10.9%	55 100.0%
	無職	2 1.4%	8 5.7%	26 18.4%	73 51.8%	32 22.7%	141 100.0%
	その他	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	1 100.0%
	合計	10 2.0%	41 8.3%	91 18.4%	242 48.9%	111 22.4%	495 100.0%

※有意差(因果関係)なし

(5) 世帯類型別

表 7-1-5 をみると、世帯類型と「老後不安」との間では、やや有意な差がみられた。「一人暮らし」では「強い不安がある」と「どちらかと言えば不安がある」を合わせると 75.9%、「親子 2 世代（親と同居）」では「強い不安がある」と「どちらかと言えば不安がある」を合わせると 74.3%、「3 世代同居（子・孫と同居）」では「強い不安がある」と「どちらかと言えば不安がある」を合わせると 81.8% となった。このことから、小規模な世帯（一人暮らし）と扶養の必要性の有無が「不安がある」の回答割合を左右させている可能性が示唆される。（全般的に老後生活に対する不安は強いが、他の世帯の人に比べると、一人暮らしの人の方が老後生活への不安を「強く」感じており、家族の扶養の必要性がある人の方が老後生活への不安を感じている割合が高い。）

後の「老後不安」の具体的な内容（表 7-4-1）では、「生活資金不足」において約 6 割の人が回答しているが、その内訳をみると、「一人暮らし」が「合計」よりも 10 ポイント以上高くなっており、「3 世代同居（子・孫と同居）」が「合計」よりも 20 ポイント以上高くなっている。また、「家族の介護」において約 3 割の人が回答しているが、その内訳をみると、「親子 2 世代（親と同居）」が合計よりも 10 ポイント弱高くなっていることから、世帯の規模や類型による経済的な不安と家族扶養上の不安などが「老後不安」を助長しているものと推察される。

表 7-1-5 世帯類型と「老後不安」とのクロス集計結果

		問 25 老後不安					合計
		大きな期待 をしている	どちらかと言えば 期待している	どちらとも 言えない	どちらかと言えば 不安がある	強い不安が ある	
問 1-⑤ 世帯構成	一人暮らし	2 2.4%	3 3.6%	15 18.1%	35 42.2%	28 33.7%	83 100.0%
	夫婦のみ	2 1.1%	16 9.0%	35 19.7%	99 55.6%	26 14.6%	178 100.0%
	親子 2 世代 (子と同居)	4 3.2%	12 9.6%	20 16.0%	54 43.2%	35 28.0%	125 100.0%
	親子 2 世代 (親と同居)	1 1.4%	3 4.3%	14 20.0%	38 54.3%	14 20.0%	70 100.0%
	3 世代以上同居 (親・子と同居)	0 0.0%	6 30.0%	3 15.0%	6 30.0%	5 25.0%	20 100.0%
	3 世代以上同居 (子・孫と同居)	1 9.1%	0 0.0%	1 9.1%	6 54.5%	3 27.3%	11 100.0%
	その他	0 0.0%	1 12.5%	3 37.5%	4 50.0%	0 0.0%	8 100.0%
	合計	10 2.0%	41 8.3%	91 18.4%	242 48.9%	111 22.4%	495 100.0%

※やや有意差(因果関係)あり(P<0.05)

2. 「QOL」得点群と「老後不安」とのクロス集計結果

(1) 「生活安定度」と「老後不安」

表 7-2-1 をみると、「QOL・生活安定度」得点群と「老後不安」との間では、有意な差がみられた。「QOL・生活安定度」得点群が高くなるほど「期待している」の割合が高まる一方で、「QOL・生活安定度」得点群が低くなるほど「不安がある」の割合が高まっている（生活の安定度（経済・対人関係の安定度）が高い人に比べると、生活の安定度が低い人の方が、老後生活への不安を感じている）。

後の「老後不安」の具体的な内容（表 7-4-2）では、「生活資金不足」において約 6 割の人が回答しているが、その内訳をみると、「A：QOL・生活安定度」において、「低得点群」と「低中得点群」が「合計」よりも 10 ポイント以上高くなっており、現在の生活の安定度が将来の「老後不安」を助長しているものと推察される。

表 7-2-1 「QOL・生活安定度」得点群と「老後不安」とのクロス集計結果

		問 25 老後不安					合計
		大きな期待 をしている	どちらかと言えば 期待している	どちらとも 言えない	どちらかと言えば 不安がある	強い不安が ある	
A:QOL・ 生活安定 度（ビン 分割済 み）	低得点群	0 0.0%	0 0.0%	2 2.7%	28 37.3%	45 60.0%	75 100.0%
	低中得点群	1 0.7%	7 4.9%	17 11.9%	73 51.0%	45 31.5%	143 100.0%
	高中得点群	5 2.7%	20 10.6%	45 23.9%	101 53.7%	17 9.0%	188 100.0%
	高得点群	4 5.8%	13 18.8%	22 31.9%	30 43.5%	0 0.0%	69 100.0%
合計		10 2.1%	40 8.4%	86 18.1%	232 48.8%	107 22.5%	475 100.0%

※有意差(因果関係)あり(P<0.01)

(2) 「自己研鑽度」と「老後不安」

表 7-2-2 をみると、「QOL・自己研鑽度」得点群と「老後不安」との間では、有意な差がみられなかった。

表 7-2-2 「QOL・自己研鑽度」得点群と「老後不安」とのクロス集計結果

		問 25 老後不安					合計
		大きな期待 をしている	どちらかと言えば 期待している	どちらとも 言えない	どちらかと言えば 不安がある	強い不安が ある	
B:QOL・ 自己研鑽度（ビン 分割済み）	低得点群	2	9	20	40	13	84
		2.4%	10.7%	23.8%	47.6%	15.5%	100.0%
	低中得点群	1	16	28	76	39	160
		0.6%	10.0%	17.5%	47.5%	24.4%	100.0%
	高中得点群	3	13	30	79	38	163
		1.8%	8.0%	18.4%	48.5%	23.3%	100.0%
	高得点群	4	2	8	37	17	68
		5.9%	2.9%	11.8%	54.4%	25.0%	100.0%
合計		10	40	86	232	107	475
		2.1%	8.4%	18.1%	48.8%	22.5%	100.0%

※有意差(因果関係)なし

(3)「地域帰属度」と「老後不安」

表 7-2-3 をみると、「QOL・地域帰属度」得点群と「老後不安」との間では、有意な差がみられた。「QOL・地域帰属度」得点群が高くなるほど「期待している」の割合が高まる一方で、「QOL・地域帰属度」得点群が低くなるほど「不安がある」の割合が高まっている（地域との関係性が密接な人に比べると、地域との関係が希薄な人の方が、老後生活への不安を感じている）。

後の「老後不安」の具体的な内容（表 7-4-2）では、「生活資金不足」において 57.6%の人が回答しているが、その内訳をみると、「C：QOL・地域帰属度」において、「高得点群」が「合計」よりも 20 ポイント以上高くなっており、現在の地域との関係性（付き合いなど）が今後も維持していけるかどうか、という点が「老後不安」を助長しているものと推察される。

表 7-2-3 「QOL・地域帰属度」得点群と「老後不安」とのクロス集計結果

		問 25 老後不安					合計
		大きな期待 をしている	どちらかと言え ば期待している	どちらとも 言えない	どちらかと言え ば不安がある	強い不安が ある	
C:QOL・ 地域帰属 度（ピン 分割済 み）	低得点群	1	9	17	26	12	65
		1.5%	13.8%	26.2%	40.0%	18.5%	100.0%
	低中得点群	5	10	42	70	40	167
		3.0%	6.0%	25.1%	41.9%	24.0%	100.0%
	高中得点群	2	15	24	99	30	170
		1.2%	8.8%	14.1%	58.2%	17.6%	100.0%
	高得点群	2	6	3	37	25	73
		2.7%	8.2%	4.1%	50.7%	34.2%	100.0%
合計		10	40	86	232	107	475
		2.1%	8.4%	18.1%	48.8%	22.5%	100.0%

※有意差(因果関係)あり(P<0.01)

(4)「身体健康度」と「老後不安」

表 7-2-4 をみると、「QOL・身体健康度」得点群と「老後不安」との間では、有意な差がみられた。「QOL・身体健康度」得点群が高くなるほど「不安がある」の割合が高まっている。

後の「老後不安」の具体的な内容（表 7-4-2）では、「生活資金不足」において 57.6%の人が回答しているが、その内訳をみると、「D：QOL・身体健康度」において、「高得点群」が「合計」よりも 20 ポイント以上高くなっており、現在の健康状態がよい人ほど、健康状態が今後維持できなくなった時に生活資金が不足することを心配している点が「老後不安」を助長しているものと推察される。

表 7-2-4 「QOL・身体健康度」得点群と「老後不安」とのクロス集計結果

		問 25 老後不安					合計
		大きな期待 をしている	どちらかと言えば 期待している	どちらとも 言えない	どちらかと言えば 不安がある	強い不安が ある	
D: QOL・ 身体健康 度 (ビン 分割済 み)	低得点群	1 1.4%	6 8.3%	11 15.3%	38 52.8%	16 22.2%	72 100.0%
	低中得点群	3 1.9%	19 11.9%	40 25.0%	71 44.4%	27 16.9%	160 100.0%
	高中得点群	4 2.4%	12 7.2%	29 17.4%	91 54.5%	31 18.6%	167 100.0%
	高得点群	2 2.6%	3 3.9%	6 7.9%	32 42.1%	33 43.4%	76 100.0%
合計		10 2.1%	40 8.4%	86 18.1%	232 48.8%	107 22.5%	475 100.0%

※有意差(因果関係)あり(P<0.01)

(5) 「ワーク&ライフ・バランス度」と「老後不安」

表 7-2-5 をみると、「QOL・ワーク&ライフ・バランス度」得点群と「老後不安」との間では、有意な差がみられなかった。

表 7-2-5 「QOL・ワーク&ライフ・バランス度」得点群と「老後不安」とのクロス集計結果

		問 25 老後不安					合計
		大きな期待 をしている	どちらかと言えば 期待している	どちらとも 言えない	どちらかと言えば 不安がある	強い不安が ある	
E: QOL・ W&L バ ランス度 (ビン分割 済み)	低得点群	0 0.0%	8 9.6%	13 15.7%	47 56.6%	15 18.1%	83 100.0%
	低中得点群	4 2.7%	14 9.6%	28 19.2%	57 39.0%	43 29.5%	146 100.0%
	高中得点群	5 3.1%	15 9.2%	24 14.7%	82 50.3%	37 22.7%	163 100.0%
	高得点群	1 1.2%	3 3.6%	21 25.3%	46 55.4%	12 14.5%	83 100.0%
合計		10 2.1%	40 8.4%	86 18.1%	232 48.8%	107 22.5%	475 100.0%

※有意差(因果関係)なし

3. 「生きがい」得点群と「老後不安」とのクロス集計結果

(1) 「他者からの評価」と「老後不安」

表 7-3-1 をみると、「生きがい・他者からの評価」得点群と「老後不安」との間では、やや有意な差がみられた。「生きがい・他者からの評価」得点群が高くなるほど「期待している」の割合が高まる一方で、「生きがい・他者からの評価」得点群が低くなるほど「不安である」の割合が高まっている（他者からの評価を生きがいにしている人に比べると、他者からの評価を生きがいにしていない人の方が、老後生活への不安を感じている）。

後の「老後不安」の具体的な内容（表 7-4-2）では、「買い物難民になること」において 5.9%の人が回答しているが、その内訳をみると、「A：生きがい・他者からの評価」得点群において、「低得点群」から「高得点群」にかけて割合が低下している。また、「災害への被災による転居」において 4.4%の人が回答しているが、その内訳をみると、「A：生きがい・他者からの評価」得点群において、「低得点群」から「高得点群」にかけて割合が低下している。「他者からの評価」を生きがいにしている人ほど、自身が弱い立場になった時に自尊心を保てるかどうか、という点が「老後不安」をやや助長しているものと推察される。

表 7-3-1 「生きがい・他者からの評価」と「老後不安」とのクロス集計結果

		問 25 老後不安					合計
		大きな期待 をしている	どちらかと言えば 期待している	どちらとも 言えない	どちらかと言えば 不安がある	強い不安が ある	
A: 生きがい・他者からの評価 (ピン分割済み)	低得点群	0 0.0%	6 7.0%	14 16.3%	42 48.8%	24 27.9%	86 100.0%
	低中得点群	2 2.3%	4 4.5%	13 14.8%	41 46.6%	28 31.8%	88 100.0%
	高中得点群	7 2.8%	20 8.1%	46 18.7%	129 52.4%	44 17.9%	246 100.0%
	高得点群	1 1.9%	11 20.4%	12 22.2%	17 31.5%	13 24.1%	54 100.0%
	合計	10 2.1%	41 8.6%	85 17.9%	229 48.3%	109 23.0%	474 100.0%

※やや有意差(因果関係)あり(P<0.05)

(2) 「家族との関係」と「老後不安」

表 7-3-2 をみると、「生きがい・家族との関係」得点群と「老後不安」との間では、有意な差がみられなかった。

表 7-3-2 「生きがい・家族との関係」と「老後不安」とのクロス集計結果

		問 25 老後不安					合計
		大きな期待 をしている	どちらかと言えば 期待している	どちらとも 言えない	どちらかと言えば 不安がある	強い不安が ある	
B: 生きがい・家族との関係 (ピン分割済み)	低得点群	1 1.6%	3 4.7%	11 17.2%	29 45.3%	20 31.3%	64 100.0%
	低中得点群	2 1.9%	4 3.9%	19 18.4%	48 46.6%	30 29.1%	103 100.0%
	高中得点群	6 2.3%	29 11.0%	45 17.0%	131 49.6%	53 20.1%	264 100.0%
	高得点群	1 2.3%	5 11.6%	10 23.3%	21 48.8%	6 14.0%	43 100.0%
	合計	10 2.1%	41 8.6%	85 17.9%	229 48.3%	109 23.0%	474 100.0%

※有意差(因果関係)なし

(3) 「自己満足」と「老後不安」

表 7-3-3 をみると、「生きがい・自己満足」得点群と「老後不安」との間では、やや有意な差がみられた。「生きがい・自己満足」得点群が高くなるほど「期待している」の割合が高まる一方で、「生きがい・自己満足」得点群が低くなるほど「不安である」の割合が高まっている(ささやかな楽しみを生きがいにしていない人に比べると、ささやかな楽しみを生きがいにしていない人の方が、老後生活への不安を感じている)。

後の「老後不安」の具体的な内容(表 7-4-2)では、「生活資金不足」において 57.6%の人が回答しているが、その内訳をみると、「C: 生きがい・自己満足」得点群において、「低得点群」から「高得点群」にかけて割合が低下していることから、「自己満足」を生きがいにしていない人ほど、「自己満足」を得るための生活資金が必要となる点が「老後不安」をやや助長しているものと推察される。

表 7-3-3 「生きがい・自己満足」と「老後不安」とのクロス集計結果

		問 25 老後不安					合計
		大きな期待 をしている	どちらかと言えば 期待している	どちらとも 言えない	どちらかと言えば 不安がある	強い不安が ある	
C: 生きがい・自己満足 (ピン分割済み)	低得点群	0 0.0%	2 3.5%	11 19.3%	27 47.4%	17 29.8%	57 100.0%
	低中得点群	4 2.4%	8 4.8%	30 17.9%	80 47.6%	46 27.4%	168 100.0%
	高中得点群	2 1.1%	21 11.4%	31 16.8%	96 51.9%	35 18.9%	185 100.0%
	高得点群	4 6.3%	10 15.6%	13 20.3%	26 40.6%	11 17.2%	64 100.0%
	合計	10 2.1%	41 8.6%	85 17.9%	229 48.3%	109 23.0%	474 100.0%

※やや有意差(因果関係)あり(P<0.05)

(4)「幸福度」得点群と「老後不安」とのクロス集計結果

表 7-3-4 をみると、「幸福度（ウェルビーイング）」得点群と「老後不安」との間では、有意な差がみられなかった。このことから、現在の「幸福度」が必ずしも将来の生活に対する不安を取り除く要素にはなっていないことが示唆される。

表 7-3-4 「幸福度（ウェルビーイング）」得点群と「老後不安」とのクロス集計結果

		問 25 老後不安					合計
		大きな期待を している	どちらかと 言えば期待 をしている	どちらとも言 えない	どちらかと言 えば不安があ る	強い不安があ る	
幸福度得 点(平均) (ビン分割 済み)	低得点群	0	7	12	28	23	70
		0.0%	10.0%	17.1%	40.0%	32.9%	100.0%
	低中得点群	2	9	23	64	37	135
		1.5%	6.7%	17.0%	47.4%	27.4%	100.0%
	高中得点群	3	13	33	91	32	172
		1.7%	7.6%	19.2%	52.9%	18.6%	100.0%
	高得点群	5	11	12	38	13	79
		6.3%	13.9%	15.2%	48.1%	16.5%	100.0%
合計		10	40	80	221	105	456
		2.2%	8.8%	17.5%	48.5%	23.0%	100.0%

※有意差(因果関係)なし

4. 「老後不安」の具体的な内容に関する分析

問 26 では、「70 歳以後の生活を想定した時に、どのようなことに心配がありますか。当てはまるものを3つまで選んで○をつけてください。」という設問を立て、15 個の回答項目を設定した。問 26 の項目を従属変数にし、回答者の基本属性(問 1)と「QOL」得点群および「生きがい」得点群の項目を独立変数にして分析した結果が、表 7-4-1 から表 7-4-2 である。表中の網掛けのうち、青(■)は「肯定的」な乖離(「合計」から 10 ポイント以上差がある)とし、赤(■)は「否定的」な乖離(「合計」から 10 ポイント以上差がある)とする。また、黄(■)は「評価が難しい」乖離(「合計」から 10 ポイント以上差がある)として扱うこととする。

なお、本項については、他の分析の参考とするために行ったものであるため、具体的な分析結果の叙述は割愛する。

表 7-4-1 基本属性と「老後不安」の具体的な内容とのクロス集計結果

		問 26 の 1～15(老後不安)								合計
		問 26-1: 心配は ない	問 26-2: 生活資 金不足	問 26-3: 自身の 傷病	問 26-4: 家族の 傷病	問 26-5: 自身の 介護	問 26-6: 家族の 介護	問 26-7: 自身の 認知症	問 26-8: 家族の 認知症	
合計		15 2.9%	296 57.4%	311 60.3%	171 33.1%	231 44.8%	135 26.2%	193 37.4%	57 11.0%	516 -
問 1-① 性別	男性	6 2.5%	127 53.4%	149 62.6%	86 36.1%	115 48.3%	68 28.6%	76 31.9%	25 10.5%	238 -
	女性	9 3.3%	167 60.7%	162 58.9%	85 30.9%	115 41.8%	66 24.0%	115 41.8%	32 11.6%	275 -
問 1-② 年齢	54 歳未満	3 2.9%	74 71.8%	66 64.1%	35 34.0%	42 40.8%	32 31.1%	41 39.8%	19 18.4%	103 -
	55～59 歳	2 1.6%	77 63.1%	64 52.5%	40 32.8%	61 50.0%	39 32.0%	50 41.0%	18 14.8%	122 -
	60～64 歳	3 2.1%	73 51.8%	93 66.0%	42 29.8%	59 41.8%	35 24.8%	53 37.6%	7 5.0%	141 -
	65 歳以上	7 4.7%	72 48.0%	88 58.7%	54 36.0%	69 46.0%	29 19.3%	49 32.7%	13 8.7%	150 -
問 1-③ 地域	盛岡市	4 2.4%	83 50.0%	96 57.8%	65 39.2%	87 52.4%	48 28.9%	64 38.6%	21 12.7%	166 -
	一関市	3 2.7%	63 57.3%	66 60.0%	38 34.5%	36 32.7%	33 30.0%	40 36.4%	10 9.1%	110 -
	宮古市	5 4.6%	68 63.0%	68 63.0%	35 32.4%	43 39.8%	21 19.4%	42 38.9%	10 9.3%	108 -
	久慈市	3 2.5%	76 62.3%	74 60.7%	29 23.8%	62 50.8%	33 27.0%	44 36.1%	14 11.5%	122 -
	その他	0 0.0%	2 40.0%	4 80.0%	3 60.0%	2 40.0%	0 0.0%	1 20.0%	0 0.0%	5 -
問 1-④ 就労 状況	正規職員・ 会社役員等	1 0.6%	108 61.7%	108 61.7%	66 37.7%	76 43.4%	56 32.0%	70 40.0%	27 15.4%	175 -
	契約社員・ 派遣社員	1 3.6%	18 64.3%	13 46.4%	6 21.4%	13 46.4%	11 39.3%	8 28.6%	2 7.1%	28 -
	非正規・ 非常勤	6 5.7%	67 63.2%	67 63.2%	27 25.5%	50 47.2%	22 20.8%	42 39.6%	6 5.7%	106 -
	自営業	0 0.0%	28 50.0%	35 62.5%	22 39.3%	25 44.6%	14 25.0%	20 35.7%	6 10.7%	56 -
	無職	7 4.8%	73 49.7%	85 57.8%	49 33.3%	65 44.2%	31 21.1%	52 35.4%	16 10.9%	147 -
	その他	0 0.0%	1 50.0%	1 50.0%	0 0.0%	1 50.0%	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 -
問 1-⑤ 世帯 構成	一人暮らし	4 4.6%	62 71.3%	57 65.5%	6 6.9%	45 51.7%	6 6.9%	32 36.8%	3 3.4%	87 -
	夫婦のみ	2 1.1%	88 48.9%	106 58.9%	81 45.0%	81 45.0%	55 30.6%	70 38.9%	21 11.7%	180 -
	親子 2 世代 (子と同居)	5 3.9%	72 56.3%	79 61.7%	43 33.6%	53 41.4%	37 28.9%	48 37.5%	20 15.6%	128 -
	親子 2 世代 (親と同居)	1 1.3%	47 61.8%	41 53.9%	26 34.2%	32 42.1%	27 35.5%	26 34.2%	8 10.5%	76 -
	3 世代以上同居 (親・子と同居)	3 14.3%	11 52.4%	14 66.7%	8 38.1%	10 47.6%	6 28.6%	5 23.8%	4 19.0%	21 -
	3 世代以上同居 (子・孫と同居)	0 0.0%	10 83.3%	8 66.7%	3 25.0%	6 50.0%	2 16.7%	5 41.7%	1 8.3%	12 -
	その他	0 0.0%	5 50.0%	6 60.0%	3 30.0%	4 40.0%	2 20.0%	5 50.0%	0 0.0%	10 -

表 7-4-1 基本属性と「老後不安」の具体的な内容とのクロス集計結果（続き）

		問 26 の 1～15(老後不安)							合計
		問 26-9 : 自身の自動車 の運転で事故	問 26-10 : 自動車が運 転できなくな ること	問 26-11 : 買い物難 民になるこ と	問 26-12 : 犯罪に巻 き込まれる こと	問 26-13 : 災害への 被災によ る転居	問 26-14 : 人間関係 が希薄に なること	問 26-15 : その他	
合計		17 3.3%	66 12.8%	30 5.8%	9 1.7%	24 4.7%	32 6.2%	6 1.2%	516 －
問 1-① 性別	男性	9 3.8%	33 13.9%	9 3.8%	3 1.3%	13 5.5%	18 7.6%	1 .4%	238 －
		8 2.9%	33 12.0%	20 7.3%	6 2.2%	11 4.0%	14 5.1%	5 1.8%	275 －
	女性	8 2.9%	33 12.0%	20 7.3%	6 2.2%	11 4.0%	14 5.1%	5 1.8%	275 －
		4 3.9%	11 10.7%	4 3.9%	2 1.9%	2 1.9%	5 4.9%	1 1.0%	103 －
問 1-② 年齢	54 歳未満	4 3.9%	11 10.7%	4 3.9%	2 1.9%	2 1.9%	5 4.9%	1 1.0%	103 －
		4 3.3%	7 5.7%	10 8.2%	2 1.6%	7 5.7%	10 8.2%	1 .8%	122 －
		2 1.4%	15 10.6%	10 7.1%	3 2.1%	8 5.7%	5 3.5%	3 2.1%	141 －
		7 4.7%	33 22.0%	6 4.0%	2 1.3%	7 4.7%	12 8.0%	1 .7%	150 －
問 1-③ 地域	盛岡市	4 2.4%	14 8.4%	6 3.6%	1 .6%	3 1.8%	10 6.0%	1 .6%	166 －
		2 1.8%	19 17.3%	7 6.4%	3 2.7%	3 2.7%	3 2.7%	2 1.8%	110 －
		3 2.8%	15 13.9%	12 11.1%	4 3.7%	10 9.3%	10 9.3%	1 .9%	108 －
		8 6.6%	17 13.9%	5 4.1%	1 .8%	8 6.6%	7 5.7%	1 .8%	122 －
		0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 20.0%	1 20.0%	5 －
		4 2.3%	11 6.3%	10 5.7%	4 2.3%	6 3.4%	12 6.9%	2 1.1%	175 －
問 1-④ 就労状 況	正規職員・ 会社役員等	1 3.6%	10 35.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 7.1%	0 0.0%	28 －
		4 3.8%	18 17.0%	7 6.6%	1 .9%	5 4.7%	7 6.6%	0 0.0%	106 －
		4 7.1%	10 17.9%	2 3.6%	1 1.8%	5 8.9%	3 5.4%	0 0.0%	56 －
		4 2.7%	16 10.9%	11 7.5%	3 2.0%	8 5.4%	7 4.8%	4 2.7%	147 －
		0 0.0%	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 50.0%	0 0.0%	2 －
		3 3.4%	13 14.9%	9 10.3%	3 3.4%	6 6.9%	13 14.9%	1 1.1%	87 －
問 1-⑤ 世帯構 成	一人暮らし	5 2.8%	23 12.8%	11 6.1%	2 1.1%	6 3.3%	8 4.4%	4 2.2%	180 －
		3 2.3%	16 12.5%	5 3.9%	2 1.6%	5 3.9%	7 5.5%	1 .8%	128 －
		4 5.3%	10 13.2%	5 6.6%	1 1.3%	5 6.6%	2 2.6%	0 0.0%	76 －
		1 4.8%	2 9.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 4.8%	0 0.0%	21 －
		0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 8.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	12 －
		1 10.0%	1 10.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 20.0%	0 0.0%	0 0.0%	10 －
		3 2.3%	16 12.5%	5 3.9%	2 1.6%	5 3.9%	7 5.5%	1 .8%	128 －
		4 5.3%	10 13.2%	5 6.6%	1 1.3%	5 6.6%	2 2.6%	0 0.0%	76 －

表 7-4-2 「QOL」・「生きがい」と「老後不安」の具体的な内容とのクロス集計結果

		問 26 老後不安の具体的な内容*								合計
		問 26-1: 心配は ない	問 26-2: 生活資 金不足	問 26-3: 自身の 傷病	問 26-4: 家族の 傷病	問 26-5: 自身の 介護	問 26-6: 家族の 介護	問 26-7: 自身の 認知症	問 26-8: 家族の 認知症	
合計		14 2.8%	285 57.6%	299 60.4%	170 34.3%	222 44.8%	130 26.3%	188 38.0%	56 11.3%	495 100.0%
A: QOL・ 生活安定 度 (ビン 分 割 済 み)	低得点群	2 2.5%	67 84.8%	51 64.6%	15 19.0%	32 40.5%	11 13.9%	25 31.6%	4 5.1%	79 -
	低中得点群	1 .7%	109 71.7%	89 58.6%	50 32.9%	65 42.8%	45 29.6%	54 35.5%	20 13.2%	152 -
	高中得点群	8 4.2%	92 48.2%	106 55.5%	69 36.1%	90 47.1%	54 28.3%	81 42.4%	24 12.6%	191 -
	高得点群	3 4.1%	17 23.3%	53 72.6%	36 49.3%	35 47.9%	20 27.4%	28 38.4%	8 11.0%	73 -
B: QOL・ 自己研鑽 度 (ビン 分 割 済 み)	低得点群	2 2.3%	45 51.7%	53 60.9%	42 48.3%	41 47.1%	28 32.2%	38 43.7%	14 16.1%	87 -
	低中得点群	3 1.8%	97 58.1%	105 62.9%	53 31.7%	75 44.9%	59 35.3%	66 39.5%	26 15.6%	167 -
	高中得点群	5 3.0%	93 55.0%	97 57.4%	56 33.1%	74 43.8%	31 18.3%	55 32.5%	14 8.3%	169 -
	高得点群	4 5.6%	50 69.4%	44 61.1%	19 26.4%	32 44.4%	12 16.7%	29 40.3%	2 2.8%	72 -
C: QOL・ 地域帰属 度 (ビン 分 割 済 み)	低得点群	3 4.2%	36 50.7%	47 66.2%	25 35.2%	27 38.0%	14 19.7%	22 31.0%	9 12.7%	71 -
	低中得点群	3 1.7%	86 50.0%	102 59.3%	56 32.6%	82 47.7%	53 30.8%	68 39.5%	18 10.5%	172 -
	高中得点群	6 3.4%	99 56.3%	106 60.2%	60 34.1%	86 48.9%	43 24.4%	77 43.8%	22 12.5%	176 -
	高得点群	2 2.6%	64 84.2%	44 57.9%	29 38.2%	27 35.5%	20 26.3%	21 27.6%	7 9.2%	76 -
D: QOL・ 身体健康 度 (ビン 分 割 済 み)	低得点群	3 4.0%	32 42.7%	39 52.0%	30 40.0%	33 44.0%	20 26.7%	28 37.3%	13 17.3%	75 -
	低中得点群	4 2.4%	75 45.2%	102 61.4%	61 36.7%	78 47.0%	44 26.5%	68 41.0%	16 9.6%	166 -
	高中得点群	6 3.4%	113 64.6%	108 61.7%	64 36.6%	80 45.7%	45 25.7%	68 38.9%	19 10.9%	175 -
	高得点群	1 1.3%	65 82.3%	50 63.3%	15 19.0%	31 39.2%	21 26.6%	24 30.4%	8 10.1%	79 -
E: QOL・ W&Lバ ランス 度 (ビン 分 割 済 み)	低得点群	1 1.2%	53 61.6%	62 72.1%	33 38.4%	37 43.0%	24 27.9%	27 31.4%	8 9.3%	86 -
	低中得点群	4 2.6%	95 62.1%	95 62.1%	49 32.0%	71 46.4%	37 24.2%	52 34.0%	16 10.5%	153 -
	高中得点群	3 1.8%	99 58.9%	94 56.0%	58 34.5%	73 43.5%	45 26.8%	70 41.7%	20 11.9%	168 -
	高得点群	6 6.8%	38 43.2%	48 54.5%	30 34.1%	41 46.6%	24 27.3%	39 44.3%	12 13.6%	88 -
A: 生きが い・他者 からの 評価 (ビン 分 割 済 み)	低得点群	3 3.3%	50 54.3%	49 53.3%	23 25.0%	46 50.0%	19 20.7%	35 38.0%	8 8.7%	92 -
	低中得点群	1 1.1%	63 70.0%	61 67.8%	30 33.3%	36 40.0%	20 22.2%	37 41.1%	6 6.7%	90 -
	高中得点群	8 3.2%	137 54.2%	153 60.5%	92 36.4%	117 46.2%	73 28.9%	88 34.8%	35 13.8%	253 -
	高得点群	2 3.5%	34 59.6%	34 59.6%	19 33.3%	22 38.6%	18 31.6%	23 40.4%	7 12.3%	57 -
B: 生きが い・家族 との関 係 (ビン 分 割 済 み)	低得点群	3 4.5%	50 74.6%	40 59.7%	6 9.0%	40 59.7%	8 11.9%	30 44.8%	5 7.5%	67 -
	低中得点群	3 2.8%	68 63.0%	65 60.2%	29 26.9%	47 43.5%	26 24.1%	41 38.0%	6 5.6%	108 -
	高中得点群	7 2.6%	140 51.1%	169 61.7%	112 40.9%	114 41.6%	85 31.0%	93 33.9%	40 14.6%	274 -
	高得点群	1 2.3%	26 60.5%	23 53.5%	17 39.5%	20 46.5%	11 25.6%	19 44.2%	5 11.6%	43 -
C: 生きが い・自己 満足 (ビン 分 割 済 み)	低得点群	3 5.1%	45 76.3%	30 50.8%	14 23.7%	31 52.5%	11 18.6%	23 39.0%	6 10.2%	59 -
	低中得点群	4 2.3%	98 57.0%	108 62.8%	68 39.5%	70 40.7%	52 30.2%	58 33.7%	17 9.9%	172 -
	高中得点群	2 1.0%	112 58.0%	114 59.1%	63 32.6%	89 46.1%	47 24.4%	76 39.4%	26 13.5%	193 -
	高得点群	5 7.4%	29 42.6%	45 66.2%	19 27.9%	31 45.6%	20 29.4%	26 38.2%	7 10.3%	68 -

表 7-4-2 「QOL」・「生きがい」と「老後不安」の具体的な内容とのクロス集計結果（続き）

		問 26 老後不安の具体的な内容*							合計
		問 26-9: 自身の自動車の運転で事故	問 26-10: 自動車が運転できなくなること	問 26-11: 買い物難民になること	問 26-12: 犯罪に巻き込まれること	問 26-13: 災害への被災による転居	問 26-14: 人間関係が希薄になること	問 26-15: その他	
合計		16 3.2%	61 12.3%	29 5.9%	9 1.8%	22 4.4%	29 5.9%	6 1.2%	495 100.0%
A: QOL・生活安定度 (ビン分割済み)	低得点群	1 1.3%	8 10.1%	8 10.1%	1 1.3%	4 5.1%	8 10.1%	0 0.0%	79 -
		2 1.3%	19 12.5%	13 8.6%	5 3.3%	11 7.2%	10 6.6%	0 0.0%	152 -
	低中得点群	7 3.7%	24 12.6%	5 2.6%	2 1.0%	5 2.6%	10 5.2%	4 2.1%	191 -
		6 8.2%	10 13.7%	3 4.1%	1 1.4%	2 2.7%	1 1.4%	2 2.7%	73 -
	高中得点群	4 4.6%	8 9.2%	5 5.7%	3 3.4%	4 4.6%	5 5.7%	0 0.0%	87 -
		3 1.8%	18 10.8%	10 6.0%	0 0.0%	6 3.6%	11 6.6%	1 .6%	167 -
	高得点群	5 3.0%	27 16.0%	9 5.3%	3 1.8%	9 5.3%	10 5.9%	3 1.8%	169 -
		4 5.6%	8 11.1%	5 6.9%	3 4.2%	3 4.2%	3 4.2%	2 2.8%	72 -
B: QOL・自己研鑽度 (ビン分割済み)	低得点群	1 1.4%	4 5.6%	6 8.5%	1 1.4%	4 5.6%	3 4.2%	1 1.4%	71 -
		6 3.5%	22 12.8%	11 6.4%	4 2.3%	6 3.5%	15 8.7%	2 1.2%	172 -
	低中得点群	7 4.0%	24 13.6%	8 4.5%	4 2.3%	7 4.0%	7 4.0%	3 1.7%	176 -
		2 2.6%	11 14.5%	4 5.3%	0 0.0%	5 6.6%	4 5.3%	0 0.0%	76 -
	高中得点群	3 4.0%	10 13.3%	5 6.7%	3 4.0%	7 9.3%	5 6.7%	0 0.0%	75 -
		4 2.4%	17 10.2%	7 4.2%	4 2.4%	7 4.2%	8 4.8%	2 1.2%	166 -
	高得点群	8 4.6%	27 15.4%	10 5.7%	2 1.1%	5 2.9%	9 5.1%	3 1.7%	175 -
		1 1.3%	7 8.9%	7 8.9%	0 0.0%	3 3.8%	7 8.9%	1 1.3%	79 -
C: QOL・地域帰属度 (ビン分割済み)	低得点群	2 2.3%	12 14.0%	5 5.8%	2 2.3%	2 2.3%	2 2.3%	0 0.0%	86 -
		6 3.9%	17 11.1%	9 5.9%	3 2.0%	12 7.8%	4 2.6%	2 1.3%	153 -
	低中得点群	6 3.6%	21 12.5%	6 3.6%	3 1.8%	5 3.0%	14 8.3%	3 1.8%	168 -
		2 2.3%	11 12.5%	9 10.2%	1 1.1%	3 3.4%	9 10.2%	1 1.1%	88 -
	高中得点群	2 2.2%	11 12.0%	10 10.9%	2 2.2%	9 9.8%	6 6.5%	1 1.1%	92 -
		2 2.2%	13 14.4%	5 5.6%	4 4.4%	4 4.4%	5 5.6%	0 0.0%	90 -
	高得点群	10 4.0%	33 13.0%	11 4.3%	2 .8%	9 3.6%	15 5.9%	5 2.0%	253 -
		2 3.5%	5 8.8%	2 3.5%	1 1.8%	1 1.8%	3 5.3%	0 0.0%	57 -
D: QOL・身体健康度 (ビン分割済み)	低得点群	2 3.0%	9 13.4%	7 10.4%	4 6.0%	6 9.0%	7 10.4%	0 0.0%	67 -
		1 .9%	16 14.8%	9 8.3%	1 .9%	5 4.6%	7 6.5%	2 1.9%	108 -
	低中得点群	11 4.0%	33 12.0%	9 3.3%	3 1.1%	12 4.4%	10 3.6%	3 1.1%	274 -
		2 4.7%	4 9.3%	3 7.0%	1 2.3%	0 0.0%	5 11.6%	1 2.3%	43 -
	高中得点群	0 0.0%	5 8.5%	2 3.4%	3 5.1%	6 10.2%	2 3.4%	0 0.0%	59 -
		4 2.3%	27 15.7%	12 7.0%	1 .6%	7 4.1%	12 7.0%	0 0.0%	172 -
	高得点群	9 4.7%	22 11.4%	8 4.1%	3 1.6%	5 2.6%	13 6.7%	4 2.1%	193 -
		3 4.4%	8 11.8%	6 8.8%	2 2.9%	5 7.4%	2 2.9%	2 2.9%	68 -
E: QOL・W&L バランス度 (ビン分割済み)	低得点群	2 2.2%	11 12.0%	10 10.9%	2 2.2%	9 9.8%	6 6.5%	1 1.1%	92 -
		2 2.2%	13 14.4%	5 5.6%	4 4.4%	4 4.4%	5 5.6%	0 0.0%	90 -
	低中得点群	10 4.0%	33 13.0%	11 4.3%	2 .8%	9 3.6%	15 5.9%	5 2.0%	253 -
		2 3.5%	5 8.8%	2 3.5%	1 1.8%	1 1.8%	3 5.3%	0 0.0%	57 -
	高中得点群	2 3.0%	9 13.4%	7 10.4%	4 6.0%	6 9.0%	7 10.4%	0 0.0%	67 -
		1 .9%	16 14.8%	9 8.3%	1 .9%	5 4.6%	7 6.5%	2 1.9%	108 -
	高得点群	11 4.0%	33 12.0%	9 3.3%	3 1.1%	12 4.4%	10 3.6%	3 1.1%	274 -
		2 4.7%	4 9.3%	3 7.0%	1 2.3%	0 0.0%	5 11.6%	1 2.3%	43 -
F: QOL・生きがい・他者からの評価 (ビン分割済み)	低得点群	0 0.0%	5 8.5%	2 3.4%	3 5.1%	6 10.2%	2 3.4%	0 0.0%	59 -
		4 2.3%	27 15.7%	12 7.0%	1 .6%	7 4.1%	12 7.0%	0 0.0%	172 -
	低中得点群	9 4.7%	22 11.4%	8 4.1%	3 1.6%	5 2.6%	13 6.7%	4 2.1%	193 -
		3 4.4%	8 11.8%	6 8.8%	2 2.9%	5 7.4%	2 2.9%	2 2.9%	68 -
	高中得点群	0 0.0%	5 8.5%	2 3.4%	3 5.1%	6 10.2%	2 3.4%	0 0.0%	59 -
		4 2.3%	27 15.7%	12 7.0%	1 .6%	7 4.1%	12 7.0%	0 0.0%	172 -
	高得点群	9 4.7%	22 11.4%	8 4.1%	3 1.6%	5 2.6%	13 6.7%	4 2.1%	193 -
		3 4.4%	8 11.8%	6 8.8%	2 2.9%	5 7.4%	2 2.9%	2 2.9%	68 -
G: QOL・生きがい・自己満足 (ビン分割済み)	低得点群	0 0.0%	5 8.5%	2 3.4%	3 5.1%	6 10.2%	2 3.4%	0 0.0%	59 -
		4 2.3%	27 15.7%	12 7.0%	1 .6%	7 4.1%	12 7.0%	0 0.0%	172 -
	低中得点群	9 4.7%	22 11.4%	8 4.1%	3 1.6%	5 2.6%	13 6.7%	4 2.1%	193 -
		3 4.4%	8 11.8%	6 8.8%	2 2.9%	5 7.4%	2 2.9%	2 2.9%	68 -
	高中得点群	0 0.0%	5 8.5%	2 3.4%	3 5.1%	6 10.2%	2 3.4%	0 0.0%	59 -
		4 2.3%	27 15.7%	12 7.0%	1 .6%	7 4.1%	12 7.0%	0 0.0%	172 -
	高得点群	9 4.7%	22 11.4%	8 4.1%	3 1.6%	5 2.6%	13 6.7%	4 2.1%	193 -
		3 4.4%	8 11.8%	6 8.8%	2 2.9%	5 7.4%	2 2.9%	2 2.9%	68 -

5. 「老後不安」に関するまとめ

表 7-5-1 をみると、「基本属性」と「老後不安」との間では、5 枠のうち、○がなく、△が3つ、×が2つとなったため、その人が属するタイプが「老後不安」という意識への「影響がまったくない」とはいえない。むしろ、属するタイプによってもたらされる「QOL」や「生きがい」といった「生活の質」的な環境や「生きる活力」的な意識が「老後不安」への意識を左右させているものと推察される。

実際に、「QOL」においては、5 枠のうち3つが○で、2つが×という結果となったが、○が付いた「生活安定度」、「地域帰属度」、「身体健康度」がそのまま「老後不安」に直結する場合がある一方で、「現在はよくても将来がどうなるかわからない」といった不透明感があらわれている部分もある。また、「生きがい」においては、3 枠のうち2つが△で、1つが×という結果となったが、ある程度は「気持ちの持ちよう」とはいえ、「生きがい」を持って生きていくためにも物理的な生活基盤は必要であり、「気持ちだけでは乗り切れない」ことがあらわれているものと見受けられる。

なお、「幸福度（ウェルビーイング）」得点群と「老後不安」との間では、有意な差がみられなかったが、現在の生活の質と生きる気力を組み合わせた「幸福度（ウェルビーイング）」が生涯にわたって維持されることが難しいことを示した結果となったといえよう。

表 7-5-1 基本属性・「QOL」・「生きがい」・「幸福度」と「老後不安」とのクロス集計結果

	基本属性					「QOL」					「生きがい」			「幸福度」
	①性別	②年齢階級	③居住地域	④就労状況	⑤世帯類型	①生活安定度	②自己研鑽度	③地域帰属度	④身体健康度	⑤W&Lバランス度	①他者からの評価	②家族との関係	③自己満足	
老後不安	△	△	×	×	△	○	×	○	○	×	△	×	△	×

VIII 「コロナ対策」について

1. 基本属性と「コロナ対策」とのクロス集計

問 27 では、「今後も新型コロナウイルス感染症の影響が続いた場合に、支援策として行政機関等において実施してほしいと考える施策を3つまで選んで○をつけてください。」という設問を立て、14 個の回答項目を設定した。問 27 の結果を従属変数にし、回答者の基本属性（問 1）の項目を独立変数にして分析した結果が、表 8-1-1 である。なお、ネガティブな設問であるため、表中の網掛けは、「合計」からの乖離が 10 ポイント以上ある赤（■）についてのみ取り上げる。

- ①「安定した医療体制の確保」については、「問 1-⑤世帯構成」において「3 世代同居（親・子と同居）」が高い割合となった（なお、前回調査では、「問 1 ②年齢」において「60～69 歳」が高い割合であった）。
- ②「感染防止対策の充実」については、「問 1-⑤世帯構成」において「一人暮らし」が高い割合となった（なお、前回調査では、高い割合になっているものはなかった）。
- ③「感染の状況や感染防止対策などの情報発信」については、高い割合になっているものはなかった（なお、前回調査でも、高い割合になっているものはなかった）。
- ④「打撃を受けている中小企業や自営業者への経済的支援」については、「問 1-③居住地域」において「宮古市」が、「問 1-④就労状況」において「自営業」が、「問 1-⑤世帯構成」において「3 世代同居（子・孫と同居）」が、それぞれ高い割合となった（なお、前回調査では、「問 1 ④就労状況（職業）」において「自営業」が高い割合であった）。
- ⑤「小・中学生の学習支援、小・中学校の感染防止対策」については、高い割合になっているものはなかった（なお、前回調査では、「問 1 ②年齢」において「20～29 歳」と「30～39 歳」が、「問 1 ④就労状況（職業）」において「正社員」が高い割合であった）。
- ⑥「子育て世代への経済的支援、保育所・幼稚園などの感染防止対策」については、高い割合になっているものはなかった（なお、前回調査では、「問 1 ②年齢」において「20～29 歳」と「30～39 歳」が、「問 1 ④就労状況（職業）」において「派遣社員・契約社員」と「パート・アルバイト」が高い割合であった）。
- ⑦「商業施設・商店などの消費喚起」については、「問 1-⑤世帯構成」において「3 世代同居（子・孫と同居）」が高い割合となった（なお、前回調査では、高い割合になっているものはなかった）。
- ⑧「大学生など若者世代への支援」については、高い割合になっているものはなかった（なお、前回調査では、「問 1 ②年齢」において「20～29 歳」と「50～59 歳」が、「問 1 ④就労状況（職業）」において「正社員」が高い割合であった）。
- ⑨「高齢者の生活支援」については、「問 1-⑤世帯構成」において「一人暮らし」が高い割合となった（なお、前回調査では、「問 1 ⑤家族構成」において「一人暮らし」が高い割合であった）。
- ⑩「雇用対策、労働環境の改善」については、高い割合になっているものはなかった（なお、前回調査では、「問 1 ②年齢」において「40～49 歳」と「50～59 歳」が、「問 1 ④就労状況（職業）」において「正社員」と「派遣社員・契約社員」が高い割合であった）。
- ⑪「テレワークなど新しい働き方への対応」については、「問 1-⑤世帯構成」において「3 世代同居（親・子と同居）」が高い割合となった（なお、前回調査では、「問 1 ②年齢」において「20～29 歳」「30～39 歳」「50～59 歳」が、「問 1 ④就労状況（職業）」において「正社員」と「派遣社員・契約社員」が高い割合であった）。
- ⑫「スポーツや文化活動への支援」については、「問 1-⑤世帯構成」において「3 世代同居（子・孫と同居）」が高い割合となった（なお、前回調査では、「問 1 ②年齢」において「20～29 歳」が高い割合であった）。

- ⑬「市・町・村民活動、地域活動への支援」については、高い割合になっているものはなかった（なお、前回調査でも、高い割合になっているものはなかった）。
- ⑭「その他」については、「しっかり働いている人もうけられる支援」、「本当に必要な人に対する支援（詐欺、横領がない様、納税をしらべる）」、「経済が動く支援が必要。その場しのぎの政策ではいけない」、「職場での人材確保」、「ワクチンの無料接種継続!」、「遅れのないワクチン接種券配布」、「治療薬の開発」などの回答があった。

表 8-1-1 基本属性と「新型コロナウイルス感染症が今後も続いた場合に、支援策として行政機関に実施してほしいこと」とのクロス集計結果

		問 27.1～7.コロナ対策							合計
		問 27-1 : 安定した医療体制の確保	問 27-2 : 感染防止対策の充実	問 27-3 : 感染の状況や感染防止対策などの情報発信	問 27-4 : 中小企業や自営業者への経済的支援	問 27-5 : 小・中学生の学習支援、感染防止対策	問 27-6 : 子育て世代への経済的支援など	問 27-7 : 商業施設・商店などの消費喚起	
合計		401 77.6%	176 34.0%	150 29.0%	148 28.6%	55 10.6%	105 20.3%	34 6.6%	517 -
問 1-① 性別	男性	187 77.9%	91 37.9%	71 29.6%	68 28.3%	25 10.4%	57 23.8%	16 6.7%	240
	女性	212 77.4%	83 30.3%	78 28.5%	79 28.8%	29 10.6%	48 17.5%	18 6.6%	274
問 1-② a年齢	54 歳未満	72 70.6%	29 28.4%	25 24.5%	32 31.4%	11 10.8%	13 12.7%	6 5.9%	102
	55～59 歳	92 74.8%	44 35.8%	32 26.0%	39 31.7%	10 8.1%	22 17.9%	7 5.7%	123
	60～64 歳	110 78.6%	49 35.0%	45 32.1%	47 33.6%	15 10.7%	26 18.6%	12 8.6%	140
	65 歳以上	127 83.6%	54 35.5%	48 31.6%	30 19.7%	19 12.5%	44 28.9%	9 5.9%	152
問 1-③ 地域	盛岡市	131 80.4%	65 39.9%	50 30.7%	30 18.4%	18 11.0%	34 20.9%	10 6.1%	163
	一関市	85 77.3%	36 32.7%	32 29.1%	34 30.9%	11 10.0%	21 19.1%	9 8.2%	110
	宮古市	78 70.3%	38 34.2%	31 27.9%	47 42.3%	11 9.9%	21 18.9%	9 8.1%	111
	久慈市	97 78.9%	35 28.5%	36 29.3%	33 26.8%	13 10.6%	27 22.0%	5 4.1%	123
	その他	5 100.0%	0 0.0%	1 20.0%	2 40.0%	2 40.0%	0 0.0%	1 20.0%	5
問 1-④ 就 労 状 況	正 規 職 員・ 会社役員等	132 76.3%	60 34.7%	42 24.3%	60 34.7%	16 9.2%	34 19.7%	9 5.2%	173
	契 約 社 員・ 派遣社員	18 64.3%	10 35.7%	7 25.0%	7 25.0%	4 14.3%	6 21.4%	3 10.7%	28
	非 正 規・非 常勤	81 75.0%	29 26.9%	25 23.1%	30 27.8%	16 14.8%	23 21.3%	11 10.2%	108
	自営業	42 75.0%	15 26.8%	22 39.3%	30 53.6%	3 5.4%	11 19.6%	4 7.1%	56
	無職	124 83.8%	61 41.2%	53 35.8%	20 13.5%	15 10.1%	31 20.9%	7 4.7%	148
	その他	2 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2
問 1-⑤ 世 帯 構 成	一人暮らし	72 80.9%	40 44.9%	26 29.2%	22 24.7%	5 5.6%	11 12.4%	4 4.5%	89
	夫婦のみ	147 82.6%	73 41.0%	56 31.5%	37 20.8%	20 11.2%	41 23.0%	7 3.9%	178
	親 子 2 世 代 (子と同居)	87 69.6%	28 22.4%	27 21.6%	42 33.6%	17 13.6%	32 25.6%	9 7.2%	125
	親 子 2 世 代 (親と同居)	58 73.4%	19 24.1%	25 31.6%	28 35.4%	8 10.1%	14 17.7%	10 12.7%	79
	3 世代以上同居 (親・子と同居)	21 95.5%	8 36.4%	8 36.4%	8 36.4%	2 9.1%	2 9.1%	0 0.0%	22
	3 世代以上同居 (子・孫と同居)	7 58.3%	4 33.3%	3 25.0%	10 83.3%	2 16.7%	3 25.0%	2 16.7%	12
	その他	7 70.0%	4 40.0%	4 40.0%	0 0.0%	1 10.0%	2 20.0%	1 10.0%	10

表 8-1-1 基本属性と「新型コロナウイルス感染症が今後も続いた場合に、支援策として行政機関に実施してほしいこと」とのクロス集計結果（続き）

		問 27-8～14:コロナ対策							
		問27-8:大學生など若者世代への支援	問 27-9：高 齢 者 の生活支援	問 27-10:雇用対策、労働環境の改善	問 27-11:テレワークなど新しい働き方への対応	問 27-12:スポーツや文化活動への支援	問27-13:市・町・村民活動、地域活動への支援	問 27-14：その他	合計
合計		50 9.7%	173 33.5%	98 19.0%	24 4.6%	16 3.1%	26 5.0%	15 2.9%	517 -
問 1-① 性別	男性	19 7.9%	73 30.4%	32 13.3%	16 6.7%	6 2.5%	12 5.0%	8 3.3%	240
	女性	31 11.3%	98 35.8%	66 24.1%	8 2.9%	10 3.6%	14 5.1%	7 2.6%	274
問 1-② 年齢	54 歳未満	15 14.7%	26 25.5%	28 27.5%	9 8.8%	6 5.9%	4 3.9%	7 6.9%	102
	55～59 歳	17 13.8%	40 32.5%	30 24.4%	6 4.9%	7 5.7%	5 4.1%	3 2.4%	123
	60～64 歳	6 4.3%	43 30.7%	29 20.7%	5 3.6%	2 1.4%	7 5.0%	2 1.4%	140
	65 歳以上	12 7.9%	64 42.1%	11 7.2%	4 2.6%	1 .7%	10 6.6%	3 2.0%	152
問 1-③ 地域	盛岡市	19 11.7%	50 30.7%	23 14.1%	11 6.7%	6 3.7%	3 1.8%	8 4.9%	163
	一関市	7 6.4%	39 35.5%	25 22.7%	1 .9%	1 .9%	10 9.1%	1 .9%	110
	宮古市	11 9.9%	35 31.5%	20 18.0%	5 4.5%	5 4.5%	4 3.6%	3 2.7%	111
	久慈市	13 10.6%	46 37.4%	27 22.0%	6 4.9%	4 3.3%	9 7.3%	2 1.6%	123
	その他	0 0.0%	1 20.0%	2 40.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 20.0%	5
問 1-④ 就 労 状 況	正 規 職 員・ 会社役員等	19 11.0%	49 28.3%	44 25.4%	14 8.1%	7 4.0%	6 3.5%	9 5.2%	173
	契 約 社 員・ 派遣社員	2 7.1%	8 28.6%	7 25.0%	1 3.6%	2 7.1%	0 0.0%	2 7.1%	28
	非 正 規・非 常勤	10 9.3%	45 41.7%	24 22.2%	1 .9%	5 4.6%	7 6.5%	0 0.0%	108
	自営業	1 1.8%	13 23.2%	8 14.3%	2 3.6%	0 0.0%	4 7.1%	0 0.0%	56
	無職	17 11.5%	56 37.8%	14 9.5%	6 4.1%	2 1.4%	9 6.1%	4 2.7%	148
	その他	1 50.0%	1 50.0%	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2
問 1-⑤ 世 帯 構 成	一人暮らし	7 7.9%	43 48.3%	15 16.9%	1 1.1%	2 2.2%	2 2.2%	2 2.2%	89
	夫婦のみ	10 5.6%	48 27.0%	31 17.4%	10 5.6%	5 2.8%	10 5.6%	7 3.9%	178
	親子 2 世代 (子と同居)	22 17.6%	44 35.2%	22 17.6%	10 8.0%	3 2.4%	7 5.6%	5 4.0%	125
	親子 2 世代 (親と同居)	8 10.1%	28 35.4%	20 25.3%	2 2.5%	2 2.5%	3 3.8%	1 1.3%	79
	3 世代以上同居 (親・子と同居)	3 13.6%	4 18.2%	4 18.2%	1 4.5%	3 13.6%	1 4.5%	0 0.0%	22
	3 世代以上同居 (子・孫と同居)	0 0.0%	2 16.7%	1 8.3%	0 0.0%	0 0.0%	2 16.7%	0 0.0%	12
	その他	0 0.0%	4 40.0%	4 40.0%	0 0.0%	1 10.0%	1 10.0%	0 0.0%	10

2. 「コロナ対策」に関する前回調査との比較

今回調査の調査票が郵送された時期は、新型コロナ（COVID-19）の感染が拡大していた時期（第 8 波：2022 年 11 月末～2023 年 1 月末）であったのに対して、前回調査は新型コロナの第 5 波（2021 年 7 月～9 月）が落ち着いた時期であった。また、調査の対象年齢が異なることなど、条件が異なるが、今回調査と前回調査との比較をしてみたい。表 8-2-1 は、同じ設問について、今回調査と前回調査の併記したものであり、

枠を緑色（）で囲んだ箇所が「今回調査の方が前回調査よりも割合が高い（今回調査＞前回調査）」ことを意味し、黄色（）で囲んだ箇所が「今回調査の方が前回調査よりも割合が低い（今回調査＜前回調査）」ことを意味している。

緑色（）で囲んだ箇所「今回調査＞前回調査」については、「中小企業や自営業者への経済的支援」、「子育て世代への経済的支援など」、「雇用対策、労働環境の改善」の3つの項目が該当した。この結果はいずれも、調査対象年齢が前回調査（主に高齢者）よりも低い年齢層（中高年層）であったことが顕著にあらわれた結果と考えられる。つまり、今回調査の多くは「現役世代」であり、多くが生産活動に従事しているため、経済対策への要望の割合が高くなったと示唆される。

黄色（）で囲んだ箇所「今回調査＜前回調査」については、「感染防止対策の充実」、「感染の状況や感染防止対策などの情報発信」、「スポーツや文化活動への支援」、「市・町・村民活動、地域活動への支援」の4つの項目が該当した。この結果はいずれも、調査対象年齢が今回調査（中高年層）よりも前回調査の方が高い年齢層（主に高齢者）であったことが顕著にあらわれた結果と考えられる。つまり、前回調査の多くは「引退世代」であり、多くが生産活動からリタイアしているため、新型コロナへの感染リスクの回避や健康維持に必要な支援策への要望の割合が高くなったと示唆される。

表 8-2-1 「新型コロナウイルス感染症が今後も続いた場合に、支援策として行政機関に実施してほしいこと」の今回調査と前年調査の結果

	問 27.1～7 コロナ対策							合計
	問 27-1：安定した医療体制の確保	問 27-2：感染防止対策の充実	問 27-3：感染の状況や感染防止対策などの情報発信	問 27-4：中小企業や自営業者への経済的支援	問 27-5：小・中学生の学習支援、感染防止対策	問 27-6：子育て世代への経済的支援など	問 27-7：商業施設・商店などの消費喚起	
今回(2022 年)調査	401 77.6%	176 34.0%	150 29.0%	148 28.6%	55 10.6%	105 20.3%	34 6.6%	517 —
前回(2021 年)調査	589 74.2%	379 47.7%	291 36.6%	134 16.9%	92 11.6%	104 13.1%	29 3.7%	794 —

	問 27.8～14 コロナ対策							合計
	問 27-8：大学生など若者世代への支援	問 27-9：高齢者の生活支援	問 27-10：雇用対策、労働環境の改善	問 27-11：テレワークなど新しい働き方への対応	問 27-12：スポーツや文化活動への支援	問 27-13：市・町・村民活動、地域活動への支援	問 27-14：その他	
今回(2022 年)調査	50 9.7%	173 33.5%	98 19.0%	24 4.6%	16 3.1%	26 5.0%	15 2.9%	517 —
前回(2021 年)調査	48 6.0%	276 34.8%	49 6.2%	29 3.7%	64 8.1%	151 19.0%	12 1.5%	794 —

3. 「コロナ対策」に関するまとめ

新型コロナ（COVID-19）の感染によるダメージは、年齢の高低や基礎疾患の有無等の健康状態などによって個人差が生じるため、統一的なコロナ対策を実施すると利益を享受する人と不利益を被る人とが同時に生じる可能性があることをわれわれは経験してきた。しかし、新型コロナへの感染が「死亡するリスクを伴う」という点に鑑みると、立場の弱い人に合わせた施策を優先することが合理的であるといわざるを得ない。こうしたなか、コロナ対策が徐々に緩和され、マスクの着用を個人の選択に委ねるだけでなく、2023 年 5 月から感染症法上の指定を 2 類感染症から 5 類感染症に引下げ、季節性インフルエンザと同等の扱いにすることとなった。社会・経済活動を順次再開させるのと同時に、再び感染が拡大するようなことがあれば、適切な対応を望む声があることが、前回と今回の調査で示唆されたといえよう。

IX まとめ（総合的考察）

1. これまでの分析結果を踏まえた小括

（1）「健康意識」について

「健康意識」についての分析を試みたが、（再掲）表 5-5-1 の結果のとおり、「健康意識」には「生きがい」の有無が強く寄与していることがわかる。また、「QOL」と「生きがい」を加味した「幸福度」の高低が「健康意識」に強く寄与していることがわかる。「高齢者」を対象とする類似の調査などにおいても同様の結果が示されているが、「中高年世代」においても、自らの健康を維持しようとする動機付けは「生きがい」という「生きる活力」あるいは「生きる希望」が重要な要素になっているといえる。加えて、「生きがい」を支える生活の質（QOL）も重要な要素になっているといえる。

岩手県では、生活習慣病が関係する脳卒中や心疾患などの罹患率が高く、これらの罹患による死亡率も高い。また、自殺率も他の都道府県に比べて高い傾向を維持している。こうした原因の背景には、岩手県の地理的な環境（自然環境）も影響を及ぼしているといえるが、そのような自然環境にあっても、「QOL」を高め、「生きがい」を持つことができれば、健康寿命の増進につなげていける可能性があることが、今回の調査で示唆される結果となった。では、どうしたらよいか、その答えは決して簡単には導き出せないが、今回の調査がいくつかのヒントを示してくれている。それは、「生きがい」を構成しているであろうと考えられる「①他者からの評価」、「②家族との関係」、「③自己満足」という3つの要素である。

（再掲）表 5-5-1 基本属性・「QOL」・「生きがい」・「幸福度」と「健康意識」とのクロス集計結果

	基本属性					「QOL」					「生きがい」			「幸福度」
	①性別	②年齢階級	③居住地域	④就労状況	⑤世帯類型	①生活安定度	②自己研鑽度	③地域帰属度	④身体健康度	⑤W&Lバランス度	①他者からの評価	②家族との関係	③自己満足	
健康意識	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	○	○	○	○

「①他者からの評価」については、「自身を磨き、その成果を社会に活かし、その見返りとして他者から評価を受けたり感謝されたりする」ことが「生きがい」になるということである。住民それぞれが置かれている立場は異なるが、一人ひとりが職場や家庭、地域の中で「役割」を持てるような環境にしていけることが第一の課題であるといえよう。

「②家族との関係」については、「同居する親族はもちろん、非同居の親族との適度な交流によって良好な関係性が保たれ、互いに支え支えられ、互いに感謝し感謝される」ことが「生きがい」になるということである。住民それぞれの家族の形は異なるが、家族・親族間の利害関係をできる限り小さくし、「お互いにとって利益になるような行為や事柄」を増やしていく努力をしていくことが第二の課題であるといえよう。

「③自己満足」については、「社会や家族等に組み込まれながら生きていく中においても、一人ひとりが何らかの楽しみを持っていて、適度にそれを楽しむことができる」ことが「生きがい」になるということである。一概に「楽しみ」といっても、その性質によっては金銭的な負担を多く伴う場合もあり、個々の経済的な生活基盤が整っていなければ充足できない可能性がある。「公共の福祉」を逸脱しない範囲で、公共サ

ービスとして多くの人が享受できるものがあれば、多くの住民に「生きがい」を持てるチャンスを得ることになるため、行政が積極的にサービスを提供することが第三の課題であるといえよう。

(2)「パートナーの存在の必要性」および「マッチング支援の必要性」について

a)「パートナーの存在の必要性」について

「パートナーの存在の必要性」については、(再掲)表 6-3-1 の結果からも推察できるように、「パートナーの存在」が「QOL」にみられるような「生活の質を保つ上での欠かせない存在」という面や「生きがい」にみられるような「気持ちを充足させる上での欠かせない存在」という面で、約半数の回答者が「必要である」という認識をしている。これに加えて、「基本属性」である「性別」にも差があることがわかり、とりわけ「女性」の「幸福度」が「パートナーの存在の必要性」と強い因果関係がみられた(表 6-3-2)ことから、「男性」は特段に理由がなくともパートナーの存在が必要であると認識しているのに対して、「女性」は「パートナーの存在」が自身にとってより有益な存在であるかどうか客観的な判断をしていることが示されている。

このような「女性」に明確にあらわれた「パートナーの存在の必要性」に関する因果関係からどのような考察が得られるかといえ、ば、「ジェンダー(社会的性差)平等」への認識であり、「男女共同参画」のあり方が問われているということである。近年増加する傾向にあるといわれている「熟年離婚」は、個々の事例からも配偶者間の「ハラスメント」(相手の嫌がることをして不快感を覚えさせる行為)や「DV」(Domestic Violence: 配偶者や恋人など親密な関係にある、又はあった者から振るわれる暴力)が背景にあったことなどが聞かれるが、こうした重大な問題だけにとどまらず、「個人として尊重されない」や「上下関係あるいは主従関係ができてい」など、人間の尊厳が蔑ろにされることなども背景にあることが聞かれる。

日本では、明治時代に民法で「家族のあり方」(家族制度)が規定され、長くその慣習の中で培われてきた「家父長制」(家父長の強い権力で家族を支配統制する家族形態)や「性別役割分業」(「男は仕事・女は家庭」といった、個人の能力とは関係なく、男性・女性という性別を理由として役割を分けること)の価値観が根強い。若年世代では徐々に解消されつつある印象がある一方で、中高年世代以上の世代では、依然として従来の「家族制度」を堅持しようとする価値観が散見される。「熟年離婚」などを懸念するのであれば、「ジェンダー平等」や「男女共同参画」を推進し、性の区別に関係なく、誰もが人として尊重される社会を目指していく必要があるものと考えらる。

(再掲)表 6-3-1 基本属性・「QOL」・「生きがい」・「幸福度」と「パートナーの存在の必要性」とのクロス集計結果

	基本属性					「QOL」					「生きがい」			「幸福度」
	①性別	②年齢階級	③居住地域	④就労状況	⑤世帯類型	①生活安定度	②自己研鑽度	③地域帰属度	④身体健康度	⑤W&Lバランス度	①他者からの評価	②家族との関係	③自己満足	
パートナーの存在の必要性	○	×	×	×	△	○	○	×	×	×	○	○	○	○

b)「マッチング支援の必要性」について

「マッチング支援の必要性」については、(再掲)表 6-3-3 の結果からも推察できるように、「パートナー

との出会いの機会を支援する」ことへの賛否が、「性別」、「生きがい・家族との関係」、「幸福度」によって分かれることが確認された。約半数の回答者が「パートナーの存在」が「必要である」と認識しているながらも、「マッチング支援の必要性」については約4割に低下しており、複雑な意識が絡まり合っているように見受けられる。「パートナーの存在の必要性」と同様に、「性別」と「幸福度」と「マッチング支援の必要性」とによるクロス集計（表6-3-4）をしてみたところ、「女性」の「幸福度」が「マッチング支援の必要性」と強い因果関係がみられたことから、「女性」は「パートナーの存在」が自身にとってより有益な存在であるかどうか客観的な判断をできているか否かで「マッチング支援の必要性」に対する認識を回答しているように見受けられる。

今回の調査では、「婚姻関係（問3）」を問うた設問がある。この項目を振り返ると、「配偶者がいる（結婚している）」が約7割となっており、多数派であるといえてよい。しかし、他の3割の内訳をみると、「結婚したことがない」が11.7%、「死別した」が6.0%、「離別した」が10.4%となっており、未婚者や離婚者が約2割いることに目を向ける必要がある。この約2割の人が「結婚がうまくいかなかった」と仮定するならば、その原因を掘り下げなければ「マッチング支援の必要性」を問うことができない。その分析を以下の「追加分析」で行うこととする。

（再掲）表6-3-3 基本属性・「QOL」・「生きがい」・「幸福度」と「マッチング支援の必要性」とのクロス集計結果

	基本属性					「QOL」					「生きがい」			「幸福度」
	①性別	②年齢階級	③居住地域	④就労状況	⑤世帯類型	①生活安定度	②自己研鑽度	③地域帰属度	④身体健康度	⑤W&Lバランス度	①他者からの評価	②家族との関係	③自己満足	
マッチング支援の必要性	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	△

㉔）「パートナーの存在の必要性」および「マッチング支援の必要性」について

「パートナーの存在の必要性」および「マッチング支援の必要性」についてまとめると、第1に、「ジェンダー平等」の社会づくりを推進することである。家庭内において、身体的な性別の違いではなく、何となく「男性だから」や「女性だから」と許されてきた差別が少ない関係性が築かれている世帯に属している人ほど、「幸福度」が高くなっているものと推察される。「幸福度」が高く保たれることは、個々人の生活の安定や家庭の円満だけにとどまらず、地域社会の活力にもつながる可能性があるため、「男性か女性かの区別に関係なく、それぞれの人がその人の有する能力を発揮したり役割を果たしたりすることができる環境を整える」ことがより推進されるべきである。その上で、性の区別に関係なく、人々が相互に尊重し合える環境の中で培われるパートナーシップが形成される関係づくりを進めていくことが望まれる。

（3）「老後不安」について

「老後不安」については、その具体的な内容（問26）において「自身の傷病」、「生活資金不足」、「自身の介護」が上位を占めていたが、医療や介護、年金など制度的な拡充となると、国政レベルの話になってしまうため、いわゆる「社会保障制度の是非」については一度脇に置いた上で「老後不安」について課題を検討する。

「老後不安」の主たる要因は、「健康」と「お金」である。加齢に伴って身体機能が低下していくのは必然的なことであり、人口の少子高齢化などによって老齢年金が老後生活を十分にカバーしてくれる保証がないことが「不安」を助長しているのではないかと考える。この双方を同時に解決できる可能性があるのが、「(無理のない範囲での) 就労機会」であるといえよう。もちろん、既に就労に従事できない健康状態であれば積極的に福祉制度を利用することを推奨するが、ある程度就労が可能な健康状態であれば、「収入増」につながるだけでなく、「健康維持」にもつながる可能性が期待できる。現に、コロナ禍の影響もあって、岩手県内の労働市場は「供給不足(人手不足)」の状態になっていることに鑑みると、「働く場」を開拓できる可能性を有している。しかし、現役世代のような働き方を強要されれば、むしろ健康悪化を助長してしまう可能性があるため、個人差はあるものの、一般就労との差別化を図る必要がある。例えば、障害者雇用や生活困窮者向けの自立支援の一環で取り入れられている「福祉的就労」という実践が参考になるものと考えられる。

一般就労となると、労働者個人と企業との間で雇用契約を結ぶ必要があり、求職の段階でハローワーク(公共職業安定所)などが仲介してくれることはあるが、契約が成立してしまうと、あとは労働者自身の責任に委ねられ、アフターフォローの機会はほとんどない。これに対して「福祉的就労」の場合には、労働者と企業との間を調整してくれる上に、積極的に実践している団体などの場合には「ジョブコーチ」(職場適応援助者)が寄り添って伴奏型支援が実践されている。地域にこのような支援を担う団体などの資源がない場合には、自治体が積極的に関与する必要があるが、高齢期になって公的年金を受給するようになれば、短時間の就労によって得られる収入でも生活費を充足させて「貧困予防」になる上、「健康維持・増進」と「人手不足の軽減」にもつながり、「一石三鳥」が期待できる。

(再掲) 表 7-5-1 基本属性・「QOL」・「生きがい」・「幸福度」と「老後不安」とのクロス集計結果

	基本属性					「QOL」					「生きがい」			「幸福度」
	①性別	②年齢階級	③居住地域	④就労状況	⑤世帯類型	①生活安定度	②自己研鑽度	③地域帰属度	④身体健康度	⑤W&Lバランス度	①他者からの評価	②家族との関係	③自己満足	
老後不安	△	△	×	×	△	○	×	○	○	×	△	×	△	×

2. 「パートナーの存在の必要性」および「マッチング支援の必要性」に関する追加分析

上記(1-(2))の課題を踏まえて、以下の追加分析を行った。表 9-2-1 は、性別・「婚姻関係」・「幸福度」と「パートナーの存在の必要性」とのクロス集計結果であり、この集計結果を元にコレスポンデンス分析を行った結果が図 9-2-1 である。また、表 9-2-2 は、性別・「婚姻関係」・「幸福度」と「マッチング支援の必要性」とのクロス集計結果であり、この集計結果を元にコレスポンデンス分析を行った結果が図 9-2-2 である。コレスポンデンス分析で描画された図は、◇(ピンク)が従属変数になっており、○(ブルー)が独立変数となっている。よって、従属変数◇(ピンク)に近いところに位置している独立変数○(ブルー)が、回答の傾向が強いものと読み取ることができる。なお、いずれのクロス集計結果についても検定を行っていないが、コレスポンデンス分析については、図 9-2-1 および図 9-2-2 とともに有意な検定結果が得られている。

表 9-2-1 性別・「婚姻関係」・「幸福度」と「パートナーの存在の必要性」とのクロス集計結果

性別	問 3 婚姻関係			問 23 中高年世代のパートナーの必要性					合計	
				とても必要だと思う	どちらかと言えば必要だと思う	どちらとも言えない	どちらかと言えば必要だと思わない	まったく必要だと思わない		
男性	結婚したことがない	幸福度得点(平均) (ビン分割済み)	低得点群	1	1	5	0	0	7	
				14.3%	14.3%	71.4%	0.0%	0.0%	100.0%	
			低中得点群	2	3	4	1	0	10	
				20.0%	30.0%	40.0%	10.0%	0.0%	100.0%	
			高中得点群	0	3	0	0	1	4	
				0.0%	75.0%	0.0%	0.0%	25.0%	100.0%	
		高得点群	0	2	0	0	0	2		
			0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%		
		合計			3	9	9	1	1	23
					13.0%	39.1%	39.1%	4.3%	4.3%	100.0%
	離別したのでいない	幸福度得点(平均) (ビン分割済み)	低得点群	-	-	-	-	-	-	
				-	-	-	-	-	-	
			低中得点群	4	2	0	-	-	6	
				66.7%	33.3%	0.0%	-	-	100.0%	
			高中得点群	3	2	1	-	-	6	
				50.0%	33.3%	16.7%	-	-	100.0%	
		高得点群	-	-	-	-	-	-		
			-	-	-	-	-	-		
		合計			7	4	1	-	-	12
					58.3%	33.3%	8.3%	-	-	100.0%
	死別したのでいない	幸福度得点(平均) (ビン分割済み)	低得点群	-	-	-	-	-	-	
				-	-	-	-	-	-	
			低中得点群	1	1	0	-	0	2	
				50.0%	50.0%	0.0%	-	0.0%	100.0%	
			高中得点群	0	0	1	-	0	1	
				0.0%	0.0%	100.0%	-	0.0%	100.0%	
		高得点群	0	0	0	-	1	1		
			0.0%	0.0%	0.0%	-	100.0%	100.0%		
		合計			1	1	1	-	1	4
					25.0%	25.0%	25.0%	-	25.0%	100.0%
	配偶者がいる	幸福度得点(平均) (ビン分割済み)	低得点群	7	15	9	2	1	34	
				20.6%	44.1%	26.5%	5.9%	2.9%	100.0%	
			低中得点群	11	27	17	1	1	57	
				19.3%	47.4%	29.8%	1.8%	1.8%	100.0%	
			高中得点群	19	28	12	2	0	61	
				31.1%	45.9%	19.7%	3.3%	0.0%	100.0%	
		高得点群	8	3	4	0	0	15		
			53.3%	20.0%	26.7%	0.0%	0.0%	100.0%		
		合計			45	73	42	5	2	167
					26.9%	43.7%	25.1%	3.0%	1.2%	100.0%
	合計	幸福度得点(平均) (ビン分割済み)	低得点群	8	16	14	2	1	41	
				19.5%	39.0%	34.1%	4.9%	2.4%	100.0%	
			低中得点群	18	33	21	2	1	75	
				24.0%	44.0%	28.0%	2.7%	1.3%	100.0%	
			高中得点群	22	33	14	2	1	72	
				30.6%	45.8%	19.4%	2.8%	1.4%	100.0%	
		高得点群	8	5	4	0	1	18		
			44.4%	27.8%	22.2%	0.0%	5.6%	100.0%		
		合計			56	87	53	6	4	206
					27.2%	42.2%	25.7%	2.9%	1.9%	100.0%

表 9-2-1 性別・「婚姻関係」・「幸福度」と「パートナーの存在の必要性」とのクロス集計結果（続き）

性別	問 3 婚姻関係			問 23 中高年世代のパートナーの必要性					合計	
				とても必要だと思う	どちらかと言えば必要だと思う	どちらとも言えない	どちらかと言えば必要だと思わない	まったく必要だと思わない		
女性	結婚したことがない	幸福度得点(平均)(ビン分割済み)	低得点群	0	0	3	0	2	5	
				0.0%	0.0%	60.0%	0.0%	40.0%	100.0%	
			低中得点群	0	1	2	0	2	5	
				0.0%	20.0%	40.0%	0.0%	40.0%	100.0%	
			高中得点群	2	1	3	1	0	7	
				28.6%	14.3%	42.9%	14.3%	0.0%	100.0%	
		高得点群	0	0	2	0	1	3		
			0.0%	0.0%	66.7%	0.0%	33.3%	100.0%		
		合計			2	2	10	1	5	20
					10.0%	10.0%	50.0%	5.0%	25.0%	100.0%
	離別したのでいない	幸福度得点(平均)(ビン分割済み)	低得点群	1	0	2	2	6	11	
				9.1%	0.0%	18.2%	18.2%	54.5%	100.0%	
			低中得点群	1	4	3	1	0	9	
				11.1%	44.4%	33.3%	11.1%	0.0%	100.0%	
			高中得点群	1	2	5	0	2	10	
				10.0%	20.0%	50.0%	0.0%	20.0%	100.0%	
		高得点群	2	0	2	1	0	5		
			40.0%	0.0%	40.0%	20.0%	0.0%	100.0%		
		合計			5	6	12	4	8	35
					14.3%	17.1%	34.3%	11.4%	22.9%	100.0%
	死別したのでいない	幸福度得点(平均)(ビン分割済み)	低得点群	0	1	1	0	1	3	
				0.0%	33.3%	33.3%	0.0%	33.3%	100.0%	
			低中得点群	0	1	2	0	0	3	
				0.0%	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%	100.0%	
			高中得点群	1	4	2	2	2	11	
				9.1%	36.4%	18.2%	18.2%	18.2%	100.0%	
		高得点群	0	0	4	0	1	5		
			0.0%	0.0%	80.0%	0.0%	20.0%	100.0%		
		合計			1	6	9	2	4	22
					4.5%	27.3%	40.9%	9.1%	18.2%	100.0%
	配偶者がいる	幸福度得点(平均)(ビン分割済み)	低得点群	0	2	6	0	0	8	
				0.0%	25.0%	75.0%	0.0%	0.0%	100.0%	
			低中得点群	3	14	15	1	0	33	
				9.1%	42.4%	45.5%	3.0%	0.0%	100.0%	
			高中得点群	7	22	28	5	2	64	
				10.9%	34.4%	43.8%	7.8%	3.1%	100.0%	
		高得点群	11	14	18	0	0	43		
			25.6%	32.6%	41.9%	0.0%	0.0%	100.0%		
		合計			21	52	67	6	2	148
					14.2%	35.1%	45.3%	4.1%	1.4%	100.0%
	合計	幸福度得点(平均)(ビン分割済み)	低得点群	1	3	12	2	9	27	
				3.7%	11.1%	44.4%	7.4%	33.3%	100.0%	
			低中得点群	4	20	22	2	2	50	
				8.0%	40.0%	44.0%	4.0%	4.0%	100.0%	
			高中得点群	11	29	38	8	6	92	
				12.0%	31.5%	41.3%	8.7%	6.5%	100.0%	
		高得点群	13	14	26	1	2	56		
			23.2%	25.0%	46.4%	1.8%	3.6%	100.0%		
		合計			29	66	98	13	19	225
					12.9%	29.3%	43.6%	5.8%	8.4%	100.0%

表 9-2-1 性別・「婚姻関係」・「幸福度」と「パートナーの存在の必要性」とのクロス集計結果（続き）

性別	問 3 婚姻関係			問 23 中高年世代のパートナーの必要性					合計	
				とても必要だと思う	どちらかと言えば必要だと思う	どちらとも言えない	どちらかと言えば必要だと思わない	まったく必要だと思わない		
合計	結婚したことがない	幸福度得点(平均)(ビン分割済み)	低得点群	1	1	8	0	2	12	
				8.3%	8.3%	66.7%	0.0%	16.7%	100.0%	
			低中得点群	2	4	6	1	2	15	
				13.3%	26.7%	40.0%	6.7%	13.3%	100.0%	
			高中得点群	2	4	3	1	1	11	
				18.2%	36.4%	27.3%	9.1%	9.1%	100.0%	
		高得点群	0	2	2	0	1	5		
			0.0%	40.0%	40.0%	0.0%	20.0%	100.0%		
		合計			5	11	19	2	6	43
					11.6%	25.6%	44.2%	4.7%	14.0%	100.0%
	離別したのでいない	幸福度得点(平均)(ビン分割済み)	低得点群	1	0	2	2	6	11	
				9.1%	0.0%	18.2%	18.2%	54.5%	100.0%	
			低中得点群	5	6	3	1	0	15	
				33.3%	40.0%	20.0%	6.7%	0.0%	100.0%	
			高中得点群	4	4	6	0	2	16	
				25.0%	25.0%	37.5%	0.0%	12.5%	100.0%	
		高得点群	2	0	2	1	0	5		
			40.0%	0.0%	40.0%	20.0%	0.0%	100.0%		
		合計			12	10	13	4	8	47
					25.5%	21.3%	27.7%	8.5%	17.0%	100.0%
	死別したのでいない	幸福度得点(平均)(ビン分割済み)	低得点群	0	1	1	0	1	3	
				0.0%	33.3%	33.3%	0.0%	33.3%	100.0%	
			低中得点群	1	2	2	0	0	5	
				20.0%	40.0%	40.0%	0.0%	0.0%	100.0%	
			高中得点群	1	4	3	2	2	12	
				8.3%	33.3%	25.0%	16.7%	16.7%	100.0%	
		高得点群	0	0	4	0	2	6		
			0.0%	0.0%	66.7%	0.0%	33.3%	100.0%		
		合計			2	7	10	2	5	26
					7.7%	26.9%	38.5%	7.7%	19.2%	100.0%
	配偶者がいる	幸福度得点(平均)(ビン分割済み)	低得点群	7	17	15	2	1	42	
				16.7%	40.5%	35.7%	4.8%	2.4%	100.0%	
			低中得点群	14	41	32	2	1	90	
				15.6%	45.6%	35.6%	2.2%	1.1%	100.0%	
			高中得点群	26	51	40	7	2	126	
				20.6%	40.5%	31.7%	5.6%	1.6%	100.0%	
		高得点群	19	17	22	0	0	58		
			32.8%	29.3%	37.9%	0.0%	0.0%	100.0%		
		合計			66	126	109	11	4	316
					20.9%	39.9%	34.5%	3.5%	1.3%	100.0%
	合計	幸福度得点(平均)(ビン分割済み)	低得点群	9	19	26	4	10	68	
				13.2%	27.9%	38.2%	5.9%	14.7%	100.0%	
			低中得点群	22	53	43	4	3	125	
				17.6%	42.4%	34.4%	3.2%	2.4%	100.0%	
			高中得点群	33	63	52	10	7	165	
				20.0%	38.2%	31.5%	6.1%	4.2%	100.0%	
		高得点群	21	19	30	1	3	74		
			28.4%	25.7%	40.5%	1.4%	4.1%	100.0%		
		合計			85	154	151	19	23	432
					19.7%	35.6%	35.0%	4.4%	5.3%	100.0%

表 9-2-2 性別・「婚姻関係」・「幸福度」と「マッチング支援の必要性」とのクロス集計結果

性別	問 3 婚姻関係			問 24 出会いの支援の必要性					合計	
				とても必要だと思う	どちらかと言えば必要だと思う	どちらとも言えない	どちらかと言えば必要だと思わない	まったく必要だと思わない		
男性	結婚したことがない	幸福度得点(平均)(ビン分割済み)	低得点群	1	1	3	0	0	5	
				20.0%	20.0%	60.0%	0.0%	0.0%	100.0%	
			低中得点群	0	5	5	2	1	13	
				0.0%	38.5%	38.5%	15.4%	7.7%	100.0%	
			高中得点群	0	0	1	2	1	4	
				0.0%	0.0%	25.0%	50.0%	25.0%	100.0%	
			高得点群	0	0	1	1	0	2	
				0.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	100.0%	
		合計			1	6	10	5	2	24
					4.2%	25.0%	41.7%	20.8%	8.3%	100.0%
	離別したのでいない	幸福度得点(平均)(ビン分割済み)	低得点群	-	-	-	-	-	-	
				-	-	-	-	-	-	
			低中得点群	1	4	-	1	-	6	
				16.7%	66.7%	-	16.7%	-	100.0%	
			高中得点群	3	2	-	1	-	6	
				50.0%	33.3%	-	16.7%	-	100.0%	
			高得点群	-	-	-	-	-	-	
				-	-	-	-	-	-	
		合計			4	6	-	2	-	12
					33.3%	50.0%	-	16.7%	-	100.0%
	死別したのでいない	幸福度得点(平均)(ビン分割済み)	低得点群	-	-	-	-	-	-	
				-	-	-	-	-	-	
			低中得点群	-	1	1	0	0	2	
				-	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	100.0%	
			高中得点群	-	0	0	0	1	1	
				-	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	
			高得点群	-	0	0	1	0	1	
				-	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	
		合計			-	1	1	1	1	4
					-	25.0%	25.0%	25.0%	25.0%	100.0%
	配偶者がいる	幸福度得点(平均)(ビン分割済み)	低得点群	6	14	12	0	1	33	
				18.2%	42.4%	36.4%	0.0%	3.0%	100.0%	
			低中得点群	6	25	17	3	3	54	
				11.1%	46.3%	31.5%	5.6%	5.6%	100.0%	
			高中得点群	13	19	18	10	1	61	
				21.3%	31.1%	29.5%	16.4%	1.6%	100.0%	
			高得点群	4	7	2	0	2	15	
				26.7%	46.7%	13.3%	0.0%	13.3%	100.0%	
		合計			29	65	49	13	7	163
					17.8%	39.9%	30.1%	8.0%	4.3%	100.0%
	合計	幸福度得点(平均)(ビン分割済み)	低得点群	7	15	15	0	1	38	
				18.4%	39.5%	39.5%	0.0%	2.6%	100.0%	
			低中得点群	7	35	23	6	4	75	
				9.3%	46.7%	30.7%	8.0%	5.3%	100.0%	
			高中得点群	16	21	19	13	3	72	
				22.2%	29.2%	26.4%	18.1%	4.2%	100.0%	
			高得点群	4	7	3	2	2	18	
				22.2%	38.9%	16.7%	11.1%	11.1%	100.0%	
		合計			34	78	60	21	10	203
					16.7%	38.4%	29.6%	10.3%	4.9%	100.0%

表 9-2-2 性別・「婚姻関係」・「幸福度」と「マッチング支援の必要性」とのクロス集計結果（続き）

性別	問 3 婚姻関係			問 24 出会いの支援の必要性					合計	
				とても必要だと思う	どちらかと言えば必要だと思う	どちらとも言えない	どちらかと言えば必要だと思わない	まったく必要だと思わない		
女性	結婚したことがない	幸福度得点(平均) (ビン分割済み)	低得点群	0	0	3	1	2	6	
				0.0%	0.0%	50.0%	16.7%	33.3%	100.0%	
			低中得点群	0	0	2	1	2	5	
				0.0%	0.0%	40.0%	20.0%	40.0%	100.0%	
			高中得点群	1	1	2	2	1	7	
				14.3%	14.3%	28.6%	28.6%	14.3%	100.0%	
			高得点群	0	2	1	0	0	3	
				0.0%	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	100.0%	
		合計			1	3	8	4	5	21
					4.8%	14.3%	38.1%	19.0%	23.8%	100.0%
	離別したのでいない	幸福度得点(平均) (ビン分割済み)	低得点群	1	0	5	1	3	10	
				10.0%	0.0%	50.0%	10.0%	30.0%	100.0%	
			低中得点群	0	2	5	0	2	9	
				0.0%	22.2%	55.6%	0.0%	22.2%	100.0%	
			高中得点群	0	1	6	1	2	10	
				0.0%	10.0%	60.0%	10.0%	20.0%	100.0%	
			高得点群	1	1	2	1	0	5	
				20.0%	20.0%	40.0%	20.0%	0.0%	100.0%	
		合計			2	4	18	3	7	34
					5.9%	11.8%	52.9%	8.8%	20.6%	100.0%
	死別したのでいない	幸福度得点(平均) (ビン分割済み)	低得点群	0	0	0	2	0	2	
				0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	
			低中得点群	0	1	1	0	0	2	
				0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	100.0%	
			高中得点群	1	1	4	2	1	9	
				11.1%	11.1%	44.4%	22.2%	11.1%	100.0%	
			高得点群	0	0	4	0	1	5	
				0.0%	0.0%	80.0%	0.0%	20.0%	100.0%	
		合計			1	2	9	4	2	18
					5.6%	11.1%	50.0%	22.2%	11.1%	100.0%
	配偶者がいる	幸福度得点(平均) (ビン分割済み)	低得点群	0	3	3	0	0	6	
				0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	100.0%	
			低中得点群	3	13	11	3	0	30	
				10.0%	43.3%	36.7%	10.0%	0.0%	100.0%	
			高中得点群	6	15	29	7	5	62	
				9.7%	24.2%	46.8%	11.3%	8.1%	100.0%	
			高得点群	8	15	21	0	0	44	
				18.2%	34.1%	47.7%	0.0%	0.0%	100.0%	
		合計			17	46	64	10	5	142
					12.0%	32.4%	45.1%	7.0%	3.5%	100.0%
	合計	幸福度得点(平均) (ビン分割済み)	低得点群	1	3	11	4	5	24	
				4.2%	12.5%	45.8%	16.7%	20.8%	100.0%	
			低中得点群	3	16	19	4	4	46	
				6.5%	34.8%	41.3%	8.7%	8.7%	100.0%	
			高中得点群	8	18	41	12	9	88	
				9.1%	20.5%	46.6%	13.6%	10.2%	100.0%	
			高得点群	9	18	28	1	1	57	
				15.8%	31.6%	49.1%	1.8%	1.8%	100.0%	
		合計			21	55	99	21	19	215
					9.8%	25.6%	46.0%	9.8%	8.8%	100.0%

表 9-2-2 性別・「婚姻関係」・「幸福度」と「マッチング支援の必要性」とのクロス集計結果（続き）

性別	問 3 婚姻関係			問 24 出会いの支援の必要性					合計	
				とても必要だと思う	どちらかと言えば必要だと思う	どちらとも言えない	どちらかと言えば必要だと思わない	まったく必要だと思わない		
合計	結婚したことがない	幸福度 得点(平均)(ビン分割済み)	低得点群	1	1	6	1	2	11	
				9.1%	9.1%	54.5%	9.1%	18.2%	100.0%	
			低中得点群	0	5	7	3	3	18	
				0.0%	27.8%	38.9%	16.7%	16.7%	100.0%	
			高中得点群	1	1	3	4	2	11	
		9.1%		9.1%	27.3%	36.4%	18.2%	100.0%		
		高得点群	0	2	2	1	0	5		
			0.0%	40.0%	40.0%	20.0%	0.0%	100.0%		
		合計			2	9	18	9	7	45
					4.4%	20.0%	40.0%	20.0%	15.6%	100.0%
	離別した のでいない	幸福度 得点(平均)(ビン分割済み)	低得点群	1	0	5	1	3	10	
				10.0%	0.0%	50.0%	10.0%	30.0%	100.0%	
			低中得点群	1	6	5	1	2	15	
				6.7%	40.0%	33.3%	6.7%	13.3%	100.0%	
			高中得点群	3	3	6	2	2	16	
		18.8%		18.8%	37.5%	12.5%	12.5%	100.0%		
		高得点群	1	1	2	1	0	5		
			20.0%	20.0%	40.0%	20.0%	0.0%	100.0%		
		合計			6	10	18	5	7	46
					13.0%	21.7%	39.1%	10.9%	15.2%	100.0%
	死別した のでいない	幸福度 得点(平均)(ビン分割済み)	低得点群	0	0	0	2	0	2	
				0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	
			低中得点群	0	2	2	0	0	4	
				0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	100.0%	
			高中得点群	1	1	4	2	2	10	
		10.0%		10.0%	40.0%	20.0%	20.0%	100.0%		
		高得点群	0	0	4	1	1	6		
			0.0%	0.0%	66.7%	16.7%	16.7%	100.0%		
		合計			1	3	10	5	3	22
					4.5%	13.6%	45.5%	22.7%	13.6%	100.0%
	配偶者が いる	幸福度 得点(平均)(ビン分割済み)	低得点群	6	17	15	0	1	39	
				15.4%	43.6%	38.5%	0.0%	2.6%	100.0%	
			低中得点群	9	38	28	6	3	84	
				10.7%	45.2%	33.3%	7.1%	3.6%	100.0%	
			高中得点群	19	35	47	17	6	124	
		15.3%		28.2%	37.9%	13.7%	4.8%	100.0%		
		高得点群	12	22	23	0	2	59		
			20.3%	37.3%	39.0%	0.0%	3.4%	100.0%		
		合計			46	112	113	23	12	306
					15.0%	36.6%	36.9%	7.5%	3.9%	100.0%
	合計	幸福度 得点(平均)(ビン分割済み)	低得点群	8	18	26	4	6	62	
				12.9%	29.0%	41.9%	6.5%	9.7%	100.0%	
			低中得点群	10	51	42	10	8	121	
				8.3%	42.1%	34.7%	8.3%	6.6%	100.0%	
			高中得点群	24	40	60	25	12	161	
		14.9%		24.8%	37.3%	15.5%	7.5%	100.0%		
		高得点群	13	25	31	3	3	75		
			17.3%	33.3%	41.3%	4.0%	4.0%	100.0%		
		合計			55	134	159	42	29	419
					13.1%	32.0%	37.9%	10.0%	6.9%	100.0%

まず、図 9-2-1 をみると、左側の領域（紫色の枠線で囲んだ箇所）は、「パートナーの存在の必要性」について概ね「どちらとも言えない」と回答した傾向が強い人たちの「グループ」⁵⁾が集まっている。これに対して、右上の領域（緑色の枠線で囲んだ箇所）は、「パートナーの存在の必要性」について概ね「必要である」と回答した傾向が強い人たちの「グループ」が集まっており、右下の領域（赤色の枠線で囲んだ箇所）は、「パートナーの存在の必要性」について概ね「必要ない」と回答した傾向が強い人たちの「グループ」が集まっている。なお、それぞれの色が付いた枠線の重なっている箇所については、相互に近い関係にあるが、基準線（縦と横の点線）で区別して解釈するものとする。

次に、図 9-2-2 をみると、中央上側の領域（緑色の枠線で囲んだ箇所）は、「マッチング支援の必要性」について概ね「必要である」と回答した傾向が強い人たちの「グループ」が集まっている。これに対して、中央下側の領域（赤色の枠線で囲んだ箇所）は、「マッチング支援の必要性」について概ね「必要ない」と回答した傾向が強い人たちの「グループ」が集まっている。しかし、基準線（縦と横の点線）が交わる原点付近のやや右下に「どちらとも言えない」の◇（ピンク）が位置しているため、緑色の枠線と赤色の枠線のどちらにも囲まれないところに位置している人たちの「グループ」が、「どちらとも言えない」の回答傾向が強い人たちの「グループ」と読み取れる。

以下、有配偶者を除く、「未婚」「離別」「死別」に該当する人たちの「グループ」が、「パートナーの存在の必要性」と「マッチング支援の必要性」についてどのような回答を変遷したかをみていくこととする。とりわけ、「マッチング支援の必要性」について「必要」と回答した人が約 4 割であったことを踏まえると、実際に「マッチング支援」を実施するに当たって、どのような人をターゲットにしていくべきかを考える必要がある。

図 9-2-1 と図 9-2-2 とを見比べてみた結果をまとめたものが、図 9-2-3 である。

「パートナーの存在の必要性」について「必要である」の回答傾向が強い 5 個の「グループ」のうち、「男・未婚【幸福・高得点】」以外の 4 個の「グループ」は、「マッチング支援の必要性」について「必要である」の回答傾向が強いことを示していることがわかる。しかし、これら 4 個の「グループ」のうち、「女性」の「グループ」は 1 個であり、「女・離別【幸福・高得点】」であることから、「自立性の高い女性」であることが想像される。

また、「パートナーの存在の必要性」について「どちらとも言えない」の回答傾向にある 11 個の「グループ」のうち、「男・未婚【幸福・低得点】」、「女・未婚【幸福・高得点】」、「女・死別【幸福・低中得点】」の 3 個の「グループ」は、「マッチング支援の必要性」について「必要である」の回答傾向が強いことを示していることがわかる。この 3 個の「グループ」のうち、「女性」の「グループ」に着目すると、「女・未婚【幸福・高得点】」は「自立性の高い女性」であることが想像される。他方、「女・死別【幸福・低中得点】」については配偶者との「死別」が「幸福度」を低くさせていることが想像され、「マッチング支援」によって状況の改善を望んでいる可能性がうかがえる。

さらに、「パートナーの存在の必要性」について「どちらとも言えない」の回答傾向にある 11 個の「グループ」のうち、「男・未婚【幸福・低中得点】」と「女・離別【幸福・低中得点】」の 2 個の「グループ」は、「マッチング支援の必要性」について「必要である」の回答傾向が強いことを示していることがわかる。やはり、この 2 個の「グループ」のうち、「女性」の「グループ」に着目すると、「女・離別【幸福・低中得点】」については配偶者との「離別」が「幸福度」を低くさせていることが想像され、「マッチング支援」によって状況の改善を望んでいる可能性がうかがえる。

⁵⁾ 「グループ」としたのは、性別（2 項目）と婚姻関係（4 項目）と幸福度（4 つの得点群）で最大 32 種類の「グループ」ができており、その「グループ」に属している人たちを意味する。なお、「男性」の「離別」において「低得点群」と「高得点群」の該当者がいなかったことと、「男性」の「死別」において「低得点群」の該当者がいなかったことから、「グループ」は全部で 29 種類となっている。

図 9-2-1 「性別」・「婚姻関係」・「幸福度」と「パートナーの存在の必要性」によるコレスポンド分析結果

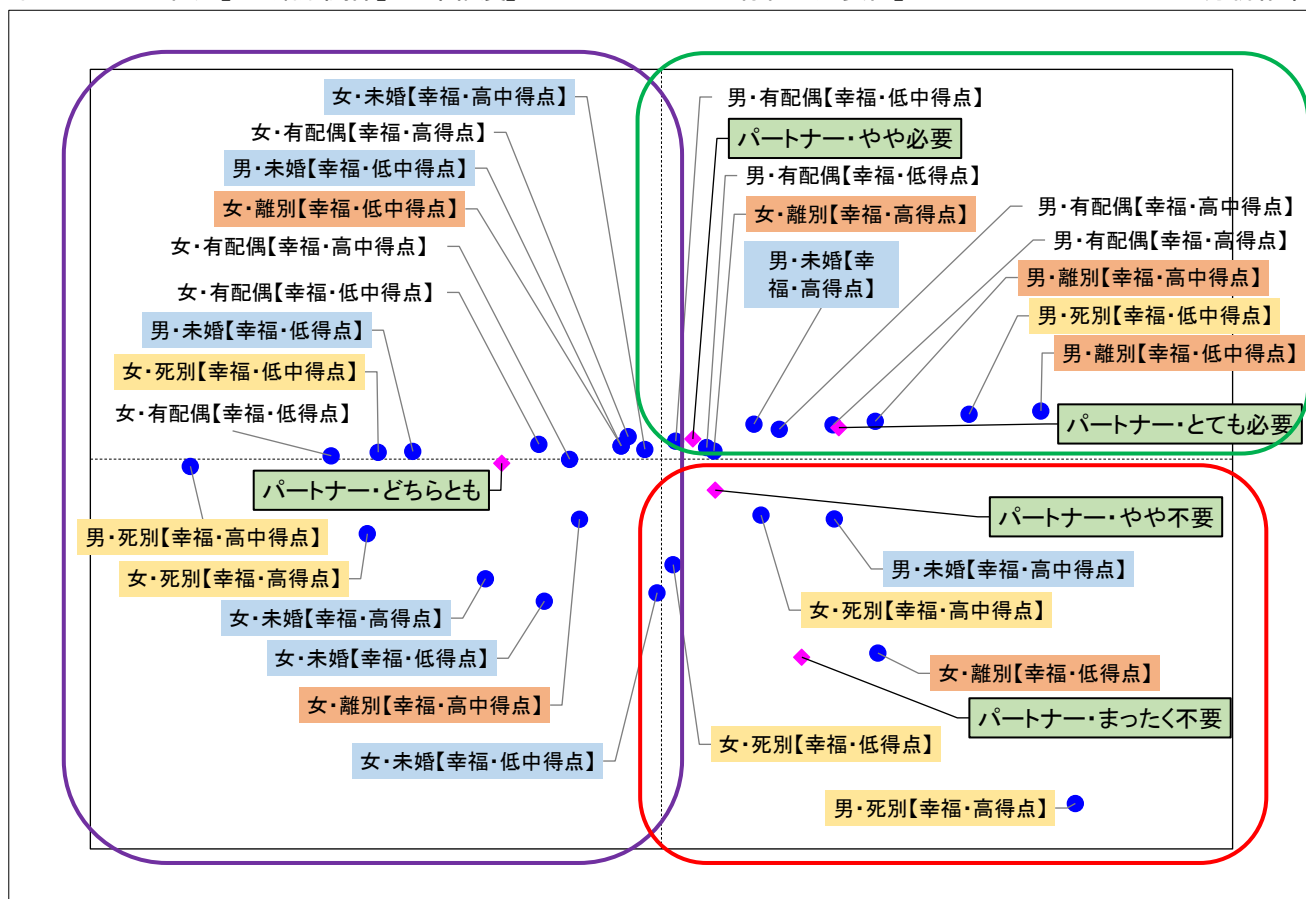


図 9-2-2 「性別」・「婚姻関係」・「幸福度」と「マッチング支援の必要性」によるコレスポンド分析結果

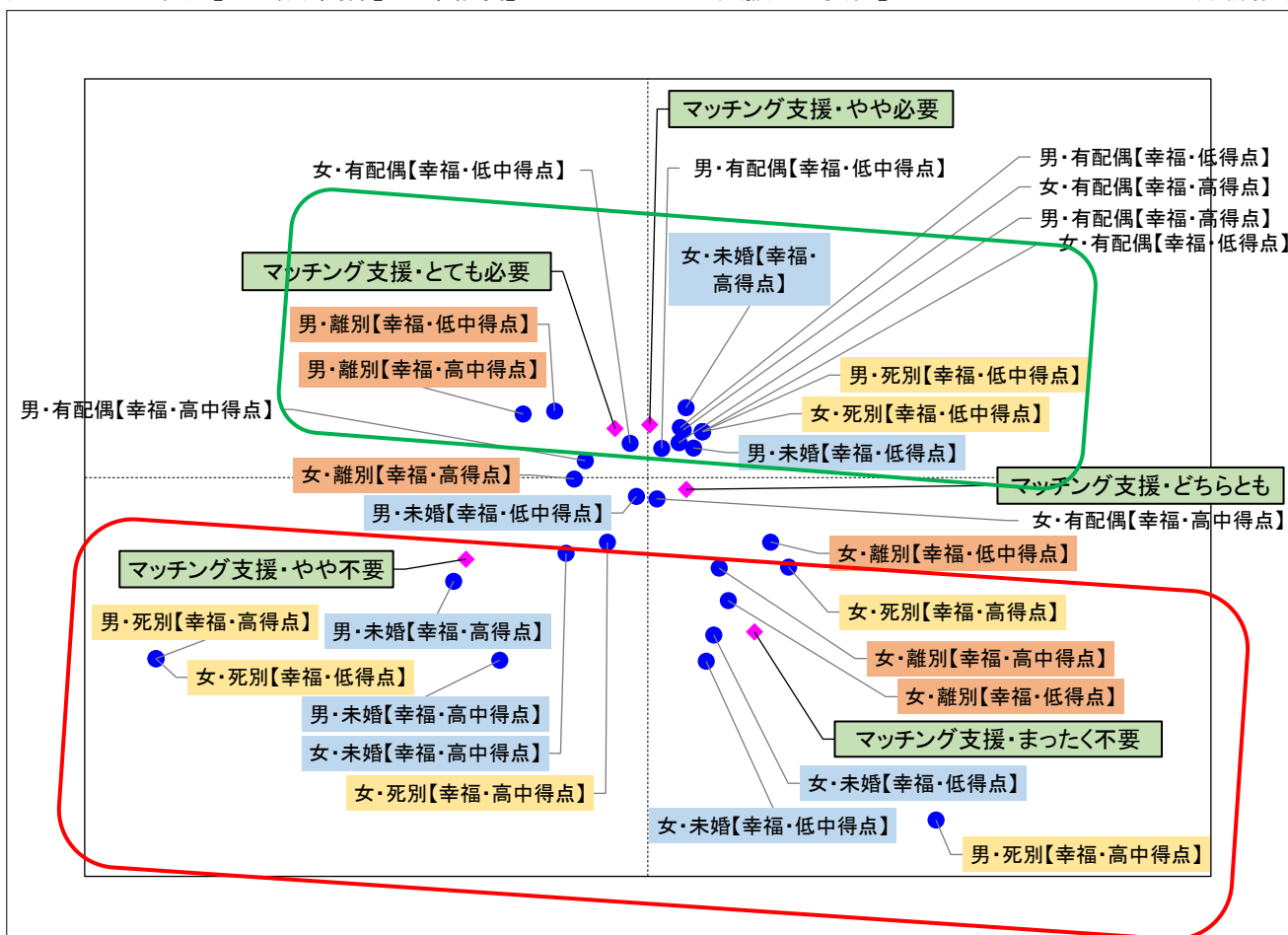


図9-2-3 有配偶者を除く「グループ」の「パートナーの存在の必要性」から「マッチング支援の必要性」への変遷

パートナーの存在の必要性		変遷	マッチング支援の必要性	
必要	男・未婚【幸福・高得点】 男・離別【幸福・高中得点】 男・離別【幸福・低中得点】 女・離別【幸福・高得点】 男・死別【幸福・低中得点】		男・未婚【幸福・低得点】 男・離別【幸福・高中得点】 男・離別【幸福・低中得点】 女・離別【幸福・高得点】 女・未婚【幸福・高得点】 男・死別【幸福・低中得点】 女・死別【幸福・低中得点】	必要
	男・未婚【幸福・低得点】 男・未婚【幸福・低中得点】 女・未婚【幸福・低得点】 女・未婚【幸福・低中得点】 女・未婚【幸福・高中得点】 女・未婚【幸福・高得点】 女・離別【幸福・低中得点】 女・離別【幸福・高中得点】 男・死別【幸福・高中得点】 女・死別【幸福・低中得点】 女・死別【幸福・高得点】		男・未婚【幸福・低中得点】 女・離別【幸福・低中得点】	どちらとも
不要	男・未婚【幸福・高中得点】 女・離別【幸福・低得点】 男・死別【幸福・高得点】 女・死別【幸福・低得点】 女・死別【幸福・高中得点】		男・未婚【幸福・高中得点】 男・未婚【幸福・高得点】 女・未婚【幸福・低得点】 女・未婚【幸福・低中得点】 女・未婚【幸福・高中得点】 男・死別【幸福・高中得点】 女・死別【幸福・高得点】 女・離別【幸福・低得点】 女・離別【幸福・高中得点】 男・死別【幸福・高得点】 女・死別【幸福・低得点】 女・死別【幸福・高中得点】	不要

全般的に「パートナーの存在の必要性」や「マッチング支援の必要性」については、「女性」よりも「男性」の方が「必要である」と感じている傾向が強いことに鑑みると、「女性」の方が「マッチング支援」に対して慎重な姿勢であるものの、回答者の「グループ」をみていくと、支援対象をある程度絞っていくことでポジティブな成果につながる可能性があることがうかがえた。つまり、パートナーの必要性を感じていない人は難しくとも、「必要である」や「どちらとも言えない」と回答した人の中には、「事と次第によってはマッチング支援を受けてみたい」と読み解くこともできる。これまでの分析結果を是として考えた場合、「パートナーの存在が自身にとってより有益な存在であることがわかれば、支援を受けてみてもよい」ことを示している可能性は否定できない。

3. 総合的考察

本調査は、「高齢世代等（主に中高年世代）の生活状況と生きがいに関する意識調査」という名称で実施し、各市の選挙管理委員会が管理する選挙人名簿の閲覧許可を得て実施したこともあり、概ね調査の趣旨に沿った対象者からの回答が得られた。とはいえ、厳格なサンプリングを行うことができず、統計処理上の有

意性を十分に担保できなかった点は反省しなければならないが、約 3 割の方がご協力くださり、一定の意義のある調査結果になったものとする。

今回の調査を実施するにあたり、いくつかの課題が設定されていたわけであるが、詳細は割愛するものの、岩手県の政策課題といきいき岩手支援財団の事業遂行上の課題を踏まえて、県民の「生活の質（QOL：Quality of Life）」をどう高めるか、県民が「生きがい」をもって生活していけるようにするにはどうしたらよいか、県民の「生活の安定」を図るために必要な施策は何か、といった課題設定に対する振り返りをする。

（１）「QOL」について

今回の調査に用いた設問が、いわゆる「QOL」の指標として用いられているものをすべて網羅したわけではなく、最大公約数に当たると考えられる項目を厳選して設問項目に加えたが、統計理論上、今回の回答者に限定されるとはいえ、普遍性（多くの人に当てはまる共通性）を有する 5 つの要素が抽出されたと考ええる。つまり、抽出された要素が少なければ、バラエティーに乏しい生活パターンの中で暮らしている可能性があったため、ある意味では様々なものやことに影響を受けて困惑しながらも、それらを受け止めながら暮らしていることが示されたと考えられる。しかし、受け止めなければならないものやことが限界を超えてしまうと、生活が一変してしまうことも認識しなければならない。だからこそ、「QOL」を高める要因が何かに配慮する必要がある。

岩手県の特徴として、ネガティブな点では、「貧しい」（QOL・生活安定度）や「不健康」（QOL・身体健康度）などがあげられるが、ポジティブな点では、「真面目で勤勉である」（QOL・自己研鑽度）や「地域のつながりがある」（QOL・地域帰属度）などが今回の調査で抽出された。こうした中で、「QOL・W&L バランス」という要素が抽出された点は特筆すべき点といえよう。これらの要素が岩手県民の暮らし（QOL）を左右させる要因になることが示唆されたため、調査における課題の 1 つを克服できたものとする。

（２）「生きがい」について

いわゆる「生きがい」についても、今回の調査に用いた設問が、指標として用いられているものをすべて網羅したわけではなく、項目を厳選して設問項目に加えたが、統計理論上、今回の回答者に限定されるとはいえ、ある程度の普遍性（多くの人に当てはまる共通性）を有する 3 つの要素が抽出されたと考ええる。しかし、「生きがい」に関しては、もう少しバラエティーに富むと予想していたため、意外な印象であった。おそらく、これも岩手県民のいわゆる「県民性」のあらわれであったものと推察する。「生きがい・自己満足」という要素が抽出されたものの、これは決して「私利私欲」的なものではなく、「ささやかな楽しみ」といった性格が強い。裏返すと、その「県民性」としては「他者との関係性を大切にする」といった形であらわれたものと推察する。こうした特徴がある意味では地域経済の衰退を招いていないとも限らない。かといって、暴利をむさぼる「県民性」を望むものではないものと考え、と、「生きがい」にもあらわれてくる「県民性」をどう活かしていくかが改めて問われる結果になったと考え。そのため、調査における課題の 1 つを克服できたものとする。

（３）「生活の安定」について

今回の調査では、「生活の安定」を導き出すためのツールとして、「健康意識」、「社会意識（パートナー関連）」、「老後不安」を用いた。「健康意識」と「老後不安」については直接的な設問であったため、結果がそのままを反映しているものとする。しかし、「社会意識（パートナー関連）」については、直接的に問いか

けることをためらうものであった。本文でも考察しているように、「熟年離婚」の問題がある一方で、「熟年結婚」も「生活の安定」として期待される要素があるため、今回の調査に加えることになった。

分析を終えてみて反省することとしては、回答者が「自身のこととして」回答するのか、「他人のこととして」回答するのか、その区別をせずに設問を立てたことである。しかし、これはわかっていてそうしたわけであるが、「自身のこととして」回答してもらうと、本心を回答してくれない懸念があったからである。そのため、「どちらに取ってもらってもいい」という前提で設問を立て、他の設問との関係性を分析する中で回答者の本心に近接できればよいと設定した。やはり、それでも分析結果の信頼性は決して高いものとはいえないため、今後、こうした調査を行う際には綿密な準備が必要であると考えます。

課題はあるものの、いきいき岩手支援財団においては、パートナーとの出会いの機会を提供する事業を行っており、老若男女を問わず、望ましい「マッチング支援」のあり方を考える契機になったことは間違いのないものと考えます。そのため、調査における課題の1つを克服できたものと考えます。

4. むすび

この調査が実施された2022年11月末頃は、新型コロナウイルスが「オミクロン株」に置き換わり、数の上ではかなり感染が拡大した時期であった。それでも「重症化リスクが低い」という理由で社会・経済活動への制限が限定的になり、その代わりに政府による支援策が拡充されてこなかった。こうした状況下で今回の調査が実施されたわけであるが、多くの方が不安を感じながら暮らしている状況にもかかわらず、調査にご協力いただいたことに心より感謝の意を表したい。残念ながら、ご返送いただいた調査票の中には、この調査への不満だけを書かれたものがあったため、これは「無効回答」とさせていただいた。しかし、その不満の中にご自身が「家族の介護に従事している」ことをほのめかす記述がみられ、「こんな調査を実施するくらいなら、家族の介護に日々追われている人をもっと助けてほしい」というメッセージが込められていたように感じた。今回も含めたいきいき岩手支援財団の調査事業は、より多くの県民の方々の意見等を行政等への政策提言につなげていく目的があるため、今回ご返送いただいた「声なき声」が受け止められるような調査の実施方法も今後の検討課題にすべきことと考えます。

この調査報告書の執筆の最中、「マスクの着用」が「個人の判断」に委ねられるなど、コロナ対策が緩和に向かい、ニューヨーク・タイムズ紙が「2023年に行くべき52カ所」を発表し、ロンドンに続く2番目に盛岡市が紹介されたこともあって、内外問わず観光客の増加が目に見えてわかる状況になってきている。また、この報告書が完成し、公表される頃には、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が感染症法上の指定感染症の2類から5類に引き下げられ、あたかも「コロナの収束」であるかのような状況にある。このことを憂いているわけではないが、再び感染が拡大し、逆戻りしてしまったら、折角の調査結果が実践に反映されなくなるのではないかとやや危惧する部分はある。そうならないことを祈りつつ、県民一人ひとりの暮らしがよりよいものになるよう、この調査結果が活用されることを願うばかりである。

X 資料（調査票）

中高年世代の生活状況と生きがいに関する意識調査

人生 100 年時代と言われる昨今、日本人の平均寿命は全般的に延びる状況である一方、中高年世代の生活状況に目を向けると、おおよそ 50 歳以上の男性の 4 人に 1 人、女性の 6 人に 1 人は独身と言われ、今後、一人暮らしの高齢者の増加が懸念されます。一方、中高年世代の方々が、生きがいや QOL の向上を実感できる場として、仕事、趣味、地域活動等の社会的な活動などが挙げられると考えられますが、これらの方々の中には、社会的な活動のほかに、家族や友人などの私的な関係を大切にしている方もおられると思われます。

時代の変化とともに中高年世代が生きがいとして求めるものも変化していると思料されることから、本調査は、中高年世代の生活状況と生きがいの関連性について調査を実施し、今後の高齢世代等に対する生活支援に関する政策を検討する際の一助とすることを目的に実施するものです。

つきましては、ご多忙のところ誠に恐縮に存じますが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

令和 4 年 11 月

公益財団法人いきいき岩手支援財団理事長

【ご回答にあたって】

- ◆ ご質問項目は 28 問となります。なお、複数の項目がある設問が 6 つあります。
- ◆ 本調査は、県や市町村の政策に反映することを目的に実施することから、自治体の選挙管理委員会に申請し提供していただいた 50 歳～69 歳の住民（選挙人）の方々を対象に実施します。調査の趣旨をご理解いただき、ご回答の協力をお願いいたします。
- ◆ 無記名でご回答ください。
※回収されたアンケート票は、統計的に処理し、本調査の目的以外に使用することはありません。また、このアンケートは無記名のため、個人が特定されることはありません。
- ◆ ご面倒ですが、令和 5 年 1 月 13 日（金）までにご回答ください。
- ◆ 回答は、返信用封筒（切手は不要です）に入れて封をし、郵便ポストへ投函してください。
- ◆ 本調査についてのお問い合わせは、下記までお願いいたします。
公益財団法人いきいき岩手支援財団 総務・公表課 千葉
電話：019-626-0196 FAX：019-625-7494

あなたご自身のことについて

問1 ご自身のことについて、それぞれの項目ごとに当てはまるもの1つに^{マル}をつけてください。

①性 別 (1つに○)	1. 男性 2. 女性 3. その他
②年 齢 (1つに○)	1. 50 歳未満 → 具体的な年齢 (_____ 歳) 2. 50～54 歳 3. 55～59 歳 4. 60～64 歳 5. 65～69 歳 6. 70 歳以上 → 具体的な年齢 (_____ 歳)
③居住地域 (1つに○)	1. 盛岡市 2. 一関市 3. 宮古市 4. 久慈市 5. その他 → 具体的な市町村 (_____ 市・町・村)
④就労状況 (主なもの 1つに○)	1. 正社員 2. 契約社員・派遣社員 3. パート・アルバイト 4. 臨時・嘱託、日雇 5. 自営業 6. 無職 (専業主夫・主婦) 7. その他 (具体的に: _____)
⑤世帯構成 (同居者)	1. 一人暮らし 2. 夫婦のみ 3. 親子2世代 (子と同居) 4. 親子2世代 (親と同居) 5. 3世代以上同居 (親・子と同居) 6. 3世代以上同居 (親・祖父母と同居) 7. 3世代以上同居 (子・孫と同居) 8. その他 (_____)

問2 あなたの親族関係について、それぞれの項目ごとに当てはまるものすべてに^{マル}をつけてください。

①近隣 (※) に居住する親族の有無	1. 親 2. 子 3. 祖父母 4. 孫 5. 兄弟姉妹 6. その他交流のある親族 (_____) 7. いない
②近隣以外に居住する親族の有無	1. 親 2. 子 3. 祖父母 4. 孫 5. 兄弟姉妹 6. その他交流のある親族 (_____) 7. いない

※「近隣」は片道 30 分以内で行き来ができる距離とします。

現在の生活状況について

問3 あなたは、現在、結婚していますか。当てはまるもの1つに ^{マル}○をつけてください。なお、「配偶者」(※)には事実婚(内縁関係にある人)も含めてください。

- | | |
|-------------------|--------------------|
| 1. 結婚したことがない | 2. 配偶者がいる |
| 3. 死別したので、配偶者はいない | 4. 離別をしたので、配偶者はいない |
| 5. その他() | |

※「配偶者」は、妻または夫のことをいいます。

問4 あなたのお住まいは、次のどれに当たりますか。当てはまるもの1つに ^{マル}○をつけてください。

1. 持家(住宅ローン返済なし:住宅ローンを組まなかった場合を含む)
2. 持家(住宅ローン返済中)
3. 賃貸住宅
4. 借間(部屋を間借り)
5. その他()

問5 あなたは、ご自分の現在の経済的な暮らし向きについてどのようにお考えですか。当てはまるもの1つに ^{マル}○をつけてください。

1. 家計にゆとりがあり、まったく心配なく暮らしている
2. 家計にあまりゆとりはないが、それほど心配なく暮らしている
3. 家計にゆとりがなく、多少心配である
4. 家計が苦しく、非常に心配である

問6 現在の貯蓄の額は、あなたがこれから生活をしていく備えとして十分だとお考えですか。当てはまるもの1つに ^{マル}○をつけてください。

- | | |
|--------------|---------------|
| 1. 十分だと思う | 2. 最低限はあると思う |
| 3. 少し足りないと思う | 4. かなり足りないと思う |

現在の健康状態について

問7 現在、通院を要する持病をお持ちですか。 当てはまるもの1つにマルをつけてください。

- | | |
|-------------------|-------------------|
| 1. 全くない（通院していない） | 2. 年に数回の通院をしている |
| 3. 月に1回程度の通院をしている | 4. 週に1回程度の通院をしている |
| 5. その他（ | ） |

問8 現在の身体の状態はどうですか。 当てはまるもの1つにマルをつけてください。

- | | |
|------------------------------------|---|
| 1. 思い通りに身体を動かすことができる | |
| 2. 少し動かしにくいところがあるが、生活に支障はない | |
| 3. だいぶ動かしにくいところがあるが、身の回りのことは自身でできる | |
| 4. 誰かからのサポートがないと身動きを取ることが難しい | |
| 5. その他（ | ） |

問9 最近1ヵ月くらいの心の状態はどうですか。 当てはまるもの1つにマルをつけてください。

- | | |
|--------------------------------------|---|
| 1. 気持ちが落ち込むことはなく、いつも気持ちが晴れやかである | |
| 2. 時々気持ちが落ち込むことがあったが、だいたい気持ちが晴れやかである | |
| 3. 気持ちが落ち込んだり晴れやかになったりを頻繁に繰り返す状態である | |
| 4. ほぼ毎日気持ちが沈んだままである | |
| 5. その他（ | ） |

現在の日々の活動状況について

問10 現在、収入のあるお仕事をどれくらいされていますか。 当てはまるもの1つにマルをつけてください。

- | | |
|---------------------|---------------------|
| 1. 全くしていない | 2. 週に1～2日程度の仕事をしている |
| 3. 週に3～4日程度の仕事をしている | 4. 週に5日以上の仕事をしている |
| 5. その他（ | ） |

問11 現在、地域活動やボランティア活動など、社会に貢献するような活動をどれくらいされていますか。 当てはまるもの1つにマルをつけてください。

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1. 全くしていない | 2. 年に数回の活動をしている |
| 3. 月に数回の活動をしている | 4. 週に数回の活動をしている |
| 5. その他（ | ） |

問 12 現在、自宅で家事をどれくらいされていますか。当てはまるもの1つに○をつけてください。

- | | |
|---------------------|---------------------|
| 1. ほとんどしていない | 2. 週に1～2日程度の家事をしている |
| 3. 週に3～4日程度の家事をしている | 4. 週に5日以上家事をしている |
| 5. その他 () | |

現在の教養・娯楽活動（習い事や趣味など）について

問 13 現在、ご自身の「教養を高めるための活動（※）」をどれくらいされていますか。当てはまるもの1つに○をつけてください。

- | | |
|---------------------|---------------------|
| 1. ほとんどしていない | 2. 月に1～2回程度の活動をしている |
| 3. 週に1～2回程度の活動をしている | 4. ほぼ毎日活動をしている |
| 5. その他 () | |

（※）「教養を高めるための活動」には、習い事や自己学習（読書含む）のほか、文化活動への参加、インターネット検索による情報収集、会合等への参加による意見交換など、「趣味」に当てはまるものも、ご自身の教養の向上に寄与しているものであれば含めてください。

問 14 現在、ご自身が「他の人と一緒に楽しむための趣味や娯楽活動（※）」をどれくらいされていますか。当てはまるもの1つに○をつけてください。

- | | |
|---------------------|---------------------|
| 1. ほとんどしていない | 2. 月に1～2回程度の活動をしている |
| 3. 週に1～2回程度の活動をしている | 4. ほぼ毎日活動をしている |
| 5. その他 () | |

（※）「他の人と一緒に楽しむための趣味や娯楽活動」には、共通の趣味をお持ちの人と一緒に趣味に興じたり、趣味とは言えないまでも共通の目的をもって楽しむ機会（食事会など）をつくったりする場合を含めてください。

問 15 現在、ご自身が「個人的に楽しむための趣味や娯楽活動（※）」をどれくらいされていますか。当てはまるもの1つに○をつけてください。

- | | |
|---------------------|---------------------|
| 1. ほとんどしていない | 2. 月に1～2回程度の活動をしている |
| 3. 週に1～2回程度の活動をしている | 4. ほぼ毎日活動をしている |
| 5. その他 () | |

（※）「個人的に楽しむための趣味や娯楽活動」には、他の人がいなくてもできる趣味や娯楽に一人でその趣味や娯楽に興じている場合を含めてください。

現在の対人関係について

問 16 現在、家族や親族などとの関係は全体的にどうですか。当てはまるもの1つに○をつけてください。なお、家族や親族がいない場合には、「1. 家族や親族がいないのでわからない」を選んでください。

- | | |
|---------------------|--------------|
| 1. 家族や親族がいないのでわからない | 2. とても関係が良い |
| 3. どちらかと言えば関係が良い | 4. どちらとも言えない |
| 5. どちらかと言えば関係が悪い | 6. とても関係が悪い |

問 17 現在、交流のある友人や知人との関係は全体的にどうですか。当てはまるもの1つに○をつけてください。なお、交流のある友人や知人がいない場合には、「1. 交流がないのでわからない」を選んでください。

- | | |
|------------------|--------------|
| 1. 交流がないのでわからない | 2. とても関係が良い |
| 3. どちらかと言えば関係が良い | 4. どちらとも言えない |
| 5. どちらかと言えば関係が悪い | 6. とても関係が悪い |

問 18 現在、付き合いのあるご近所の人との関係は全体的にどうですか。当てはまるもの1つに○をつけてください。なお、付き合いのあるご近所の人がない場合には、「1. 付き合いがないのでわからない」を選んでください。

- | | |
|-------------------|--------------|
| 1. 付き合いがないのでわからない | 2. とても関係が良い |
| 3. どちらかと言えば関係が良い | 4. どちらとも言えない |
| 5. どちらかと言えば関係が悪い | 6. とても関係が悪い |

生きがいについて

問 19 以下の (1) ～ (5) の「対人」の場面において、現在、どのように感じていますか。それぞれの項目について、0～5の当てはまるもの1つに○をつけてください。なお、記載されている「場面」がない場合には、「当てはまらない（非該当）」の列の番号0に○をつけてください。

「対人」の場面	当てはまらない (非該当)	まったく そう 思わない	どちらか と 言え ば そう 思わ ない	どちら とも 言え ない	どちらか と 言え ば そう 思 う	とても そう 思 う
(1)「夫婦団らの時」に心が満たされる	0	1	2	3	4	5
(2)「同居する家族などとの団らの時」に心が満たされる	0	1	2	3	4	5
(3)「同居していない親族との団らの時」に心が満たされる	0	1	2	3	4	5
(4)「近所の人と何気なく交流している時」に心が満たされる	0	1	2	3	4	5
(5)「友人や知人と食事、雑談している時」に心が満たされる	0	1	2	3	4	5

問 20 以下の (1) ～ (5) の「役割」の場面において、現在、どのように感じていますか。それぞれの項目について、0～5の当てはまるもの1つに○をつけてください。なお、記載されている「役割」がない場合には、「当てはまらない（非該当）」の列の番号0に○をつけてください。

「役割」の場面	当てはまらない (非該当)	まったく そう 思わない	どちらか と 言え ば そう 思わ ない	どちら とも 言え ない	どちらか と 言え ば そう 思 う	とても そう 思 う
(1)「社会のために働いていると感じた時」に心が満たされる	0	1	2	3	4	5
(2)「家族を支えていると感じた時」に心が満たされる	0	1	2	3	4	5
(3)「家族から感謝された時」に心が満たされる	0	1	2	3	4	5
(4)「社会奉仕や地域活動をしている時」に心が満たされる	0	1	2	3	4	5
(5)「他人（家族以外）から感謝された時」に心が満たされる	0	1	2	3	4	5

問 21 以下の(1)～(5)の「活動」の場面において、現在、どのように感じていますか。それぞれの項目について、0～5の当てはまるもの1つに○をつけてください。なお、記載されている「活動」がない場合には、「当てはまらない(非該当)」の列の番号0に○をつけてください。

「活動」の場面	当てはまらない (非該当)	まったく そう 思わない	どちらか と言えば そう 思わない	どちらとも 言えない	どちらか と言えば そう 思う	とても そう 思う
(1)「仕事に打ち込んでいる時」に心が満たされる	0	1	2	3	4	5
(2)「趣味やスポーツに熱中している時」に心が満たされる	0	1	2	3	4	5
(3)「テレビやラジオを視聴している時」に心が満たされる	0	1	2	3	4	5
(4)「おいしい物を食べている時」に心が満たされる	0	1	2	3	4	5
(5)「勉強や教養などに身を入れている時」に心が満たされる	0	1	2	3	4	5

現在の生活上の意識について

問 22 以下の(1)～(5)の「健康維持活動」への意識について、現在、どのように心がけていますか。それぞれの項目について、1～5の当てはまるもの1つに○をつけてください。

「健康維持活動」への意識	まったく 当ては まらない	どちらか と言えば 当ては まらない	どちらとも 言えない	どちらか と言えば 当ては まる	とても 当ては まる
(1)「栄養のバランスのとれた食事をとる」ように心がけている	1	2	3	4	5
(2)「健康診査などを定期的に受ける」ように心がけている	1	2	3	4	5
(3)「休養や睡眠を十分にとる」ように心がけている	1	2	3	4	5
(4)「散歩やスポーツをする」ように心がけている	1	2	3	4	5
(5)「気持ちをなるべく明るくもつ」ように心がけている	1	2	3	4	5

結婚事情に対するお考えについて

問 23 中高年世代（50 歳以上）の人でパートナー（配偶者や恋人）がいない方にとって、生活を充実させるためには、共に暮らしていく新たなパートナーの存在が必要だと思いますか。あなたの考えに当てはまるもの 1 つに ☐ をつけてください。

- | | |
|-----------------|---------------------|
| 1. とても必要だと思う | 2. どちらかと言えば必要だと思う |
| 3. どちらとも言えない | 4. どちらかと言えば必要だと思わない |
| 5. まったく必要だと思わない | 6. よくわからない |

問 24 中高年世代（50 歳以上）の人でパートナー（配偶者や恋人）がいない方に対して、行政や専門機関などが出会いの場を増やすために支援することが必要だと思いますか。あなたの考えに当てはまるもの 1 つに ☐ をつけてください。

- | | |
|-----------------|---------------------|
| 1. とても必要だと思う | 2. どちらかと言えば必要だと思う |
| 3. どちらとも言えない | 4. どちらかと言えば必要だと思わない |
| 5. まったく必要だと思わない | 6. よくわからない |

今後の生活に対する期待や不安について

問 25 70 歳以降の生活を想像した時に、期待と不安のどちらを感じますか。当てはまるものを 1 つに ☐ をつけてください。

- | | |
|---------------|--------------------|
| 1. 大きな期待をしている | 2. どちらかと言えば期待をしている |
| 3. どちらとも言えない | 4. どちらかと言えば不安がある |
| 5. 強い不安がある | 6. よくわからない |

問 26 70 歳以後の生活を想定した時に、どのようなことに心配がありますか。当てはまるものを 3 つまで選んで ☐ をつけてください。

- | | |
|------------------------|------------------------|
| 1. 特に心配することはない | 2. 生活資金（お金）が足りなくなること |
| 3. 自身が病気やけがをすること（悪化含む） | 4. 家族が病気やけがをすること（悪化含む） |
| 5. 自身に介護が必要になること | 6. 家族に介護が必要になること |
| 7. 自身が認知症になること | 8. 家族が認知症になること |
| 9. 自身が自動車の運転で事故を起こすこと | 10. 自身が自動車の運転ができなくなること |
| 11. 買い物が困難（買物難民）になること | 12. 犯罪（詐欺など）に巻き込まれること |
| 13. 災害に被災して生活の場所が変わること | 14. 人間関係が希薄（孤独）になること |
| 15. その他（ | ） |

その他（行政機関等に望む対策・取り組みなどについて）

問 27 今後も新型コロナウイルス感染症の影響が続いた場合に、支援策として行政機関等において実施してほしいと考える施策を3つまで選んで○をつけてください。

1. 安定した医療体制の確保
2. 感染防止対策の充実
3. 感染の状況や感染防止対策などの情報発信
4. 打撃を受けている中小企業や自営業者への経済的支援
5. 小・中学生の学習支援、小・中学校の感染防止対策
6. 子育て世代への経済的支援、保育所・幼稚園などの感染防止対策
7. 商業施設・商店などの消費喚起
8. 大学生など若者世代への支援
9. 高齢者の生活支援
10. 雇用対策、労働環境の改善
11. テレワークなど新しい働き方への対応
12. スポーツや文化活動への支援
13. 市・町・村民活動、地域活動への支援
14. その他（ ）

問 28 そのほか、本調査の内容に関連することなどについてご意見などがありましたら、お聞かせください。

調査はこれで、全て終了です。

お忙しい中、ご協力いただきまして、ありがとうございました。